

令和5年度
市政世論調査結果報告書

越谷市

はじめに

本市の市政世論調査は昭和45年に実施して以来、今回で54回目を迎えます。市政世論調査は市民各層の行政ニーズを的確にとらえ、行政施策に反映させていくために継続して実施しているものです。

今回は、「暮らしや居留意向について」「越谷市への愛着度と魅力発信について」「広報について」「市内の公共交通について」「景観（風景）について」「参加と協働のまちづくりについて」「公共施設の今後のあり方について」「地場農産物や地産地消について」「人権全般に関する意識について」「男女共同参画について」「平和事業について」「市民相談や法律相談などの各種相談窓口について」「地域医療体制について」「路上喫煙について」「健康保険が行う健診について」「介護サービスについて」「ケアラー・ヤングケアラーについて」「防犯対策について」「スポーツ・レクリエーションの実施状況について」「越谷市の施策について」の各テーマにおいて、市民意識の把握に努めました。

今回の調査で、すべてのニーズや問題点が解明されたわけではありませんが、調査の結果を今後の市政運営の参考資料として活用しながら、市民の皆様の期待に応えられるまちづくりや、行政サービスを推進してまいりたいと考えております。

ご多忙にもかかわらず、市政世論調査にご協力をいただきました市民の皆様にご心より御礼申し上げます。

令和5年11月

越谷市長 福田 晃

目次

第1章 調査設計	1
1. 調査実施の目的	3
2. 調査手法	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	3
5. 居住地区区分	4
6. 集計結果の誤差比率について	5
7. 集計結果の有意性について	6
8. 報告書の見かた	7
第2章 調査回答者の属性	9
1. 回答者の属性	11
第3章 調査結果の概要	15
1. 暮らしや居住意向について	17
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	17
3. 広報について	17
4. 市内の公共交通について	17
5. 景観（風景）について	18
6. 参加と協働のまちづくりについて	18
7. 公共施設の今後のあり方について	18
8. 地場農産物や地産地消について	18
9. 人権全般に関する意識について	19
10. 男女共同参画について	19
11. 平和事業について	19
12. 市民相談や法律相談などの各種相談窓口について	20
13. 地域医療体制について	20
14. 路上喫煙について	20
15. 健康保険が行う健診について	20
16. 介護サービスについて	21
17. ケアラー・ヤングケアラーについて	21
18. 防犯対策について	21
19. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	21
20. 越谷市の施策について	22

第4章 調査結果の詳細	23
1. 暮らしや居住意向について	25
(1) 現在の暮らし向き	25
(2) 居住意向	31
(3) 転居意向の理由	37
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について	43
(1) 越谷市への愛着	43
(2) 愛着がある理由	45
(3) 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの	47
3. 広報について	49
(1) 市政情報の入手先	49
(2) 市政情報を得る手段として『知っているもの』『活用したことがあるもの』	51
(3) 広報こしがやの感想	54
(4) 広報こしがやのわかりにくい点	56
(5) 紙媒体の広報の必要性及び配布方法	57
4. 市内の公共交通について	59
(1) 公共交通の利用状況	59
(2) 公共交通の満足度	61
5. 景観（風景）について	63
(1) 景観（風景）の満足度	63
(2) 行政に望むこと	65
6. 参加と協働のまちづくりについて	67
(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度	67
(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ	69
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向	71
(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度	73
(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ	75
(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法	77
7. 公共施設の今後のあり方について	79
(1) 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度	79
(2) 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え	81
(3) PPP/PFI手法について	83

8. 地場農産物や地産地消について	85
(1) 越谷の農業特産物の認知度	85
(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所	87
9. 人権全般に関する意識について	91
(1) 基本的人権の意識	91
(2) 人権意識の変化	93
(3) 関心のある人権問題	95
(4) 人権侵害を感じたこと	97
(5) 人権侵害を感じた内容	99
10. 男女共同参画について	101
(1) 「ことば」や「ことがら」の認知度	101
(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否	105
(3) 各分野での男女平等	107
(4) 女性の働き方（理想）	110
(5) 女性の働き方（現実）	112
(6) 仕事上での男女別能力差	114
11. 平和事業について	116
(1) 越谷市の平和都市宣言の認知度	116
(2) 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度	118
(3) 平和への意識を高めるために効果的な事業	120
12. 市民相談や法律相談などの各種相談窓口について	122
(1) 各種相談窓口の認知度	122
(2) 各種相談窓口の利用意向	125
(3) 各種相談窓口での相談方法	128
13. 地域医療体制について	130
(1) 地域医療体制の認知度	130
(2) 医療機関の情報の入手方法	133
(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業	135
14. 路上喫煙について	137
(1) 喫煙の有無	137
(2) 灰皿設置の必要性	139
(3) 「路上喫煙禁止区域」追加の必要性	141
(4) 「路上喫煙禁止区域」内への灰皿等設置の必要性	143

15. 健康保険が行う健診について	145
(1) 加入保険	145
(2) 健康診査受診の有無	147
(3) 健康診査を受けない理由	149
16. 介護サービスについて	151
(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの	151
17. ケアラー・ヤングケアラーについて	154
(1) 「ケアラー」「ヤングケアラー」の認知度	154
(2) 「ケアラー」「ヤングケアラー」を知ったきっかけ	156
(3) 「家族等のケアで困っている」人の有無	158
(4) 「家族等のケアで困っている」人への支援意向	160
18. 防犯対策について	162
(1) 自宅の防犯対策	162
(2) 自治会や地域で行われている防犯活動で知っているもの	164
(3) 自宅付近への街頭防犯カメラ設置について	166
19. スポーツ・レクリエーションの実施状況について	168
(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況	168
(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由	170
(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由	172
(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）	174
(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）	176
(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）	178
20. 越谷市の施策について	180
(1) よくなってきたと感じるもの	180
(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの	183
(3) 自由回答	186
第5章 調査票	191

第 1 章 調査設計

1. 調査実施の目的

本調査は、市民生活の現状、行政への要望及び市政に対する評価の意識を的確に把握するとともに、市民に対する施策の浸透状況を測定し、今後の行政運営等に反映させるための基礎的資料とすることを目的として実施した。

2. 調査手法

- (1) 調査地域：越谷市内全域
- (2) 調査対象：市内在住の18歳以上の男女
- (3) 対象者数：5,000人
- (4) 抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出
- (5) 調査方法：郵送法（郵送配布・郵送回収またはインターネット回収）
- (6) 調査期間：令和5年7月18日～令和5年8月1日

3. 回収状況

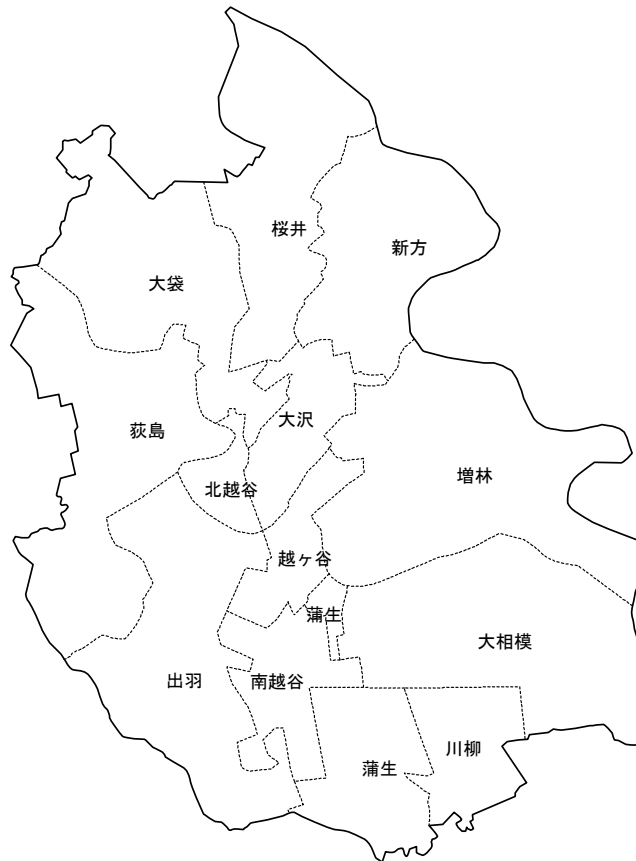
	票数		回収率
配布数	5,000		
回収数	2,529		50.58%
	うち郵送回収	1,895	37.90% (74.93%)
	うちインターネット回収	634	12.68% (25.07%)
有効回収数	2,529		50.58%

() は回収数に対する郵送、インターネット回収の割合

4. 調査項目

調査項目
(1) 基本属性（問1～問7）
(2) 暮らしや居住意向について（問8～問9-2）
(3) 越谷市への愛着度と魅力発信について（問10～問11）
(4) 広報について（問12～問15）
(5) 市内の公共交通について（問16～問17）
(6) 景観（風景）について（問18～問19）
(7) 参加と協働のまちづくりについて（問20～問23）
(8) 公共施設の今後のあり方について（問24～問26）
(9) 地場農産物や地産地消について（問27～問28）
(10) 人権全般に関する意識について（問29～問32-2）
(11) 男女共同参画について（問33～問37）
(12) 平和事業について（問38～問40）
(13) 市民相談や法律相談などの各種相談窓口について（問41～問42）
(14) 地域医療体制について（問43～問45）
(15) 路上喫煙について（問46～問49）
(16) 健康保険が行う健診について（問50～問50-3）
(17) 介護サービスについて（問51）
(18) ケアラー・ヤングケアラーについて（問52～問54）
(19) 防犯対策について（問55～問57）
(20) スポーツ・レクリエーションの実施状況について（問58～問59）
(21) 越谷市の施策について（問60～問61）

5. 居住地区区分



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

6. 集計結果の誤差比率について

今回のアンケート調査は、その調査対象となる母集団（越谷市全域に住む18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差などを調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」を行っている。したがって、調査結果には母集団に対する標本誤差が生じる。

本調査では、母集団の推定において、信頼度を95%として信頼区間を算出しており、その際の標本誤差は以下の数式で統計的に算出できる。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b：信頼度95%の標本誤差

N：母集団のサイズ

n：有効回収数（=2,529）

P：サンプルの回答比率

ただし、 $\frac{N-n}{N-1} \doteq 1$

回答比率(P) 基数(n)	5%または 95%前後	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
10,000	±0.4%	±0.6%	±0.8%	±0.9%	±0.9%	±1.0%
5,000	±0.6%	±0.8%	±1.1%	±1.3%	±1.3%	±1.4%
2,529	±0.8%	±1.2%	±1.6%	±1.8%	±1.9%	±1.9%
2,000	±1.0%	±1.3%	±1.7%	±2.0%	±2.1%	±2.2%
1,000	±1.3%	±1.9%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
500	±1.9%	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
100	±4.3%	±5.9%	±7.8%	±9.0%	±9.6%	±9.8%

(小数点以下第2位を四捨五入)

7. 集計結果の有意性について

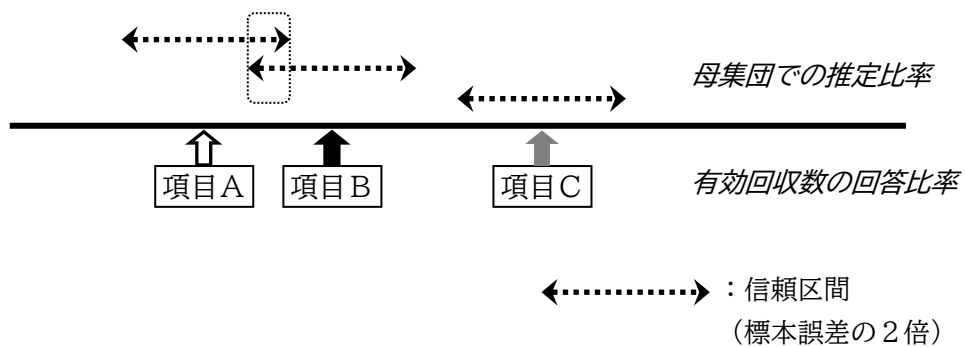
今回のアンケート調査は「標本調査」であり、調査対象となる母集団への標本誤差が必ず生じてくる。その際、どの程度までアンケート調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が問題となる。

今回の調査では、有効回収数が2,529票であるため、回答比率がちょうど50%の場合には標本誤差は±1.9%となっている。つまり、アンケート調査結果で得た50%という集計結果を、実際の母集団にあてはめるには標本誤差±1.9%分の誤差が生じることになる。したがって、母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、 $50 \pm 1.9\%$ (=48.1%~51.9%)という一定の幅を持った値(信頼区間)として取り扱う必要がある。そして、その信頼区間に基づいて母集団の評価のために、項目間の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が3.8%(標本誤差の2倍)以上でなければ意味をなさない(有意性を持たない)ものとなる(下図参照)。

そのため、アンケート調査に有意性を持たせ、母集団へ効果的に反映させるためには、ある程度の回収数が必要とされている。例えば、100票程度の回収数の場合、その調査結果の標本誤差は、回答比率50%において±9.8%となり、信頼区間は19.6%にも上がってしまう。このような状況では項目間の評価が事実上不可能に近くなり、アンケート調査自体が意味のないものになってしまう。このような事態を招かないためにも、通常の標本調査においては、回収数が1,000票程度は必要であるといえる。

今回のアンケート調査の場合、有効回収数が2,529票であるため、評価にあたっての前提条件はクリアされている。ただし、前述の標本誤差が生じてくるため、評価・分析にあたっては、信頼区間(今回の調査の場合は3.8%程度)未満の差異は切り捨てて考える必要がある。

<項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない場合>



8. 報告書の見かた

- (1) nは比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- (2) 「無回答」はその設問に回答をしなかったものであり、有効票となる。
- (3) 属性別の集計において、全体の調査数には無回答も含まれるため、各属性の調査数の合計は全体の調査数と一致しない。
- (4) 回答はすべて百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入している。そのため、数値の合計は100%を前後する場合がある。
- (5) 複数回答を求める質問の回答については、すべての数値を合計すると100%を超えることがある。
- (6) 複数の選択肢を合計した『○○○』の数値は算出したものであり、図表中の選択肢の数値の合計と一致しない場合がある。
- (7) 図表中の「-」は該当者なしを表す。
- (8) 割合の表記については、下記のとおり。

例 40%台

表記	約4割(4割)	4割強	4割半ば	5割弱	約5割(5割)
範囲	39.0~41.9% (40.0%)	42.0~43.9%	44.0~46.9%	47.0~48.9%	49.0~51.9% (50.0%)

- (9) 文中の「若年層」「中年層」「高齢層」については、下記の年齢層を示す。

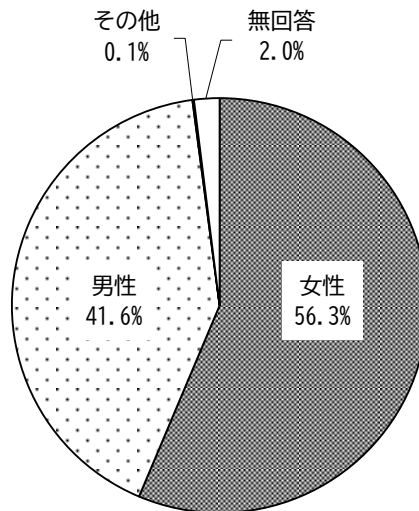
表記	若年層	中年層	高齢層
年齢層	18~29歳	40~49歳	60~69歳
	30~39歳	50~59歳	70歳以上

第2章 調査回答者の属性

1. 回答者の属性

1. 性別

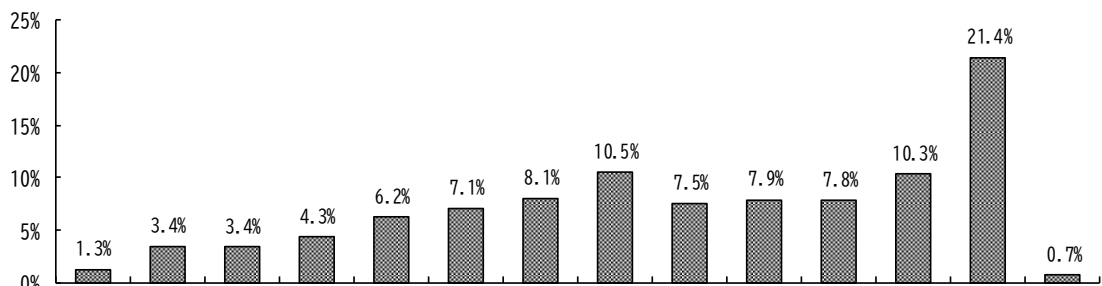
問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)



(n=2,529)

2. 年代

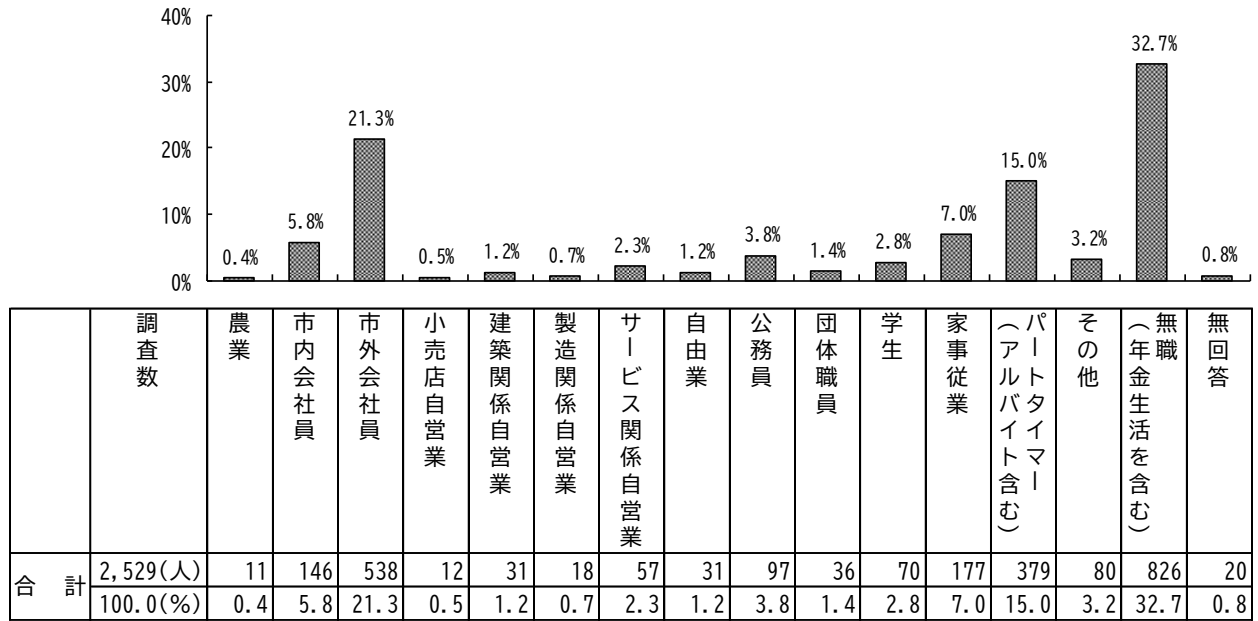
問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)



	調査数	18歳以下	20歳～24歳	25歳～29歳	30歳～34歳	35歳～39歳	40歳～44歳	45歳～49歳	50歳～54歳	55歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳以上	無回答
合計	2,529(人) 100.0(%)	32 1.3	87 3.4	86 3.4	110 4.3	158 6.2	180 7.1	204 8.1	265 10.5	190 7.5	200 7.9	198 7.8	260 10.3	541 21.4	18 0.7
女性	1,425(人) 100.0(%)	20 1.4	55 3.9	49 3.4	67 4.7	97 6.8	100 7.0	110 7.7	158 11.1	109 7.6	112 7.9	99 6.9	147 10.3	295 20.7	7 0.5
男性	1,051(人) 100.0(%)	12 1.1	32 3.0	36 3.4	43 4.1	61 5.8	80 7.6	91 8.7	105 10.0	78 7.4	88 8.4	97 9.2	109 10.4	217 20.6	2 0.2
その他	3(人) 100.0(%)	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
無回答	50(人) 100.0(%)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 6.0	1 2.0	2 4.0	0 0.0	2 4.0	4 8.0	29 58.0	9 18.0

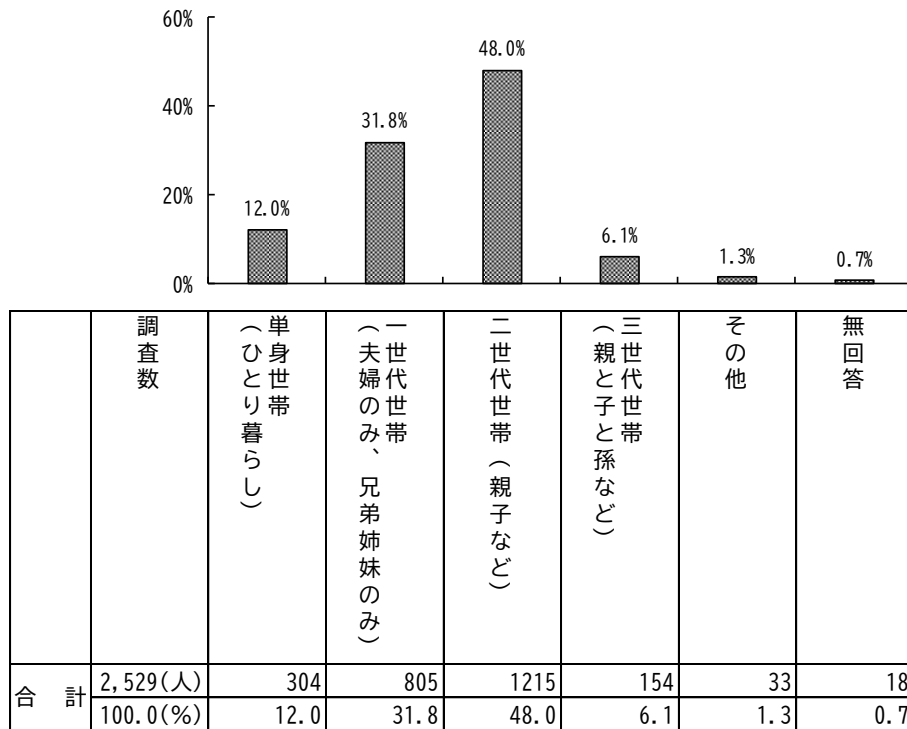
3. 職業

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



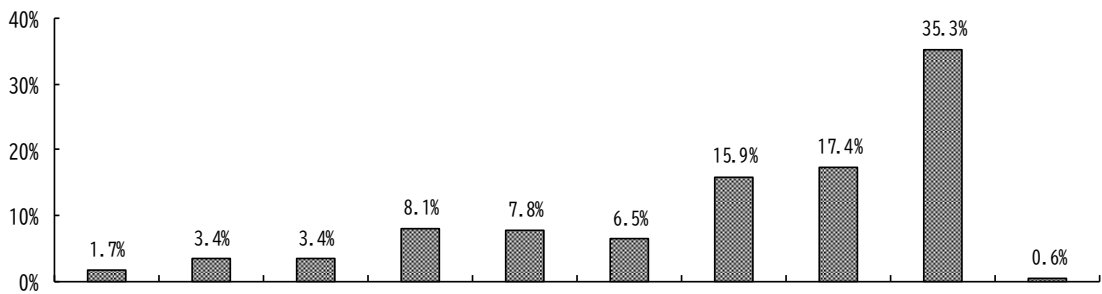
4. 世帯の状況

問4. あなたの家は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)



5. 居住年数

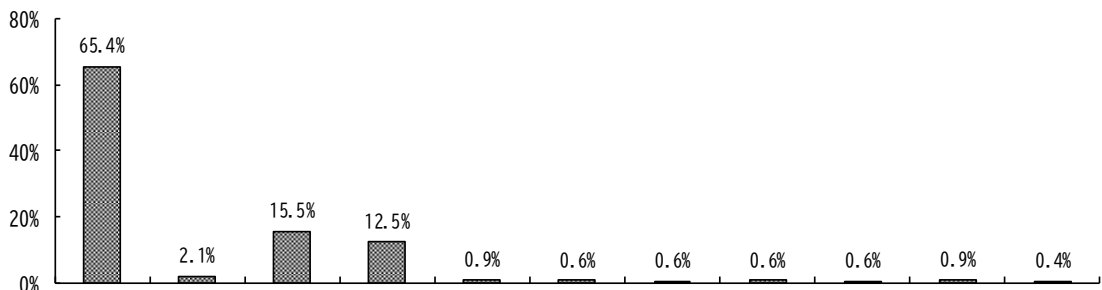
問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)



	調査数	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20～30年未満	30～40年未満	40年以上	無回答
合計	2,529(人) 100.0(%)	42 1.7	86 3.4	87 3.4	204 8.1	198 7.8	164 6.5	403 15.9	439 17.4	892 35.3	14 0.6

6. 居住形態

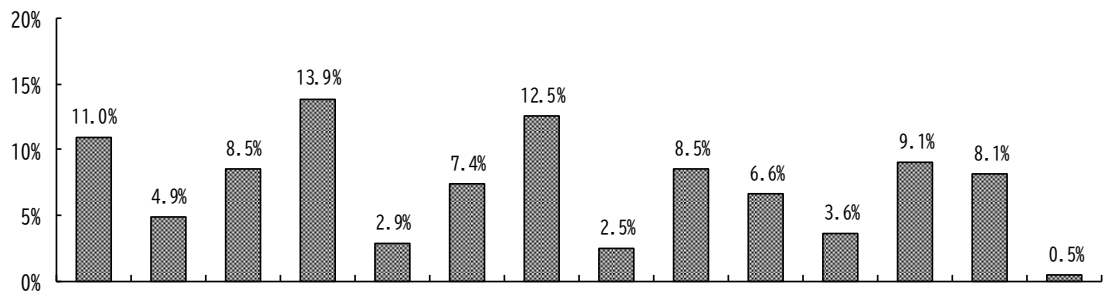
問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)



	調査数	持ち家一戸建て	民間借家一戸建て	民間分譲マンション	民間賃貸マンション・アパート	公団・公社等分譲マンション	公団・公社等賃貸マンション	社宅・官舎	間借り・下宿・寮・寄宿舎	店舗・事務所併用住宅	その他	無回答
合計	2,529(人) 100.0(%)	1654 65.4	52 2.1	393 15.5	315 12.5	22 0.9	16 0.6	14 0.6	16 0.6	14 0.6	22 0.9	11 0.4

7. 居住地区

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)



	調査数	桜井地区	新方地区	増林地区	大袋地区	荻島地区	出羽地区	蒲生地区	川柳地区	大相模地区	大沢地区	北越谷地区	越ヶ谷地区	南越谷地区	無回答
合計	2,529(人)	277	124	215	351	73	186	317	64	216	168	92	229	205	12
	100.0(%)	11.0	4.9	8.5	13.9	2.9	7.4	12.5	2.5	8.5	6.6	3.6	9.1	8.1	0.5

第3章 調査結果の概要

1. 暮らしや居住意向について

現在の暮らし向きについては、「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』は5割半ばとなっている。

今後の居住意向は、「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』は7割半ばとなっている。

『転居意向』の主な理由は、「交通の便が悪いので」「現在、住んでいる住宅が狭いので」「付近の生活環境が悪いので」が1割台となっている。

2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

越谷市への愛着については、「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』は7割半ばとなっている。

愛着がある理由は、「日常生活における買い物が便利」が5割半ば、「交通の利便性がよい」が5割強となっている。

「越谷市の魅力」として言われたことがあるものについては、「交通の利便性がよい」「日常生活における買い物が便利」が約3割となっている。

3. 広報について

市政情報の入手先については、「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が5割半ばで突出して多くなっている。

市政情報を得る手段として知っているものは、「広報こしがや（紙媒体）」が8割弱、「越谷市公式ホームページ」が4割半ばとなっている。

市政情報を得るために活用したことがあるものは、「広報こしがや（紙媒体）」が4割強、「越谷市公式ホームページ」が4割弱となっている。

広報こしがやについては、「わかりやすい」と「おおむねわかりやすい」を合わせた『わかりやすい』は約8割となっている。

広報こしがやのわかりにくい点は、「記事の配置」「文字が多すぎる、図が少ない」が約3割、「文字の大きさ」「情報が不足している」が3割弱となっている。

紙媒体の広報の必要性及び配布方法については、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」が約4割となっている。

4. 市内の公共交通について

鉄道は「たまに利用している」が約3割で最も多く、「とても満足している」と「やや満足している」を合わせた『満足』は8割半ばとなっている。

バスは「全く利用しない」が約4割で最も多く、『満足』は5割強となっている。

タクシーは「全く利用しない」が5割弱で最も多く、『満足』は5割半ばとなっている。

5. 景観（風景）について

住まいの地区の景観（風景）の満足度については、「満足している」と「十分とはいえないが、おおむね満足している」を合わせた『満足』は約7割となっている。

良い景観（風景）のまちをつくるために行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が5割弱、「目標や基本方針を住民に示す」が約4割となっている。

6. 参加と協働のまちづくりについて

「参加と協働のまちづくり」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割半ばとなっている。

「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が約8割で突出して多くになっている。

「参加と協働のまちづくり」への参加意向は、「参加したい」と「どちらかといえば参加したい」を合わせた『参加したい』は3割強となっている。

「越谷市自治基本条例」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割未満となっている。

「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけは、「広報こしがや」が7割強で突出して多くになっている。

「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法は、「広報こしがやへの情報掲載」が6割強、「公共施設等でのポスター掲示」「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」が3割台となっている。

7. 公共施設の今後のあり方について

「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度は、「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は1割未満となっている。

「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考えは、「そうすべきと思う」と「どちらかといえばそうすべきとは思う」を合わせた『思う』は6割弱となっている。

PPP/PFI手法についての考えは、「そうすべきと思う」と「どちらかといえばそうすべきとは思う」を合わせた『思う』は7割弱となっている。

8. 地場農産物や地産地消について

越谷の農業特産物の認知度は、「いちご」が7割強、「ねぎ」「くわい」が6割台となっている。

越谷の農業特産物の購入経験は、「ねぎ」が6割半ば、「いちご」が約6割となっている。

越谷の農業特産物の購入場所は、「太郎兵衛もち」は「市民まつりなどイベント」、「くわい」「山東菜」は「農産物直売所」、「ねぎ」「いちご」「チューリップ」「小松菜」は「市内スーパーマーケット」が、それぞれ最も多くなっている。

9. 人権全般に関する意識について

今の日本社会における基本的人権の意識については、「十分尊重されている」と「やや尊重されている」を合わせた『尊重されている』は約6割となっている。

10年前と比べた人権意識の変化については、「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』は5割強となっている。

関心のある人権問題は、「女性の人権問題」「高齢者の人権問題」「インターネット上における人権問題」「子どもの人権問題」が4割台となっている。

日常生活の中で人権が侵害されたと感じた経験については、「ある」が2割となっている。内容は「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が約5割、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」が5割弱となっている。

10. 男女共同参画について

男女共同参画における「ことば」や「ことがら」の認知度は、「内容を知っている」は「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が6割弱、「LGBT（性的指向や性同一性障害による性的少数者）」が5割半ばとなっている。

「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否については、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』は6割強となっている。

各分野での男女平等については、「平等になっている」は「教育の中で」が約3割、「平等になっていない」は「社会通念や風潮において」が5割半ばとなっている。

理想とする女性の働き方については、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が3割半ば、現実の女性の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が3割強となっている。

仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについては、「そうは思わない」が約5割となっている。

11. 平和事業について

越谷市の平和都市宣言の認知度は、「知っている」が3割半ばとなっている。

越谷市主催「平和フォーラム」の認知度は、「知っており、参加したことがある」と「知っているが、参加したことがない」を合わせた『知っている』は2割半ばとなっている。

平和への意識を高めるために効果的な事業については、「平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催」が約5割、「戦争体験のお話会・座談会の開催」が4割強となっている。

12. 市民相談や法律相談などの各種相談窓口について

各種相談窓口の認知度は、「市民相談」が5割弱、「消費生活相談」「法律相談(平日)」が4割台となっている。

各種相談窓口の利用意向は、「消費生活相談」が8割弱、「イ 交通事故相談」「エ 法律相談(休日)」が7割半ばとなっている。

各種相談窓口での相談方法については、「対面による相談」が8割弱、「電話による相談」が約4割となっている。

13. 地域医療体制について

地域医療体制の認知度は、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』は、「越谷市夜間急患診療所」が約8割、「休日当番医制度」が8割弱となっている。

医療機関の情報の入手方法は、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が約5割、「広報こしがや」が4割強となっている。

地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業については、「夜間急患診療所」が5割半ば、「休日当番医制度」「医療従事者の確保」が3割台となっている。

14. 路上喫煙について

喫煙の有無については、「吸う」が1割強、「吸わない」が8割半ばとなっている。

駅前など人通りの多い場所に灰皿を設置する必要性については、「必要はないと思う」が約6割となっている

他の駅前を路上喫煙禁止区域に指定する必要性については、「必要があると思う」が8割弱となっている。

「路上喫煙禁止区域」内に灰皿等を設置する必要性については、「必要はないと思う」が6割強となっている。

15. 健康保険が行う健診について

加入保険については、「被用者保険」が約4割、「越谷市国民健康保険」が約2割となっている。

健康診査受診の有無については、「受けた」が約5割となっている。

健康診査を受けない理由は、「既に医療機関に通院していたため」が5割弱となっている。

16. 介護サービスについて

事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が4割弱となっている。

事業所の体制については、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が6割弱となっている。

従事者の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」が5割半ばとなっている。

17. ケアラー・ヤングケアラーについて

「ケアラー」「ヤングケアラー」の認知度は、「知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』は6割強となっている。

「ケアラー」「ヤングケアラー」を知ったきっかけは、「テレビ」が約8割、「新聞」が3割半ばとなっている。

「家族等のケアで困っている」人の有無については、「いない」が4割半ばとなっている。

「家族等のケアで困っている」人を手助けしたいかについては、「思う」と「やや思う」を合わせた『思う』は8割弱となっている。

18. 防犯対策について

自宅の防犯対策については、「車にドライブレコーダーを設置している」が4割強、「常に留守番電話設定にしている」が4割弱となっている。

自治会や地域で行われている防犯活動の認知度は、「子ども110番の家」が5割半ば、「登下校時のながら見守り」が4割半ばとなっている。

自宅付近への街頭防犯カメラ設置については、「安心感が増すので設置してほしい」が約7割となっている。

19. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」と「週に1～2回程度」を合わせた『週に1回以上』は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」を合わせた『月に1回以上』は5割半ばとなっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は、「運動不足解消」が約7割、「健康、体力維持・増進」が約6割となっている。

スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が4割、「年をとったから」が2割強となっている。

今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動については、比較的軽いスポーツは「ウォーキング」が4割半ば、野外活動は「ハイキング」が2割強、競技的スポーツは「バドミントン」が約1割となっている。

20. 越谷市の施策について

越谷市の施策について、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、「駅周辺の整備」が3割弱となっている。

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、「水害や地震などの災害対策」が3割半ば、「防犯対策」が約3割となっている。

第4章 調査結果の詳細

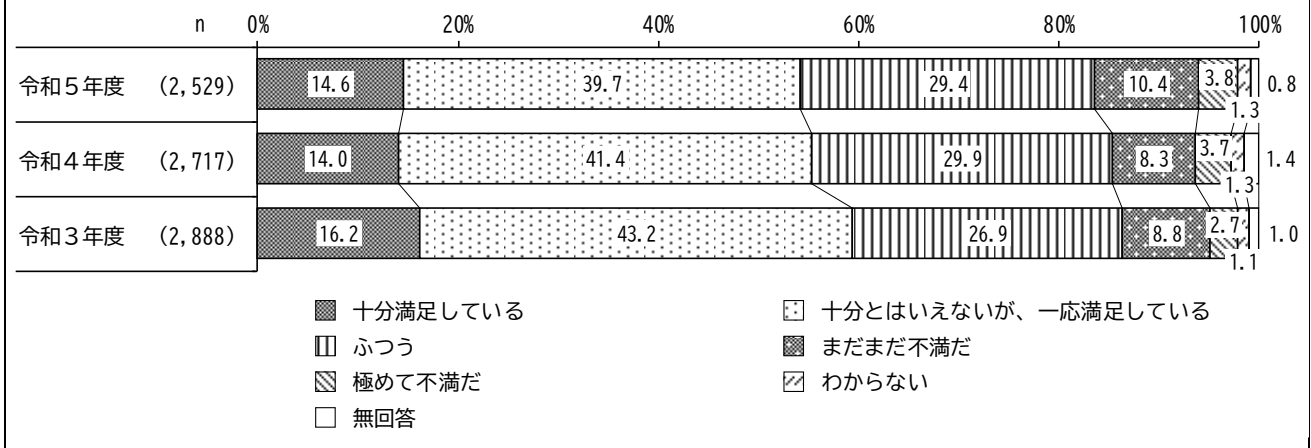
1. 暮らしや居住意向について

(1) 現在の暮らし向き

◇『満足』が5割半ば

問8. あなたは現在の暮らし向きについて、どのように思っていますか。(〇は1つ)

図表1-1-1 現在の暮らし向き



現在の暮らし向きについては、「十分とはいえないが、一応満足している」(39.7%)が最も多く、次いで「ふつう」(29.4%)、「十分満足している」(14.6%)、「まだまだ不満だ」(10.4%)、「極めて不満だ」(3.8%)の順となっている。「十分満足している」と「十分とはいえないが、一応満足している」を合わせた『満足』(54.2%)は5割半ば、「まだまだ不満だ」と「極めて不満だ」を合わせた『不満』(14.2%)は1割半ばとなっている。

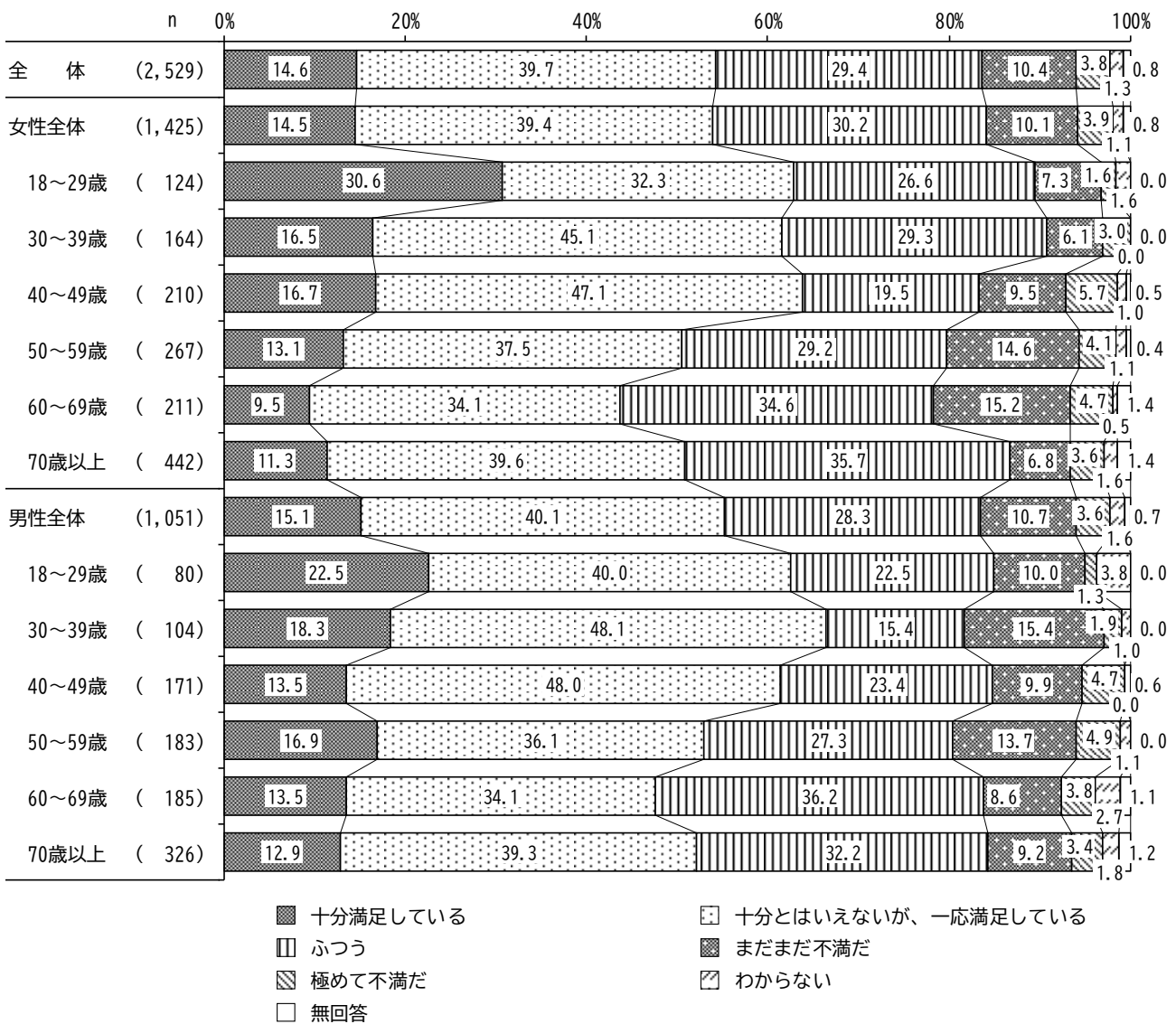
過去2回の調査と比較すると、『満足』は令和4年度(55.4%)から1.2ポイント、令和3年度(59.4%)から5.2ポイント、調査ごとに減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

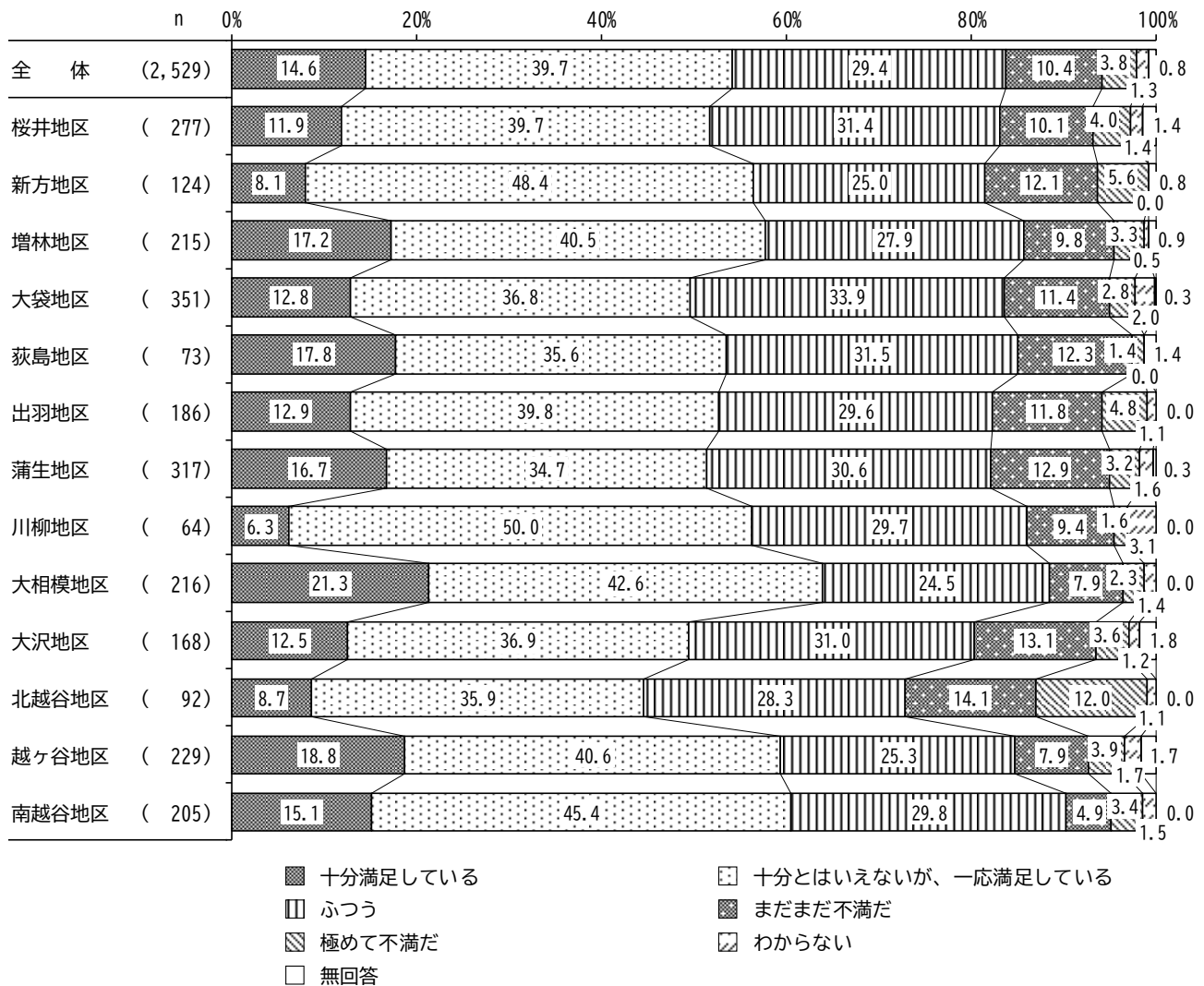
性・年齢別で見ると、『満足』は男性30歳代（66.3%）で6割半ば、女性40歳代（63.8%）で6割強と、男女とも40歳代以下で6割台と多くなっている。女性18～29歳は「十分満足している」（30.6%）が約3割で、全体を16ポイント上回っている。一方、60歳代は女性（43.6%）、男性（47.6%）とも『満足』は4割台で、女性は全体を10.6ポイント下回っている。また、『不満』は女性60歳代（19.9%）が最も多く、全体を5.7ポイント上回っている。

図表1-1-2 性・年齢別 現在の暮らし向き



居住地区別でみると、『満足』は大相模地区（63.9%）が最も多く、全体を9.7ポイント上回り、南越谷地区（60.5%）、越ヶ谷地区（59.4%）も約6割と多くなっている。一方、北越谷地区は『満足』（44.6%）が全体を9.6ポイント下回り、『不満』（26.1%）が全体を11.9ポイント上回っている。

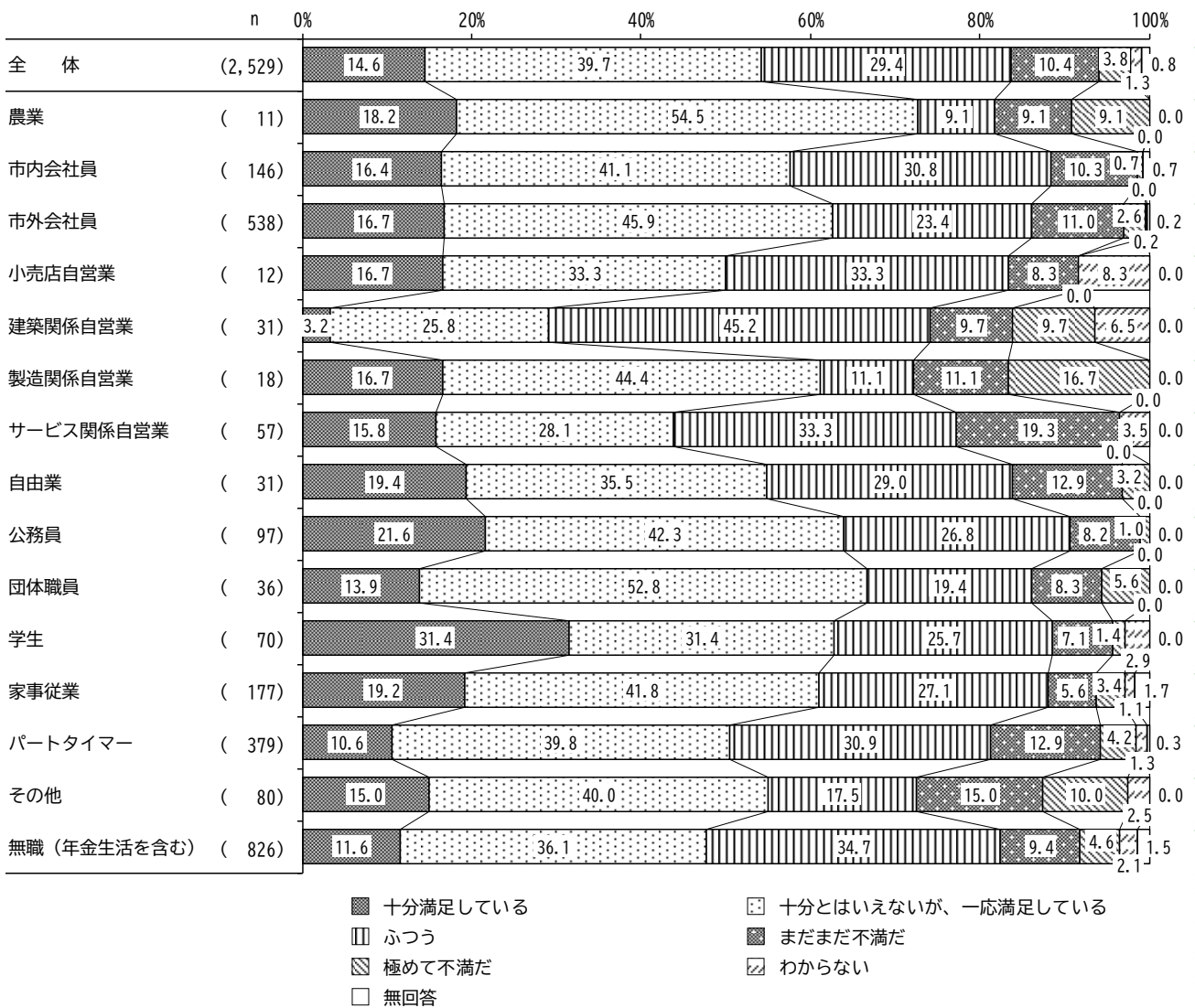
図表1-1-3 居住地区別 現在の暮らし向き



職業別でみると、『満足』は団体職員（66.7%）が6割半ば、公務員（63.9%）、学生（62.9%）、市外会社員（62.6%）、家事従業（61.0%）も6割台と多くなっている。一方、建築関係自営業（29.0%）、サービス関係自営業（43.9%）、無職（年金生活を含む）（47.7%）は『満足』が5割未満と少なくなっており、建築関係自営業は全体を25.2ポイント下回っている。また、『不満』は建築関係自営業（19.4%）、サービス関係自営業（19.3%）で約2割と多くなっている。

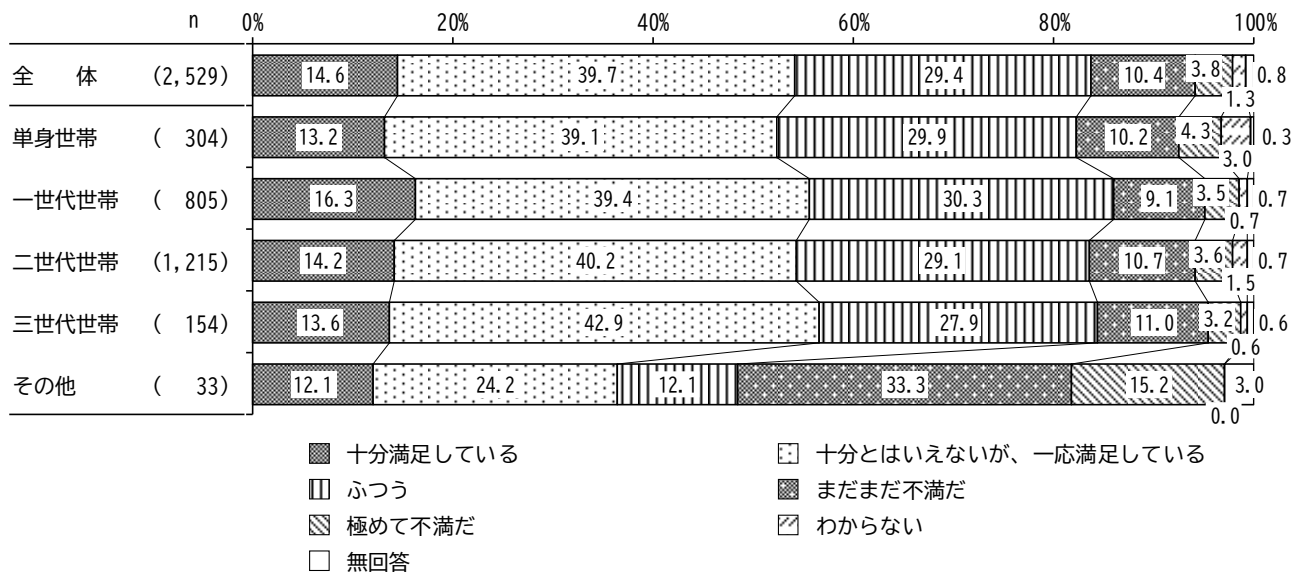
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-1-4 職業別 現在の暮らし向き



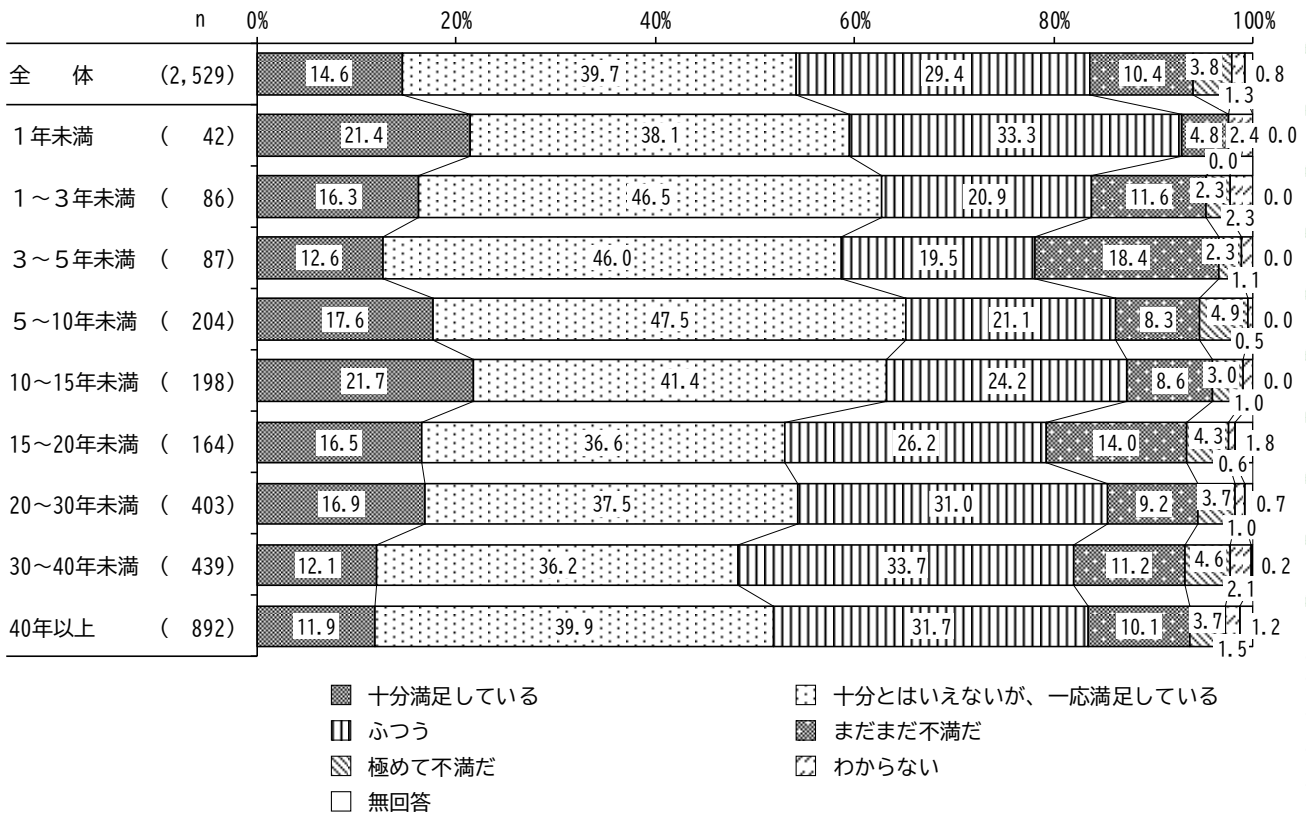
世帯状況別でみると、大きな差はみられない。

図表1-1-5 世帯状況別 現在の暮らし向き



居住年数別でみると、『満足』は5～10年未満(65.2%)が6割半ばで最も多く、10～15年未満(63.1%)、1～3年未満(62.8%)も6割強となっている。一方、30～40年未満(48.3%)は5割弱で全体を5.9ポイント下回っている。また、『不満』は3～5年未満(20.7%)が約2割で最も多い。

図表1-1-6 居住年数別 現在の暮らし向き

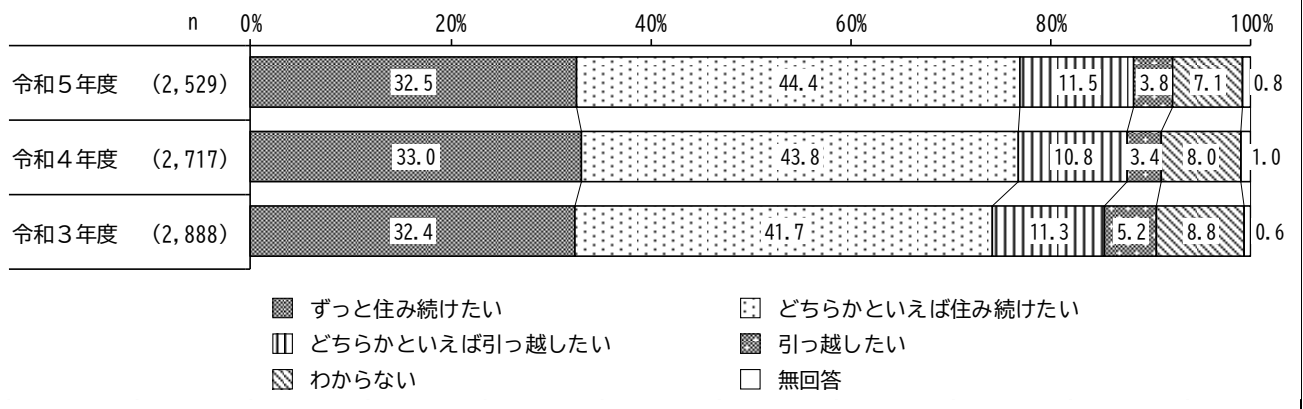


(2) 居住意向

◇『定住意向』が7割半ば

問9. あなたは今後も、現在のところに住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図表1-2-1 居住意向



今後の居住意向については、「どちらかといえば住み続けたい」(44.4%)が最も多く、次いで「ずっと住み続けたい」(32.5%)、「どちらかといえば引っ越したい」(11.5%)、「引っ越したい」(3.8%)の順となっている。「ずっと住み続けたい」と「どちらかといえば住み続けたい」を合わせた『定住意向』(76.9%)は7割半ば、「どちらかといえば引っ越したい」と「引っ越したい」を合わせた『転居意向』(15.2%)は1割半ばとなっている。

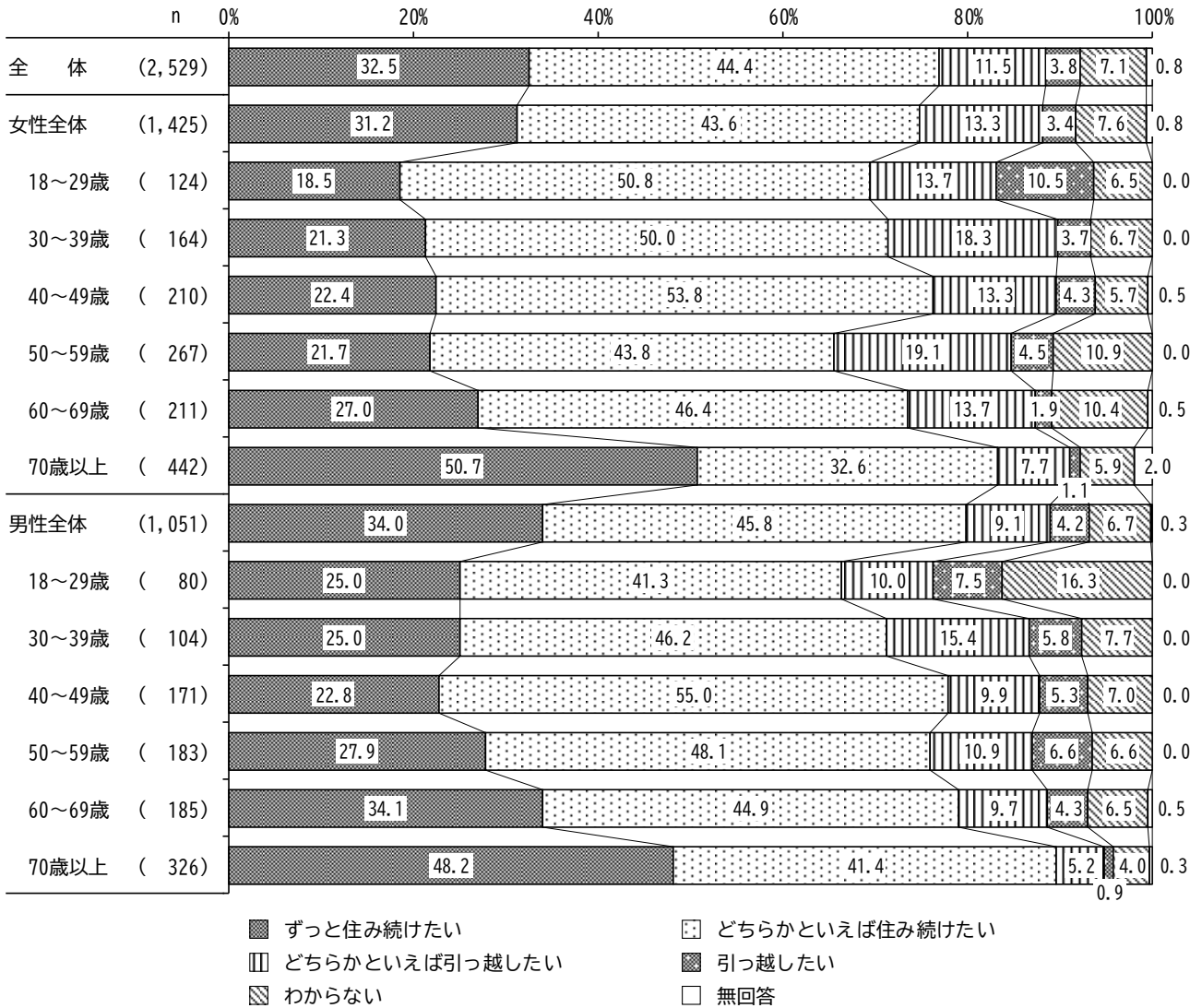
過去2回の調査と比較すると、『定住意向』『転居意向』とも概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『定住意向』は男性（79.7%）が女性（74.8%）を4.9ポイント上回っている。

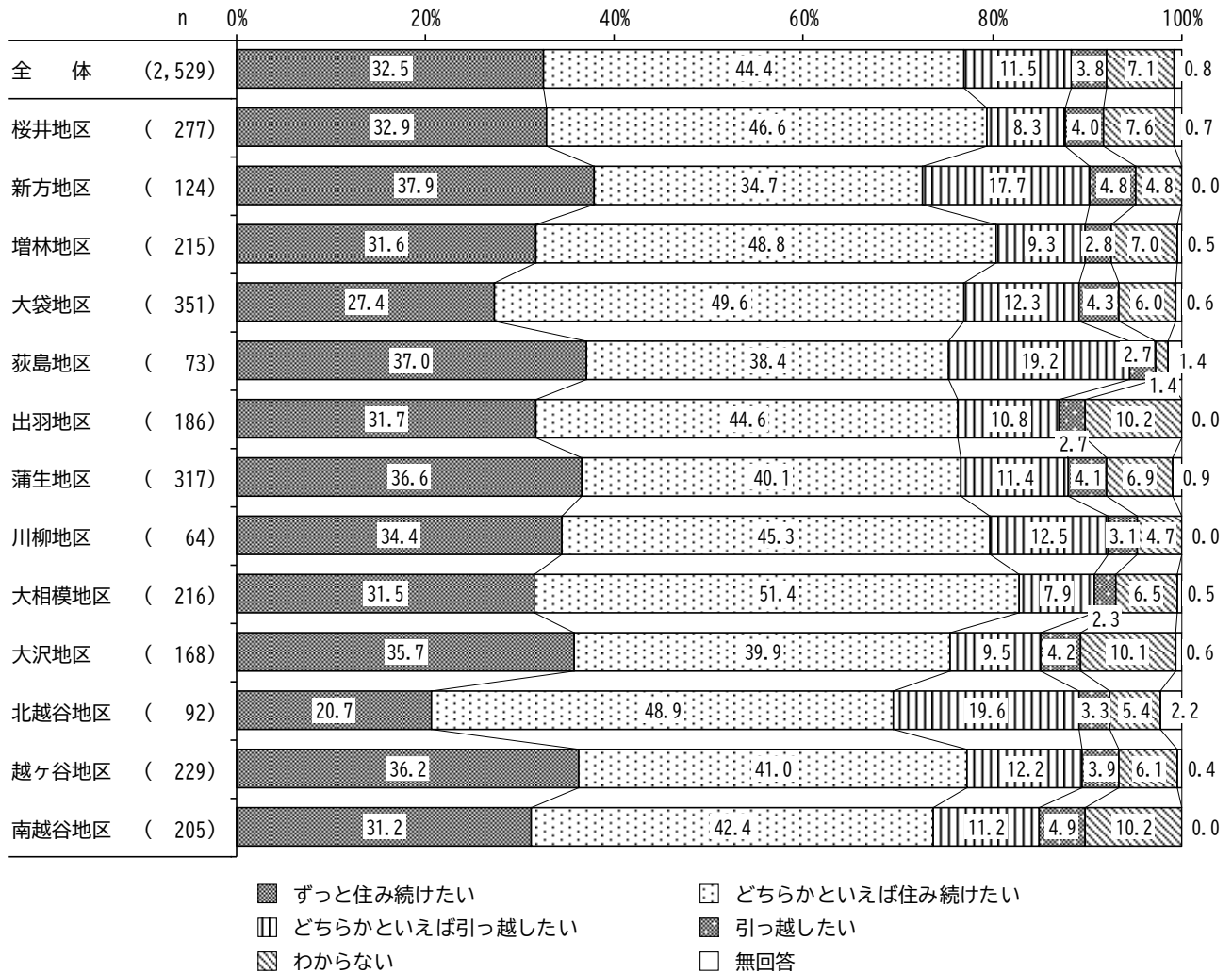
性・年齢別でみると、『定住意向』は70歳以上で男性（89.6%）、女性（83.3%）とも最も多くなっている。一方、女性50歳代（65.5%）、男性18～29歳（66.3%）は『定住意向』が全体を10ポイント以上下回っている。また、『転居意向』は女性18～29歳（24.2%）が2割半ばで最も多く、女性50歳代（23.6%）、女性30歳代（22.0%）、男性30歳代（21.2%）も2割台となっている。

図表1-2-2 性・年齢別 居住意向



居住地区別で見ると、『定住意向』は大相模地区（82.9%）が8割強で最も多く、増林地区（80.5%）、川柳地区（79.7%）、桜井地区（79.4%）も約8割となっている。一方、北越谷地区（69.6%）は全体を7.3ポイント下回っている。また、『転居意向』は北越谷地区（22.8%）が2割強で最も多く、新方地区（22.6%）、荻島地区（21.9%）も2割台となっている。

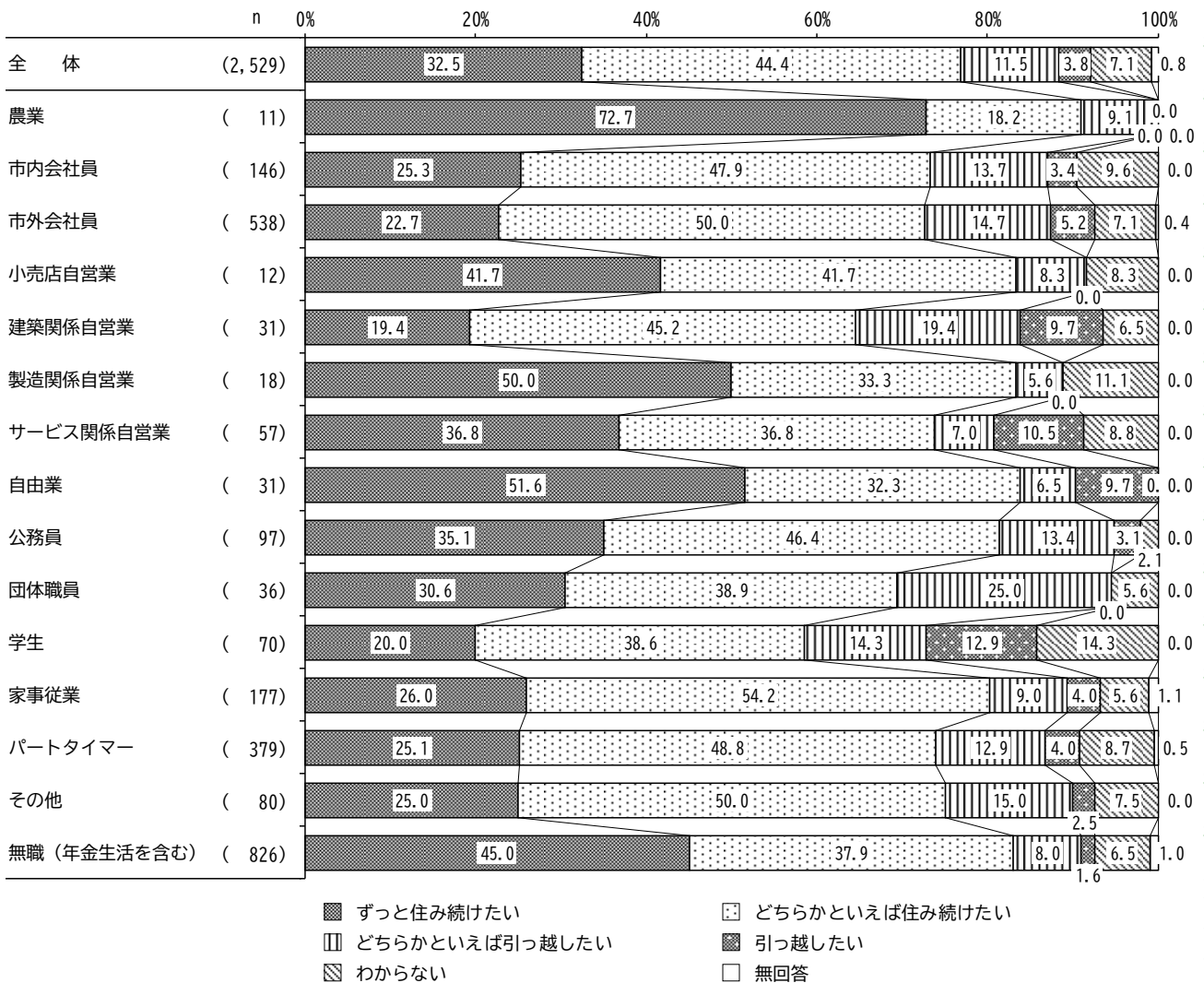
図表1-2-3 居住地区別 居住意向



職業別でみると、『定住意向』は自由業（83.9%）、無職（年金生活を含む）（82.9%）、公務員（81.4%）、家事従業（80.2%）で8割台と多くなっている。一方、学生（58.6%）は6割弱、建築関係自営業（64.5%）は6割半ば、団体職員（69.4%）は約7割で、学生、建築関係自営業は全体を10ポイント以上下回っている。また、『転居意向』は建築関係自営業（29.0%）、学生（27.1%）、団体職員（25.0%）で2割台と多くなっており、建築関係自営業、学生は全体を10ポイント以上上回っている。

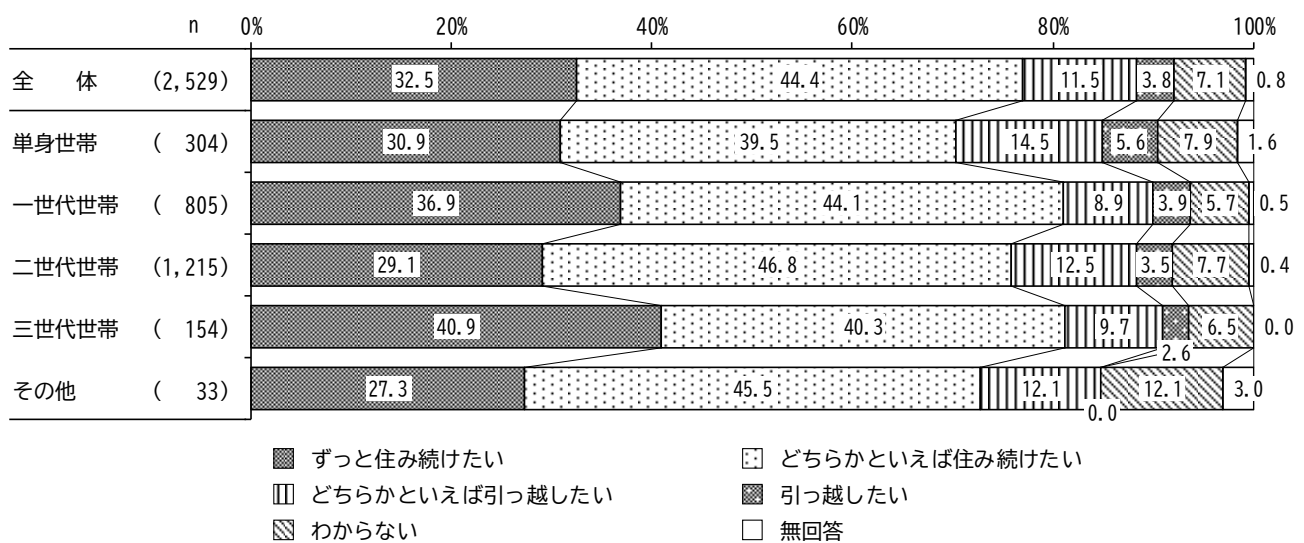
※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-2-4 職業別 居住意向



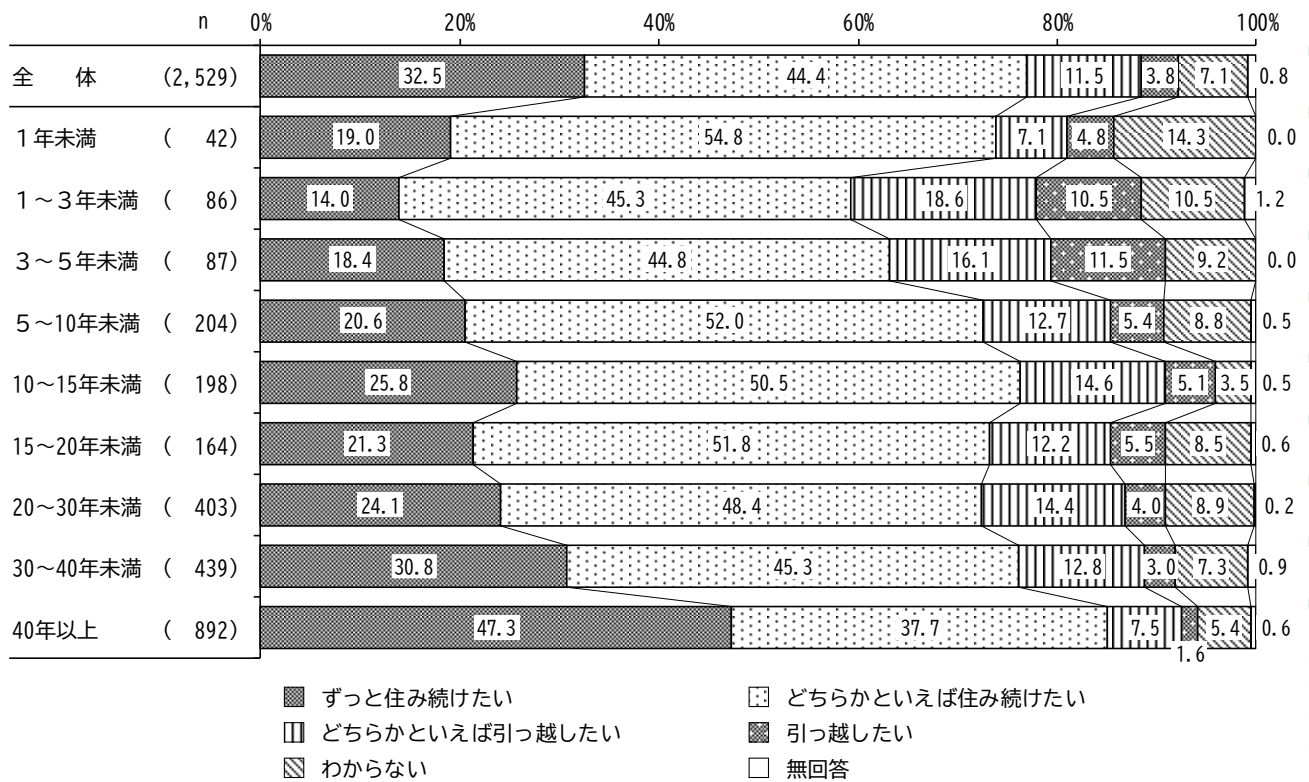
世帯状況別でみると、『定住意向』は三世代世帯（81.2%）、一世代世帯（81.0%）が約8割、二世帯世帯（75.9%）が7割半ば、単身世帯（70.4%）が約7割となっている。一方、『転居意向』は単身世帯（20.1%）が約2割で最も多くなっている。

図表1-2-5 世帯状況別 居住意向



居住年数別でみると、『定住意向』は40年以上(85.0%)が8割半ばで最も多く、10～15年未満(76.3%)、30～40年未満(76.1%)も7割半ばとなっている。一方、1～3年未満(59.3%)は約6割、3～5年未満(63.2%)は6割強で、全体を10ポイント以上下回っている。また、『転居意向』は1～3年未満(29.1%)が約3割で最も多く、3～5年未満(27.6%)も3割弱と全体を10ポイント以上上回っている。

図表1-2-6 居住年数別 居住意向

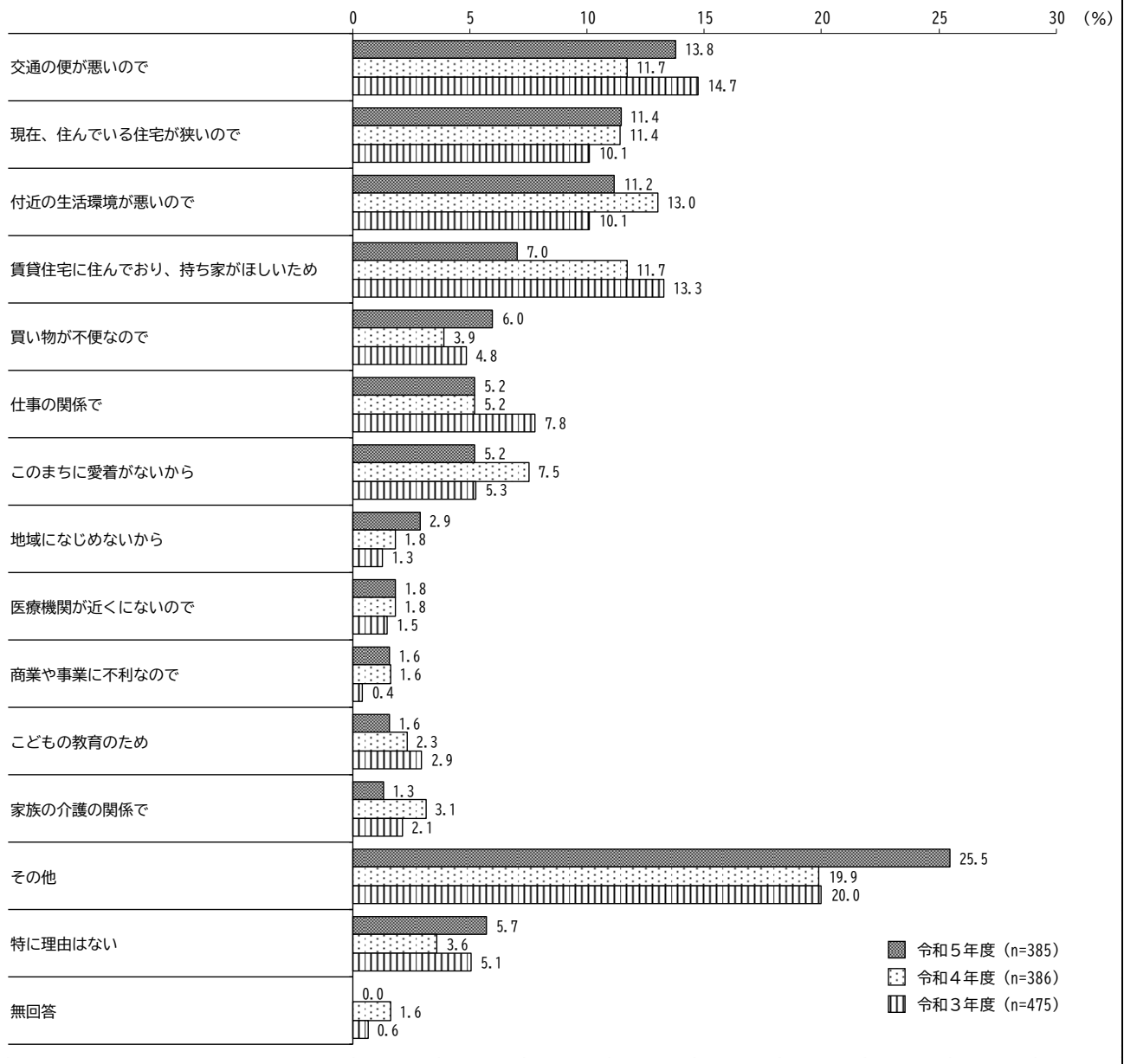


(3) 転居意向の理由

◇「交通の便が悪いので」が最も多く、1割強

問9-2. 問9で「3」または「4」と答えた方（引っ越したいと答えた方）に伺います。
引っ越したいと思われる主な理由は何ですか。（○は1つ）

図表1-3-1 転居意向の理由



『転居意向』のある 385 人に引っ越したいと思う主な理由を聞いたところ、「交通の便が悪いので」(13.8%) が最も多く、次いで「現在、住んでいる住宅が狭いので」(11.4%)、「付近の生活環境が悪いので」(11.2%)、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(7.0%)、「買い物が不便なので」(6.0%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は令和4年度(11.7%)から4.7ポイント、令和3年度(13.3%)から6.3ポイント、調査ごとに減少している。

性別で見ると、女性は「交通の便が悪いので」(13.8%)、男性は「現在、住んでいる住宅が狭いので」(14.3%)が最も多く、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は男性が女性(10.0%)を4.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「仕事の関係で」は女性18～29歳(20.0%)で2割、「買い物が不便なので」は女性70歳以上(17.9%)で2割弱を占め、それぞれ全体を10ポイント以上上回っている。また、「交通の便が悪いので」は女性30歳代(22.2%)で2割強と多くなっている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表1-3-2 性・年齢別 転居意向の理由

	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	医療機関が近くにない	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	385	13.8	11.4	11.2	7.0	6.0	5.2	5.2	2.9	1.8	1.6	1.6	1.3	25.5	5.7	-
女性全体	239	13.8	10.0	10.9	6.7	5.9	6.7	5.9	2.5	2.1	1.7	1.7	1.3	25.5	5.4	-
18～29歳	30	13.3	6.7	10.0	16.7	-	20.0	6.7	3.3	3.3	3.3	-	-	10.0	6.7	-
30～39歳	36	22.2	8.3	-	16.7	2.8	13.9	5.6	-	-	2.8	2.8	-	25.0	-	-
40～49歳	37	5.4	13.5	18.9	13.5	5.4	-	5.4	-	2.7	-	8.1	2.7	21.6	2.7	-
50～59歳	63	15.9	17.5	11.1	-	4.8	4.8	4.8	3.2	1.6	3.2	-	1.6	23.8	7.9	-
60～69歳	33	12.1	6.1	18.2	-	3.0	3.0	9.1	-	-	-	-	-	45.5	3.0	-
70歳以上	39	12.8	2.6	7.7	-	17.9	2.6	5.1	7.7	5.1	-	-	2.6	25.6	10.3	-
男性全体	140	13.6	14.3	11.4	7.9	6.4	2.9	3.6	2.9	1.4	1.4	1.4	1.4	25.7	5.7	-
18～29歳	14	21.4	7.1	-	7.1	7.1	14.3	7.1	-	-	-	-	-	14.3	21.4	-
30～39歳	22	9.1	13.6	4.5	22.7	-	4.5	-	4.5	-	4.5	4.5	-	27.3	4.5	-
40～49歳	26	-	19.2	19.2	15.4	-	3.8	7.7	-	-	-	3.8	-	23.1	7.7	-
50～59歳	32	12.5	12.5	15.6	3.1	6.3	-	3.1	6.3	-	3.1	-	6.3	28.1	3.1	-
60～69歳	26	11.5	19.2	15.4	-	11.5	-	3.8	3.8	-	-	-	-	30.8	3.8	-
70歳以上	20	35.0	10.0	5.0	-	15.0	-	-	-	10.0	-	-	-	25.0	-	-

居住地区別でみると、「現在、住んでいる住宅が狭いので」は越ヶ谷地区（24.3%）で2割半ばを占め、全体を12.9ポイント上回っている。また、「仕事の関係で」は南越谷地区（12.1%）、「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」は蒲生地区（14.3%）、越ヶ谷地区（13.5%）、「このまちに愛着がないから」は桜井地区（14.7%）で全体を5ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-3 居住地区別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	医療機関が近くにない	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	385	13.8	11.4	11.2	7.0	6.0	5.2	5.2	2.9	1.8	1.6	1.6	1.3	25.5	5.7	-
桜井地区	34	11.8	17.6	11.8	2.9	2.9	2.9	14.7	2.9	2.9	2.9	-	-	23.5	2.9	-
新方地区	28	28.6	7.1	7.1	-	10.7	3.6	3.6	3.6	-	-	-	-	28.6	7.1	-
増林地区	26	15.4	7.7	-	3.8	-	3.8	11.5	-	3.8	3.8	-	3.8	42.3	3.8	-
大袋地区	58	10.3	13.8	8.6	5.2	8.6	5.2	3.4	3.4	3.4	1.7	-	-	25.9	10.3	-
荻島地区	16	25.0	-	25.0	-	25.0	-	6.3	-	-	-	-	-	12.5	6.3	-
出羽地区	25	32.0	-	20.0	-	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	-	4.0	16.0	-	-
蒲生地区	49	10.2	12.2	14.3	14.3	2.0	8.2	4.1	4.1	2.0	-	4.1	-	20.4	4.1	-
川柳地区	10	30.0	30.0	10.0	-	-	-	10.0	-	-	-	10.0	-	10.0	-	-
大相模地区	22	18.2	-	4.5	9.1	9.1	4.5	-	-	-	-	-	4.5	36.4	13.6	-
大沢地区	23	4.3	8.7	21.7	8.7	8.7	4.3	4.3	-	4.3	-	-	-	26.1	8.7	-
北越谷地区	21	9.5	19.0	9.5	19.0	4.8	4.8	4.8	4.8	-	4.8	4.8	-	14.3	-	-
越ヶ谷地区	37	-	24.3	10.8	13.5	-	5.4	-	5.4	-	-	2.7	5.4	27.0	5.4	-
南越谷地区	33	9.1	6.1	9.1	6.1	6.1	12.1	3.0	3.0	-	3.0	3.0	-	33.3	6.1	-

第4章 調査結果の詳細

職業別でみると、「買い物が不便なので」は無職（16.5%）で1割半ばを占め、全体を10.5ポイント上回っている。また、「このまちに愛着がないから」はパートタイマー（10.9%）が全体を5.7ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表1-3-4 職業別 転居意向の理由

	調査数（人）	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	医療機関が近くにないから	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	385	13.8	11.4	11.2	7.0	6.0	5.2	5.2	2.9	1.8	1.6	1.6	1.3	25.5	5.7	-
農業	1	-	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市内会社員	25	12.0	20.0	12.0	4.0	4.0	-	8.0	-	4.0	-	4.0	-	28.0	4.0	-
市外会社員	107	10.3	15.9	11.2	8.4	2.8	9.3	4.7	1.9	0.9	1.9	2.8	1.9	25.2	2.8	-
小売店自営業	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建築関係自営業	9	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22.2	11.1	-
製造関係自営業	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
サービス関係自営業	10	10.0	-	10.0	10.0	-	20.0	-	10.0	-	10.0	-	-	30.0	-	-
自由業	5	-	20.0	-	20.0	-	-	-	20.0	20.0	20.0	-	-	-	-	-
公務員	16	6.3	12.5	12.5	6.3	-	-	6.3	-	-	-	6.3	-	43.8	6.3	-
団体職員	9	22.2	11.1	22.2	-	-	22.2	-	-	-	-	-	-	22.2	-	-
学生	19	21.1	10.5	5.3	10.5	-	21.1	-	-	-	-	-	-	10.5	21.1	-
家事従業	23	8.7	13.0	8.7	13.0	8.7	-	8.7	-	-	-	-	4.3	34.8	-	-
パートタイマー	64	15.6	12.5	14.1	9.4	4.7	1.6	10.9	1.6	-	3.1	1.6	1.6	15.6	7.8	-
その他	14	7.1	7.1	7.1	21.4	-	-	7.1	-	-	-	-	-	50.0	-	-
無職（年金生活を含む）	79	16.5	5.1	8.9	-	16.5	1.3	2.5	7.6	5.1	-	-	1.3	26.6	8.9	-

世帯状況別で見ると、単身世帯は「現在、住んでいる住宅が狭いので」(13.1%)が最も多くなっている。一世代世帯、二世帯世帯は「交通の便が悪いので」(16.5%、13.9%)が最も多いが、単身世帯(8.2%)は全体を5.6ポイント下回っている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表1-3-5 世帯状況別 転居意向の理由

	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	医療機関が近くにないから	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全 体	385	13.8	11.4	11.2	7.0	6.0	5.2	5.2	2.9	1.8	1.6	1.6	1.3	25.5	5.7	-
単身世帯	61	8.2	13.1	9.8	3.3	8.2	4.9	6.6	6.6	3.3	1.6	-	1.6	26.2	6.6	-
一世代世帯	103	16.5	8.7	9.7	7.8	5.8	3.9	5.8	1.0	1.0	1.9	1.0	3.9	29.1	3.9	-
二世帯世帯	194	13.9	12.9	12.9	7.2	3.6	6.7	5.2	2.1	1.5	1.0	2.6	-	23.7	6.7	-
三世帯世帯	19	15.8	10.5	10.5	5.3	21.1	-	-	5.3	5.3	5.3	-	-	21.1	-	-
その他	4	-	-	-	50.0	25.0	-	-	25.0	-	-	-	-	-	-	-

第4章 調査結果の詳細

居住年数別でみると、5～10年未満は「賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため」(21.6%)が最も多く、全体を14.6ポイント上回っており、「こどもの教育のため」(8.1%)も多い。一方、10～15年未満は「交通の便が悪いので」(25.6%)、「現在、住んでいる住宅が狭いので」(23.1%)が2割強～2割半ばを占め、全体を10ポイント以上上回っている。また、40年以上は「買い物が不便なので」(14.8%)が全体を8.8ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表1-3-6 居住年数別 転居意向の理由

	調査数(人)	交通の便が悪いので	現在、住んでいる住宅が狭いので	付近の生活環境が悪いので	賃貸住宅に住んでおり、持ち家がほしいため	買い物が不便なので	仕事の関係で	このまちに愛着がないから	地域になじめないから	医療機関が近くにない	商業や事業に不利なので	こどもの教育のため	家族の介護の関係で	その他	特に理由はない	無回答
全体	385	13.8	11.4	11.2	7.0	6.0	5.2	5.2	2.9	1.8	1.6	1.6	1.3	25.5	5.7	-
1年未満	5	-	-	-	20.0	-	-	20.0	-	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-
1～3年未満	25	8.0	16.0	4.0	24.0	12.0	-	8.0	-	-	-	-	-	20.0	8.0	-
3～5年未満	24	12.5	4.2	4.2	20.8	-	20.8	8.3	4.2	-	-	4.2	-	20.8	-	-
5～10年未満	37	16.2	10.8	8.1	21.6	2.7	2.7	-	2.7	-	-	8.1	2.7	24.3	-	-
10～15年未満	39	25.6	23.1	10.3	7.7	2.6	5.1	2.6	-	2.6	2.6	2.6	-	10.3	5.1	-
15～20年未満	29	13.8	10.3	13.8	-	3.4	3.4	13.8	6.9	-	6.9	-	3.4	10.3	13.8	-
20～30年未満	74	8.1	14.9	14.9	1.4	4.1	9.5	6.8	4.1	1.4	1.4	-	2.7	27.0	4.1	-
30～40年未満	69	13.0	10.1	8.7	4.3	2.9	4.3	7.2	2.9	1.4	1.4	-	-	37.7	5.8	-
40年以上	81	14.8	6.2	16.0	-	14.8	1.2	-	2.5	3.7	1.2	-	1.2	29.6	8.6	-

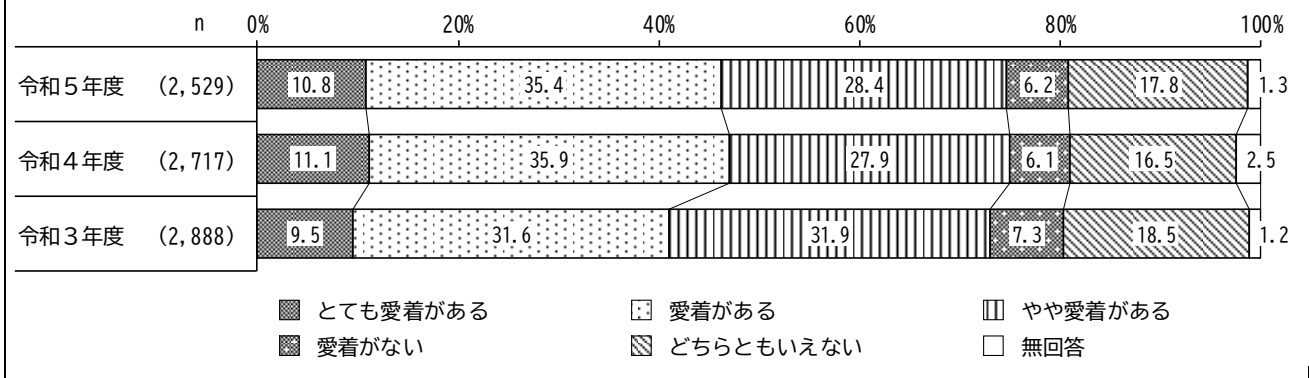
2. 越谷市への愛着度と魅力発信について

(1) 越谷市への愛着

◇『愛着がある』が7割強

問 10. あなたは、越谷市に対して、どのくらい愛着がありますか。(〇は1つ)

図表2-1-1 越谷市への愛着



越谷市への愛着については、「愛着がある」(35.4%)が最も多く、次いで「やや愛着がある」(28.4%)、「どちらともいえない」(17.8%)、「とても愛着がある」(10.8%)、「愛着がない」(6.2%)となっている。「とても愛着がある」「愛着がある」「やや愛着がある」を合わせた『愛着がある』(74.6%)は7割半ばとなっている。

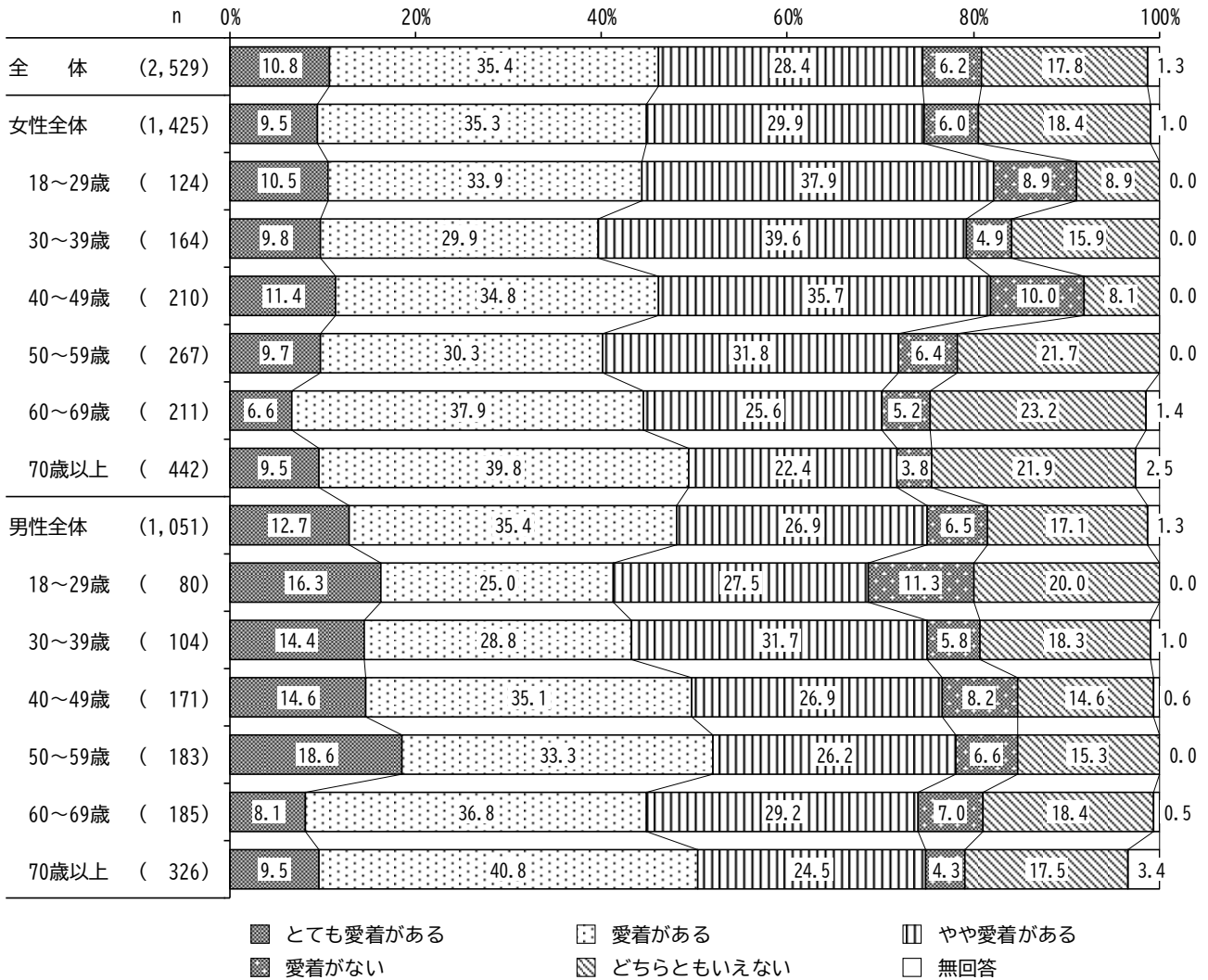
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『愛着がある』は女性 18～29 歳（82.3%）が最も多く、女性 40 歳代（81.9%）も約 8 割となっている。一方、男性 18～29 歳（68.8%）は全体を 5.8 ポイント下回り、女性 18～29 歳より 10 ポイント以上少なくなっている。また、「愛着がない」は男性 18～29 歳（11.3%）、女性 40 歳代（10.0%）で 1 割台と多くなっている。

図表 2-1-2 性・年齢別 越谷市への愛着



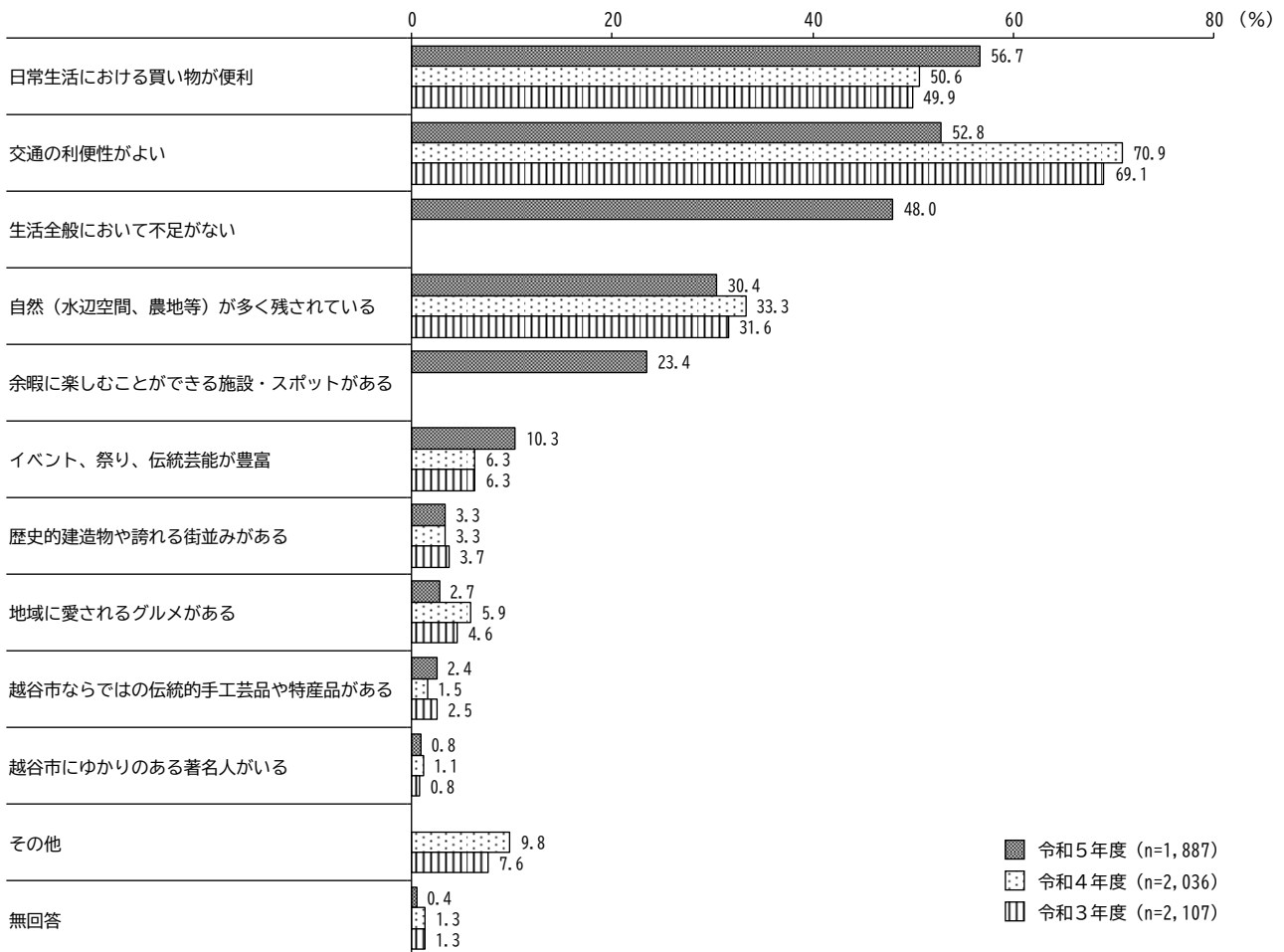
(2) 愛着がある理由

◇「日常生活における買い物が便利」が最も多く、5割半ば

問10で「1」から「3」（愛着がある）と答えた方に伺います。

問10-2. 愛着がある理由は何ですか。（〇はいくつでも）

図表2-2-1 愛着がある理由



※「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」「生活全般において不足がない」は令和5年度新規項目。
 ※「日常生活における買い物が便利」は、令和4年度までは「ショッピング施設や商店街が豊富」
 ※「交通の利便性がよい」は、令和4年度までは「交通の利便性がよく、都内等に近い」
 ※「地域に愛されるグルメがある」は、令和4年度までは「おいしい食事がある」
 ※「越谷市ならではの伝統的手工芸品や特産品がある」は、令和4年度までは「地域の特産品（土産品）がある」
 ※「越谷市にゆかりのある著名人がいる」は、令和4年度までは「誇れる著名人がいる」

越谷市に対して『愛着がある』と回答した1,887人に、愛着がある理由を聞いたところ、「日常生活における買い物が便利」（56.7%）が最も多く、次いで「交通の利便性がよい」（52.8%）、「生活全般において不足がない」（48.0%）、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」（30.4%）、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」（23.4%）の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「交通の利便性がよい」は令和4年度（70.9%）から18.1ポイント減少した。一方、「日常生活における買い物が便利」は令和4年度（50.6%）から6.1ポイント、令和3年度（49.9%）から6.8ポイント、調査ごとに増加し、令和5年度は「交通の利便性がよい」を上回った。

性別で見ると、「生活全般において不足がない」は男性（51.6%）で約5割を占め、女性（45.6%）を6.0ポイント上回っている。男性は「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」（33.3%）も女性（28.5%）を4.8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「日常生活における買い物が便利」は男性18～29歳（47.3%）を除き5割を超え、女性30歳代・40歳代（60.0%、66.9%）、男性30歳代・40歳代（62.8%、61.8%）は6割台となっている。「交通の利便性がよい」は女性60歳代（61.5%）で約6割、女性18～29歳（58.8%）で6割弱となっており、それぞれ「日常生活における買い物が便利」を上回っている。「生活全般において不足がない」は男性30歳代・40歳代（64.1%、67.2%）で6割を超えるが、50歳代以上は男女とも年齢が上がるにつれ減少する傾向にあり、女性70歳以上（35.0%）は3割半ばとなっている。一方、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は男女とも高齢層で多くなる傾向にあり、男性70歳以上（45.1%）は全体を14.7ポイント上回っている。また、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は男女とも30歳代（40.0%、38.5%）で全体を10ポイント以上上回っている。

図表2-2-2 性・年齢別 愛着がある理由

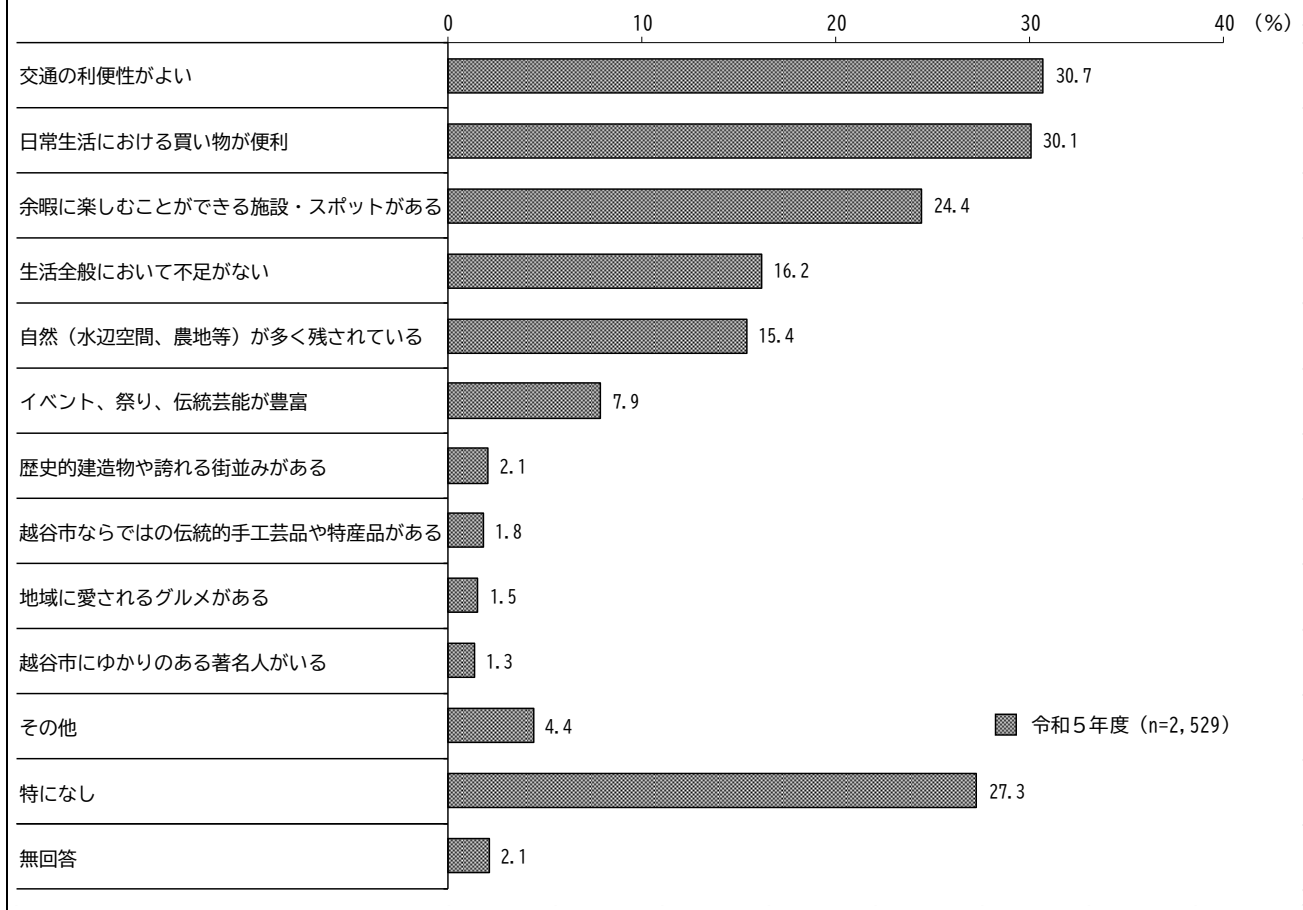
	調査数（人）	日常生活における買い物が便利	交通の利便性がよい	生活全般において不足がない	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	余暇に楽しむことができる施設・スポットがある	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	地域に愛されるグルメがある	特産品がある	越谷市ならではの伝統的手工芸品や越谷市にゆかりのある著名人がいる	その他	無回答
全体	1,887	56.7	52.8	48.0	30.4	23.4	10.3	3.3	2.7	2.4	0.8	9.9	0.4
女性全体	1,064	58.1	53.9	45.6	28.5	23.2	10.2	3.7	2.6	2.2	0.6	11.2	0.4
18～29歳	102	52.0	58.8	49.0	14.7	30.4	13.7	3.9	1.0	1.0	2.0	10.8	-
30～39歳	130	60.0	50.0	56.9	25.4	40.0	11.5	6.2	8.5	3.1	-	12.3	-
40～49歳	172	66.9	53.5	53.5	23.8	27.9	19.2	4.1	2.9	2.3	-	9.9	-
50～59歳	192	53.1	48.4	48.4	27.6	21.4	10.9	3.1	2.1	2.1	-	17.7	-
60～69歳	148	58.1	61.5	42.6	27.0	16.2	8.1	2.0	2.7	2.7	1.4	11.5	-
70歳以上	317	57.4	53.3	35.0	37.9	16.1	4.4	3.5	0.9	1.9	0.6	7.6	1.3
男性全体	789	55.4	51.8	51.6	33.3	24.1	10.4	2.9	2.9	2.9	1.3	8.4	0.4
18～29歳	55	47.3	50.9	58.2	18.2	30.9	16.4	3.6	1.8	-	3.6	3.6	1.8
30～39歳	78	62.8	43.6	64.1	23.1	38.5	17.9	3.8	5.1	2.6	5.1	7.7	-
40～49歳	131	61.8	55.7	67.2	27.5	32.8	12.2	4.6	6.1	3.8	0.8	9.9	-
50～59歳	143	55.9	55.2	51.0	27.3	23.1	9.1	2.1	2.1	4.2	0.7	9.8	-
60～69歳	137	51.8	48.2	47.4	35.8	16.1	6.6	2.2	2.9	2.9	0.7	8.8	0.7
70歳以上	244	52.9	52.5	40.2	45.1	18.4	8.6	2.5	1.2	2.5	0.4	7.8	0.4

(3) 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの

◇「交通の利便性がよい」が最も多く、約3割

問 11. 皆さんに伺います。市外に住んでいる知人から「越谷市の魅力」として、言われたことがあるものは何ですか。(〇はいくつでも)

図表2-3-1 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの



市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるものについては、「交通の利便性がよい」（30.7%）が最も多く、次いで「日常生活における買い物が便利」（30.1%）、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」（24.4%）、「生活全般において不足がない」（16.2%）、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」（15.4%）の順となっている。

性別で見ると、「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は女性（26.8%）が男性（21.8%）を5.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「交通の利便性がよい」は70歳以上が女性（36.9%）、男性（34.0%）とも最も多く、女性は30歳代（28.0%）、50歳代（24.3%）を除き3割台となっている。「余暇に楽しむことができる施設・スポットがある」は女性18～29歳（41.1%）、30歳代（43.3%）で4割台、女性40歳代（39.0%）、男性30歳代（39.4%）で約4割を占めるが、高齢層では減少し、女性70歳以上（11.8%）、男性60歳代（14.1%）、70歳以上（15.3%）は1割台となっている。一方、「自然（水辺空間、農地等）が多く残されている」は高齢層で多く、70歳以上は女性（24.9%）、男性（24.8%）とも2割半ばとなっている。

図表2-3-2 性・年齢別 市外の知人に「越谷市の魅力」として言われたことがあるもの

	調査数（人）	交通の利便性がよい	日常生活における買い物が便利	余暇に楽しむことができる施設・スポットがある	生活全般において不足がない	自然（水辺空間、農地等）が多く残されている	イベント、祭り、伝統芸能が豊富	歴史的建造物や誇れる街並みがある	特産品がある	越谷市ならではの伝統的手工芸品や	地域に愛されるグルメがある	越谷市にゆかりのある著名人がいる	その他	特になし	無回答
全体	2,529	30.7	30.1	24.4	16.2	15.4	7.9	2.1	1.8	1.5	1.3	4.4	27.3	2.1	
女性全体	1,425	32.2	31.5	26.8	15.9	14.9	7.8	2.0	1.8	1.5	1.1	4.4	24.7	2.3	
18～29歳	124	35.5	29.0	41.1	21.8	4.8	7.3	-	1.6	-	3.2	7.3	16.1	-	
30～39歳	164	28.0	35.4	43.3	20.7	11.6	12.2	0.6	-	3.7	1.2	4.3	18.9	0.6	
40～49歳	210	32.4	35.7	39.0	20.5	10.0	10.0	1.4	1.0	1.4	0.5	4.8	21.0	1.9	
50～59歳	267	24.3	25.5	30.0	10.1	11.6	7.9	0.7	1.9	0.4	0.7	6.4	30.7	1.5	
60～69歳	211	33.6	30.8	21.8	13.3	12.3	7.1	3.3	2.4	3.3	1.9	3.8	26.5	2.4	
70歳以上	442	36.9	33.3	11.8	15.4	24.9	5.7	3.6	2.5	1.1	0.5	2.5	25.8	4.3	
男性全体	1,051	28.4	28.0	21.8	16.7	16.1	8.1	2.1	1.9	1.6	1.7	4.5	30.8	1.5	
18～29歳	80	22.5	26.3	28.8	12.5	8.8	11.3	-	2.5	-	1.3	8.8	31.3	-	
30～39歳	104	22.1	33.7	39.4	24.0	7.7	9.6	1.0	1.0	2.9	2.9	2.9	25.0	-	
40～49歳	171	29.2	24.0	25.7	17.5	10.5	7.0	1.8	1.2	2.9	4.7	7.0	27.5	0.6	
50～59歳	183	24.0	31.1	24.6	20.8	12.0	7.1	1.6	0.5	0.5	1.6	4.9	30.6	0.5	
60～69歳	185	28.6	20.5	14.1	13.0	17.3	5.9	2.7	2.7	1.6	0.5	5.9	37.8	1.6	
70歳以上	326	34.0	31.0	15.3	14.7	24.8	9.2	3.1	2.8	1.5	0.6	1.5	30.7	3.1	

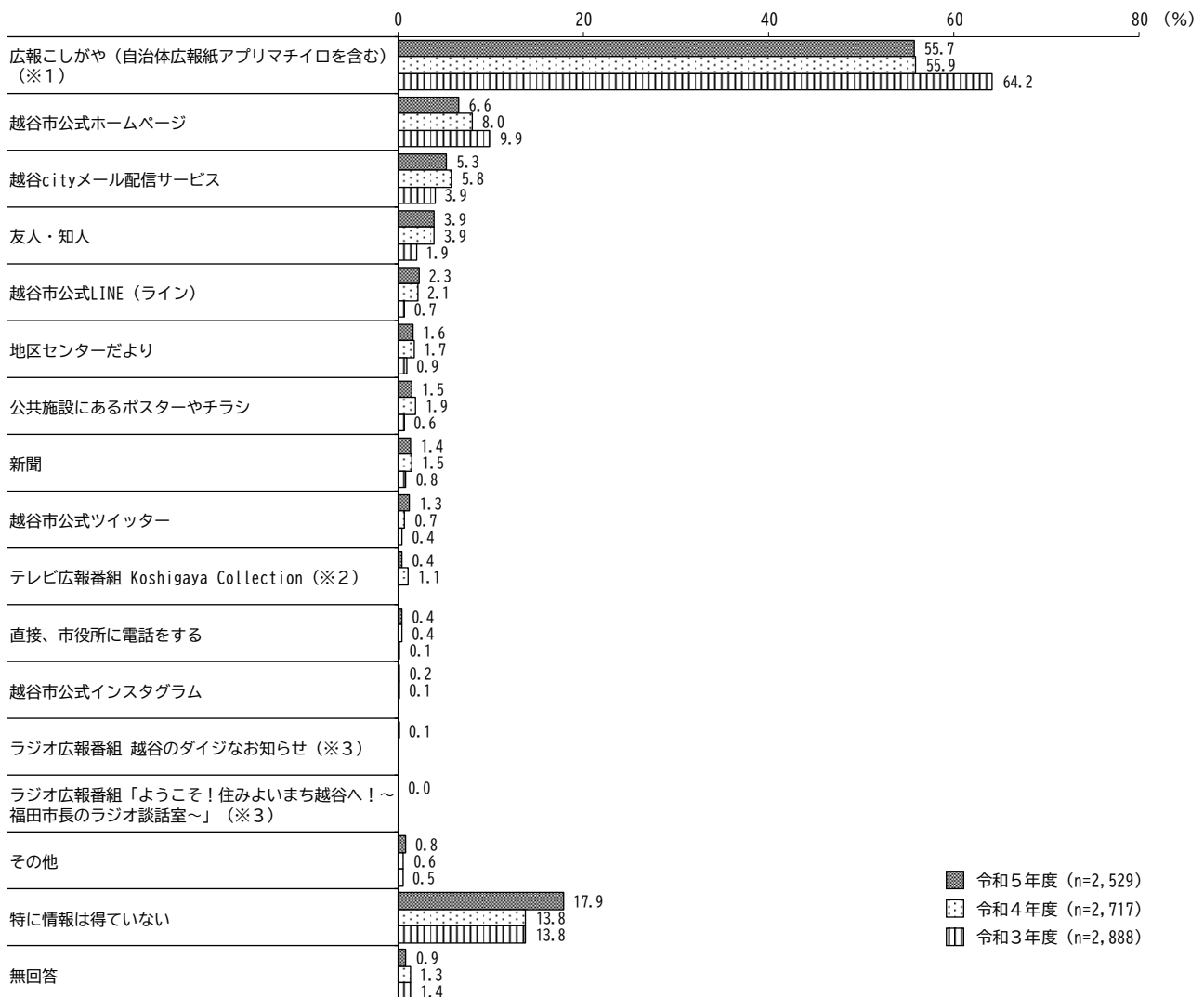
3. 広報について

(1) 市政情報の入手先

◇「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」が最も多く、5割半ば

問 12. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(〇は1つ)

図表3-1-1 市政情報の入手先



（※1）「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」は令和3年度までは「広報こしがや」

（※2）「テレビ広報番組 Koshigaya Collection」「越谷市公式インスタグラム」は令和4年度新規項目

（※3）「ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ」「ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」」は令和5年度新規項目

市政情報の入手先は、「広報こしがや（自治体広報紙アプリマチイロを含む）」（55.7%）が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」（6.6%）、「越谷 city メール配信サービス」（5.3%）、「友人・知人」（3.9%）、「越谷市公式LINE（ライン）」（2.3%）の順となっている。一方、「特に情報は得ていない」（17.9%）は2割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、「広報こしがや」は令和3年度（64.2%）と比べ8.5ポイント減少しているが、令和4年度（55.9%）とほぼ同率であり、突出する傾向が続いている。

性別でみると、「広報こしがや(自治体広報紙アプリマチイロを含む)」は女性(58.9%)が男性(51.6%)を7.3ポイント上回っている。一方、「特に情報は得ていない」は男性(22.3%)が女性(14.7%)を7.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、男女ともすべての年齢で「広報こしがや(自治体広報紙アプリマチイロを含む)」が最も多く、女性60歳代(76.8%)、70歳以上(79.9%)、男性70歳以上(72.4%)は7割を超えている。一方、18~29歳は女性(15.3%)、男性(12.5%)とも1割台であり、年齢が上がるにつれ増加する傾向となっている。それ以外の項目については、「越谷市公式ホームページ」「越谷cityメール配信サービス」「友人・知人」が一部の年齢で1割台となる他は、いずれも1割未満と少なくなっている。一方、「特に情報は得ていない」は男性18~29歳(57.5%)で6割弱、女性18~29歳(46.0%)で4割半ばとなり、若年層で多くなっている。

図表3-1-2 性・年齢別 市政情報の入手先

	調査数(人)	広報こしがや(自治体広報紙アプリマチイロを含む)	越谷市公式ホームページ	越谷cityメール配信サービス	友人・知人	越谷市公式LINE(ライン)	地区センターだより	公共施設にあるポスターやチラシ	新聞	越谷市公式ツイッター	テレビ広報番組 Koshigaya Collection	直接、市役所に電話をする	越谷市公式インスタグラム	ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	越谷へ!~福田市長のラジオ談話室~	その他	特に情報は得ていない	無回答
全体	2,529	55.7	6.6	5.3	3.9	2.3	1.6	1.5	1.4	1.3	0.4	0.4	0.2	0.1	-	0.8	17.9	0.9
女性全体	1,425	58.9	5.4	6.7	4.7	2.7	1.1	1.1	1.1	1.3	0.3	0.4	0.1	0.1	-	0.8	14.7	0.6
18~29歳	124	15.3	6.5	2.4	8.9	5.6	-	4.0	1.6	7.3	-	-	-	-	-	2.4	46.0	-
30~39歳	164	32.3	7.9	10.4	10.4	8.5	0.6	1.2	1.2	1.8	-	-	0.6	-	-	1.2	23.8	-
40~49歳	210	45.7	9.5	16.7	7.1	3.3	1.4	1.4	1.0	1.0	-	-	-	-	-	1.9	10.5	0.5
50~59歳	267	57.7	7.1	10.5	3.4	1.9	-	1.1	-	1.5	0.4	1.1	0.4	-	-	-	14.2	0.7
60~69歳	211	76.8	6.2	4.3	2.4	1.9	1.4	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	6.6	-
70歳以上	442	79.9	0.9	0.2	2.3	0.5	2.0	0.5	2.0	-	0.7	0.5	-	0.2	-	0.5	8.6	1.4
男性全体	1,051	51.6	8.3	3.5	2.8	1.6	2.3	2.1	1.7	1.2	0.6	0.4	0.2	0.1	-	0.9	22.3	0.6
18~29歳	80	12.5	10.0	1.3	5.0	-	3.8	3.8	2.5	2.5	-	-	-	-	-	1.3	57.5	-
30~39歳	104	30.8	7.7	4.8	3.8	1.9	1.0	5.8	1.0	3.8	-	-	1.0	-	-	-	38.5	-
40~49歳	171	33.9	9.9	5.8	2.3	4.7	1.2	3.5	1.8	2.3	1.2	0.6	0.6	-	-	1.2	31.0	-
50~59歳	183	48.1	8.7	6.0	3.3	2.2	3.8	1.1	2.2	0.5	-	-	-	-	-	1.6	22.4	-
60~69歳	185	63.8	9.7	3.8	3.2	1.6	2.2	1.1	0.5	0.5	1.1	-	-	-	-	1.1	10.8	0.5
70歳以上	326	72.4	5.8	0.9	1.5	-	2.1	0.9	2.1	0.3	0.6	0.9	-	0.3	-	0.3	10.4	1.2

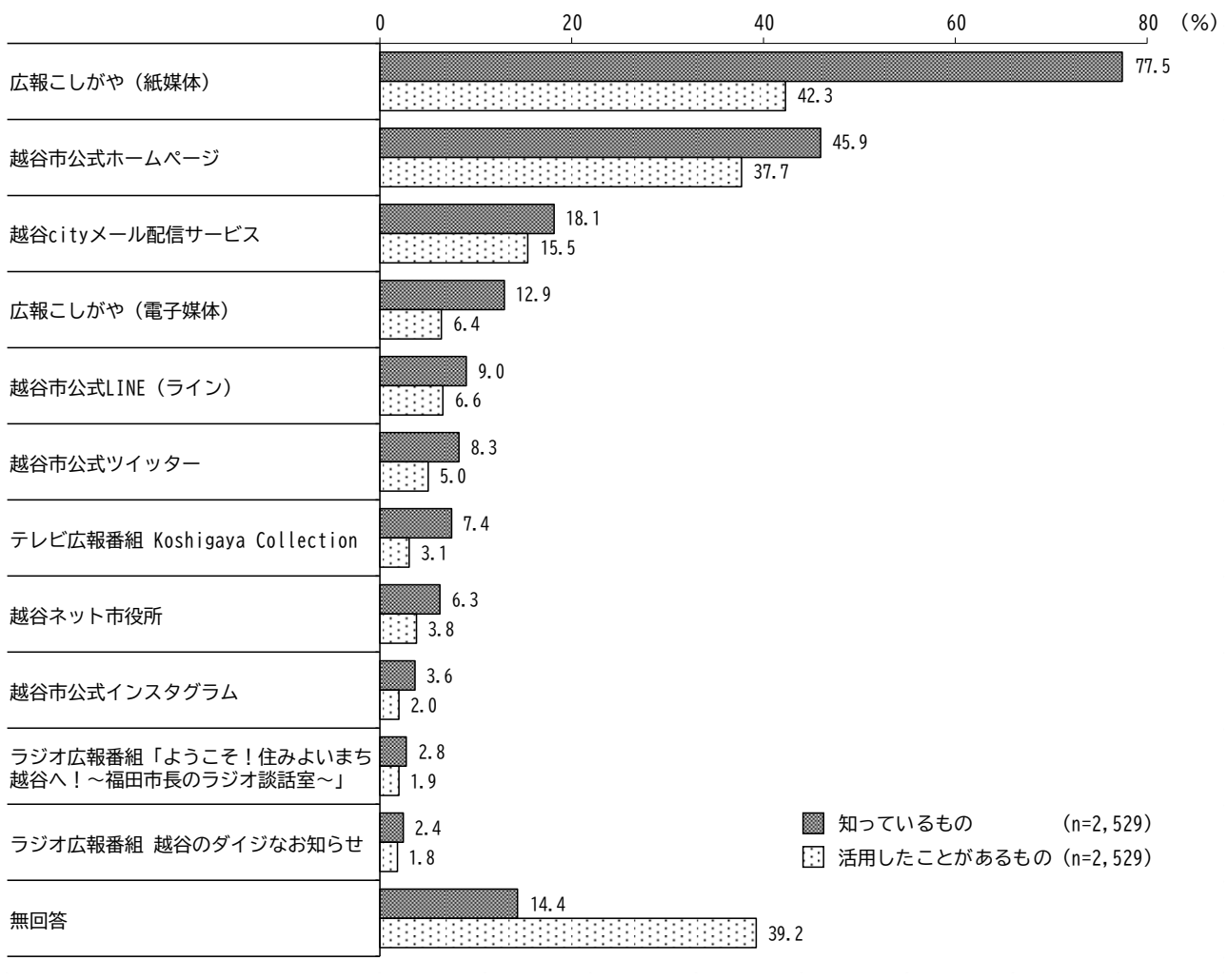
(2) 市政情報を得る手段として『知っているもの』『活用したことがあるもの』

◇『知っているもの』では「広報こしがや（紙媒体）」が最も多く、8割弱、

『活用したことがあるもの』では「広報こしがや（紙媒体）」が最も多く、4割強

問 13. 市政情報を得る手段として「知っているもの」また、「活用したことがあるもの」を、次の中から選び、下の口内に番号をご記入ください。(複数回答可)

図表3-2-1 市政情報を得る手段として『知っているもの』『活用したことがあるもの』



市政情報を得る手段として『知っているもの』は、「広報こしがや（紙媒体）」（77.5%）が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」（45.9%）、「越谷 city メール配信サービス」（18.1%）、「広報こしがや（電子媒体）」（12.9%）の順となっている。

市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』は、「広報こしがや（紙媒体）」（42.3%）が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」（37.7%）、「越谷 city メール配信サービス」（15.5%）、「越谷市公式 LINE（ライン）」（6.6%）の順となっている。

両者を比較すると、上位3項目は共通であるが、「広報こしがや（紙媒体）」は両者の差が35.2ポイントとなっている。「広報こしがや（電子媒体）」「テレビ広報番組 Koshigaya Collection」 「越谷市公式インスタグラム」なども『活用したことがあるもの』が『知っているもの』の半数前後となっているが、「広報こしがや（電子媒体）」以外は『知っているもの』が1割未満となっている。

『知っているもの』について、性別で見ると、「越谷 city メール配信サービス」は女性（22.1%）が男性（13.2%）を 8.9 ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや（紙媒体）」は男性 18～29 歳（43.8%）を除き 5 割を超え、女性 60 歳代（91.0%）は約 9 割で最も多くなっている。「越谷市公式ホームページ」「越谷 city メール配信サービス」は男女とも 40 歳代が最も多く、女性 40 歳代は「越谷市公式ホームページ」（67.1%）、「越谷 city メール配信サービス」（47.6%）いずれも全体を 20 ポイント以上上回っている。一方、70 歳以上は男女とも全体を 10 ポイント以上下回っている。また、「越谷市公式ツイッター」は女性 18～29 歳（23.4%）で 2 割強、女性 30 歳代（19.5%）、男性 30 歳代（18.3%）で 2 割弱～約 2 割と、若年層で多くなっている。

図表 3-2-2 性・年齢別 市政情報を得る手段として『知っているもの』

	調査数（人）	広報こしがや（紙媒体）	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	広報こしがや（電子媒体）	越谷市公式 LINE（ライン）	越谷市公式ツイッター	テレビ広報番組 Koshigaya Collection	越谷ネット市役所	越谷市公式インスタグラム	ラジオ広報番組「ようこそ！住みよいまち越谷へ！～福田市長のラジオ談話室～」	ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	無回答
全体	2,529	77.5	45.9	18.1	12.9	9.0	8.3	7.4	6.3	3.6	2.8	2.4	14.4
女性全体	1,425	79.8	45.3	22.1	12.5	10.7	9.5	6.9	5.8	4.2	2.6	2.2	13.1
18～29歳	124	51.6	59.7	26.6	12.1	11.3	23.4	4.8	12.1	7.3	4.0	1.6	25.0
30～39歳	164	72.0	57.9	31.7	11.0	17.1	19.5	6.7	9.1	7.3	2.4	3.0	14.6
40～49歳	210	82.9	67.1	47.6	20.5	14.3	10.5	5.2	6.2	6.2	3.3	3.3	8.6
50～59歳	267	81.6	59.6	28.8	18.4	15.0	14.2	10.1	5.6	6.0	3.7	3.4	11.6
60～69歳	211	91.0	44.5	15.6	13.7	11.8	4.7	3.8	5.2	3.3	1.4	0.9	5.2
70歳以上	442	82.6	17.9	4.1	5.4	3.4	0.7	7.9	2.9	0.7	1.6	1.4	16.1
男性全体	1,051	75.0	48.0	13.2	14.0	6.9	6.9	8.1	7.3	2.9	3.0	2.7	15.2
18～29歳	80	43.8	50.0	12.5	8.8	6.3	10.0	3.8	11.3	3.8	1.3	2.5	33.8
30～39歳	104	55.8	58.7	18.3	9.6	11.5	18.3	1.9	6.7	2.9	1.0	1.9	25.0
40～49歳	171	78.4	59.6	20.5	18.1	10.5	9.9	8.2	8.2	5.3	5.3	4.1	11.1
50～59歳	183	74.9	54.1	19.1	19.7	9.3	8.2	10.9	9.3	4.4	4.9	3.3	11.5
60～69歳	185	84.9	54.6	7.6	16.2	4.3	2.7	10.3	5.9	1.1	1.6	1.6	7.0
70歳以上	326	81.6	31.3	8.0	10.1	3.7	2.8	8.0	5.5	1.8	2.8	2.5	16.3

『活用したことがあるもの』について、性別で見ると、「越谷 city メール配信サービス」(女性 18.8%、男性 11.5%) は 7.3 ポイント、「広報こしがや (紙媒体)」(女性 45.6%、男性 38.7%) は 6.9 ポイント、女性が男性を上回っている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや (紙媒体)」は女性 40 歳代 (60.5%) が約 6 割で最も多く、女性 50 歳代 (58.8%)、60 歳代 (51.7%)、男性 60 歳代 (51.4%) も 5 割台となっている。一方、女性 18~29 歳 (25.8%)、男性 18~29 歳 (21.3%)、30 歳代 (26.0%) は 2 割台で、全体を 10 ポイント以上下回っている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性 50 歳代 (58.8%) が全体を 21.1 ポイント、「越谷 city メール配信サービス」は女性 40 歳代 (46.2%) が全体を 30.7 ポイント上回り、他の年齢に比べ多くなっている。女性 40 歳代は「越谷市公式ホームページ」(55.2%) も 5 割半ばを占めている。

図表 3-2-3 性・年齢別 市政情報を得る手段として『活用したことがあるもの』

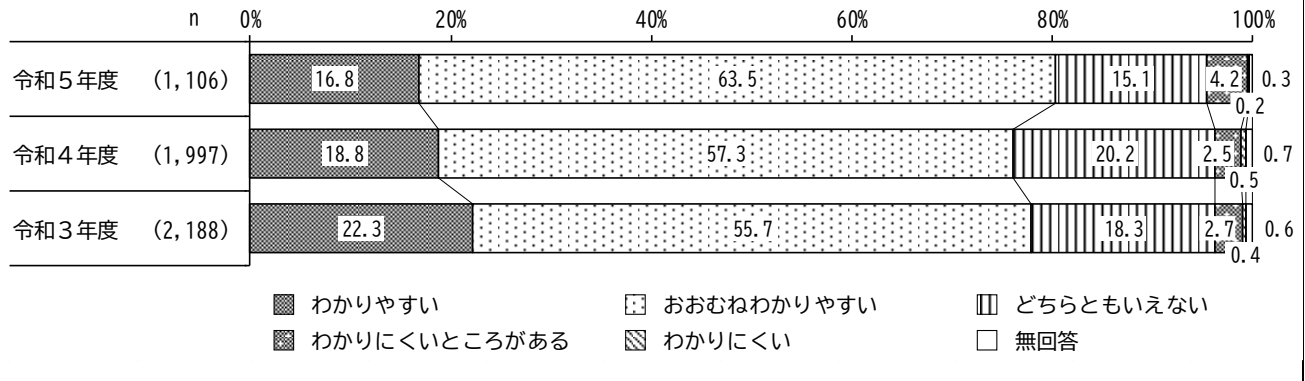
	調査数 (人)	広報こしがや (紙媒体)	越谷市公式ホームページ	越谷 city メール配信サービス	越谷市公式 LINE (ライン)	広報こしがや (電子媒体)	越谷市公式ツイッター	越谷ネット市役所	テレビ広報番組 Koshigaya Collection	越谷市公式インスタグラム	越谷へ! ~福田市長のラジオ談話室~	ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	無回答 (%)
全体	2,529	42.3	37.7	15.5	6.6	6.4	5.0	3.8	3.1	2.0	1.9	1.8	39.2
女性全体	1,425	45.6	37.7	18.8	7.4	6.0	5.5	3.2	2.2	1.8	1.3	1.4	36.8
18~29歳	124	25.8	41.9	12.1	9.7	6.5	12.9	6.5	8.9	5.6	5.6	5.6	37.1
30~39歳	164	45.7	46.3	26.2	17.1	4.9	12.2	6.1	2.4	4.3	2.4	2.4	25.0
40~49歳	210	60.5	55.2	46.2	9.0	7.6	7.1	4.3	1.0	1.9	0.5	1.0	16.2
50~59歳	267	58.8	58.8	27.7	9.0	8.6	7.1	3.4	2.2	1.9	1.5	1.9	22.8
60~69歳	211	51.7	37.4	12.8	6.6	9.0	2.4	2.4	0.5	0.5	0.5	-	34.1
70歳以上	442	33.7	12.4	2.3	2.0	2.5	0.5	1.1	1.6	0.2	0.5	0.5	60.4
男性全体	1,051	38.7	39.0	11.5	5.7	7.4	4.6	4.8	4.5	2.4	2.9	2.3	41.3
18~29歳	80	21.3	30.0	6.3	5.0	3.8	5.0	6.3	1.3	1.3	1.3	2.5	56.3
30~39歳	104	26.0	44.2	22.1	18.3	12.5	18.3	6.7	9.6	9.6	8.7	8.7	37.5
40~49歳	171	39.2	47.4	19.3	8.2	7.6	7.0	6.4	4.7	2.3	2.3	3.5	35.1
50~59歳	183	45.9	49.2	16.9	4.4	8.2	2.2	2.2	6.0	1.6	3.8	1.6	30.1
60~69歳	185	51.4	47.6	8.1	4.3	9.2	2.7	4.9	3.8	2.2	1.6	1.1	29.7
70歳以上	326	35.6	24.5	4.3	2.1	5.2	1.2	4.0	3.1	0.9	1.8	0.6	54.9

(3) 広報こしがやの感想

◇『わかりやすい』が約8割

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」の感想を選んでください。(○は1つ)

図表3-3-1 広報こしがやの感想



市政情報を得るために「広報こしがや（紙媒体）」「広報こしがや（電子媒体）」のいずれかを活用したことがあると回答した1,106人に、広報こしがやの感想について聞いたところ、「わかりやすい」(16.8%)と「おおむねわかりやすい」(63.5%)を合わせた『わかりやすい』(80.3%)は約8割となっている。

一方、「わかりにくいところがある」(4.2%)と「わかりにくい」(0.2%)を合わせた『わかりにくい』(4.3%)は1割未満となっている。

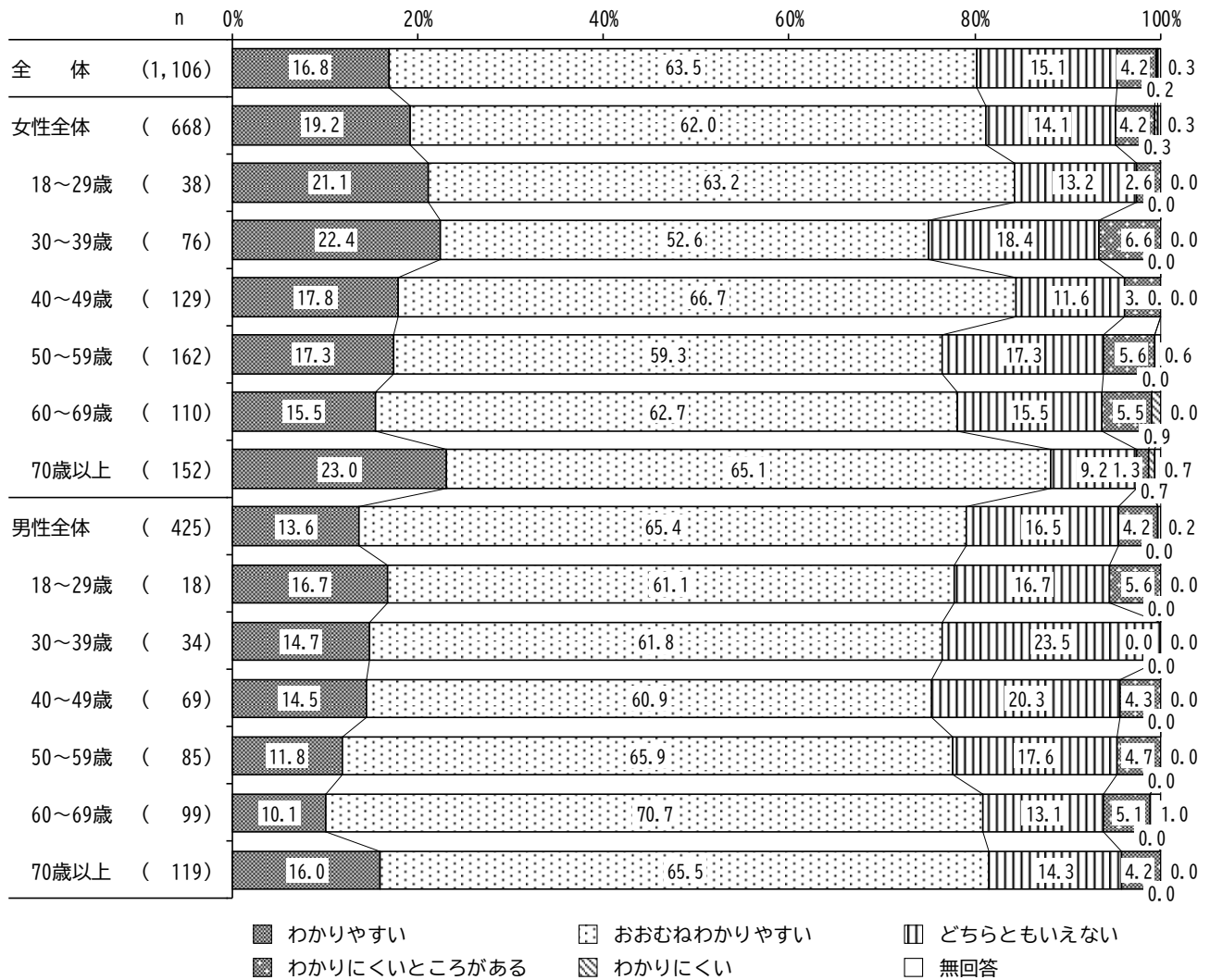
過去2回の調査と比較すると、『わかりやすい』は令和4年度(76.1%)から4.2ポイント増加している。特に「おおむねわかりやすい」は令和4年度(57.3%)から6.2ポイント、令和3年度(55.7%)から7.8ポイント、調査ごとに増加しているが、「わかりやすい」は減少傾向にある

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『わかりやすい』は女性70歳以上（88.2%）が9割弱で最も多く、女性18～29歳（84.2%）、男性60歳代（80.8%）、70歳以上（81.5%）も8割台となっている。一方、『わかりにくい』はすべての年齢で1割未満となっている。

図表3-3-2 性・年齢別 広報こしがやの感想

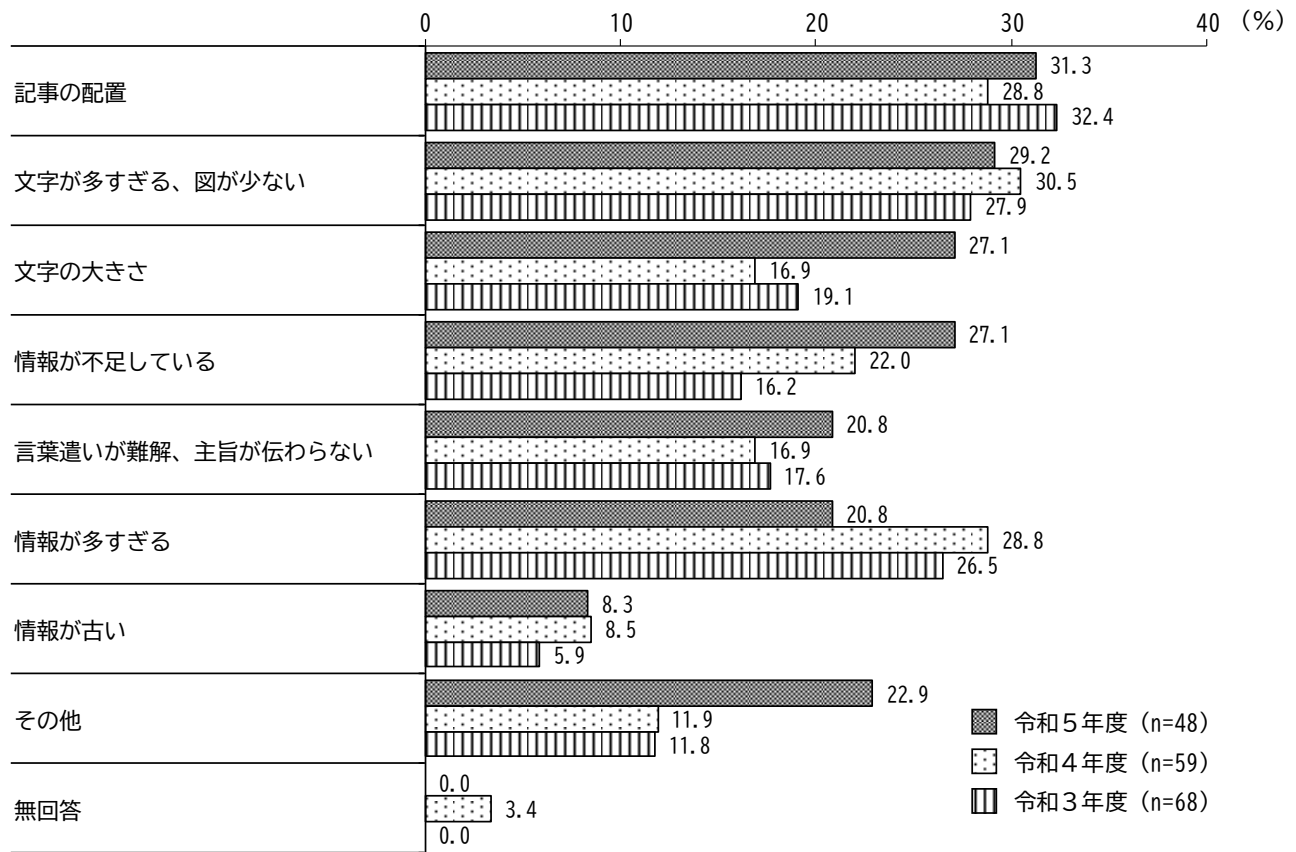


(4) 広報こしがやのわかりにくい点

◇「記事の配置」が最も多く、約3割

問 14-2. 問 14 で「4」または「5」と答えた方に伺います。
 どのような点についてそう感じましたか。(〇はいくつでも)

図表3-4-1 広報こしがやのわかりにくい点



広報こしがやが『わかりにくい』と回答した48人に、その理由を尋ねたところ、「記事の配置」(31.3%)が最も多く、次いで「文字が多すぎる、図が少ない」(29.2%)、「文字の大きさ」「情報が不足している」(各27.1%)、「言葉遣いが難解、主旨が伝わらない」「情報が多すぎる」(各20.8%)の順となっている。

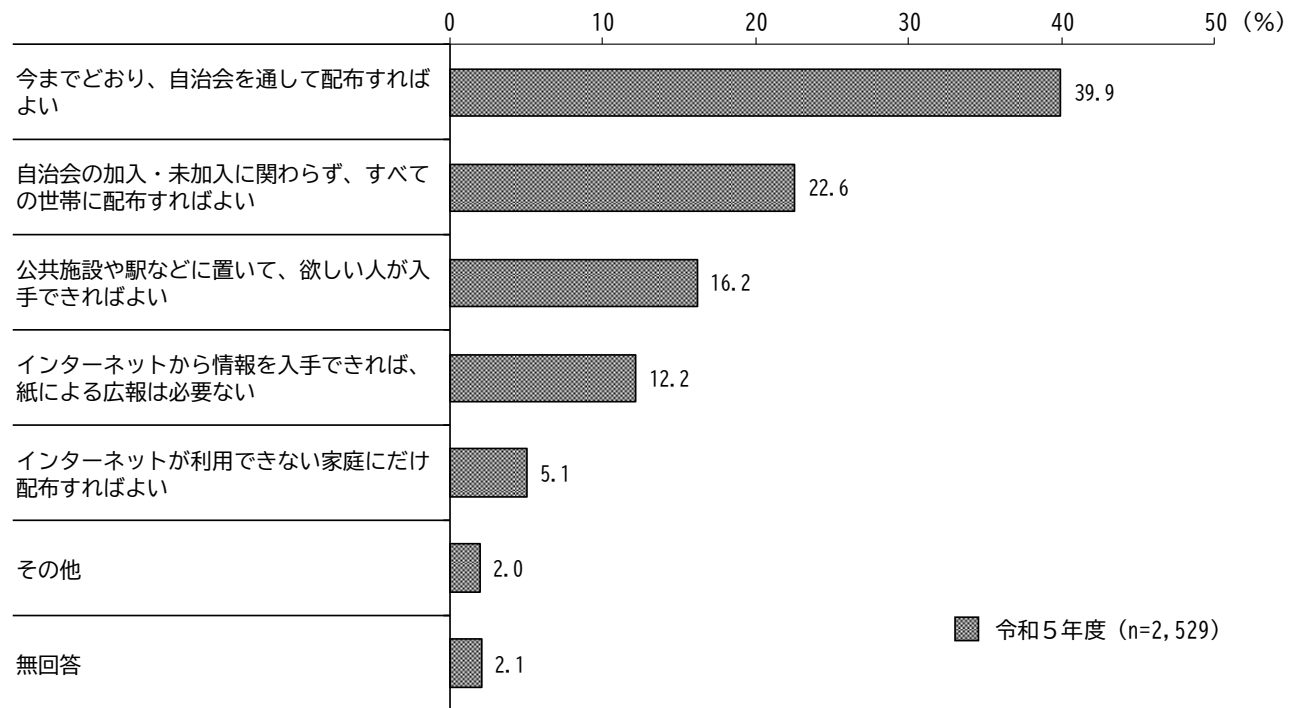
過去の調査と比較すると、「文字の大きさ」は令和4年度(16.9%)と比べ10.2ポイント増加している。「情報が不足している」も令和4年度(22.0%)と比べ5.1ポイント、令和3年度(16.2%)と比べ10.9ポイント、調査ごとに増加している。一方、「情報が多すぎる」は令和4年度(28.8%)と比べ8.0ポイント減少している。

(5) 紙媒体の広報の必要性及び配布方法

◇「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」が約4割で最も多い

問 15. 皆さんに伺います。あなたは、「広報こしがや」など紙媒体の広報の必要性及び配布方法についてどう考えますか。(○は1つ)

図表3-5-1 紙媒体の広報の必要性及び配布方法



紙媒体の広報の必要性及び配布方法について聞いたところ、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」(39.9%)が最も多く、次いで「自治会の加入・未加入に関わらず、すべての世帯に配布すればよい」(22.6%)、「公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい」(16.2%)、「インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない」(12.2%)の順となっている。

性別でみると、「インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない」は男性（15.8%）が女性（9.8%）を6.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「今までどおり、自治会を通して配布すればよい」は男女とも高齢層で多くなる傾向にあり、70歳以上は女性（58.4%）、男性（56.7%）とも5割台となっている。一方、「公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい」は若年層で多くなる傾向にあり、18～29歳で女性（33.9%）、男性（30.0%）とも3割台となる一方、70歳以上（女性5.4%、男性4.6%）は1割未満となっている。また、「インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない」は男性30歳代（30.8%）が約3割と、全体を18.6ポイント上回っている。

図表3-5-2 性・年齢別 紙媒体の広報の必要性及び配布方法

	調査数（人）	て今 配ま 布で すど れお ばり 、 自 治 会 を 通 し	れら ば自 よ治 い会 すの べ加 て入 の・ 世未 帯加 に入 配に 布関 すわ	欲公 し共 しい施 人設 がや 入駅 手な でど きに れば置 ばいて、	必手 要で ない い ン タ ー ネ ッ 紙 に か ら 情 報 を は 入	い ン タ ー ネ ッ に だ け 配 布 が 利 用 で よ き な	そ の 他	無 回 答
全 体	2,529	39.9	22.6	16.2	12.2	5.1	2.0	2.1
女性全体	1,425	40.1	23.6	18.0	9.8	5.1	1.7	1.7
18～29歳	124	22.6	12.1	33.9	20.2	8.1	2.4	0.8
30～39歳	164	25.6	17.1	24.4	20.1	11.0	1.2	0.6
40～49歳	210	31.9	22.4	22.9	15.7	4.8	1.9	0.5
50～59歳	267	29.2	28.5	21.7	10.5	5.6	3.0	1.5
60～69歳	211	46.0	22.7	19.9	4.7	3.8	0.9	1.9
70歳以上	442	58.4	27.1	5.4	2.3	2.7	1.1	2.9
男性全体	1,051	39.2	21.3	14.2	15.8	5.1	2.4	2.0
18～29歳	80	27.5	13.8	30.0	22.5	6.3	-	-
30～39歳	104	28.8	11.5	19.2	30.8	4.8	3.8	1.0
40～49歳	171	26.9	16.4	20.5	24.6	6.4	3.5	1.8
50～59歳	183	29.5	25.1	15.8	20.2	6.0	2.2	1.1
60～69歳	185	40.0	22.7	14.1	13.5	5.4	3.2	1.1
70歳以上	326	56.7	26.1	4.6	3.4	3.7	1.5	4.0

4. 市内の公共交通について

(1) 公共交通の利用状況

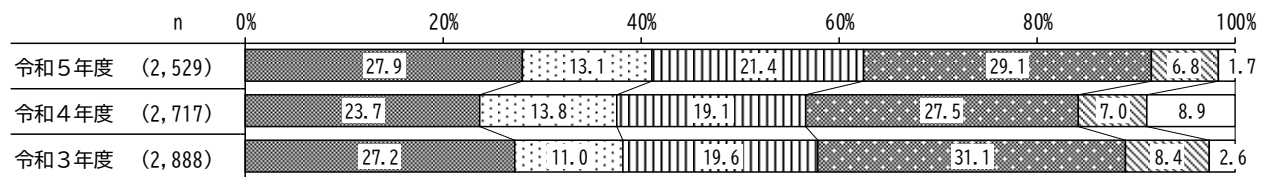
◇鉄道は「たまに利用している」が約3割、バスは「全く利用しない」が約4割、タクシーは「全く利用しない」が5割弱

問 16. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）を利用していますか。

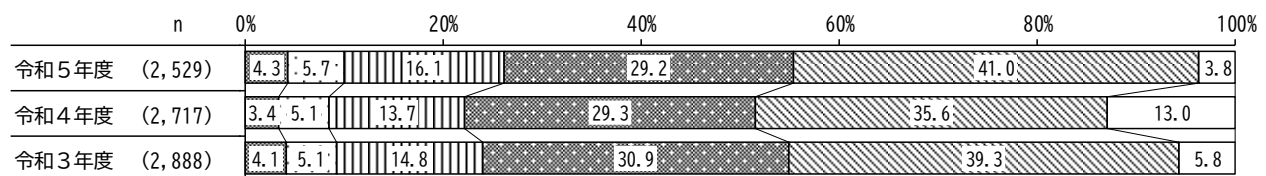
(それぞれ〇は1つつつ)

図表4-1-1 公共交通の利用状況

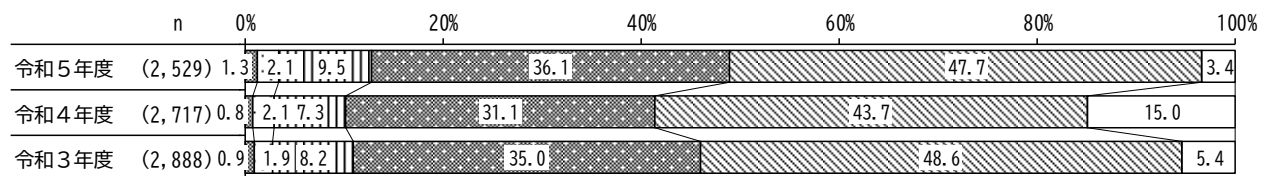
鉄道



バス



タクシー



常にご利用している
 よく利用している
 ときどき利用している
 たまに利用している
 全く利用しない
 無回答

鉄道の利用については、「たまに利用している」(29.1%)が最も多く、次いで「常にご利用している」(27.9%)、「ときどき利用している」(21.4%)、「よく利用している」(13.1%)、「全く利用しない」(6.8%)の順となっている。

バスの利用については、「全く利用しない」(41.0%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(29.2%)、「ときどき利用している」(16.1%)、「よく利用している」(5.7%)、「常にご利用している」(4.3%)の順となっている。

タクシーの利用については、「全く利用しない」(47.7%)が最も多く、次いで「たまに利用している」(36.1%)、「ときどき利用している」(9.5%)、「よく利用している」(2.1%)、「常にご利用している」(1.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、バスを「全く利用しない」は令和4年度(35.6%)と比べ5.4ポイント、タクシーを「たまに利用している」は令和4年度(31.1%)と比べ5.0ポイント増加した。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

第4章 調査結果の詳細

鉄道の利用について性別でみると、「常に利用している」は男性（32.6%）が女性（24.8%）を7.8ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」は男性18～29歳（72.5%）で7割強、女性18～29歳（63.7%）で6割強を占め、他の年齢に比べて多くなっている。また、男性30歳代（44.2%）、40歳代（47.4%）が4割台、50歳代（38.8%）も4割弱となる一方、女性は40歳代以上で3割未満と少なくなっている。

バスの利用について性別でみると、「常に利用している」「よく利用している」に大きな差はみられないが、「ときどき利用している」は女性（18.5%）、「全く利用しない」は男性（44.4%）が5ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「常に利用している」「よく利用している」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。「ときどき利用している」は女性70歳以上（20.1%）が最も多く、女性30歳代（19.5%）、40歳代（19.5%）も約2割となっている。一方、「全く利用しない」は男性50歳代（54.1%）が最も多く、男性18～29歳（52.5%）、30歳代（51.9%）も5割台となっている。

タクシーの利用について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「常に利用している」「よく利用している」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。一方、「全く利用しない」は女性70歳以上（33.3%）、男性60歳代（42.2%）、70歳以上（32.2%）を除き5割以上を占め、男性18～29歳（67.5%）、女性40歳代（60.5%）は6割台と多くなっている。

図表4-1-2 性・年齢別 公共交通の利用状況

(%)

	調査数（人）	鉄道						バス						タクシー					
		常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答	常に利用している	よく利用している	ときどき利用している	たまに利用している	全く利用しない	無回答
全体	2,529	27.9	13.1	21.4	29.1	6.8	1.7	4.3	5.7	16.1	29.2	41.0	3.8	1.3	2.1	9.5	36.1	47.7	3.4
女性全体	1,425	24.8	14.2	23.5	29.0	7.2	1.3	3.7	5.6	18.5	30.0	38.9	3.2	1.5	2.0	9.0	36.6	48.1	2.8
18～29歳	124	63.7	13.7	8.1	12.1	2.4	-	7.3	6.5	17.7	24.2	43.5	0.8	-	1.6	8.9	35.5	53.2	0.8
30～39歳	164	38.4	12.8	25.6	17.1	6.1	-	4.3	3.7	19.5	23.8	48.8	-	-	1.2	7.9	38.4	52.4	-
40～49歳	210	24.8	11.0	23.8	35.2	5.2	-	1.9	6.2	19.5	34.3	37.1	1.0	-	0.5	6.7	31.4	60.5	1.0
50～59歳	267	28.8	15.4	21.0	30.0	4.5	0.4	4.1	4.5	15.4	36.0	39.0	1.1	0.4	1.1	7.1	33.7	56.2	1.5
60～69歳	211	17.1	11.4	29.4	36.5	5.2	0.5	0.9	4.3	18.5	34.1	39.3	2.8	0.5	0.5	6.6	39.3	50.2	2.8
70歳以上	442	10.2	17.4	26.0	30.3	12.2	3.8	4.5	7.2	20.1	26.2	34.6	7.2	4.5	4.3	12.9	38.9	33.3	6.1
男性全体	1,051	32.6	12.0	18.6	28.9	6.4	1.5	4.9	5.5	13.1	28.2	44.4	3.9	0.9	2.2	10.0	35.5	47.8	3.7
18～29歳	80	72.5	11.3	10.0	2.5	3.8	-	6.3	3.8	12.5	23.8	52.5	1.3	1.3	2.5	5.0	22.5	67.5	1.3
30～39歳	104	44.2	15.4	10.6	23.1	6.7	-	8.7	1.0	10.6	26.0	51.9	1.9	1.0	1.9	7.7	30.8	56.7	1.9
40～49歳	171	47.4	9.4	15.8	23.4	3.5	0.6	4.1	1.8	13.5	33.9	45.0	1.8	0.6	1.8	8.8	30.4	56.7	1.8
50～59歳	183	38.8	8.2	14.2	33.3	5.5	-	4.4	5.5	9.3	24.6	54.1	2.2	-	1.1	5.5	30.1	59.6	3.8
60～69歳	185	27.6	14.1	16.8	33.0	7.0	1.6	6.5	7.6	10.3	28.6	42.7	4.3	-	1.1	11.9	42.2	42.2	2.7
70歳以上	326	11.0	13.2	27.9	35.6	8.6	3.7	3.1	8.3	17.8	28.5	35.6	6.7	1.8	3.7	14.1	42.0	32.2	6.1

(2) 公共交通の満足度

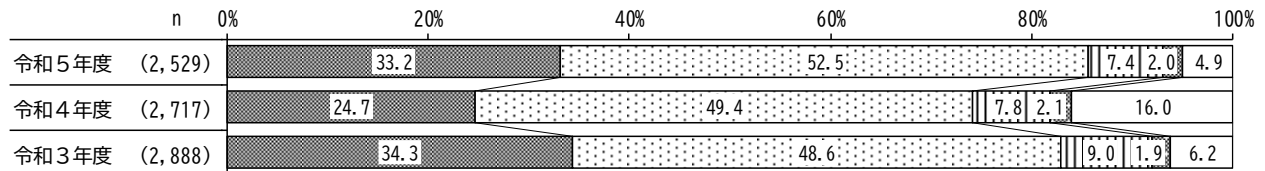
◇『満足』は鉄道が8割半ば、バスが5割強、タクシーが5割半ば

問 17. あなたは、公共交通（鉄道・バス・タクシー）にどの程度満足していますか。

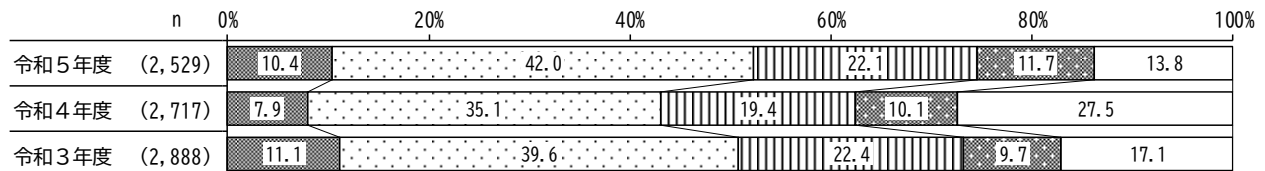
(それぞれ〇は1つつつ)

図表4-2-1 公共交通の満足度

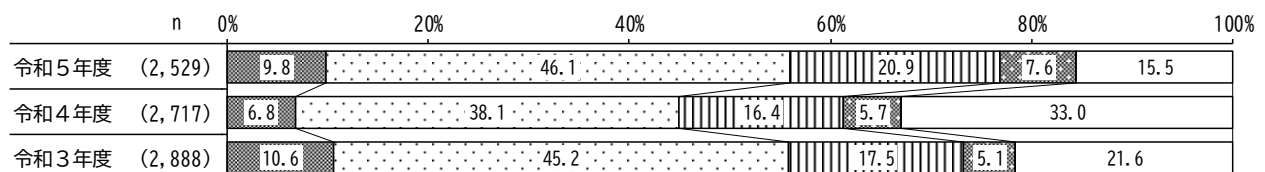
鉄道



バス



タクシー



とても満足している
 やや満足している
 やや不満である
 とても不満である
 無回答

鉄道の満足度については、「とても満足している」(33.2%)と「やや満足している」(52.5%)を合わせた『満足』(85.7%)は8割半ばとなっている。

バスの満足度については、「とても満足している」(10.4%)と「やや満足している」(42.0%)を合わせた『満足』(52.4%)は5割強となっている。

タクシーの満足度については、「とても満足している」(9.8%)と「やや満足している」(46.1%)を合わせた『満足』(56.0%)は5割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、『満足』はいずれも令和4年度を上回り、鉄道(令和4年度74.1%)は11.6ポイント、バス(令和4年度43.0%)は9.4ポイント、タクシー(令和4年度44.9%)は11.1ポイント増加した。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

鉄道の満足度について性別でみると、『満足』（女性 86.0%、男性 85.8%）は男女とも8割半ば、「やや不満である」「とても不満である」を合わせた『不満』（女性 9.0%、男性 10.1%）は約1割で、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は男女ともすべての年齢で8割台となっている。「とても満足している」は女性40歳代（38.6%）が最も多くなっている。

バスの満足度について性別でみると、『満足』（女性 50.5%、男性 55.1%）、『不満』（女性 34.9%、男性 32.4%）とも、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は女性18～29歳（71.0%）が約7割で、全体を18.6ポイント上回っている。男性40歳代以下（61.3%、61.5%、62.6%）も『満足』が6割台となっている。一方、『不満』は男性60歳代（41.1%）が最も多く、女性40歳代（39.5%）、50歳代（40.4%）も約4割を占めている。

タクシーの満足度について性別でみると、『満足』（女性 56.4%、男性 56.3%）、『不満』（女性 27.0%、男性 30.1%）とも、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は18～29歳が女性（66.9%）、男性（65.0%）とも最も多く、女性30歳代（62.2%）、40歳代（62.9%）、男性40歳代（62.0%）も6割台となっている。一方、女性50歳代（49.4%）、60歳代（46.4%）は『満足』が5割未満となっている。また、『不満』は女性50歳代（36.3%）が最も多く、男性30歳代（34.6%）、50歳代（34.4%）も3割半ばとなっている。

図表4-2-2 性・年齢別 公共交通の満足度

(%)

	調査数 (人)	鉄道					バス					タクシー				
		とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答	とても満足している	やや満足している	やや不満である	とても不満である	無回答
全体	2,529	33.2	52.5	7.4	2.0	4.9	10.4	42.0	22.1	11.7	13.8	9.8	46.1	20.9	7.6	15.5
女性全体	1,425	34.0	51.9	6.7	2.3	5.1	10.2	40.4	23.4	11.5	14.5	10.6	45.8	20.1	6.9	16.6
18～29歳	124	36.3	50.8	12.1	0.8	-	16.9	54.0	17.7	5.6	5.6	18.5	48.4	21.8	4.0	7.3
30～39歳	164	28.7	57.3	11.0	1.8	1.2	9.8	42.7	27.4	11.0	9.1	11.0	51.2	23.2	7.9	6.7
40～49歳	210	38.6	50.0	6.2	4.3	1.0	8.6	46.7	29.5	10.0	5.2	10.5	52.4	19.5	7.1	10.5
50～59歳	267	32.6	56.2	7.5	1.9	1.9	10.5	37.5	27.3	13.1	11.6	8.2	41.2	26.2	10.1	14.2
60～69歳	211	35.1	52.6	6.6	1.4	4.3	6.6	37.0	27.0	10.9	18.5	7.1	39.3	19.9	10.4	23.2
70歳以上	442	33.9	48.2	3.2	2.7	12.0	10.9	36.2	16.3	13.6	23.1	11.5	46.2	14.7	3.8	23.8
男性全体	1,051	32.5	53.3	8.5	1.6	4.1	10.6	44.5	20.7	11.6	12.6	9.0	47.3	22.1	8.0	13.6
18～29歳	80	35.0	48.8	13.8	1.3	1.3	17.5	43.8	20.0	8.8	10.0	13.8	51.3	17.5	7.5	10.0
30～39歳	104	31.7	51.9	14.4	-	1.9	9.6	51.9	18.3	12.5	7.7	14.4	44.2	25.0	9.6	6.7
40～49歳	171	31.6	53.8	11.7	2.3	0.6	9.9	52.6	21.1	11.7	4.7	9.9	52.0	23.4	9.4	5.3
50～59歳	183	37.7	47.0	10.9	2.2	2.2	9.8	44.3	21.9	12.6	11.5	7.7	43.7	25.1	9.3	14.2
60～69歳	185	29.2	57.8	5.9	3.8	3.2	9.2	39.5	23.8	17.3	10.3	9.2	46.5	23.2	8.6	12.4
70歳以上	326	31.9	55.2	3.7	0.3	8.9	10.4	41.4	19.3	8.3	20.6	6.4	47.2	19.3	5.8	21.2

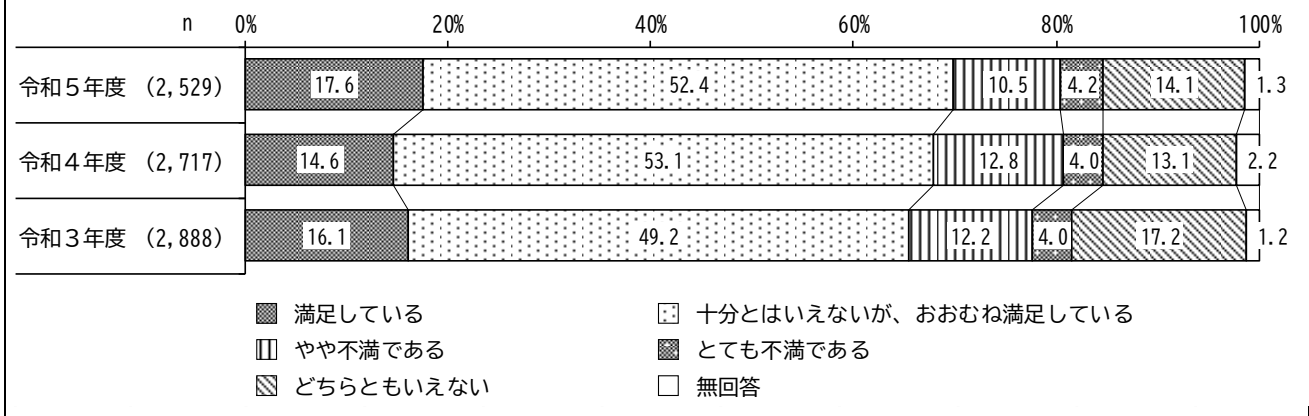
5. 景観（風景）について

(1) 景観（風景）の満足度

◇『満足』が約7割

問 18. あなたは、お住まいの地区の景観（風景）に満足していますか。(○は1つ)

図表5-1-1 景観（風景）の満足度



住まいの地区の景観（風景）については、「満足している」（17.6%）と「十分とはいえないが、おおむね満足している」（52.4%）を合わせた『満足』（69.9%）は約7割、「やや不満である」（10.5%）と「とても不満である」（4.2%）を合わせた『不満』（14.7%）は1割半ばとなっている。

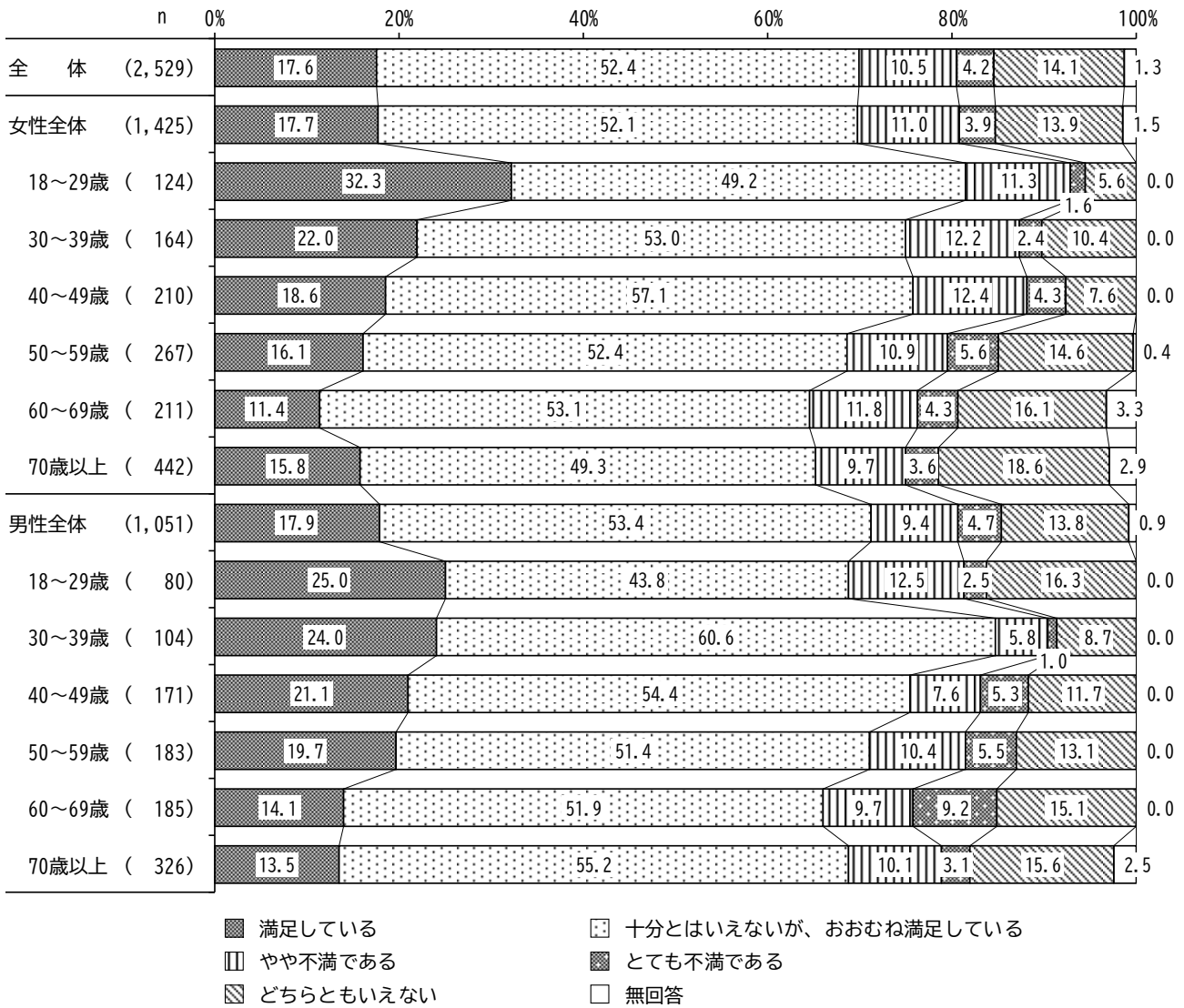
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『満足』は男女ともすべての年齢で6割以上となっており、男性30歳代(84.6%)は8割半ば、女性18~29歳(81.5%)は約8割となっている。一方、『不満』は男性30歳代(6.7%)を除き1割台となっている。

図表5-1-2 性・年齢別 景観(風景)の満足度



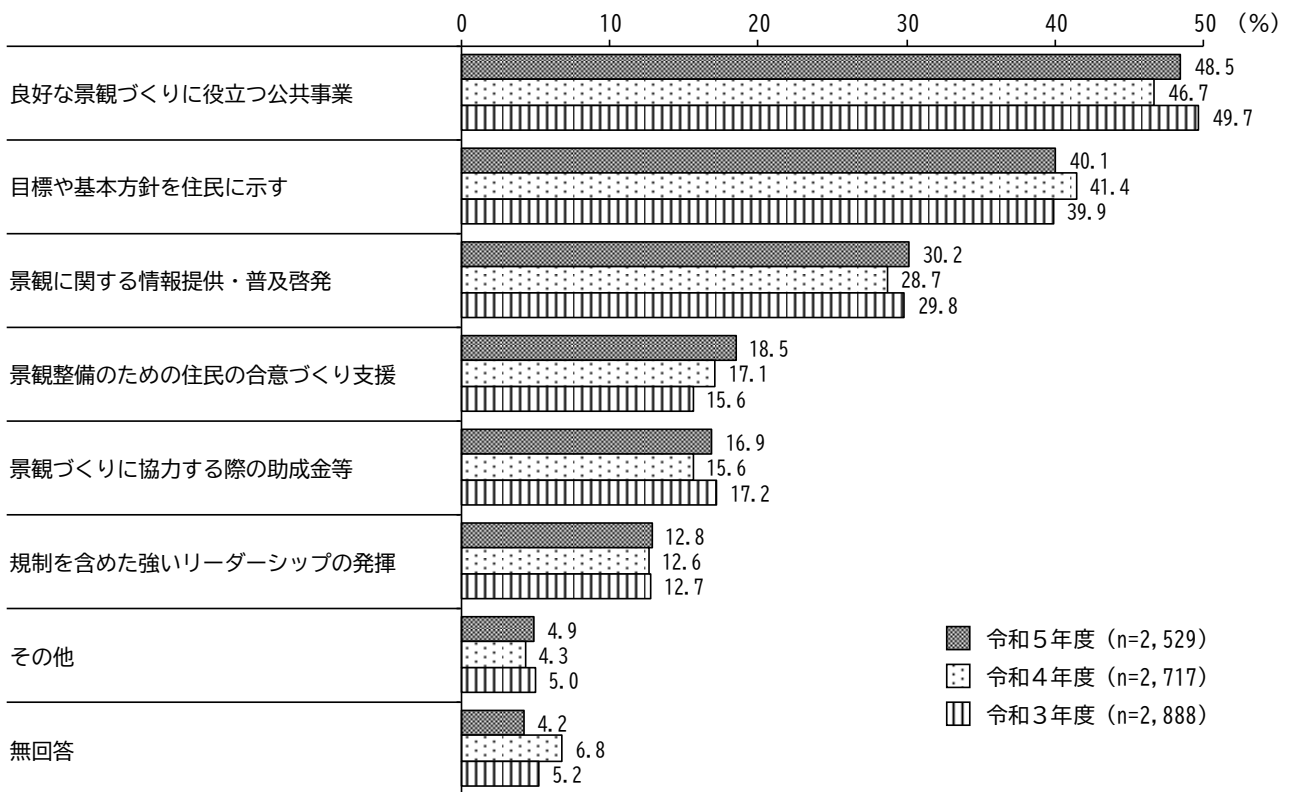
(2) 行政に望むこと

◇「良好な景観づくりに役立つ公共事業」が最も多く、5割弱

問 19. あなたは、良い景観（風景）のまちをつくるために行政に何を望みますか。

(○は3つまで)

図表5-2-1 行政に望むこと



良い景観(風景)のまちをつくるため、行政に望むことは、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」(48.5%)が最も多く、次いで「目標や基本方針を住民に示す」(40.1%)、「景観に関する情報提供・普及啓発」(30.2%)、「景観整備のための住民の合意づくり支援」(18.5%)、「景観づくりに協力する際の助成金等」(16.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性（17.1%）が女性（9.9%）を7.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「良好な景観づくりに役立つ公共事業」は女性40歳代（61.0%）で約6割を占め、女性18～29歳（54.0%）、30歳代（51.8%）、50歳代（55.1%）、男性18～29歳（53.8%）、30歳代（53.8%）も5割台と多くなっている。一方、女性70歳以上（43.4%）、男性50歳代（41.0%）は約4割～4割強で、「目標や基本方針を住民に示す」より少なくなっている。また、「景観に関する情報提供・普及啓発」は女性18～29歳（38.7%）、60歳代（36.0%）、「景観整備のための住民の合意づくり支援」は男性70歳以上（24.8%）、「景観づくりに協力する際の助成金等」は女性18～29歳（23.4%）、男性18～29歳（22.5%）、「規制を含めた強いリーダーシップの発揮」は男性40歳代～60歳代（20.5%、19.1%、18.4%）で、他の年齢に比べ多くなっている。

図表5-2-2 性・年齢別 行政に望むこと

	調査数（人）	良好な景観づくりに役立つ公共事業	目標や基本方針を住民に示す	啓発 景観に関する情報提供・普及	景観整備のための住民の合意づくり支援	景観づくりに協力する際の助成金等	規制を含めた強いリーダーシップの発揮	その他	無回答
全体	2,529	48.5	40.1	30.2	18.5	16.9	12.8	4.9	4.2
女性全体	1,425	51.0	40.1	30.7	17.7	16.3	9.9	4.5	4.4
18～29歳	124	54.0	30.6	38.7	17.7	23.4	7.3	5.6	1.6
30～39歳	164	51.8	37.8	33.5	12.2	19.5	15.2	5.5	-
40～49歳	210	61.0	39.0	25.2	18.6	17.6	11.4	4.3	1.0
50～59歳	267	55.1	38.2	34.5	17.2	19.5	10.9	4.5	1.5
60～69歳	211	48.8	43.6	36.0	12.8	13.7	6.6	3.8	3.8
70歳以上	442	43.4	44.1	25.6	21.9	11.5	9.0	4.3	10.6
男性全体	1,051	46.1	40.3	29.6	19.1	17.8	17.1	5.4	3.4
18～29歳	80	53.8	27.5	26.3	16.3	22.5	13.8	6.3	2.5
30～39歳	104	53.8	30.8	27.9	18.3	21.2	14.4	9.6	1.0
40～49歳	171	46.2	40.4	26.9	22.2	21.6	20.5	8.8	0.6
50～59歳	183	41.0	41.5	30.1	13.1	19.1	19.1	6.0	2.2
60～69歳	185	47.0	44.9	34.1	14.1	14.1	18.4	3.2	2.2
70歳以上	326	43.9	43.6	29.4	24.8	15.0	15.3	3.1	7.1

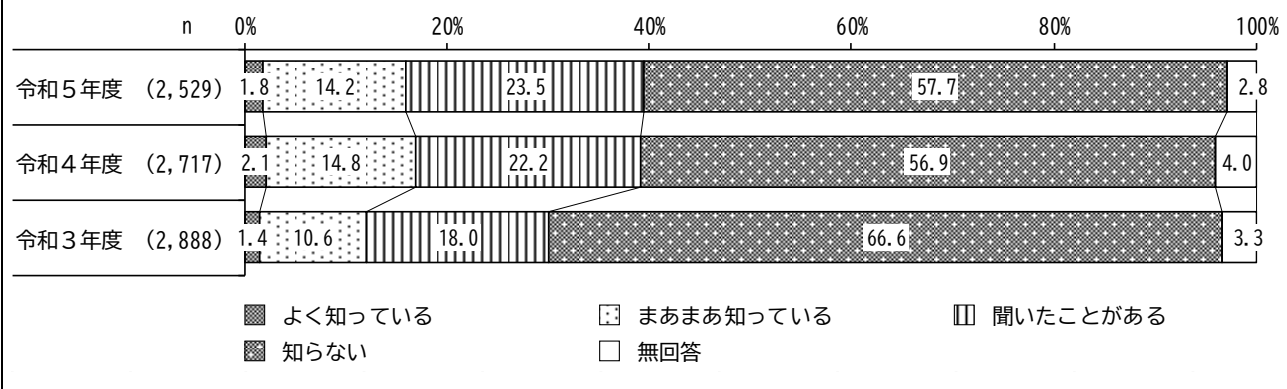
6. 参加と協働のまちづくりについて

(1) 「参加と協働のまちづくり」の認知度

◇『知っている』は1割半ば

問 20. 越谷市では、市民の市政への参加が可能となるような機会の充実や、地域コミュニティ組織との協働に取り組んでいます。あなたは、越谷市がこのような「参加と協働のまちづくり」をすすめていることを知っていますか。(〇は1つ)

図表6-1-1 「参加と協働のまちづくり」の認知度



「参加と協働のまちづくり」の認知度については、「よく知っている」(1.8%)と「まあまあ知っている」(14.2%)を合わせた『知っている』(16.0%)が1割半ば、「聞いたことがある」(23.5%)が2割強、「知らない」(57.7%)が6割弱となっている。

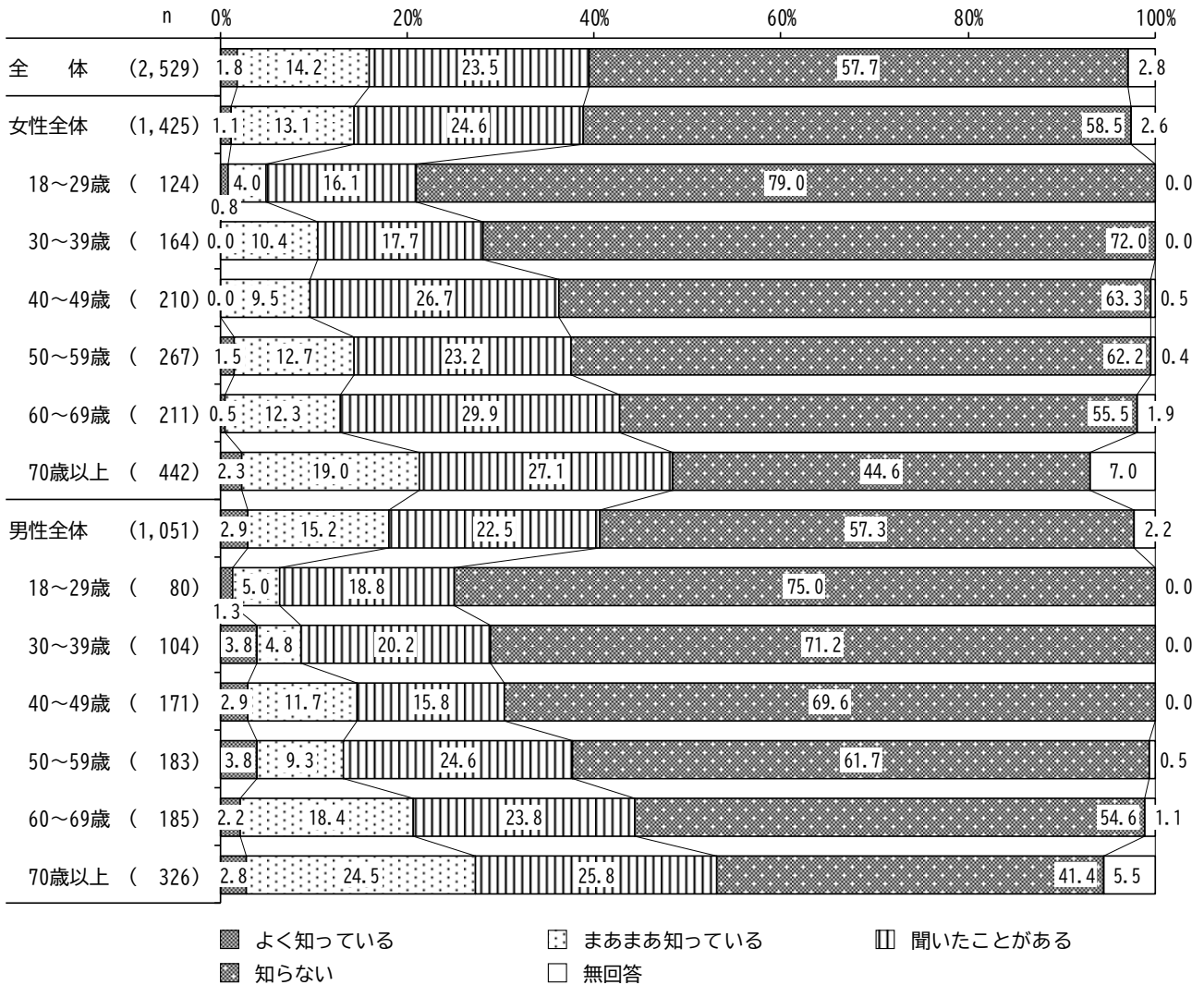
過去2回の調査と比較すると、令和4年度と概ね同様の傾向となっているが、令和3年度と比べ「聞いたことがある」(令和3年度18.0%)は5.5ポイント増加し、「知らない」(令和3年度66.6%)は8.9ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『知っている』は男性70歳以上(27.3%)が3割弱で最も多く、女性70歳以上(21.3%)、男性60歳代(20.5%)も2割台となっている。一方、「知らない」は男女とも70歳以上を除き5割以上を占め、女性18~29歳(79.0%)は約8割、女性30歳代(72.0%)、男性18~29歳(75.0%)、30歳代(71.2%)は7割台と若年層で多くなっている。

図表6-1-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」の認知度

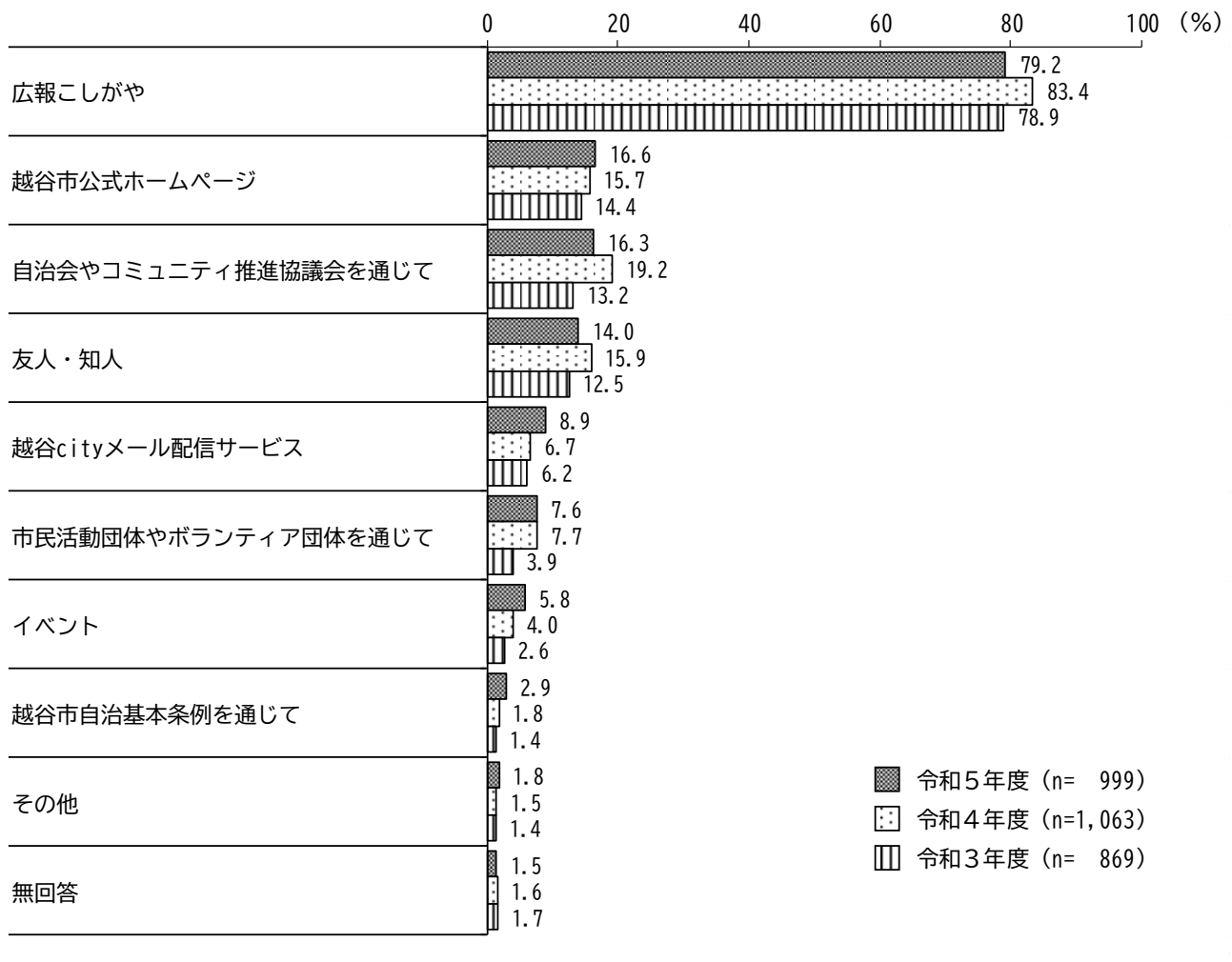


(2) 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、約8割

問 20-2. 問 20 で「1」から「3」(知っている・聞いたことがある)と答えた方に伺います。
越谷市が「参加と協働のまちづくり」をすすめていることをどのようにして知り
(聞き)ましたか。(〇はいくつでも)

図表6-2-1 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ



「参加と協働のまちづくり」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した999人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(79.2%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(16.6%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(16.3%)、「友人・知人」(14.0%)、「越谷cityメール配信サービス」(8.9%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、「越谷市公式ホームページ」（男性 21.1%、女性 13.4%）は 7.7 ポイント、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」（男性 19.0%、女性 13.9%）は 5.1 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は男女とも 30 歳代以上で 6 割以上を占め、女性 60 歳代（88.9%）は 9 割弱、女性 70 歳以上（85.0%）、男性 60 歳代（82.9%）、70 歳以上（83.8%）は 8 割台と多くなっている。また、「越谷市公式ホームページ」は男性 40 歳代（30.8%）、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」は男性 70 歳以上（26.6%）、「越谷 city メール配信サービス」は女性 40 歳代（23.7%）で、全体を 10 ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 6-2-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」を知ったきっかけ

	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	越谷 city メール配信サービス	市民活動団体やボランティア団体を通じて	イベント	越谷市自治基本条例を通じて	その他	無回答
全体	999	79.2	16.6	16.3	14.0	8.9	7.6	5.8	2.9	1.8	1.5
女性全体	554	80.0	13.4	13.9	13.9	10.8	7.0	6.3	2.3	1.3	1.4
18～29歳	26	46.2	26.9	-	23.1	7.7	-	7.7	7.7	7.7	-
30～39歳	46	73.9	17.4	10.9	15.2	17.4	4.3	6.5	2.2	-	-
40～49歳	76	76.3	11.8	9.2	1.3	23.7	5.3	6.6	-	2.6	-
50～59歳	100	76.0	20.0	12.0	11.0	15.0	5.0	5.0	2.0	-	-
60～69歳	90	88.9	12.2	13.3	13.3	14.4	6.7	6.7	1.1	1.1	2.2
70歳以上	214	85.0	8.9	18.7	18.7	1.9	10.3	6.5	3.3	0.9	2.8
男性全体	426	78.4	21.1	19.0	13.8	6.8	8.2	4.7	3.8	2.6	1.6
18～29歳	20	45.0	25.0	10.0	30.0	-	5.0	-	-	5.0	-
30～39歳	30	66.7	23.3	6.7	10.0	10.0	3.3	6.7	3.3	3.3	3.3
40～49歳	52	76.9	30.8	15.4	15.4	11.5	3.8	5.8	5.8	-	-
50～59歳	69	75.4	17.4	20.3	7.2	8.7	5.8	2.9	1.4	2.9	1.4
60～69歳	82	82.9	24.4	11.0	11.0	4.9	6.1	2.4	3.7	3.7	2.4
70歳以上	173	83.8	17.3	26.6	16.2	5.8	12.7	6.4	4.6	2.3	1.7

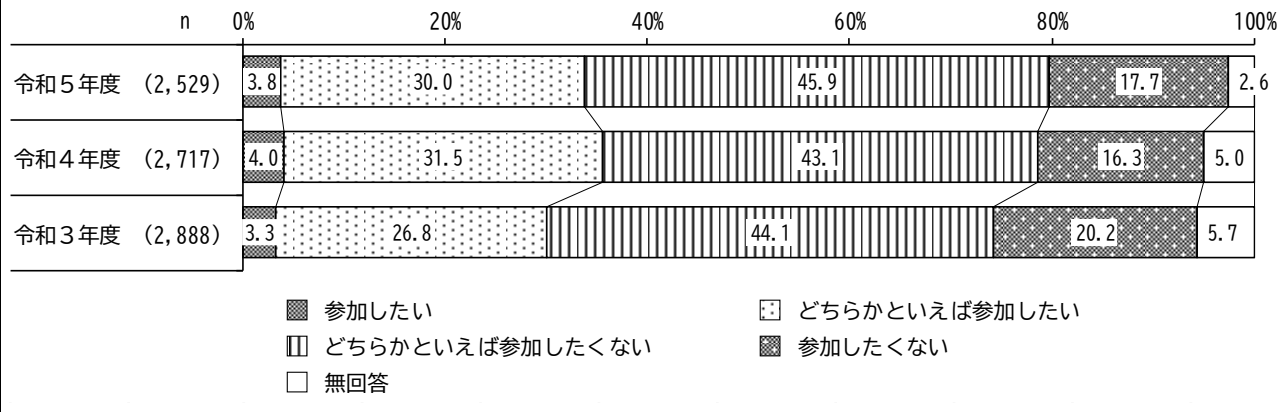
(3) 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

◇『参加したい』は3割強

問 21. 皆さんに伺います。 あなたはこのようなまちづくりに参加したいと思えますか。

(○は1つ)

図表6-3-1 「参加と協働のまちづくり」への参加意向



「参加と協働のまちづくり」への参加意向については、「参加したい」(3.8%)と「どちらかといえば参加したい」(30.0%)を合わせた『参加したい』(33.8%)は3割強となっている。一方、「どちらかといえば参加したくない」(45.9%)と「参加したくない」(17.7%)を合わせた『参加したくない』(63.7%)は6割強となっている。

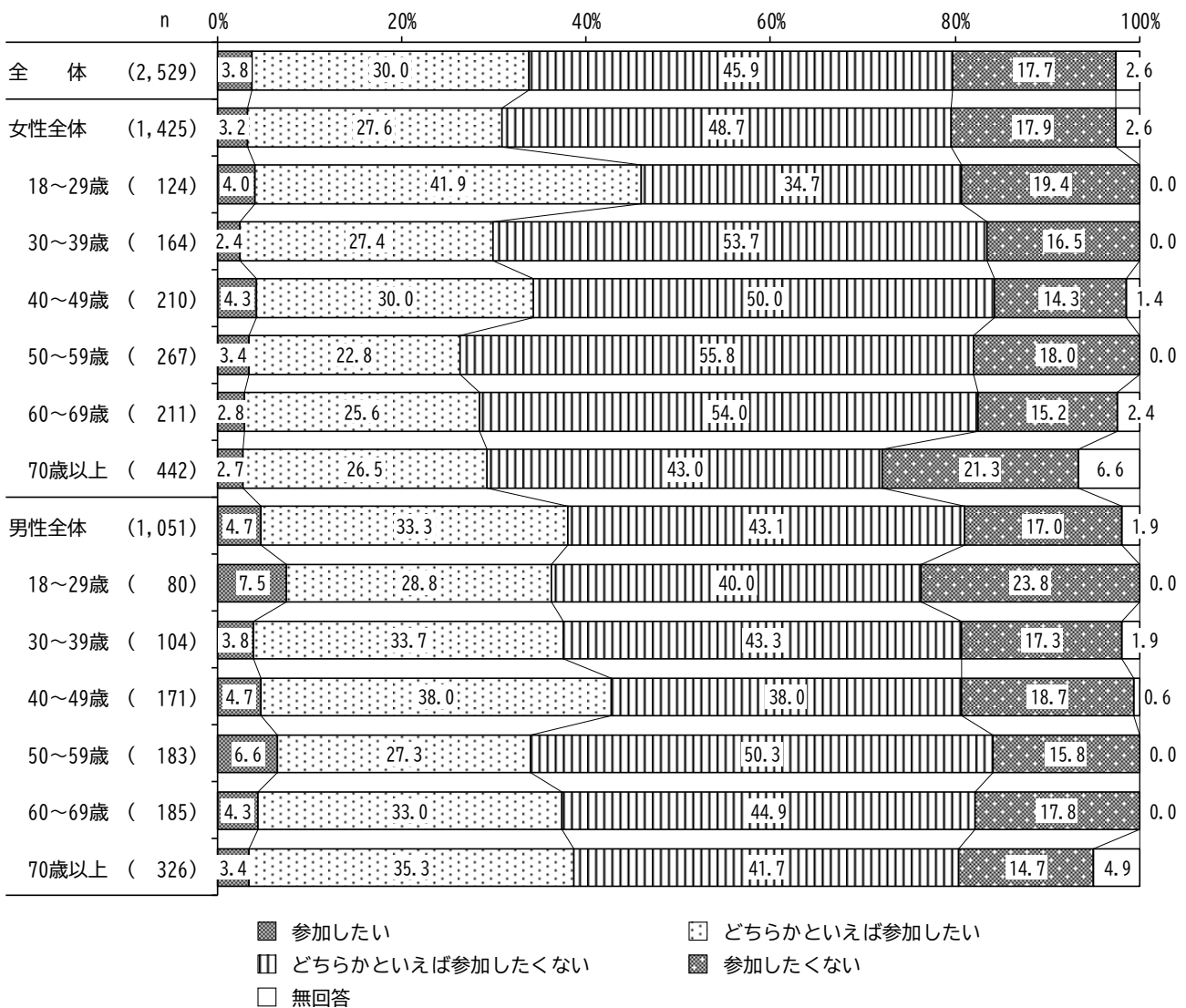
過去2回の調査と比較すると、『参加したくない』は令和4年度(59.4%)と比べ4.3ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『参加したい』は男性（38.0%）が女性（30.8%）を7.2ポイント上回っている。一方、『参加したくない』は女性（66.6%）が男性（60.1%）を6.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『参加したい』は女性18～29歳（46.0%）が4割半ばで最も多く、男性40歳代（42.7%）も4割強となっている。一方、女性50歳代（26.2%）、60歳代（28.4%）、70歳以上（29.2%）は2割台となっている。また、『参加したくない』は女性50歳代（73.8%）が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上を占めている。

図表6-3-2 性・年齢別 「参加と協働のまちづくり」への参加意向

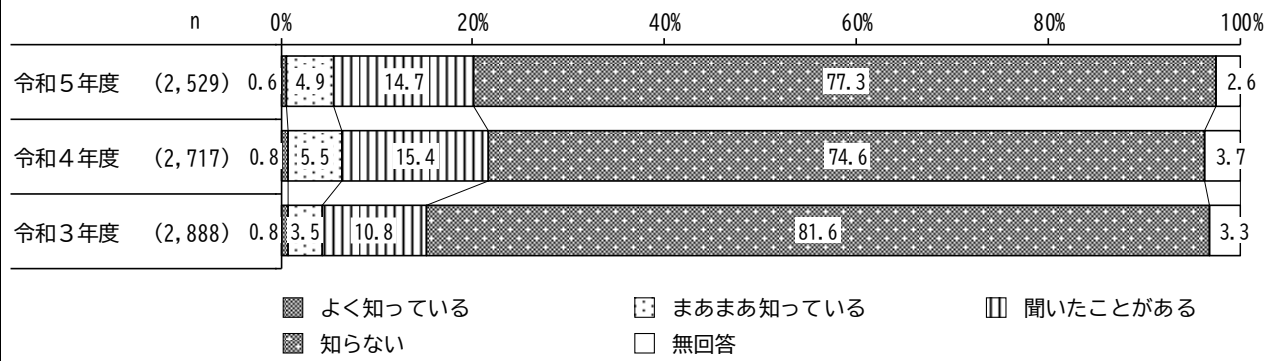


(4) 「越谷市自治基本条例」の認知度

◇『知っている』は1割未満

問 22. 皆さんに伺います。あなたは参加と協働のまちづくりに必要なルールなどが書かれている、「越谷市自治基本条例」を知っていますか。(○は1つ)

図表6-4-1 「越谷市自治基本条例」の認知度



「越谷市自治基本条例」の認知度については、「よく知っている」(0.6%)と「まあまあ知っている」(4.9%)を合わせた『知っている』(5.5%)は1割未満となっている。一方、「聞いたことがある」(14.7%)は1割半ば、「知らない」(77.3%)は8割弱となっている。

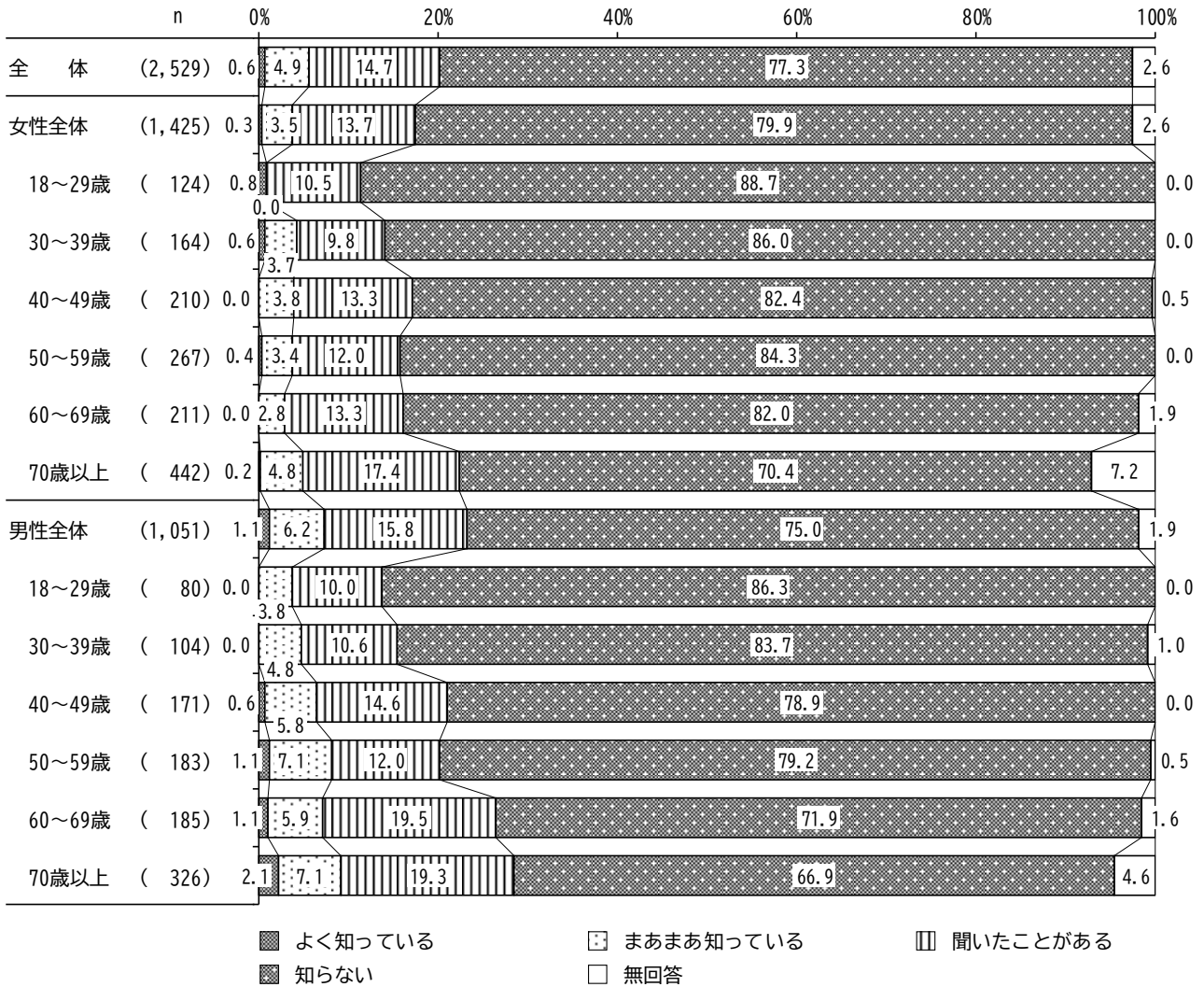
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『知っている』は男性70歳以上(9.2%)が最も多くなっているが、男女ともすべての年齢で1割未満となっている。また、「聞いたことがある」は女性30歳代(9.8%)を除き1割台となっている。一方、「知らない」は女性18~29歳(88.7%)が9割弱で最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上を占めている。

図表6-4-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の認知度

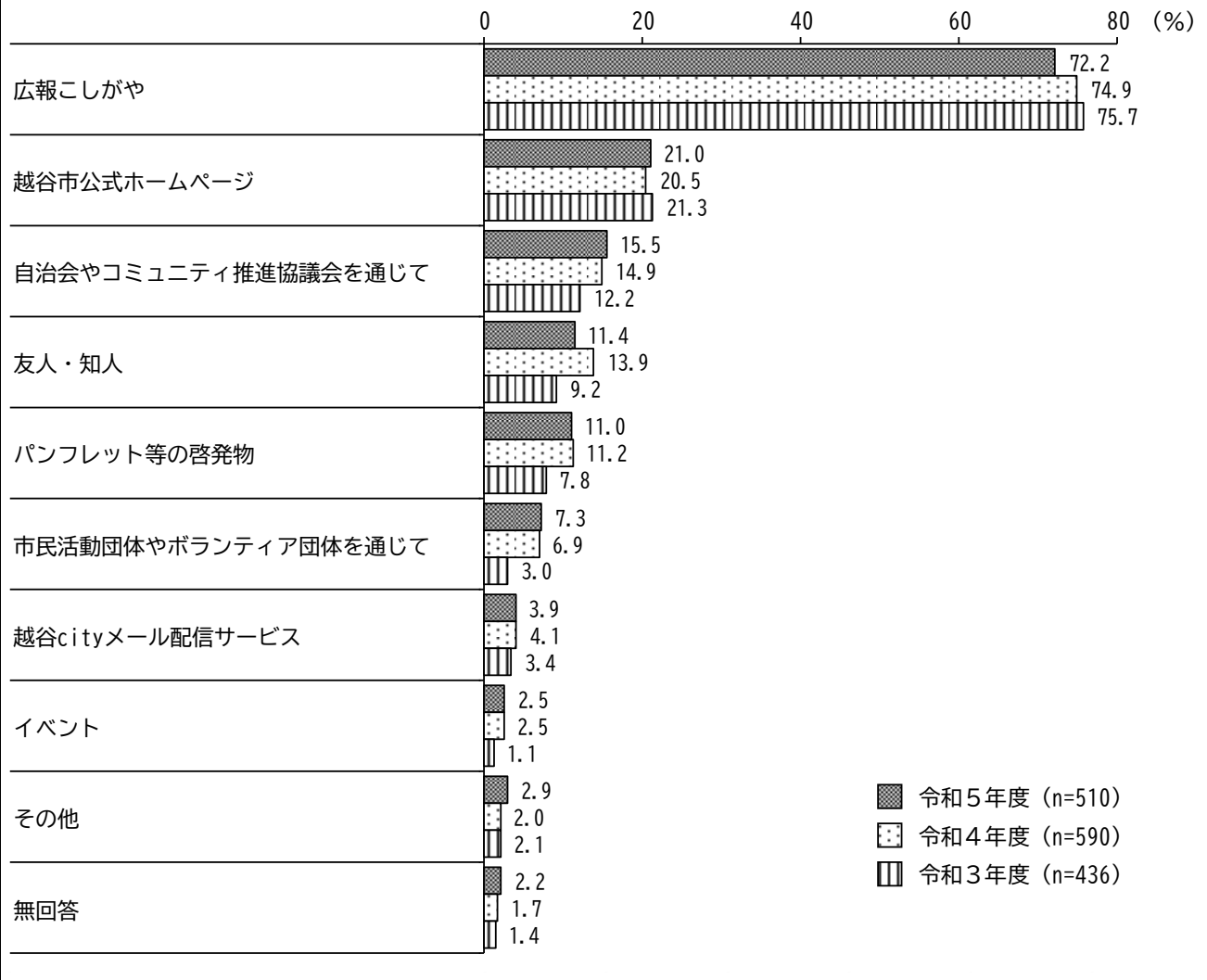


(5) 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

◇「広報こしがや」が最も多く、7割強

問 22-2. 問 22 で「1」から「3」(知っている・聞いたことがある)と答えた方に伺います。
「越谷市自治基本条例」のことをどのようにして知り(聞き)ましたか。(〇はいくつでも)

図表6-5-1 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ



「越谷市自治基本条例」を「知っている」または「聞いたことがある」と回答した 510 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「広報こしがや」(72.2%)が最も多く、次いで「越谷市公式ホームページ」(21.0%)、「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」(15.5%)、「友人・知人」(11.4%)、「パンフレット等の啓発物」(11.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっており、「広報こしがや」がやや減少しつつも突出する傾向が続いている。

性別で見ると、「越谷市公式ホームページ」は男性（25.5%）が女性（17.3%）を8.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「広報こしがや」は女性60歳代（82.4%）で8割強を占め、女性50歳代（78.6%）、70歳以上（79.8%）、男性40歳代（72.2%）、70歳以上（78.5%）も7割台と多くなっている。「越谷市公式ホームページ」は男女とも40歳代～60歳代で2割以上を占め、男性60歳代（32.7%）は3割強となっている。また、男性70歳以上は「自治会やコミュニティ推進協議会を通じて」（28.0%）、「パンフレット等の啓発物」（18.3%）、「市民活動団体やボランティア団体を通じて」（12.9%）などが多い一方、女性70歳以上は「友人・知人」（20.2%）が全体を8.8ポイント上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表6-5-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」を知ったきっかけ

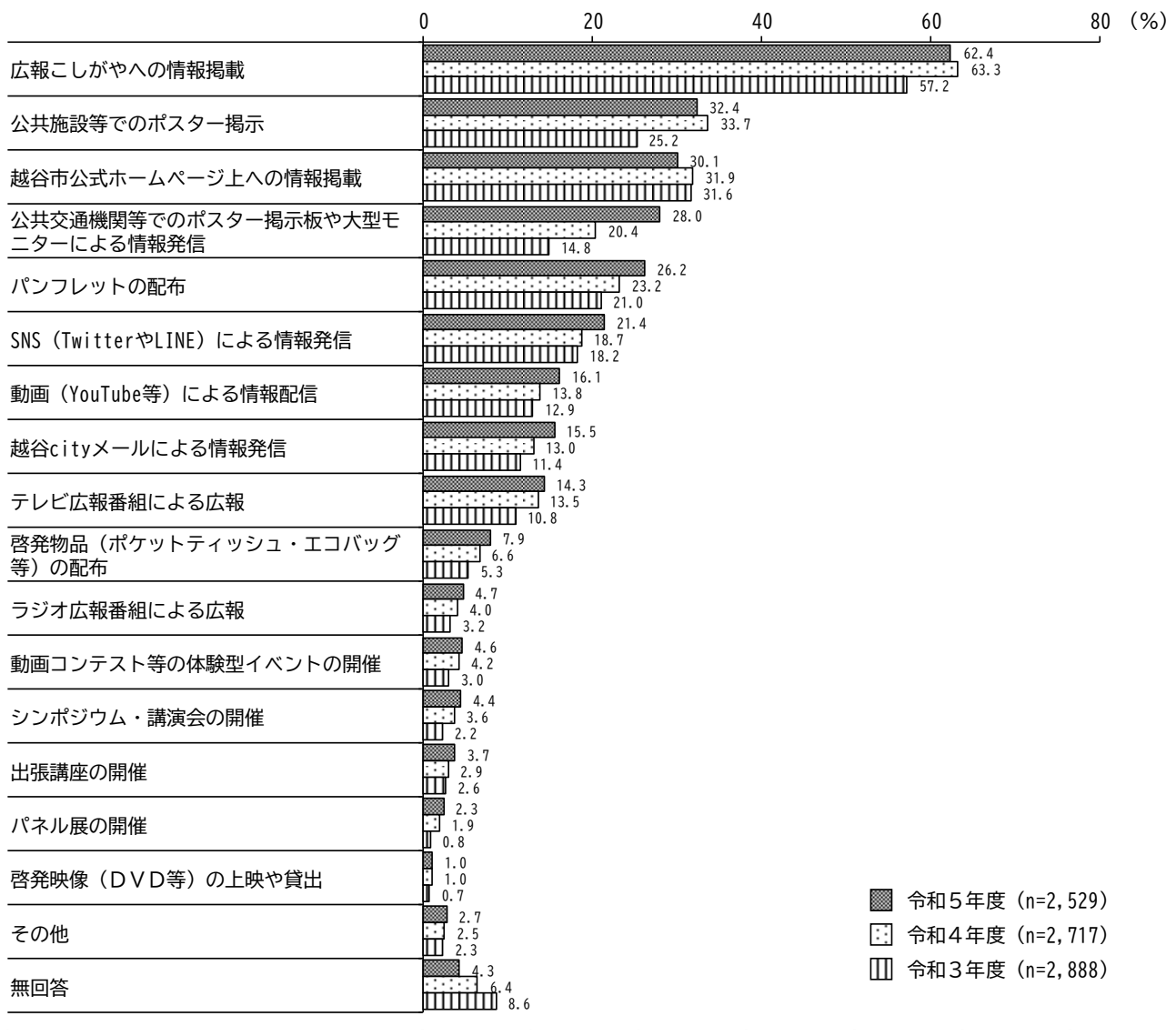
	調査数（人）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	自治会やコミュニティ推進協議会を通じて	友人・知人	パンフレット等の啓発物	市民活動団体やボランティア団体を通じて	越谷cityメール配信サービス	イベント	その他	無回答
全体	510	72.2	21.0	15.5	11.4	11.0	7.3	3.9	2.5	2.9	2.2
女性全体	249	72.7	17.3	12.9	14.1	8.0	6.4	5.2	2.8	1.6	2.0
18～29歳	14	21.4	50.0	-	21.4	21.4	-	7.1	-	7.1	-
30～39歳	23	56.5	21.7	13.0	13.0	4.3	8.7	8.7	4.3	4.3	-
40～49歳	36	66.7	25.0	11.1	8.3	8.3	5.6	5.6	11.1	-	-
50～59歳	42	78.6	23.8	7.1	4.8	-	7.1	11.9	-	2.4	2.4
60～69歳	34	82.4	26.5	17.6	11.8	8.8	8.8	8.8	2.9	-	2.9
70歳以上	99	79.8	3.0	16.2	20.2	10.1	6.1	-	1.0	1.0	3.0
男性全体	243	70.4	25.5	18.1	8.2	13.6	7.8	2.9	2.5	4.5	2.5
18～29歳	11	45.5	45.5	-	36.4	9.1	-	-	-	-	9.1
30～39歳	16	62.5	31.3	-	-	6.3	-	-	6.3	18.8	-
40～49歳	36	72.2	25.0	13.9	5.6	13.9	-	8.3	2.8	8.3	2.8
50～59歳	37	59.5	24.3	18.9	8.1	2.7	5.4	-	-	5.4	2.7
60～69歳	49	69.4	32.7	10.2	2.0	14.3	8.2	2.0	-	4.1	2.0
70歳以上	93	78.5	18.3	28.0	9.7	18.3	12.9	2.2	3.2	1.1	2.2

(6) 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

◇「広報こしがやへの情報掲載」が最も多く、6割強

問 23. 皆さんに伺います。「参加と協働のまちづくり」を推進するために「越谷市自治基本条例」の普及・啓発を行っていますが、普及・啓発方法としてどのような方法が効果的だと思いますか。(〇はいくつでも)

図表6-6-1 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法



「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法については、「広報こしがやへの情報掲載」(62.4%)が最も多く、次いで「公共施設等でのポスター掲示」(32.4%)、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」(30.1%)、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」(28.0%)、「パンフレットの配布」(26.2%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「公共交通機関等でのポスター掲示板や大型モニターによる情報発信」は令和4年度(20.4%)と比べ7.6ポイント、令和3年度(14.8%)と比べ13.2ポイント、調査ごとに増加している。

性別でみると、「越谷市公式ホームページ上への情報掲載」は男性（33.9%）が女性（27.9%）を6.0ポイント上回っている。一方、「公共施設等でのポスター掲示」（女性35.6%、男性28.6%）、「越谷cityメールによる情報発信」（女性18.2%、男性12.0%）、「広報こしがやへの情報掲載」（女性64.8%、男性59.6%）は女性が男性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「広報こしがやへの情報掲載」は女性40歳代以上、男性50歳代以上で5割以上を占めている。「広報こしがやへの情報掲載」は年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性70歳代（79.4%）は約8割、女性60歳代（73.0%）、男性70歳以上（76.7%）は7割台となっている。一方、「SNS（TwitterやLINE）による情報発信」「動画（YouTube等）による情報配信」は若年層で多くなる傾向にあり、「SNS（TwitterやLINE）による情報発信」は女性18～29歳（52.4%）で5割強、女性30歳代（47.6%）、男性18～29歳（45.0%）、30歳代（48.1%）で4割台となっている。また、「越谷cityメールによる情報発信」は女性40歳代（44.8%）で4割半ばを占め、他の年齢に比べ多くなっている。

図表6-6-2 性・年齢別 「越谷市自治基本条例」の普及・啓発方法

	調査数（人）	広報こしがやへの情報掲載	公共施設等でのポスター掲示	越谷市公式ホームページ上への情報掲載	公共交通機関等でのポスター掲示や大型モニターによる情報発信	パンフレットの配布	SNS（TwitterやLINE）による情報発信	動画（YouTube等）による情報配信	越谷cityメールによる情報発信	テレビ広報番組による広報	啓発物品（ポケットティッシュ・エコバッグ等）の配布	ラジオ広報番組による広報	動画コンテスト等の体験型イベントの開催	シンポジウム・講演会の開催	出張講座の開催	パネル展の開催	啓発映像（DVD等）の上映や貸出	その他	無回答
全体	2,529	62.4	32.4	30.1	28.0	26.2	21.4	16.1	15.5	14.3	7.9	4.7	4.6	4.4	3.7	2.3	1.0	2.7	4.3
女性全体	1,425	64.8	35.6	27.9	28.9	25.0	21.4	14.2	18.2	13.3	8.4	4.1	4.8	3.1	3.1	2.0	0.6	2.3	3.9
18～29歳	124	32.3	43.5	32.3	35.5	22.6	52.4	28.2	20.2	18.5	12.9	6.5	4.0	1.6	2.4	6.5	0.8	0.8	-
30～39歳	164	45.1	44.5	33.5	34.8	17.1	47.6	28.7	20.7	10.4	8.5	3.0	8.5	0.6	1.8	3.0	0.6	1.8	0.6
40～49歳	210	58.6	40.0	31.0	39.5	25.2	31.0	19.0	44.8	9.5	11.9	6.2	9.0	2.4	1.4	2.4	1.4	1.9	0.5
50～59歳	267	65.9	40.4	43.8	34.5	21.3	17.6	13.5	21.7	13.9	10.1	5.6	6.0	3.7	3.4	1.1	-	3.4	2.6
60～69歳	211	73.0	33.6	26.5	29.4	28.4	15.6	12.8	14.2	13.7	9.0	3.3	6.2	3.8	1.4	0.9	1.4	1.9	2.8
70歳以上	442	79.4	26.0	14.3	16.5	28.7	3.4	3.6	3.8	14.3	4.1	2.3	0.5	4.1	5.2	1.1	0.2	2.7	9.0
男性全体	1,051	59.6	28.6	33.9	27.6	27.7	21.9	19.1	12.0	16.1	7.3	5.5	4.5	6.3	4.7	2.9	1.6	3.3	4.0
18～29歳	80	33.8	27.5	25.0	27.5	23.8	45.0	31.3	16.3	8.8	11.3	3.8	1.3	3.8	3.8	1.3	-	1.3	1.3
30～39歳	104	42.3	40.4	37.5	33.7	29.8	48.1	32.7	18.3	12.5	9.6	8.7	11.5	4.8	5.8	6.7	4.8	1.0	1.0
40～49歳	171	44.4	33.3	35.7	36.8	21.1	35.1	25.7	16.4	15.2	10.5	9.4	4.7	4.1	2.9	4.7	1.8	5.8	1.8
50～59歳	183	59.0	30.6	36.6	33.9	22.4	23.5	27.3	15.3	16.9	7.7	6.0	6.0	4.4	4.9	1.6	0.5	3.8	2.7
60～69歳	185	64.9	22.2	42.7	28.1	25.9	11.9	15.7	8.6	16.8	4.9	4.3	4.9	8.1	2.7	1.1	0.5	4.3	3.8
70歳以上	326	76.7	25.2	27.0	16.9	35.3	5.5	5.5	6.4	18.4	4.9	3.1	1.5	8.3	6.1	2.5	1.8	2.5	7.7

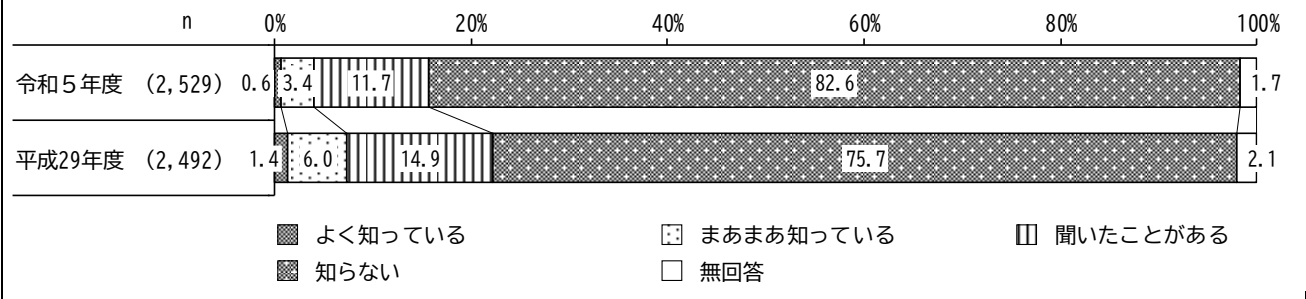
7. 公共施設の今後のあり方について

(1) 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度

◇「知らない」が8割強

問 24. あなたは、公共施設等の今後の基本的な方向性を示した「越谷市公共施設等総合管理計画」を知っていますか。(〇は1つ)

図表 7-1-1 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度



「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度については、「よく知っている」(0.6%)と「まあまあ知っている」(3.4%)を合わせた『知っている』(4.0%)が1割未満、「聞いたことがある」(11.7%)が約1割、「知らない」(82.6%)が8割強となっている。

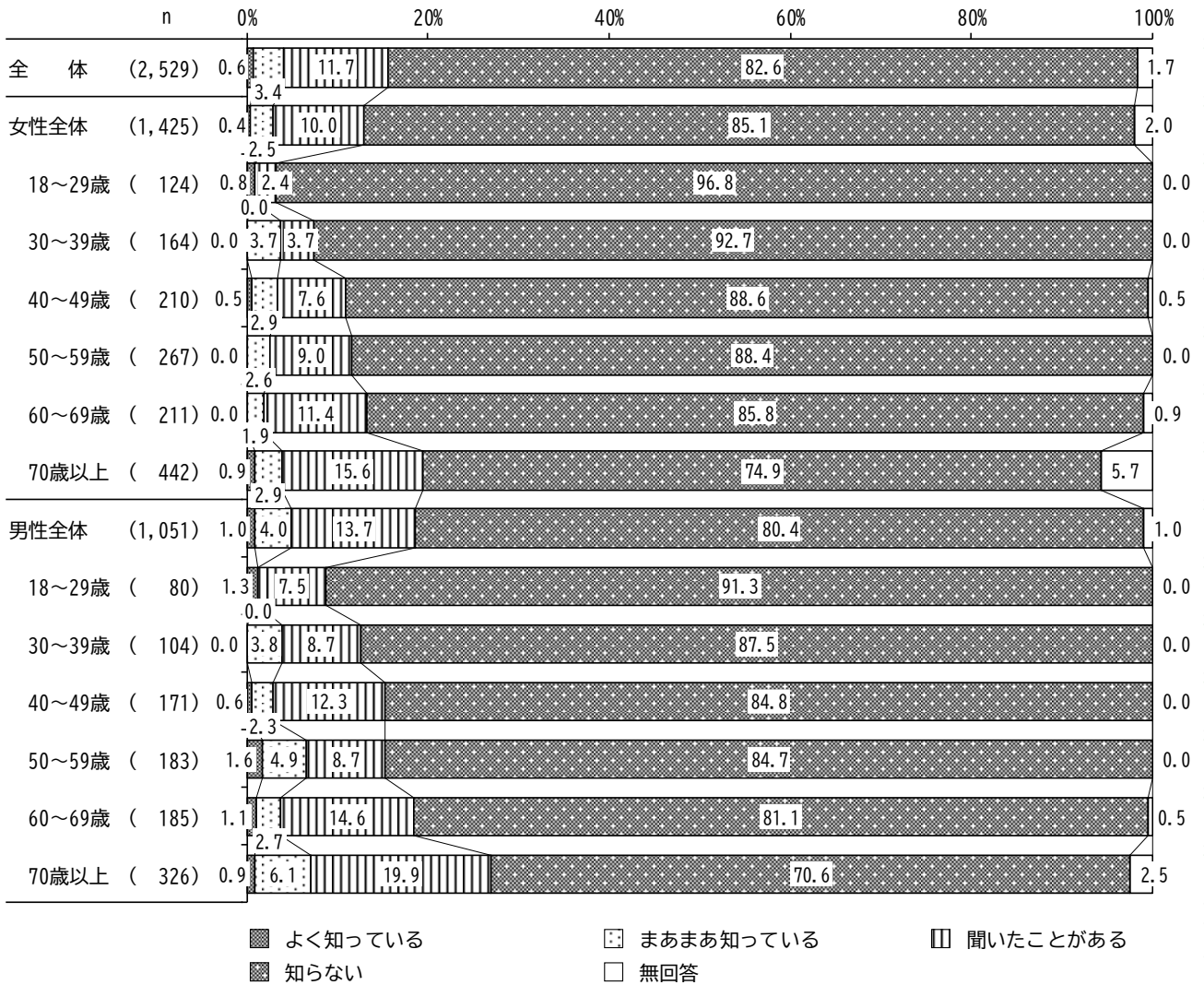
過去の調査と比較すると、「知らない」は平成29年度(75.7%)と比べ6.9ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『知っている』は男性70歳以上(7.1%)が最も多いが、男女ともすべての年齢で1割未満となっている。また、「聞いたことがある」は男性70歳以上(19.9%)で約2割、「知らない」は男女ともすべての年齢で7割以上を占めている。

図表7-1-2 性・年齢別 「越谷市公共施設等総合管理計画」の認知度



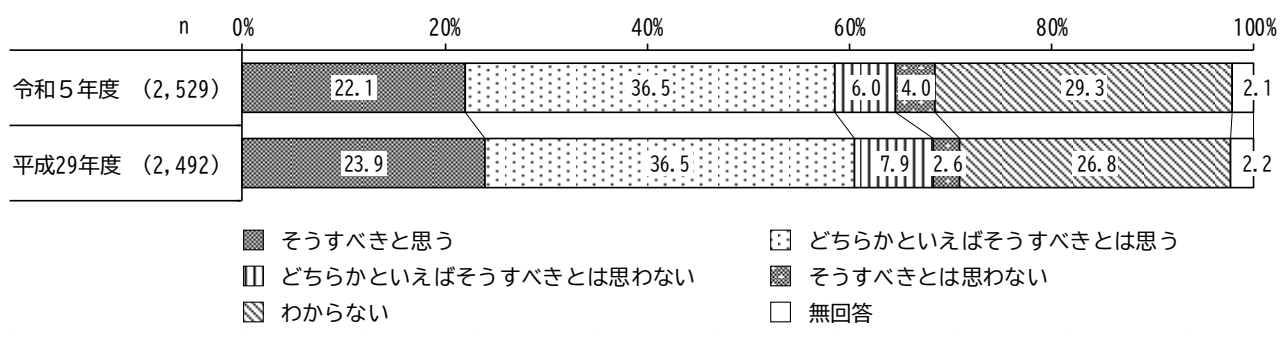
(2) 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え

◇『思う』が6割弱

問 25. 令和4年7月に改訂した越谷市公共施設等総合管理計画基本方針（改訂版）では、今後の人口減少や市の財政状況を踏まえ、今後40年間で公共施設の面積を39%減らし、安全性に問題がないと判断された建物については80年を目標として既存の施設を有効活用することとしています。

このことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

図表7-2-1 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え



「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考えは、「どちらかといえばそうすべきとは思」(36.5%)が最も多く、次いで「わからない」(29.3%)、「そうすべきと思う」(22.1%)、「どちらかといえばそうすべきとは思わない」(6.0%)、「そうすべきとは思わない」(4.0%)の順となっている。「そうすべきと思う」と「どちらかといえばそうすべきとは思」を合わせた『思う』(58.6%)は6割弱、「どちらかといえばそうすべきとは思わない」と「そうすべきとは思わない」を合わせた『思わない』(9.9%)は約1割となっている。

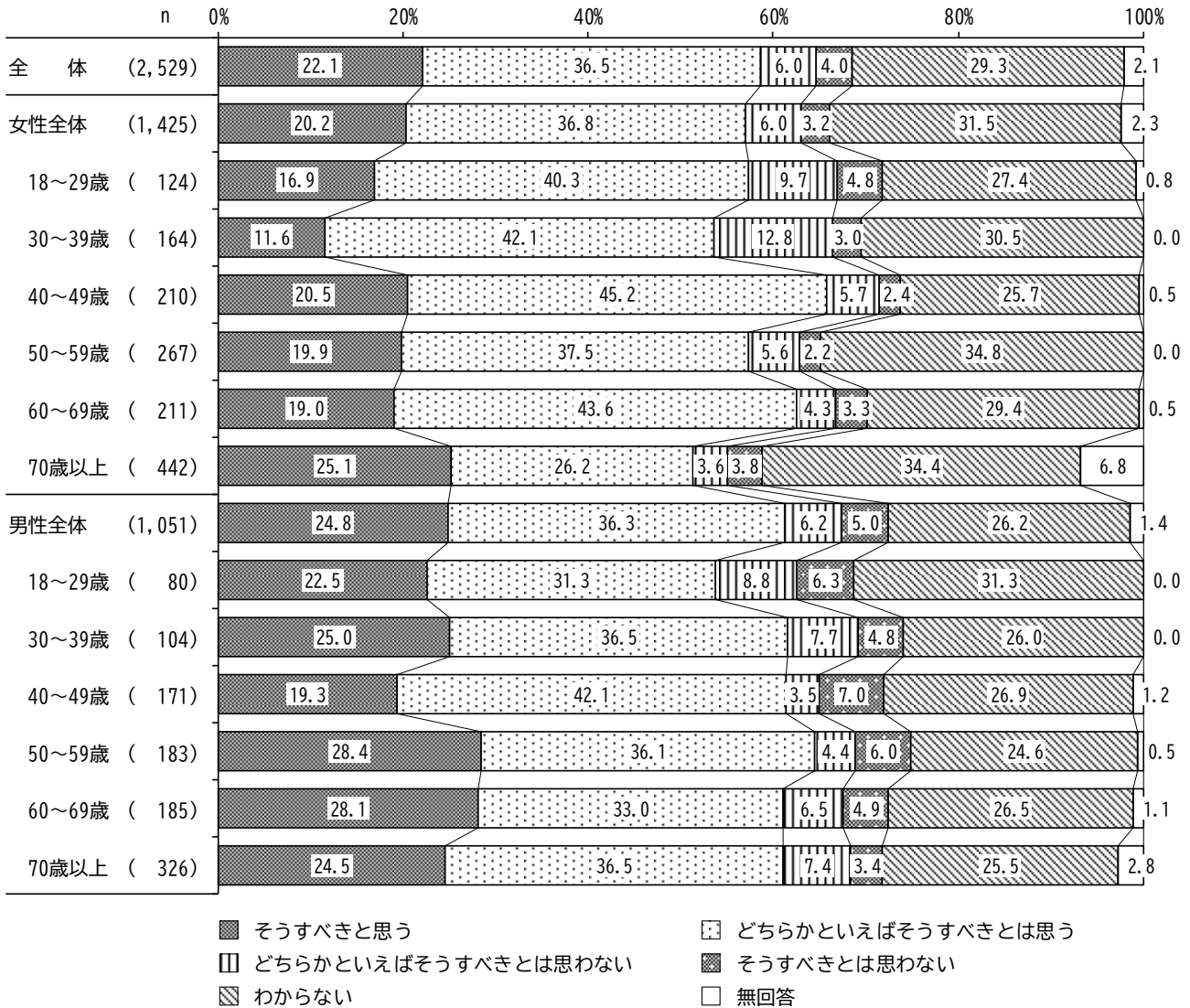
過去の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、『思う』は男性（61.2%）が女性（57.0%）を4.2ポイント、「そうすべきと思う」は男性（24.8%）が女性（20.2%）を4.6ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、『思う』は女性40歳代（65.7%）、男性50歳代（64.5%）で6割半ばを占め、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。一方、『思わない』は女性30歳代（15.9%）が最も多く、男女ともすべての年齢で2割未満となっている。

図表7-2-2 性・年齢別 「越谷市公共施設等総合管理計画」についての考え

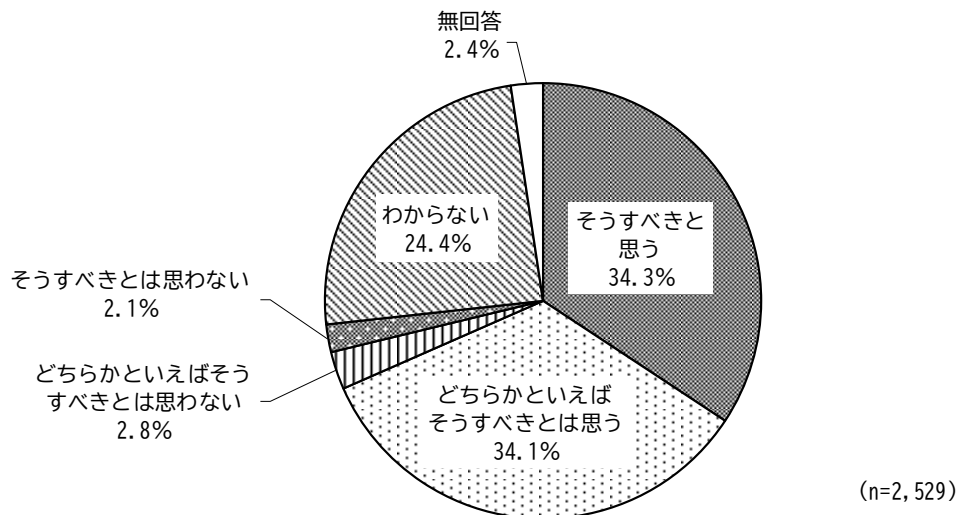


(3) PPP/PFI 手法について

◇『思う』が7割弱

問 26. 市は公共施設の建設、維持管理、運営等を、民間の資金や経営・技術的能力を活用して行う手法（PPP/PFI 手法）での実施を検討し、コストを削減し財源確保に努めています。このことについて、あなたはどのように思いますか。 (○は1つ)

図表 7-3-1 PPP/PFI 手法について



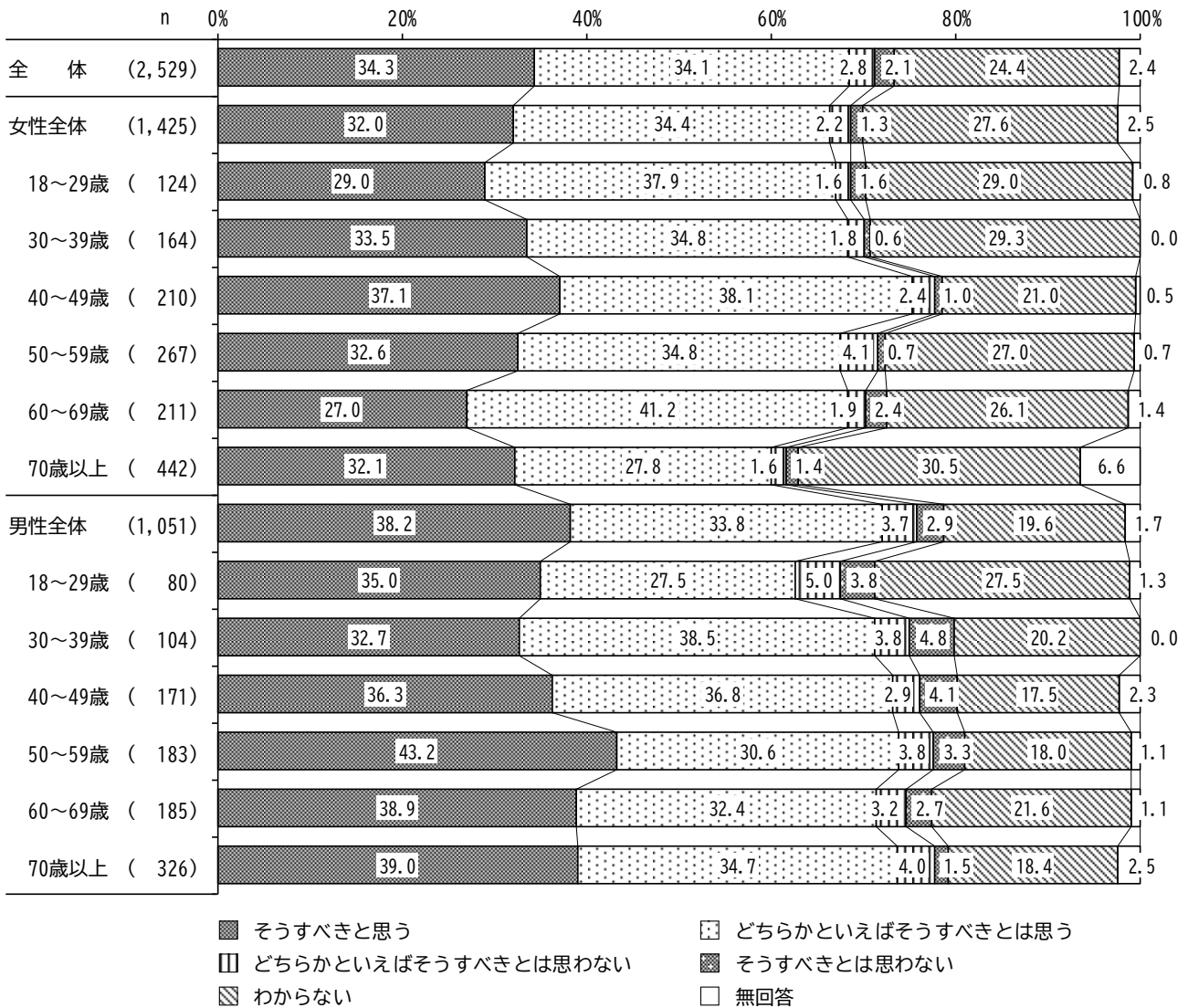
PPP/PFI 手法については、「そうすべきと思う」(34.3%) が最も多く、次いで「どちらかといえばそうすべきと思う」(34.1%)、「わからない」(24.4%)、「どちらかといえばそうすべきとは思わない」(2.8%)、「そうすべきとは思わない」(2.1%) の順となっている。「そうすべきと思う」と「どちらかといえばそうすべきと思う」を合わせた『思う』(68.4%) は7割弱、「どちらかといえばそうすべきとは思わない」と「そうすべきとは思わない」を合わせた『思わない』(4.9%) は1割未満となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『思う』は男性（72.0%）が女性（66.4%）を5.6ポイント、「そうすべきと思う」は男性（38.2%）が女性（32.0%）を6.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『思う』は男女ともすべての年齢で6割以上となっており、女性40歳代（75.2%）が7割半ば、男性30歳代以上も7割台となっている。一方、『思わない』は男性18～29歳（8.8%）が最も多く、男女ともすべての年齢で1割未満となっている。

図表7-3-2 性・年齢別 PPP/PFI 手法について



8. 地場農産物や地産地消について

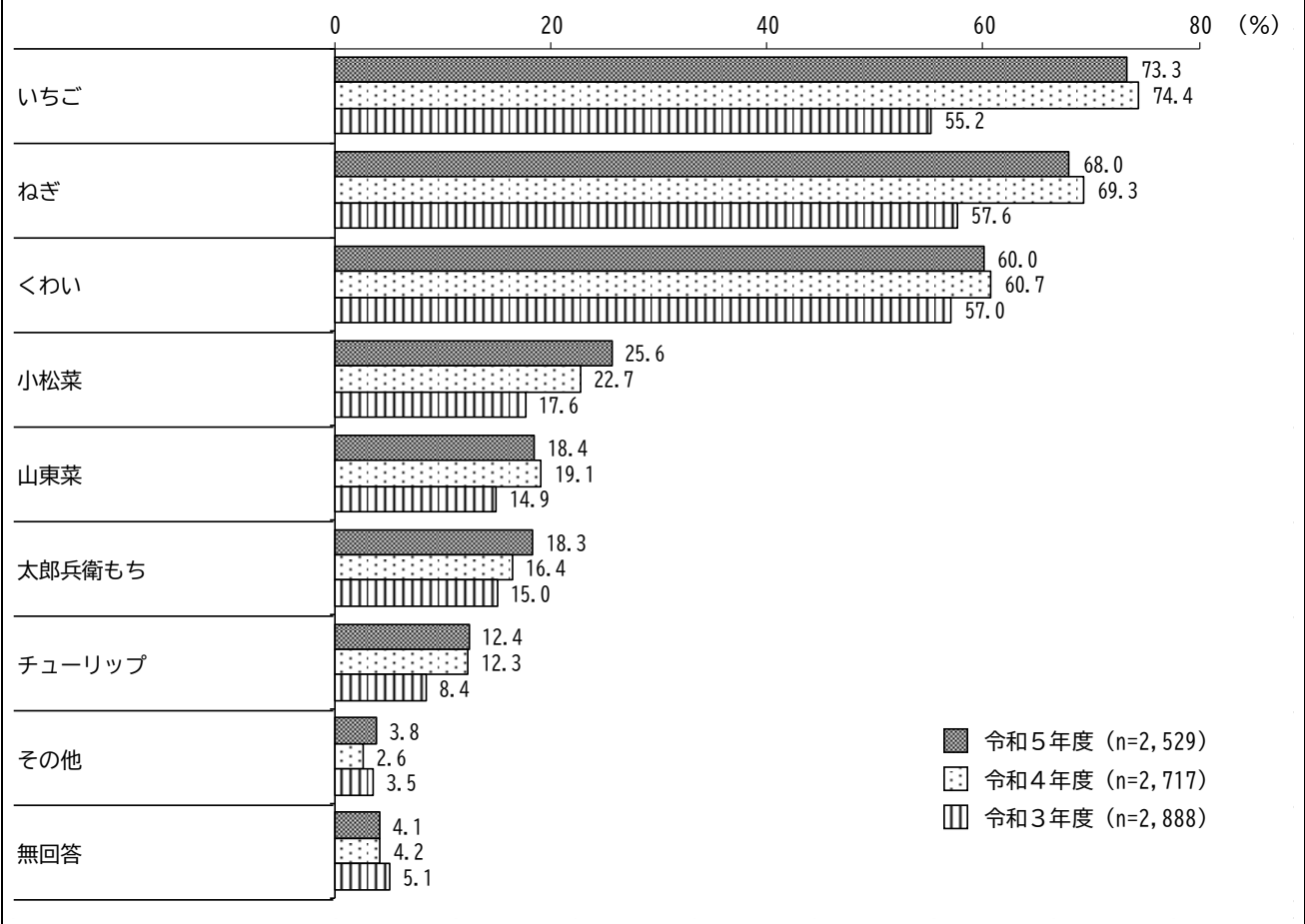
(1) 越谷の農業特産物の認知度

◇「いちご」が最も多く、7割強

問 27. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。

(○はいくつでも)

図表 8-1-1 越谷の農業特産物の認知度



越谷の農業特産物の認知度については、「いちご」(73.3%)が最も多く、次いで「ねぎ」(68.0%)、「くわい」(60.0%)、「小松菜」(25.6%)、「山東菜」(18.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、令和4年度と概ね同様の傾向となっているが、「いちご」「ねぎ」は令和3年度(55.2%、57.6%)と比べ1割以上増加している。また、「小松菜」は令和4年度(22.7%)と比べ2.9ポイント、令和3年度(17.6%)と比べ8.0ポイント、調査ごとに増加している。

性別で見ると、7項目すべてで女性が男性より4ポイント以上多く、「くわい」(女性66.0%、男性52.0%)は14.0ポイント、「小松菜」(女性29.2%、男性20.2%)は9.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「ねぎ」は男女ともすべての年齢で6割以上を占めており、女性40歳代(79.0%)は約8割、女性18~29歳(75.0%)、男性60歳代(70.3%)も7割台となっている。「いちご」は男性18~29歳(37.5%)を除き5割以上を占め、女性60歳代(85.3%)は8割半ば、女性40歳代(80.5%)、70歳以上(81.7%)は8割台と多くなっている。また、「小松菜」は女性60歳代(36.5%)、「くわい」「山東菜」「太郎兵衛もち」は女性70歳以上(74.2%、31.2%、30.8%)で全体を10ポイント以上上回っている。一方、「くわい」は女性30歳代(45.1%)、男性30歳代~50歳代(35.6%、45.0%、45.4%)、「小松菜」は男性40歳代以下(15.0%、12.5%、12.9%)、「山東菜」は女性18~29歳(3.2%)、30歳代(4.9%)、男性18~29歳(3.8%)、30歳代(7.7%)、「太郎兵衛もち」は男性30歳代(4.8%)で全体を10ポイント以上下回っている。特に男性30歳代は7項目すべてが全体を6ポイント以上下回っている。

図表8-1-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の認知度

	調査数 (人)	いちご	ねぎ	くわい	小松菜	山東菜	太郎兵衛もち	チューリップ	その他	無回答
全体	2,529	73.3	68.0	60.0	25.6	18.4	18.3	12.4	3.8	4.1
女性全体	1,425	76.7	70.1	66.0	29.2	20.5	21.4	14.1	4.0	3.2
18~29歳	124	50.0	75.0	61.3	17.7	3.2	8.9	10.5	4.8	3.2
30~39歳	164	69.5	69.5	45.1	17.7	4.9	11.0	14.0	3.7	4.3
40~49歳	210	80.5	79.0	64.8	26.2	13.3	13.8	9.0	2.4	2.9
50~59歳	267	75.3	64.8	65.5	28.1	20.2	20.2	10.9	4.9	1.5
60~69歳	211	85.3	66.8	68.2	36.5	28.0	26.1	17.1	3.8	1.9
70歳以上	442	81.7	69.5	74.2	35.1	31.2	30.8	18.1	4.3	4.8
男性全体	1,051	68.5	65.5	52.0	20.2	15.4	13.9	9.8	3.7	4.9
18~29歳	80	37.5	60.0	63.8	15.0	3.8	8.8	8.8	2.5	6.3
30~39歳	104	62.5	61.5	35.6	12.5	7.7	4.8	5.8	3.8	6.7
40~49歳	171	63.7	67.3	45.0	12.9	9.4	9.9	7.6	5.3	5.3
50~59歳	183	77.0	60.7	45.4	19.7	12.6	11.5	10.4	4.9	4.4
60~69歳	185	71.9	70.3	55.1	21.6	17.3	13.0	9.7	3.2	1.6
70歳以上	326	74.2	67.2	60.1	27.3	24.5	22.1	12.3	2.8	5.5

(2) 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

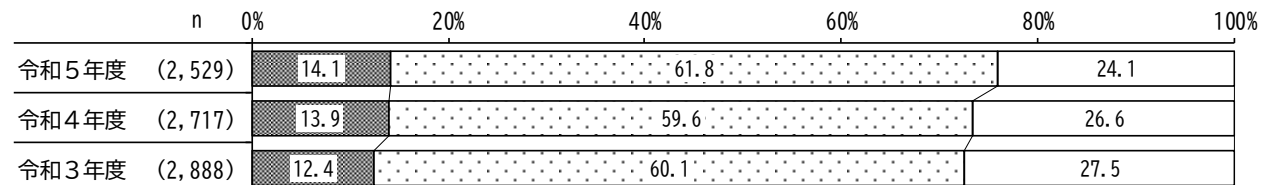
◇購入経験は「ねぎ」が最も多く、購入場所は品目による

問 28. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。

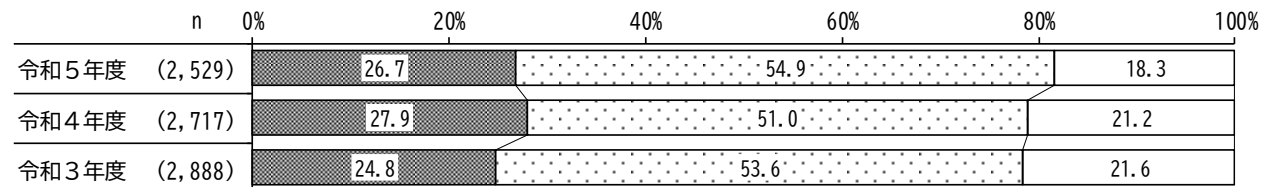
ある場合は、どこで購入しましたか。(ア～ク それぞれ横に○はいくつでも)

図表8-2-1 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

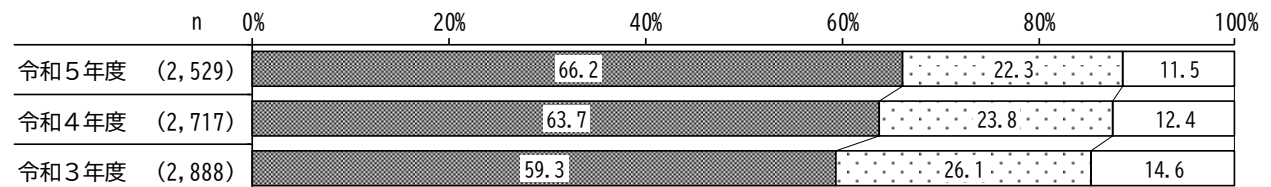
ア 太郎兵衛もち



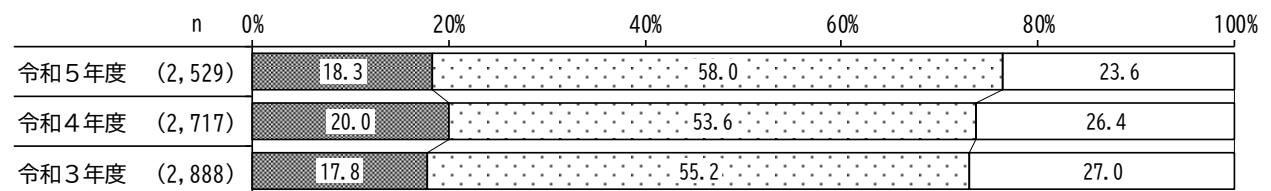
イ くわい



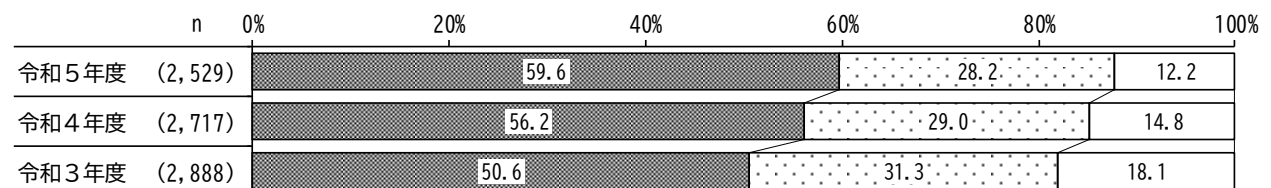
ウ ねぎ



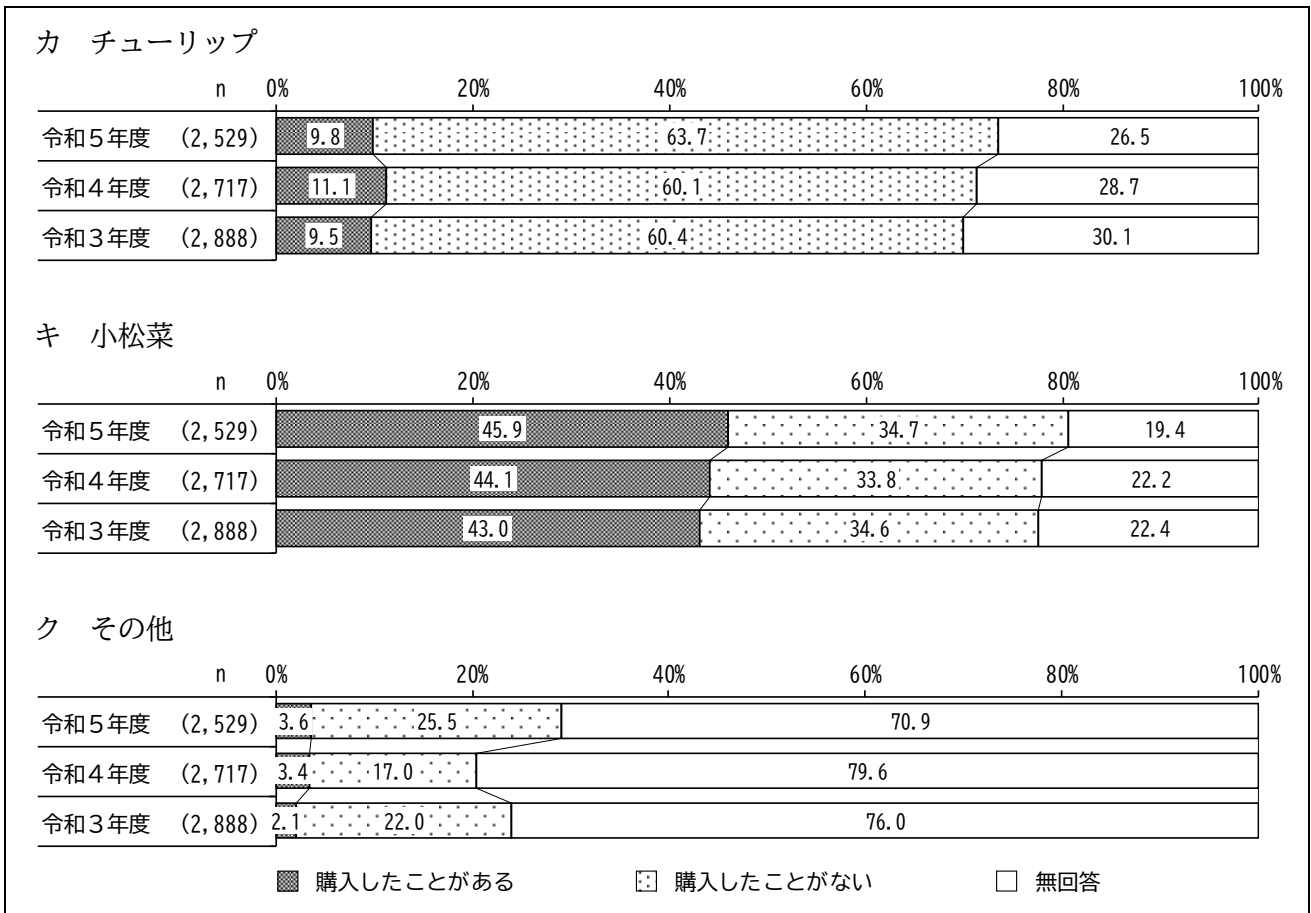
エ 山東菜



オ いちご



■ 購入したことがある □ 購入したことがない □ 無回答



越谷の農業特産物の購入経験については、「ねぎ」(66.2%)が最も多く、次いで「いちご」(59.6%)、「小松菜」(45.9%)、「くわい」(26.7%)、「山東菜」(18.3%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「いちご」は令和4年度(56.2%)と比べ3.4ポイント、令和3年度(50.6%)と比べ9.0ポイント、調査ごとに増加している。「ねぎ」も令和4年度と比べ2.5ポイント、令和3年度(59.3%)と比べ6.9ポイント増加し、増加傾向にある。

購入した場所については、「市民まつりなどイベント」が「太郎兵衛もち」(6.7%)、「農産物直売所」が「くわい」(10.4%)、「山東菜」(9.3%)、「市内スーパーマーケット」が「ねぎ」(47.2%)、「いちご」(32.0%)、「チューリップ」(3.3%)、「小松菜」(36.1%)で最も多くなっている。

「太郎兵衛もち」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性70歳以上(25.1%)が2割半ばで最も多くなっている。一方、男女とも60歳代以下は「購入したことがない」が5割以上を占めている。

「くわい」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性70歳以上(41.4%)が約4割で最も多く、男性60歳代(35.1%)、70歳以上(31.6%)も3割台となっている。一方、女性60歳代以下、男性50歳代以下は「購入したことがない」が5割以上を占めている。

「ねぎ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(69.3%)が男性(62.0%)を7.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性50歳代(73.4%)が7割強で最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上を占めている。

「山東菜」について性別でみると、「購入したことがある」割合に大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性70歳以上(30.1%)が約3割で最も多い。一方、男女とも60歳以下は「購入したことがない」が5割以上を占めている。

「いちご」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(63.9%)が男性(53.9%)を10.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(69.2%)が約7割で最も多く、男性18~29歳(42.5%)を除き5割以上を占めている。一方、男性18~29歳は「購入したことがない」(53.8%)が5割強を占め、全体を25.6ポイント上回っている。

「チューリップ」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(11.9%)が男性(6.9%)を5.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(17.1%)が2割弱で最も多く、女性70歳以上(16.5%)も1割半ばとなっている。一方、男女とも60歳以下は「購入したことがない」が5割以上を占めている。

「小松菜」について性別でみると、「購入したことがある」は女性(53.4%)が男性(35.5%)を17.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「購入したことがある」は女性60歳代(60.2%)が約6割で最も多く、女性40歳代(50.0%)、50歳代(59.9%)、70歳以上(54.1%)も5割台となっている。一方、「購入したことがない」は男性18~29歳(60.0%)が最も多く、女性18~29歳(51.6%)、男性30歳代(58.7%)、40歳代(56.7%)も5割台となっている。

図表8-2-2 性・年齢別 越谷の農業特産物の購入経験・購入場所

(%)

	調査数(人)	ア 太郎兵衛もち						イ くわい						ウ ねぎ						エ 山東菜									
		購入したことがある		購入したことがない		無回答		購入したことがある		購入したことがない		無回答		購入したことがある		購入したことがない		無回答		購入したことがある		購入したことがない		無回答					
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答				
全体	2,529	14.1	6.7	4.8	1.5	2.9	61.8	24.1	26.7	6.1	10.4	9.5	4.3	54.9	18.3	66.2	8.3	24.7	47.2	2.9	22.3	11.5	18.3	1.0	9.3	8.0	2.4	58.0	23.6
女性全体	1,425	15.4	7.3	5.5	1.6	3.0	62.0	22.6	27.2	6.9	10.1	9.5	4.6	56.4	16.4	69.3	9.7	26.5	50.3	2.7	20.1	10.7	20.0	1.1	10.7	9.1	2.4	58.0	22.0
18~29歳	124	6.5	0.8	0.8	2.4	2.4	84.7	8.9	16.1	1.6	6.5	6.5	4.0	77.4	6.5	63.7	1.6	12.1	54.0	2.4	33.1	3.2	5.6	-	0.8	4.0	1.6	86.3	8.1
30~39歳	164	4.3	3.0	0.6	0.6	0.6	86.6	9.1	11.6	3.7	4.9	2.4	3.0	81.1	7.3	61.0	7.9	20.7	51.8	1.2	36.0	3.0	3.7	-	3.0	1.2	0.6	85.4	11.0
40~49歳	210	11.9	4.3	3.3	2.9	1.9	75.7	12.4	17.1	4.8	6.7	5.7	1.9	73.8	9.0	70.0	10.0	32.9	49.5	1.4	24.8	5.2	14.8	-	10.5	5.2	-	73.8	11.4
50~59歳	267	13.1	6.4	4.1	1.1	3.4	73.0	13.9	25.1	7.1	9.7	8.6	4.1	64.8	10.1	73.4	11.2	26.2	52.1	3.4	20.6	6.0	20.2	-	9.0	9.7	4.1	66.3	13.5
60~69歳	211	15.2	6.2	5.7	-	5.2	57.3	27.5	28.0	6.2	8.5	10.9	5.7	52.1	19.9	72.5	7.1	28.0	54.0	4.3	14.7	12.8	25.6	1.4	12.8	10.0	5.2	51.2	23.2
70歳以上	442	25.1	13.1	10.6	2.3	3.4	35.7	39.1	41.4	10.6	15.6	14.5	6.3	30.1	28.5	69.5	12.7	29.0	46.2	2.9	10.6	19.9	30.1	2.7	16.5	14.5	2.0	30.5	39.4
男性全体	1,051	11.8	5.7	3.6	1.3	2.6	62.9	25.3	25.4	5.2	10.3	9.2	4.0	54.4	20.2	62.0	6.1	22.4	43.1	3.3	25.9	12.1	15.9	1.0	7.3	6.5	2.4	59.5	24.6
18~29歳	80	7.5	2.5	1.3	1.3	3.8	81.3	11.3	21.3	8.8	2.5	7.5	5.0	72.5	6.3	50.0	3.8	8.8	38.8	1.3	45.0	5.0	3.8	-	1.3	2.5	-	83.8	12.5
30~39歳	104	5.8	1.9	-	1.9	1.9	80.8	13.5	14.4	2.9	4.8	6.7	1.9	75.0	10.6	54.8	4.8	14.4	45.2	1.9	41.3	3.8	12.5	-	5.8	5.8	1.0	74.0	13.5
40~49歳	171	9.9	4.1	1.8	1.8	2.3	78.4	11.7	18.7	3.5	9.9	2.9	4.7	69.6	11.7	59.6	10.5	21.1	39.8	6.4	33.9	6.4	9.4	1.2	3.5	4.1	2.3	76.6	14.0
50~59歳	183	12.0	6.6	2.7	1.6	2.2	72.7	15.3	19.1	2.2	6.6	8.7	3.8	68.9	12.0	66.7	4.4	19.7	51.4	3.8	26.2	7.1	10.9	-	3.8	4.9	3.8	74.3	14.8
60~69歳	185	11.9	7.0	3.8	2.2	2.2	60.0	28.1	35.1	7.0	13.0	17.8	4.3	43.2	21.6	68.6	3.2	25.9	51.9	3.2	18.4	13.0	20.0	1.6	9.2	8.1	3.2	52.4	27.6
70歳以上	326	15.6	7.4	6.7	0.3	3.1	41.1	43.3	31.6	6.7	14.7	9.2	4.0	34.0	34.4	62.3	7.4	28.2	35.9	2.5	16.3	21.5	23.9	1.8	12.3	8.9	2.1	35.9	40.2

	調査数(人)	オ いちご						カ チューリップ						キ 小松菜						ク その他									
		購入したことがある		購入したことがない		無回答		購入したことがある		購入したことがない		無回答		購入したことがある		購入したことがない		無回答		購入したことがある		購入したことがない		無回答					
		市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	購入したことがない	無回答				
全体	2,529	59.6	4.0	30.6	32.0	7.2	28.2	12.2	9.8	2.6	2.8	3.3	2.1	63.7	26.5	45.9	1.8	14.0	36.1	1.8	34.7	19.4	3.6	0.2	1.9	1.5	0.6	25.5	70.9
女性全体	1,425	63.9	4.0	33.7	34.9	7.6	25.1	11.1	11.9	3.0	3.6	3.9	2.7	63.1	25.0	53.4	2.3	16.7	42.5	2.2	30.6	16.0	4.1	0.3	2.1	1.8	0.7	21.8	74.1
18~29歳	124	59.7	3.2	23.4	38.7	6.5	36.3	4.0	10.5	2.4	4.0	3.2	1.6	83.1	6.5	42.7	0.8	5.6	38.7	1.6	51.6	5.6	2.4	-	-	2.4	-	53.2	44.4
30~39歳	164	59.1	4.9	32.3	33.5	8.5	37.8	3.0	7.9	2.4	1.8	1.2	2.4	82.9	9.1	43.9	2.4	9.1	39.0	1.2	48.2	7.9	1.8	-	1.2	-	0.6	45.7	52.4
40~49歳	210	65.7	6.2	34.3	36.2	8.6	28.1	6.2	7.1	2.9	1.0	1.0	2.4	78.1	14.8	50.0	1.9	19.0	39.5	1.4	41.4	8.6	4.3	-	3.3	1.9	-	35.2	60.5
50~59歳	267	64.0	2.6	31.5	34.8	8.6	30.7	5.2	7.5	3.0	0.7	2.2	2.2	76.8	15.7	59.9	0.7	15.7	50.2	2.6	31.5	8.6	3.7	0.4	1.1	1.1	1.1	17.2	79.0
60~69歳	211	69.2	0.9	37.4	39.8	8.5	21.3	9.5	17.1	1.9	5.2	7.6	4.3	56.9	26.1	60.2	1.4	21.3	46.9	3.8	23.7	16.1	4.7	0.5	3.3	1.9	0.5	10.4	84.8
70歳以上	442	63.3	5.2	36.7	31.4	6.1	13.8	22.9	16.5	4.1	6.3	5.7	2.7	37.3	46.2	54.1	4.1	19.7	39.4	2.0	16.1	29.9	5.4	0.5	2.5	2.5	1.1	6.1	88.5
男性全体	1,051	53.9	4.1	26.4	28.0	6.9	33.0	13.0	6.9	2.0	1.7	2.6	1.1	66.0	27.0	35.5	1.1	10.6	27.3	1.3	41.2	23.3	2.9	0.2	1.4	1.1	0.5	31.6	65.6
18~29歳	80	42.5	2.5	15.0	22.5	7.5	53.8	3.8	7.5	2.5	2.5	1.3	1.3	85.0	7.5	33.8	2.5	6.3	26.3	1.3	60.0	6.3	-	-	-	-	-	55.0	45.0
30~39歳	104	51.0	8.7	22.1	29.8	4.8	43.3	5.8	3.8	-	1.0	2.9	1.0	82.7	13.5	32.7	2.9	8.7	25.0	2.9	58.7	8.7	-	-	-	-	-	51.9	48.1
40~49歳	171	53.2	7.0	25.7	27.5	9.4	42.1	4.7	4.1	1.8	0.6	1.2	0.6	82.5	13.5	32.7	0.6	9.4	28.1	1.2	56.7	10.5	1.2	-	-	1.2	-	52.0	46.8
50~59歳	183	55.2	1.6	27.9	29.5	8.2	39.3	5.5	6.6	1.6	1.6	2.7	0.5	78.7	14.8	41.0	0.5	11.5	34.4	0.5	43.7	15.3	6.0	0.5	2.7	2.7	1.6	29.0	65.0
60~69歳	185	55.1	2.2	25.9	34.1	8.1	28.6	16.2	10.3	3.2	1.6	3.8	2.2	57.8	31.9	40.5	0.5	9.2	34.1	2.2	31.4	28.1	3.8	-	2.2	1.6	-	23.2	73.0
70歳以上	326	57.1	4.0	30.4	24.8	4.9	19.0	23.9	7.7	2.1	2.5	2.8	1.2	45.4	46.9	32.2	1.2	12.9	20.2	0.9	27.3	40.5	3.1	0.3	1.8	0.6	0.6	15.0	81.9

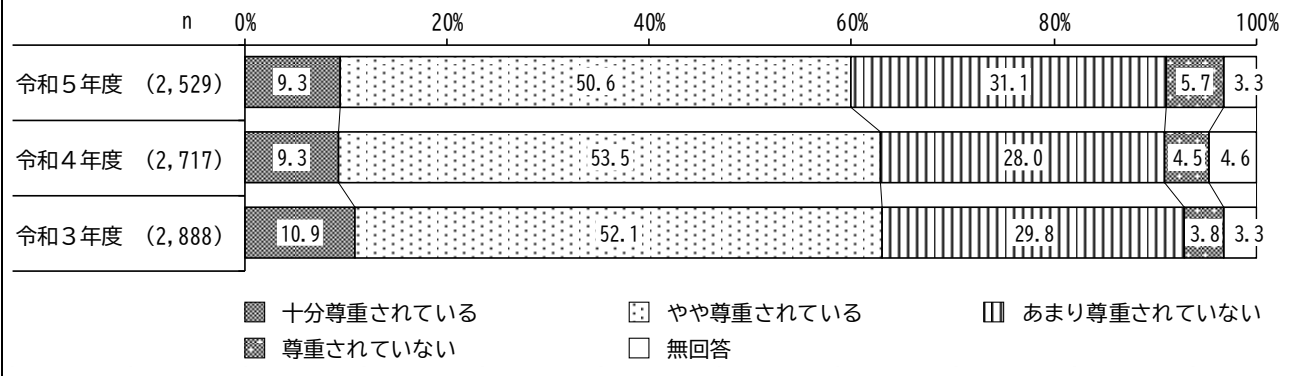
9. 人権全般に関する意識について

(1) 基本的人権の意識

◇『尊重されている』が約6割

問 29. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(〇は1つ)

図表9-1-1 基本的人権の意識



今の日本社会における基本的人権の意識については、「やや尊重されている」(50.6%)が最も多く、「十分に尊重されている」(9.3%)を合わせた『尊重されている』(59.9%)は約6割となっている。

一方、「あまり尊重されていない」(31.1%)と「尊重されていない」(5.7%)を合わせた『尊重されていない』(36.8%)は3割半ばとなっている。

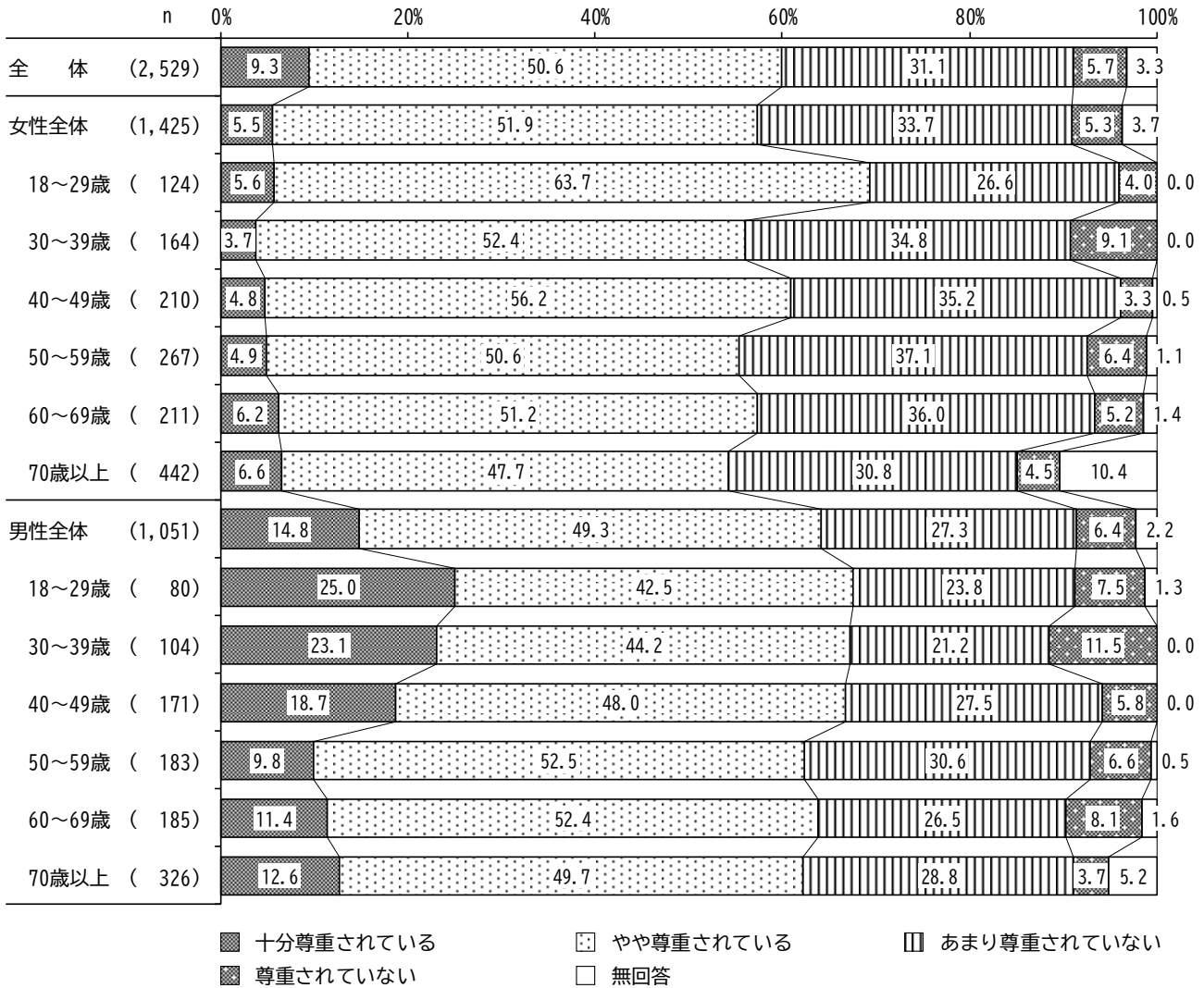
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『尊重されている』は男性（64.1%）が女性（57.3%）を6.8ポイント上回っている。一方、『尊重されていない』は女性（38.9%）、男性（33.7%）を5.2ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『尊重されている』は女性18～29歳（69.4%）が約7割で最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。一方、『尊重されていない』は女性30歳代（43.9%）が4割強で最も多く、女性50歳代（43.4%）、60歳代（41.2%）も4割台となっている。

図表9-1-2 性・年齢別 基本的人権の意識

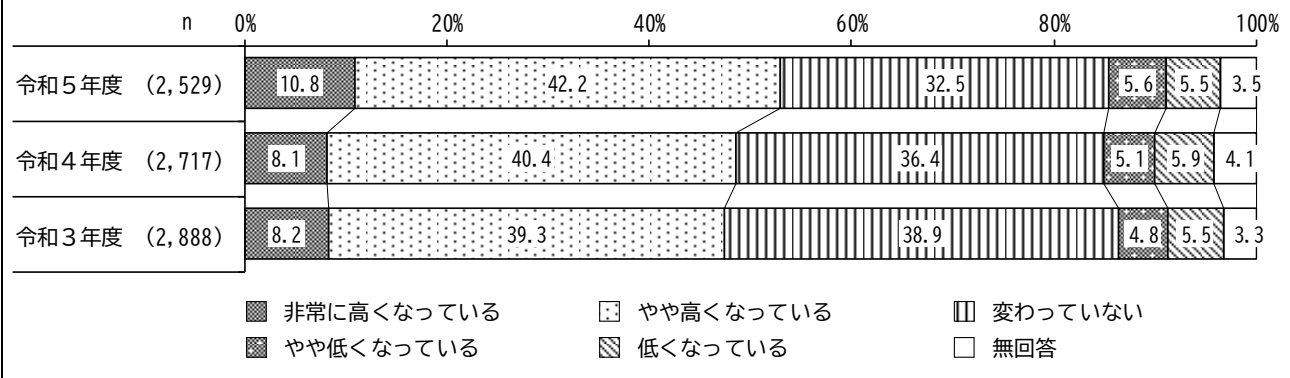


(2) 人権意識の変化

◇『高くなっている』が5割強

問 30. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(〇は1つ)

図表9-2-1 人権意識の変化



10年前と比べた人権意識の変化については、「やや高くなっている」(42.2%)が最も多く、次いで「変わっていない」(32.5%)、「非常に高くなっている」(10.8%)、「やや低くなっている」(5.6%)、「低くなっている」(5.5%)となっている。「非常に高くなっている」と「やや高くなっている」を合わせた『高くなっている』(52.9%)は5割強となっている。一方、「やや低くなっている」と「低くなっている」を合わせた『低くなっている』(11.1%)は約1割となっている。

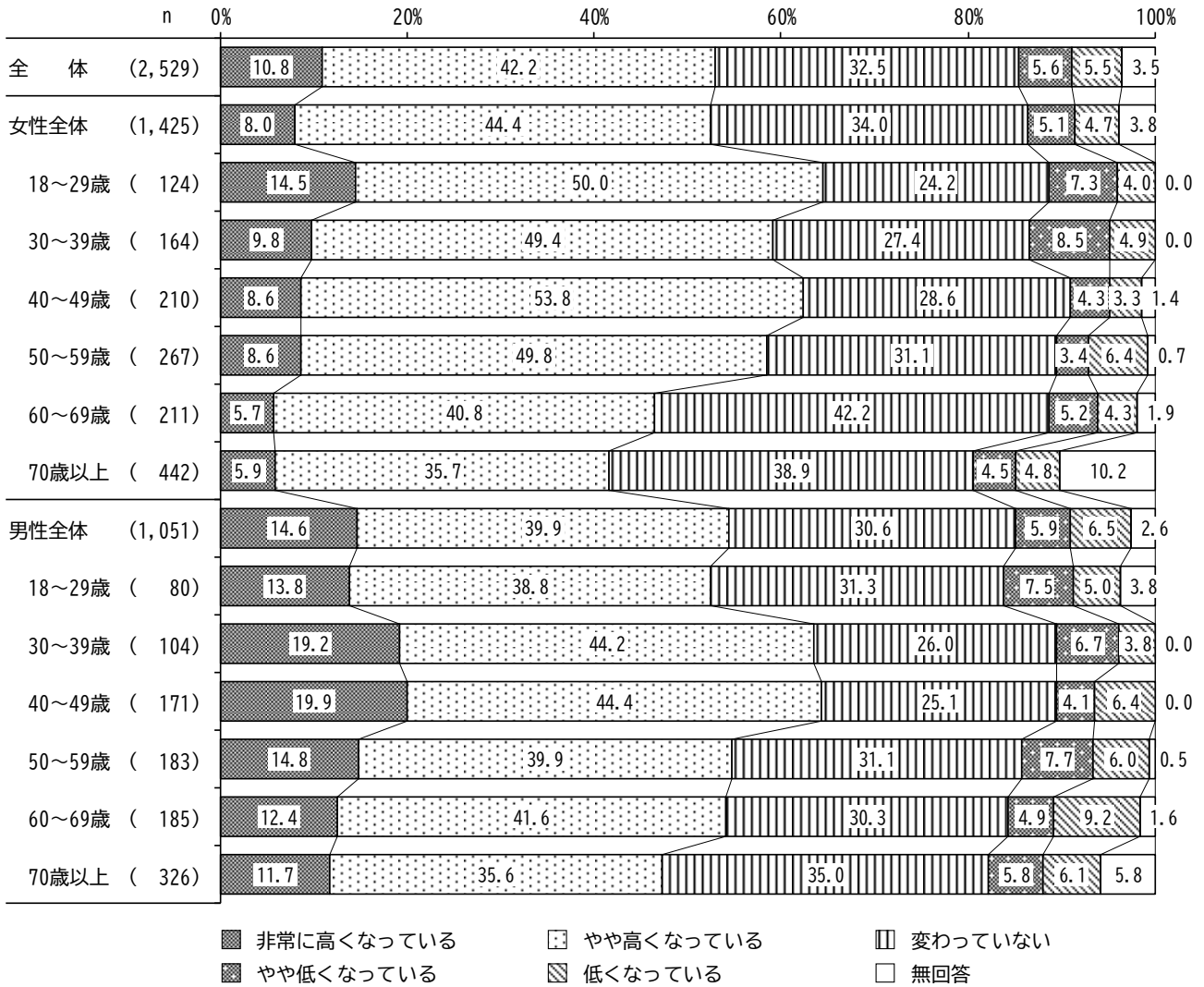
過去2回の調査と比較すると、『高くなっている』は令和4年度(48.5%)と比べ4.4ポイント、令和3年度(47.5%)と比べ5.4ポイント、調査ごとに増加している。一方、「変わっていない」は減少傾向にあり、『低くなっている』は1割程度で推移している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、『高くなっている』は女性 18～29 歳（64.5%）が6割半ばで最も多く、女性 40 歳代（62.4%）、男性 30 歳代（63.5%）、40 歳代（64.3%）も6割台となっている。一方、女性 70 歳以上（41.6%）は全体を 11.3 ポイント下回っている。また、『低くなっている』は男性 60 歳代（14.1%）が最も多く、男女ともすべての年齢で2割未満となっている。

図表9-2-2 性・年齢別 人権意識の変化

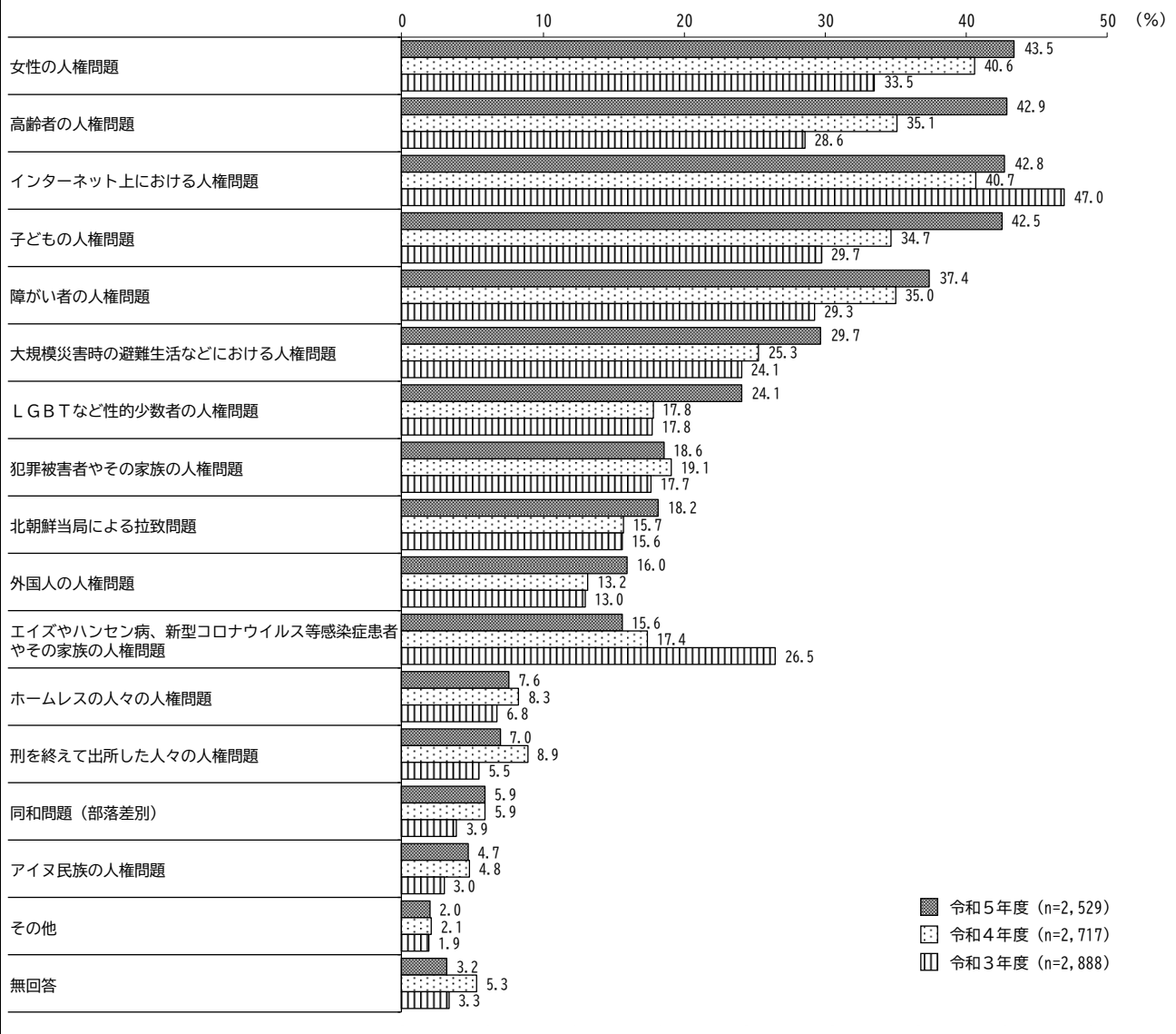


(3) 関心のある人権問題

◇「女性の人権問題」が最も多く、4割強

問 31. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。
(〇はいくつでも)

図表9-3-1 関心のある人権問題



関心のある人権問題については、「女性の人権問題」(43.5%)が最も多く、次いで「高齢者の人権問題」(42.9%)、「インターネット上における人権問題」(42.8%)、「子どもの人権問題」(42.5%)、「障がい者の人権問題」(37.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「インターネット上における人権問題」を除く上位7項目は令和3年度から増加傾向にあり、「女性の人権問題」「高齢者の人権問題」「子どもの人権問題」は令和3年度と比べ1割以上増加している。一方、「エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等感染症患者やその家族の人権問題」(15.6%)は令和4年度(17.4%)と比べ1.8ポイント、令和3年度(26.5%)と比べ10.9ポイント、調査ごとに減少している。

性別でみると、「女性の人権問題」は女性（51.9%）が男性（32.8%）を19.1ポイント上回り、「高齢者の人権問題」（女性45.5%、男性38.3%）、「大規模災害時の避難生活などにおける人権問題」（女性32.2%、男性26.3%）、「LGBTなど性的少数者の人権問題」（女性26.9%、男性21.0%）も、女性が男性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「女性の人権問題」は女性18～29歳（68.5%）が7割強で最も多く、女性30歳代（62.2%）も6割強を占めるが、年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。一方、男性は70歳以上（35.6%）が最も多く、男性18～29歳（20.0%）は全体を23.5ポイント下回っている。「高齢者の人権問題」は男女とも高齢層で多くなる傾向にあり、70歳以上は女性（66.3%）、男性（60.1%）とも6割台、女性60歳代（55.5%）は5割半ばとなっている。「インターネット上における人権問題」は男性30歳代（61.5%）が約6割で最も多く、女性50歳代以下（54.0%、54.3%、50.0%、58.1%）、男性40歳代（52.0%）も5割台となっている。また、「子どもの人権問題」は女性40歳代以下（54.8%、57.9%、58.6%）、男性30歳代（51.9%）、「LGBTなど性的少数者の人権問題」は女性18～29歳（51.6%）で5割台と多くなっている。

図表9-3-2 性・年齢別 関心のある人権問題

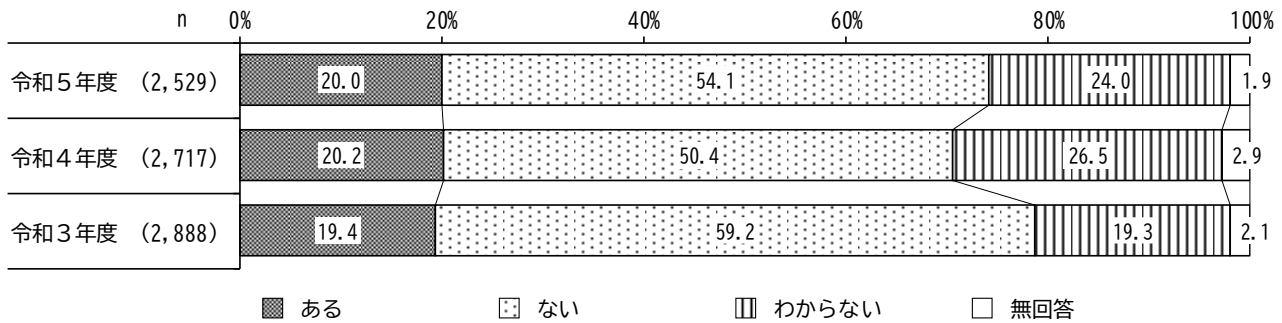
	調査数（人）	女性の人権問題	高齢者の人権問題	インターネット上における人権問題	子どもの人権問題	障がい者の人権問題	大規模災害時の避難生活などにおける人権問題	LGBTなど性的少数者の人権問題	犯罪被害者やその家族の人権問題	北朝鮮当局による拉致問題	外国人の人権問題	エイズやハンセン病、新型コロナウイルス感染症患者やその家族の人権問題	ホームレスの人々の人権問題	刑を終えて出所した人々の人権問題	同和問題（部落差別）	アイヌ民族の人権問題	その他	無回答
全体	2,529	43.5	42.9	42.8	42.5	37.4	29.7	24.1	18.6	18.2	16.0	15.6	7.6	7.0	5.9	4.7	2.0	3.2
女性全体	1,425	51.9	45.5	43.6	44.9	38.1	32.2	26.9	18.9	17.8	16.1	17.0	7.3	6.9	5.8	4.4	1.0	2.9
18～29歳	124	68.5	16.9	54.0	54.8	41.1	21.8	51.6	18.5	4.8	28.2	15.3	12.1	8.1	2.4	2.4	-	-
30～39歳	164	62.2	31.1	54.3	57.9	40.2	29.3	42.7	26.8	8.5	20.7	17.1	6.7	3.7	4.3	3.7	1.8	0.6
40～49歳	210	58.6	27.1	50.0	58.6	33.3	27.1	37.1	21.0	11.0	17.1	18.1	5.2	7.6	5.2	5.2	1.4	2.4
50～59歳	267	56.2	39.7	58.1	41.2	33.7	36.3	26.2	24.0	15.4	13.9	18.7	7.9	8.6	9.0	7.5	1.5	1.1
60～69歳	211	49.3	55.5	43.1	40.8	39.8	40.8	20.4	18.5	18.5	13.7	17.1	7.1	7.6	7.1	3.3	0.5	1.4
70歳以上	442	38.9	66.3	24.9	35.1	40.5	32.1	12.7	12.0	29.2	12.9	15.8	6.6	5.7	4.8	3.6	0.7	6.6
男性全体	1,051	32.8	38.3	42.3	40.1	36.5	26.3	21.0	18.3	18.5	16.0	13.8	8.2	7.2	6.2	5.1	3.2	3.2
18～29歳	80	20.0	7.5	48.8	28.8	21.3	15.0	33.8	15.0	7.5	15.0	10.0	13.8	7.5	6.3	3.8	5.0	5.0
30～39歳	104	33.7	22.1	61.5	51.9	24.0	17.3	22.1	25.0	7.7	15.4	15.4	4.8	7.7	5.8	1.9	3.8	-
40～49歳	171	32.7	15.8	52.0	43.9	26.9	20.5	21.1	17.5	6.4	14.0	8.2	6.4	9.4	4.1	3.5	5.8	2.3
50～59歳	183	32.2	35.0	42.1	38.8	41.0	32.8	25.1	23.0	16.9	17.5	13.7	8.7	4.9	7.1	9.3	1.1	2.7
60～69歳	185	34.1	47.0	44.3	37.8	44.3	28.1	19.5	14.1	18.4	20.5	16.2	7.6	5.4	7.0	5.4	4.3	0.5
70歳以上	326	35.6	60.1	28.8	39.3	42.6	30.4	16.3	17.2	31.9	14.1	16.0	8.9	8.3	6.4	4.9	1.8	5.5

(4) 人権侵害を感じたこと

◇「ある」が2割

問 32. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(〇は1つ)

図表9-4-1 人権侵害を感じたこと



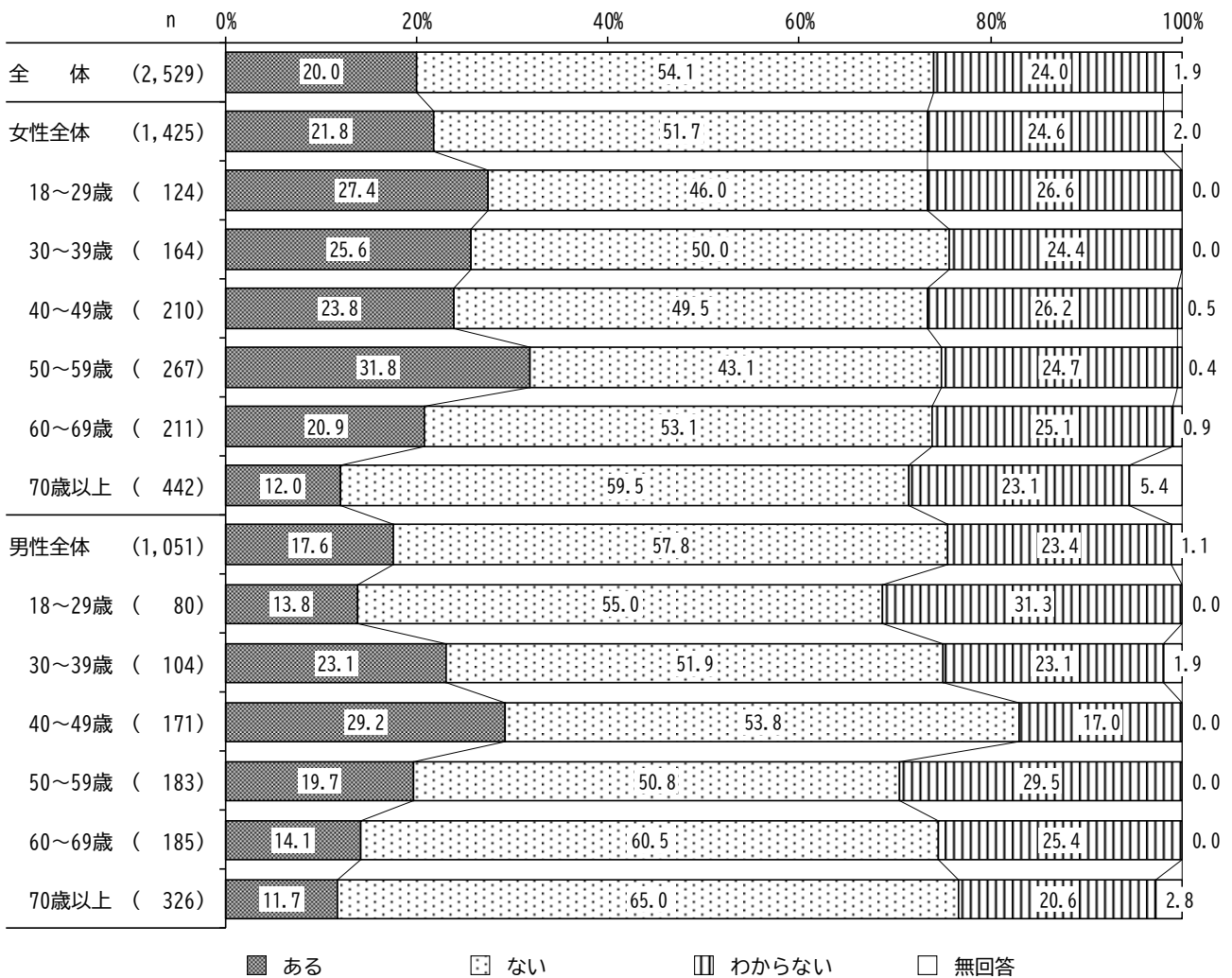
日常生活の中で、自身や周りの人の人権が侵害されたと感じたことがあるかを聞いたところ、「ある」(20.0%)が2割、「ない」(54.1%)が5割半ばとなっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、「ある」は女性(21.8%)が男性(17.6%)を4.2ポイント上回っている。一方、「ない」は男性(57.8%)が女性(51.7%)を6.1ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「ある」は女性が50歳代(31.8%)、男性が40歳代(29.2%)で、それぞれ約3割と最も多くなっている。女性18~29歳(27.4%)、30歳代(25.6%)も全体を5ポイント以上上回っている。一方、70歳以上は女性(12.0%)、男性(11.7%)とも全体を8ポイント以上下回り、男性18~29歳(13.8%)、60歳代(14.1%)も少なくなっている。また、「ない」は女性18~29歳(46.0%)、40歳代(49.5%)、50歳代(43.1%)を除き、5割以上となっている。

図表9-4-2 性・年齢別 人権侵害を感じたこと



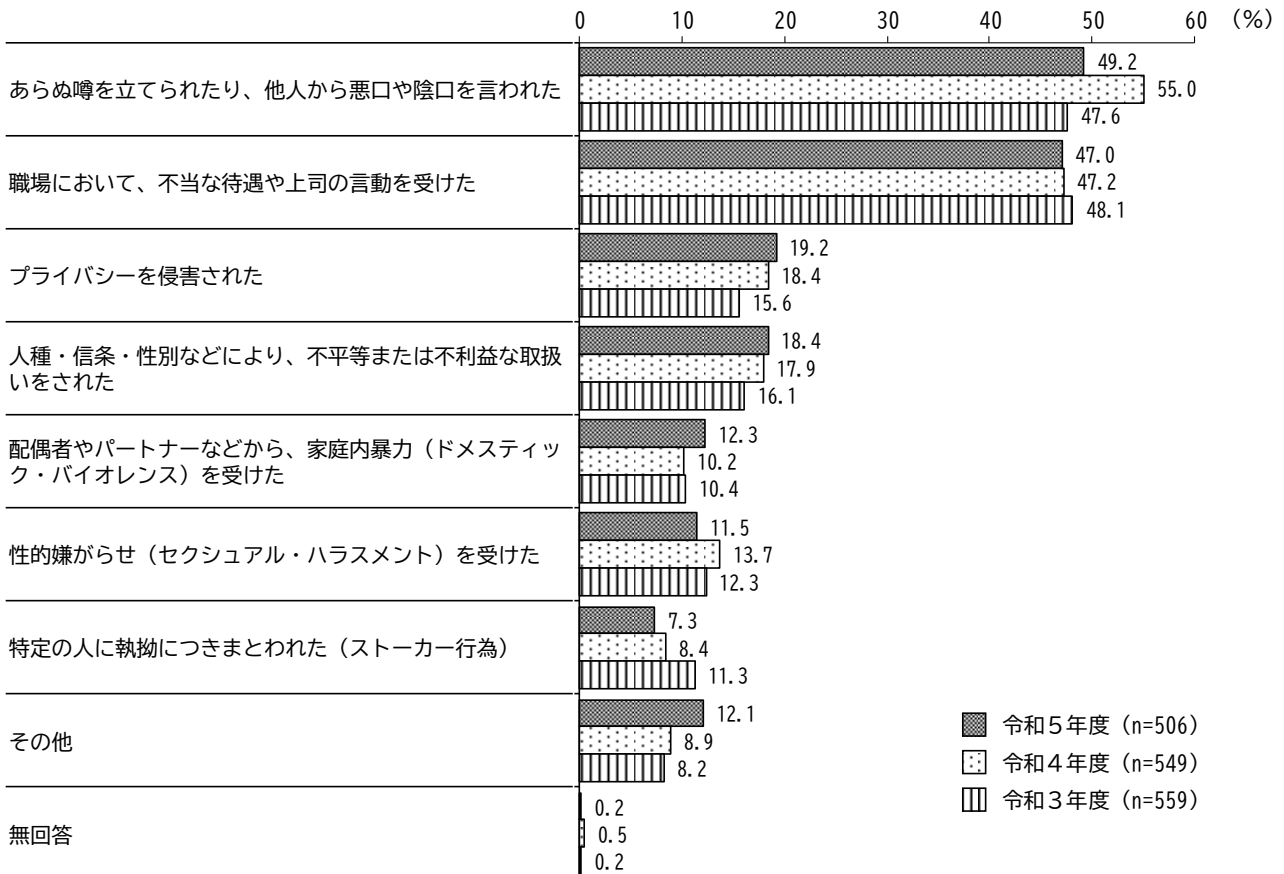
(5) 人権侵害を感じた内容

◇「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」が最も多く、約5割

問 32-2. 問 32 で「1.ある」と答えた方に伺います。

人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(〇はいくつでも)

図表9-5-1 人権侵害を感じた内容



人権が侵害されたと感じたことが「ある」と回答した 506 人に、人権侵害を感じた内容について聞いたところ、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」(49.2%) が最も多く、次いで「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」(47.0%)、「プライバシーを侵害された」(19.2%)、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」(18.4%)、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力(ドメスティック・バイオレンス)を受けた」(12.3%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は令和4年度(55.0%)と比べ5.8ポイント減少した。

性別でみると、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」は女性（17.1%）が男性（4.3%）を12.8ポイント、「性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた」（女性13.5%、男性8.1%）は5.4ポイント上回っている。一方、「プライバシーを侵害された」は男性（27.0%）が女性（15.2%）を11.8ポイント、「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」（男性53.5%、女性43.9%）、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」（男性53.0%、女性46.5%）は6ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた」は女性18～29歳（64.7%）、男性70歳以上（60.5%）で6割台、男性40歳代（50.0%）、50歳代（55.6%）で5割台となっている。「職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた」は女性60歳代（61.4%）、男性50歳代（63.9%）で6割台、男性40歳代（56.0%）で5割半ばとなっている。

また「プライバシーを侵害された」は男性40歳代（30.0%）、「人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた」は女性30歳代（28.6%）、「配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた」は女性60歳代（22.7%）などで全体を10ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表9-5-2 性・年齢別 人権侵害を感じた内容

	調査数（人）	からあらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた	職場の言動を受けて、不当な待遇や上司の言動を受けた	プライバシーを侵害された	不平等・人種・信条・性別などにより、不利益な取扱いを受けた	家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた	性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた	特定の人（ストーカー行為）に執拗につきまわられた	その他	無回答
全体	506	49.2	47.0	19.2	18.4	12.3	11.5	7.3	12.1	0.2	
女性全体	310	46.5	43.9	15.2	18.7	17.1	13.5	7.4	12.9	-	
18～29歳	34	64.7	35.3	20.6	20.6	11.8	17.6	8.8	5.9	-	
30～39歳	42	47.6	40.5	23.8	28.6	9.5	19.0	7.1	9.5	-	
40～49歳	50	34.0	44.0	12.0	28.0	14.0	14.0	4.0	18.0	-	
50～59歳	85	48.2	44.7	15.3	16.5	20.0	14.1	12.9	12.9	-	
60～69歳	44	43.2	61.4	11.4	13.6	22.7	9.1	2.3	9.1	-	
70歳以上	53	43.4	34.0	11.3	7.5	18.9	9.4	5.7	18.9	-	
男性全体	185	53.0	53.5	27.0	18.4	4.3	8.1	7.6	10.8	0.5	
18～29歳	11	72.7	54.5	36.4	27.3	9.1	18.2	-	-	-	
30～39歳	24	45.8	58.3	33.3	29.2	-	8.3	8.3	8.3	-	
40～49歳	50	50.0	56.0	30.0	14.0	2.0	6.0	8.0	12.0	2.0	
50～59歳	36	55.6	63.9	25.0	16.7	8.3	11.1	11.1	11.1	-	
60～69歳	26	42.3	61.5	23.1	23.1	3.8	7.7	11.5	15.4	-	
70歳以上	38	60.5	31.6	21.1	13.2	5.3	5.3	2.6	10.5	-	

10. 男女共同参画について

(1) 「ことば」や「ことがら」の認知度

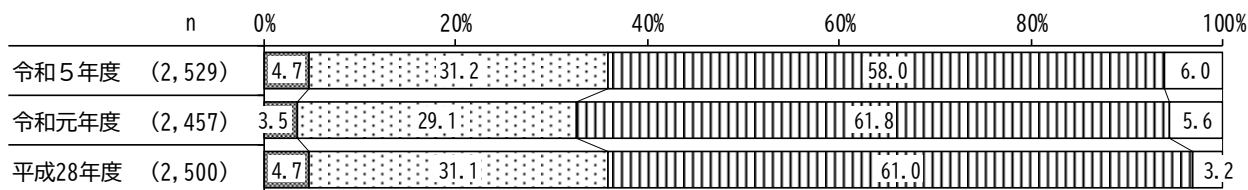
◇「内容を知っている」は「DV（ドメスティック・バイオレンス）」が6割弱

問33. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。

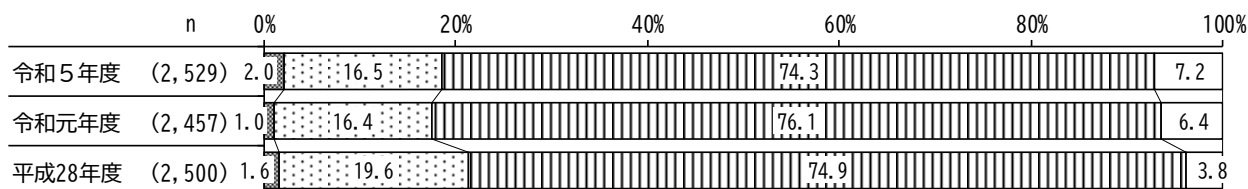
(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)

図表10-1-1 「ことば」や「ことがら」の認知度

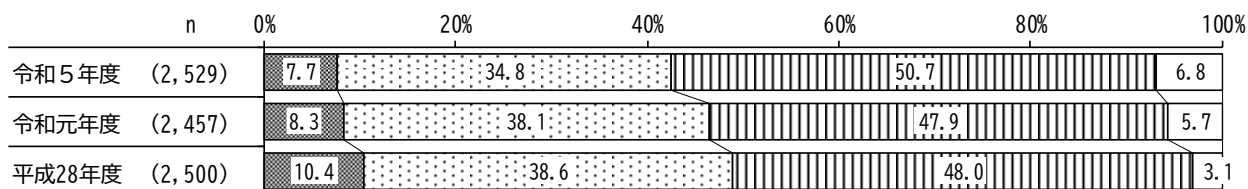
ア 越谷市男女共同参画推進条例



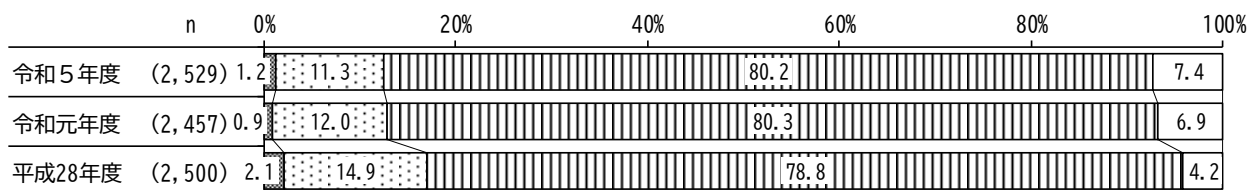
イ 第4次越谷市男女共同参画計画



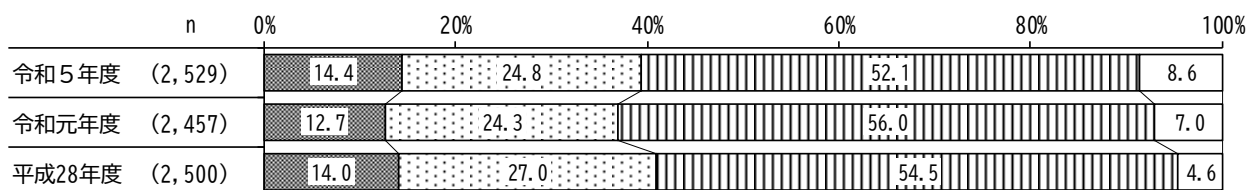
ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」



エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員

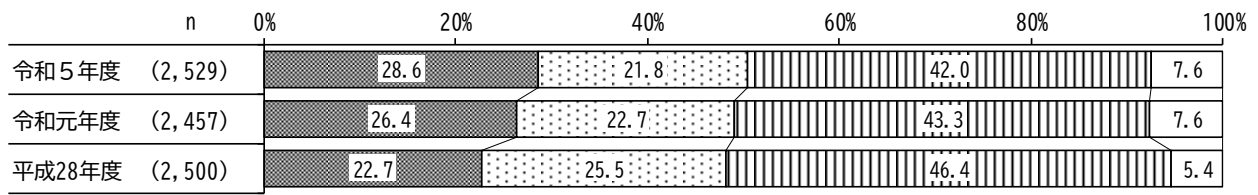


オ 男女共同参画社会

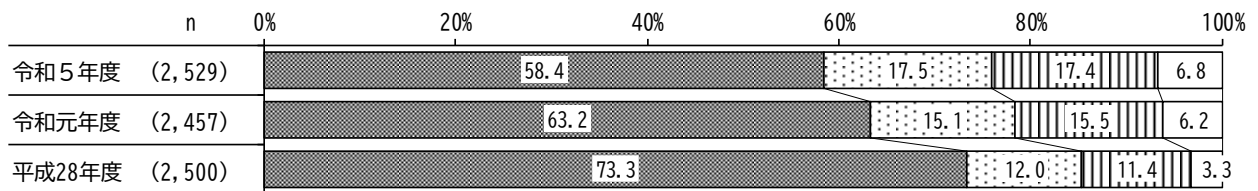


■ 内容を知っている □ 聞いたことはあるが、内容は知らない ▨ 知らない □ 無回答

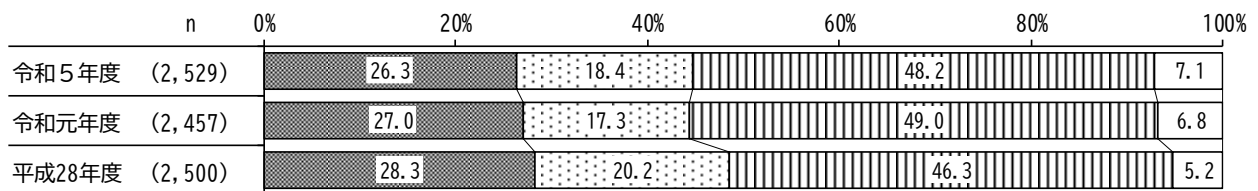
カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



キ DV（ドメスティック・バイオレンス）

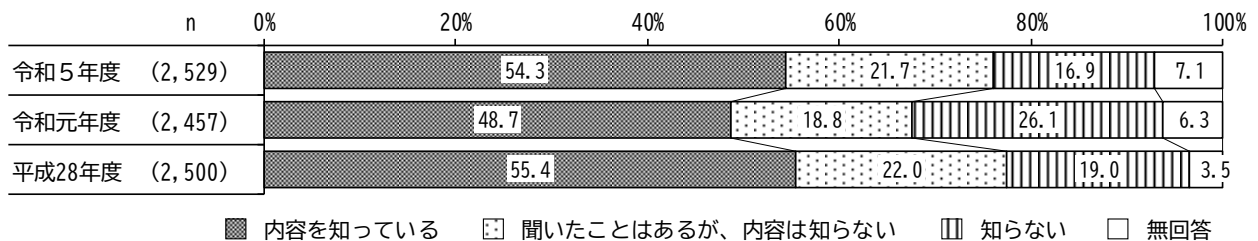


ク デートDV



ケ L G B T（性的指向や性同一性障害による性的少数者）

L:レズビアン G:ゲイ B:バイセクシャル T:トランスジェンダー



■ 内容を知っている □ 聞いたことはあるが、内容は知らない ▨ 知らない □ 無回答

男女共同参画における「ことば」や「ことがら」の認知度については、「内容を知っている」は「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」（58.4%）が最も多く、次いで、「ケ L G B T（性的指向や性同一性障害による性的少数者）」（54.3%）、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」（28.6%）、「ク デートDV」（26.3%）、「オ 男女共同参画社会」（14.4%）の順となっている。一方、「知らない」は「エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員」（80.2%）が最も多く、次いで、「イ 第4次越谷市男女共同参画計画」（74.3%）、「ア 越谷市男女共同参画推進条例」（58.0%）、「オ 男女共同参画社会」（52.1%）、「ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」（50.7%）の順となっており、これら5項目は「知らない」が5割以上を占めている。

過去2回の調査と比較すると、「内容を知っている」は「ケ L G B T（性的指向や性同一性障害による性的少数者）」が令和元年度（48.7%）と比べ5.6ポイント増加し、「カ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」も増加傾向にある。一方、「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」は令和元年度（63.2%）と比べ4.8ポイント、平成28年度（73.3%）と比べ14.9ポイント、調査ごとに減少している。

「ア 越谷市男女共同参画推進条例」について性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（女性 34.0%、男性 27.7%）は女性、「知らない」（女性 55.9%、男性 61.9%）は男性が6ポイント以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。「知らない」は男性 18～29 歳（76.3%）が最も多く、男女とも 60 歳代以下で5割以上となっている。

「イ 第4次越谷市男女共同参画計画」について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。「知らない」は男性 18～29 歳（86.3%）が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

「ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」」について性別で見ると、「聞いたことはあるが、内容は知らない」（女性 40.9%、男性 26.9%）は女性、「知らない」（女性 43.8%、男性 60.5%）は男性が1割以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は女性 50 歳代（10.1%）、60 歳代（10.4%）、男性 70 歳以上（10.4%）で1割台となっている。「知らない」は男性 18～29 歳（78.8%）が最も多く、女性 18～29 歳（63.7%）、30 歳代（62.8%）、男性 60 歳代以下で5割以上となっている。

「エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員」について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。「知らない」は男性 18～29 歳（92.5%）が最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上となっている。

「オ 男女共同参画社会」について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は女性 18～29 歳（39.5%）が最も多く、男性 18～29 歳（37.5%）も4割弱となっている。一方、女性 60 歳代以上、男性 70 歳以上は1割未満となっている。「知らない」は男性 40 歳代（58.5%）が最も多く、男女とも 40 歳代以上で5割台となっている。

「カ ワーク・ライフ・バランス」について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は女性 18～29 歳（55.6%）、女性 30 歳代（53.7%）、男性 30 歳代（54.8%）で5割台となる一方、70 歳以上は男女とも1割未満となっている。「知らない」は70 歳以上で女性（52.0%）、男性（59.2%）とも5割台となっている。

「キ DV（ドメスティック・バイオレンス）」について性別で見ると、「内容を知っている」は女性（61.6%）が男性（55.8%）を5.8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は女性 30 歳代（91.5%）が最も多く、男女とも 60 歳代以下で5割以上となっている。一方、70 歳以上は女性（27.1%）、男性（28.5%）とも全体を30ポイント前後下回っている。「知らない」は男性 70 歳以上（35.0%）が3割半ばで最も多い。

「ク デートDV」について性別で見ると、「内容を知っている」は女性（30.5%）が男性（21.5%）を9.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は女性 18～29 歳（56.5%）が最も多く、女性 30 歳代（45.7%）、男性 18～29 歳（40.0%）も4割台となっている。一方、女性 70 歳以上、男性 60 歳代以上は1割台となっている。「知らない」は男性 70 歳以上（60.1%）が約6割で最も多く、女性 60 歳代（56.4%）、70 歳以上（52.0%）、男性 30 歳代（51.0%）、50 歳代（52.5%）、60 歳代（54.1%）も5割台となっている。

「ケ LGBT（性的指向や性同一性障害による性的少数者）」について性別で見ると、「内容を知っている」は女性（57.5%）が男性（51.7%）を5.8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「内容を知っている」は女性 30 歳代（87.8%）が9割弱で最も多く、60 歳代以下で男女とも5割以上となっている。「知らない」は男性 70 歳以上（32.5%）が3割強で最も多い。

図表10-1-2 性・年齢別 「ことば」や「ことがら」の認知度

(%)

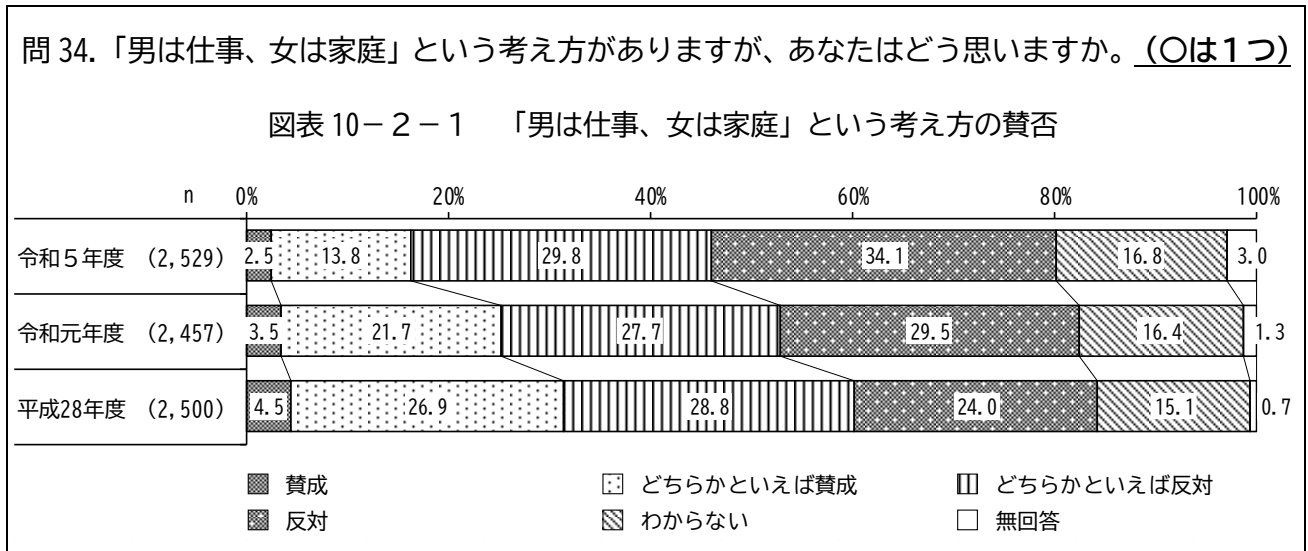
	調査数(人)	ア 越谷市男女共同参画推進条例				イ 第4次越谷市男女共同参画計画				ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」				エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員				オ 男女共同参画社会			
		内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答
全 体	2,529	4.7	31.2	58.0	6.0	2.0	16.5	74.3	7.2	7.7	34.8	50.7	6.8	1.2	11.3	80.2	7.4	14.4	24.8	52.1	8.6
女性全体	1,425	3.7	34.0	55.9	6.5	1.5	16.6	74.2	7.7	8.6	40.9	43.8	6.7	0.9	10.9	80.1	8.1	13.1	26.4	51.6	8.9
18～29歳	124	4.0	27.4	68.5	-	-	15.3	84.7	-	8.1	28.2	63.7	-	0.8	8.1	91.1	-	39.5	22.6	37.1	0.8
30～39歳	164	3.0	25.6	70.7	0.6	1.8	9.1	88.4	0.6	7.9	29.3	62.8	-	-	7.9	90.9	1.2	26.8	25.0	47.0	1.2
40～49歳	210	3.3	35.2	59.0	2.4	1.4	17.6	78.1	2.9	8.1	48.6	41.9	1.4	1.0	10.0	85.2	3.8	12.4	26.7	58.1	2.9
50～59歳	267	2.6	36.7	58.4	2.2	1.1	17.6	79.0	2.2	10.1	49.1	39.3	1.5	0.7	13.9	83.5	1.9	12.0	28.1	56.2	3.7
60～69歳	211	3.8	37.9	55.5	2.8	1.4	17.5	77.3	3.8	10.4	49.3	36.5	3.8	1.4	11.4	83.4	3.8	8.5	32.2	55.0	4.3
70歳以上	442	4.8	34.2	44.6	16.5	2.0	18.3	59.7	19.9	7.5	36.4	38.2	17.9	1.1	11.3	67.0	20.6	4.1	23.8	50.0	22.2
男性全体	1,051	5.9	27.7	61.9	4.5	2.7	16.6	75.3	5.5	6.6	26.9	60.5	6.0	1.6	11.5	81.4	5.4	16.3	22.7	53.8	7.2
18～29歳	80	6.3	16.3	76.3	1.3	3.8	8.8	86.3	1.3	3.8	16.3	78.8	1.3	1.3	5.0	92.5	1.3	37.5	15.0	45.0	2.5
30～39歳	104	3.8	26.0	70.2	-	1.0	11.5	87.5	-	3.8	21.2	75.0	-	1.0	9.6	89.4	-	26.0	23.1	49.0	1.9
40～49歳	171	4.7	20.5	73.7	1.2	2.9	10.5	85.4	1.2	4.1	21.6	71.9	2.3	2.3	8.2	87.7	1.8	19.3	20.5	58.5	1.8
50～59歳	183	3.8	29.5	64.5	2.2	2.2	16.9	78.7	2.2	4.9	34.4	57.9	2.7	1.6	10.9	84.2	3.3	14.2	25.1	57.4	3.3
60～69歳	185	8.6	28.6	59.5	3.2	3.2	18.4	72.4	5.9	6.5	28.6	58.4	6.5	0.5	15.7	78.4	5.4	14.6	25.9	53.0	6.5
70歳以上	326	6.7	33.4	49.4	10.4	2.8	22.1	62.9	12.3	10.4	29.1	47.9	12.6	2.1	13.5	73.0	11.3	8.6	22.7	53.1	15.6

(%)

	調査数(人)	カ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)				キ DV (ドメスティック・バイオレンス)				ク デートDV				ケ LGBT (性的指向や性同一性障害 による性的少数者)			
		内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答	内容を 知っている	聞いた ことはあるが、 内容は知らない	知らない	無 回答
全 体	2,529	28.6	21.8	42.0	7.6	58.4	17.5	17.4	6.8	26.3	18.4	48.2	7.1	54.3	21.7	16.9	7.1
女性全体	1,425	27.7	23.6	40.7	7.9	61.6	17.5	14.0	6.9	30.5	18.2	43.9	7.4	57.5	21.6	13.8	7.2
18～29歳	124	55.6	18.5	25.8	-	85.5	5.6	8.9	-	56.5	18.5	25.0	-	83.1	11.3	5.6	-
30～39歳	164	53.7	22.0	23.2	1.2	91.5	6.7	1.8	-	45.7	20.7	33.5	-	87.8	11.0	1.2	-
40～49歳	210	37.6	25.2	33.8	3.3	81.4	9.0	8.1	1.4	38.6	18.1	41.9	1.4	77.6	13.3	7.6	1.4
50～59歳	267	33.3	25.1	39.3	2.2	76.0	16.1	6.0	1.9	39.7	20.6	38.2	1.5	71.5	19.9	7.9	0.7
60～69歳	211	16.1	32.7	47.4	3.8	58.8	23.7	14.7	2.8	21.3	19.0	56.4	3.3	53.6	29.9	13.7	2.8
70歳以上	442	7.5	20.1	52.0	20.4	27.1	26.5	27.4	19.0	12.0	15.6	52.0	20.4	22.9	29.2	27.4	20.6
男性全体	1,051	30.7	19.3	43.7	6.3	55.8	17.4	21.2	5.6	21.5	18.7	54.0	5.7	51.7	21.7	20.8	5.8
18～29歳	80	45.0	20.0	33.8	1.3	75.0	8.8	15.0	1.3	40.0	12.5	46.3	1.3	62.5	16.3	20.0	1.3
30～39歳	104	54.8	18.3	25.0	1.9	78.8	11.5	9.6	-	29.8	19.2	51.0	-	74.0	16.3	9.6	-
40～49歳	171	47.4	17.5	34.5	0.6	75.4	14.0	9.9	0.6	31.0	18.7	49.1	1.2	69.6	19.9	9.9	0.6
50～59歳	183	36.1	23.0	38.8	2.2	67.2	17.5	13.7	1.6	24.6	21.3	52.5	1.6	61.7	21.9	14.8	1.6
60～69歳	185	29.2	18.9	43.8	8.1	53.5	17.8	23.2	5.4	16.8	22.7	54.1	6.5	50.3	22.7	22.2	4.9
70歳以上	326	8.9	18.7	59.2	13.2	28.5	23.0	35.0	13.5	10.4	16.6	60.1	12.9	27.9	25.2	32.5	14.4

(2) 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否

◇『賛成』が1割半ば、『反対』が6割強



「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否については、「反対」(34.1%)が最も多く、次いで、「どちらかといえば反対」(29.8%)、「どちらかといえば賛成」(13.8%)、「賛成」(2.5%)となっている。「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成』(16.3%)は1割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば反対」と「反対」を合わせた『反対』(63.9%)は6割強となっている。

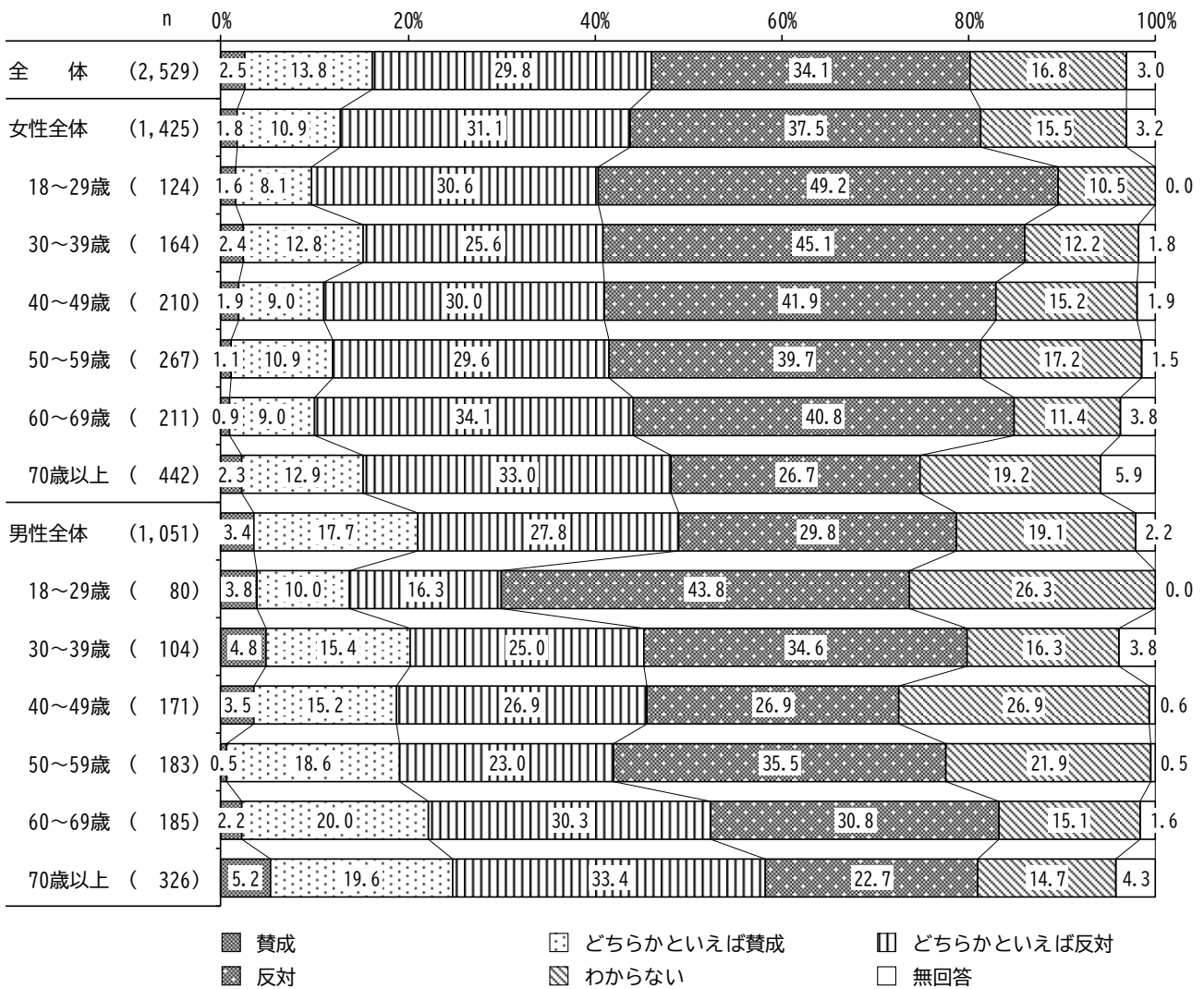
過去2回の調査と比較すると、『賛成』は令和元年度(25.2%)と比べ8.9ポイント、平成28年度(31.4%)と比べ15.1ポイント、調査ごとに減少している。一方、『反対』は増加傾向にある。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『賛成』は男性（21.1%）が女性（12.7%）を8.4ポイント上回っている。一方、『反対』は女性（68.6%）が男性（57.6%）を11.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『賛成』は男性 70 歳以上（24.8%）が2割半ばで最も多く、男性 30 歳代（20.2%）、60 歳代（22.2%）も2割台となっている。一方、女性 18～29 歳（9.7%）は1割未満となっている。また、『反対』は女性 18～29 歳（79.8%）が約8割で最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

図表 10-2-2 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」という考え方の賛否



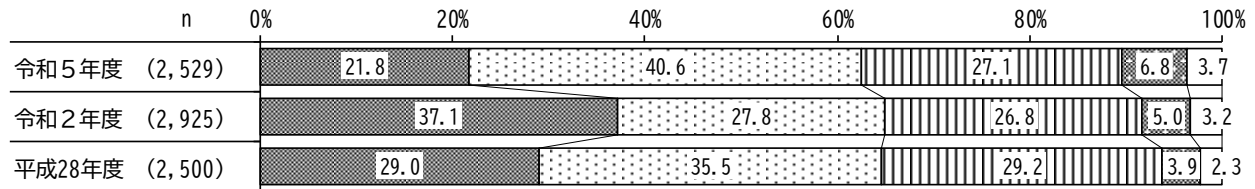
(3) 各分野での男女平等

◇「平等になっている」は「イ 教育の中で」が約3割

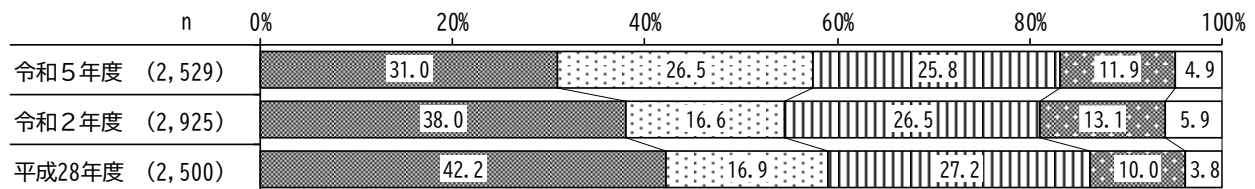
問 35. 次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 10-3-1 各分野での男女平等

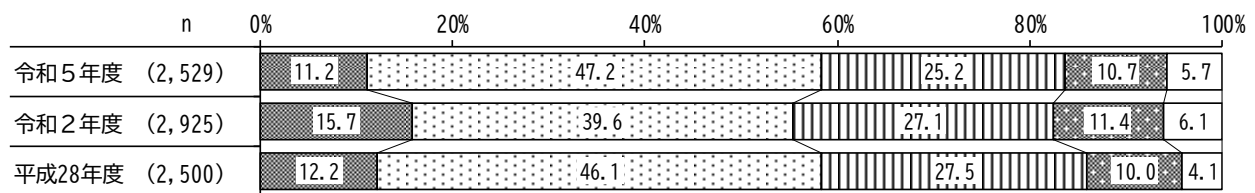
ア 家庭の中で



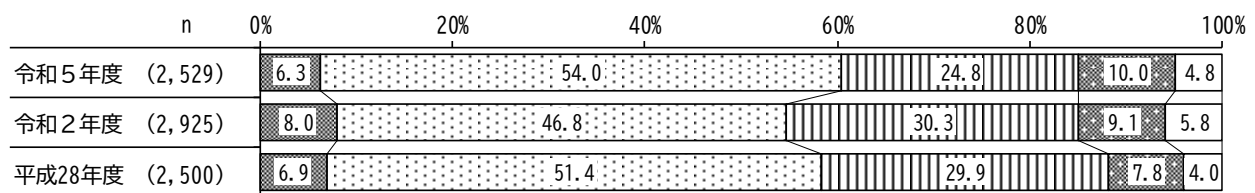
イ 教育の中で



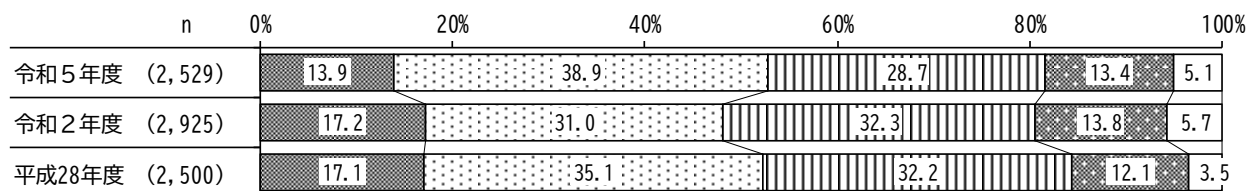
ウ 職場の中で



エ 社会通念や風潮において



オ 法律や制度上で



平等になっている
 平等になっていない
 どちらともいえない
 わからない
 無回答

各分野での男女平等については、「平等になっている」は「イ 教育の中で」(31.0%)が約3割、「平等になっていない」は「エ 社会通念や風潮において」(54.0%)が5割半ばで最も多くなっている。

過去の調査と比較すると、「平等になっている」は「ア 家庭の中で」(21.8%)が令和2年度(37.1%)と比べ15.3ポイント減少し、「イ 教育の中で」も令和2年度(38.0%)と比べ7.0ポイント、平成28年度(42.2%)と比べ11.2ポイント、調査ごとに減少している。一方、「平等になっていない」はすべての項目で令和2年度を7ポイント以上上回っている。

「ア 家庭の中で」について性別でみると、「平等になっている」は男性(29.3%)が女性(15.9%)を13.4ポイント上回っている。女性は「平等になっていない」(49.0%)が「平等になっている」を33.1ポイント上回っている一方、男性は「平等になっている」と「平等になっていない」(30.2%)がほぼ同率となっている。

性・年齢別でみると、「平等になっている」は男性60歳代(31.9%)が最も多く、男性70歳以上(31.3%)も約3割となっている。一方、女性は18~29歳(20.2%)を除き1割台と少なくなっている。「平等になっていない」は女性50歳代以下(53.2%、58.5%、57.6%、52.1%)で5割台、女性60歳代(48.3%)、男性30歳代(45.2%)で4割台となっている。

「イ 教育の中で」について性別でみると、「平等になっている」は男性(38.1%)が女性(25.8%)を12.3ポイント上回っている。女性は「平等になっていない」(28.8%)が「平等になっている」をやや上回る一方、男性は「平等になっている」が「平等になっていない」(23.7%)を14.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「平等になっている」は男性18~29歳(42.5%)、30歳代(42.3%)で4割強を占め、男性40歳代以上も3割台となっている。女性は18~29歳(37.1%)、30歳代(35.4%)で3割台、40歳代以上は男性より1割以上少なくなっている。「平等になっていない」は女性18~29歳(33.9%)が最も多く、女性50歳代以下で3割強を占めている。

「ウ 職場の中で」について性別でみると、「平等になっている」は男性(14.9%)が女性(8.5%)を6.4ポイント上回っている。「平等になっていない」は女性(50.0%)が男性(43.7%)を6.3ポイント上回り、男女とも「平等になっている」より2割以上多くなっている。

性・年齢別でみると、「平等になっている」は男性50歳代(20.8%)を除き、男女とも2割未満となっている。「平等になっていない」は女性30歳代(60.4%)が最も多く、女性18~29歳(52.4%)、40歳代~60歳代(55.2%、55.4%、57.8%)、男性18~29歳(50.0%)、30歳代(57.7%)も5割台となっている。

「エ 社会通念や風潮において」について性別でみると、「平等になっている」は男性(10.1%)が女性(3.5%)を6.6ポイント上回っている。「平等になっていない」は女性(58.9%)が男性(48.2%)を10.7ポイント上回り、男女とも「平等になっている」より3割以上多くなっている。

性・年齢別でみると、「平等になっている」は女性はずべての年齢で1割未満、男性は約1割~1割となっている。「平等になっていない」は男女とも60歳代以下で5割以上を占め、女性30歳代(71.3%)、40歳代(69.0%)は約7割となっている。

「オ 法律や制度上で」について性別で見ると、「平等になっている」は男性（21.5%）が女性（8.1%）を13.4ポイント上回っている。「平等になっていない」は女性（42.7%）が男性（34.4%）を8.3ポイント上回っている。男女とも「平等になっていない」が「平等になっている」を上回っているが、女性は差が34.6ポイントと、男性（12.9ポイント）より大きくなっている。

性・年齢別で見ると、「平等になっている」は男性50歳代（23.5%）が最も多く、男性18～29歳（21.3%）、60歳代（22.7%）、70歳代（23.0%）も2割台となっている。一方、女性はすべての年齢で1割未満となっている。「平等になっていない」は女性30歳代（58.5%）が6割弱で最も多く、女性18～29歳（50.0%）、男性30歳代（51.0%）も5割台となっている。

図表10-3-2 性・年齢別 各分野での男女平等

(%)

	調査数（人）	ア 家庭の中で					イ 教育の中で					ウ 職場の中で				
		い平等になって	い平等になって	いどえちならないとも	わからない	無回答	い平等になって	い平等になって	いどえちならないとも	わからない	無回答	い平等になって	い平等になって	いどえちならないとも	わからない	無回答
全体	2,529	21.8	40.6	27.1	6.8	3.7	31.0	26.5	25.8	11.9	4.9	11.2	47.2	25.2	10.7	5.7
女性全体	1,425	15.9	49.0	25.5	6.1	3.6	25.8	28.8	27.6	12.7	5.1	8.5	50.0	25.2	10.2	6.0
18～29歳	124	20.2	53.2	19.4	7.3	-	37.1	33.9	24.2	4.8	-	16.9	52.4	20.2	10.5	-
30～39歳	164	18.3	58.5	18.9	4.3	-	35.4	32.3	24.4	7.9	-	14.0	60.4	22.6	2.4	0.6
40～49歳	210	13.8	57.6	22.4	4.3	1.9	25.7	33.3	29.5	10.0	1.4	10.5	55.2	23.8	8.1	2.4
50～59歳	267	14.6	52.1	28.1	4.9	0.4	23.6	33.0	29.2	13.5	0.7	6.7	55.4	32.2	4.9	0.7
60～69歳	211	14.2	48.3	29.9	4.7	2.8	22.7	28.9	35.5	9.5	3.3	5.7	57.8	30.3	3.3	2.8
70歳以上	442	16.3	38.7	27.1	8.8	9.0	21.9	21.5	23.8	19.0	13.8	5.7	35.3	21.9	20.8	16.3
男性全体	1,051	29.3	30.2	29.6	7.9	3.0	38.1	23.7	23.9	10.9	3.4	14.9	43.7	25.8	11.4	4.2
18～29歳	80	27.5	36.3	22.5	13.8	-	42.5	25.0	18.8	13.8	-	11.3	50.0	18.8	20.0	-
30～39歳	104	25.0	45.2	23.1	6.7	-	42.3	29.8	21.2	6.7	-	17.3	57.7	20.2	4.8	-
40～49歳	171	29.2	31.0	31.6	7.6	0.6	39.2	22.2	29.8	8.2	0.6	19.9	38.6	33.9	6.4	1.2
50～59歳	183	26.2	33.3	31.7	7.7	1.1	38.3	27.9	24.0	8.7	1.1	20.8	49.2	21.9	6.6	1.6
60～69歳	185	31.9	27.0	31.9	6.5	2.7	37.8	23.2	24.9	10.3	3.8	14.6	43.2	29.2	9.7	3.2
70歳以上	326	31.3	23.6	29.8	8.0	7.4	35.3	20.2	21.8	14.7	8.0	9.5	37.7	24.8	17.8	10.1

(%)

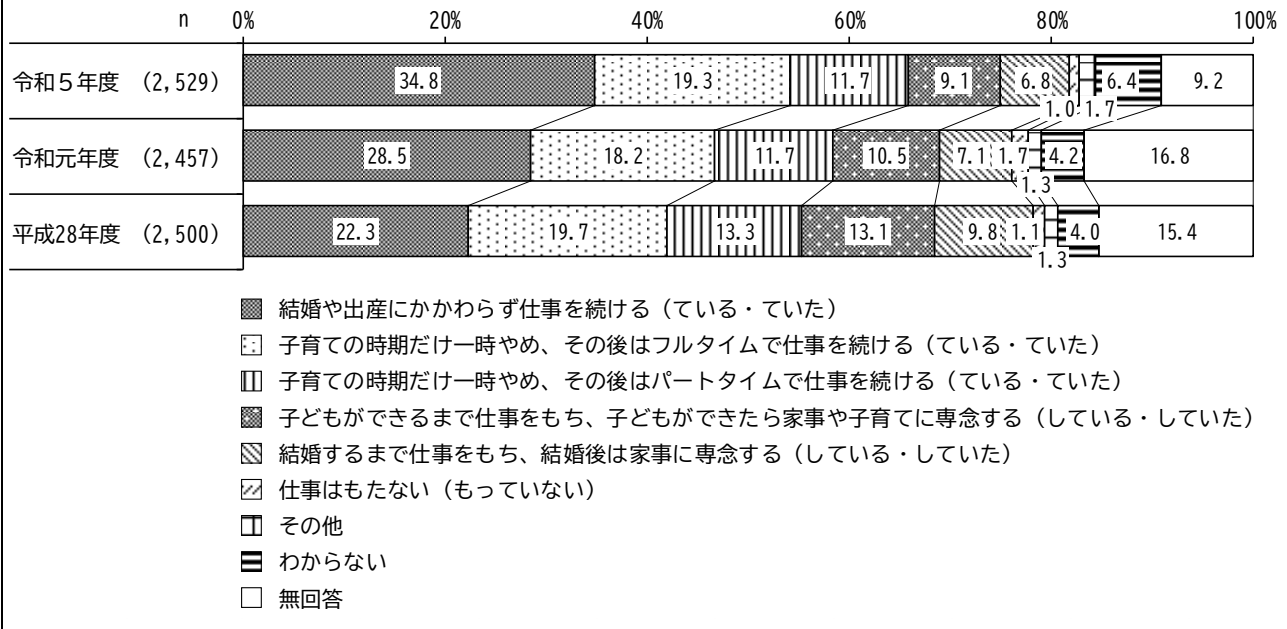
	調査数（人）	エ 社会通念や風潮において					オ 法律や制度上で				
		い平等になって	い平等になって	いどえちならないとも	わからない	無回答	い平等になって	い平等になって	いどえちならないとも	わからない	無回答
全体	2,529	6.3	54.0	24.8	10.0	4.8	13.9	38.9	28.7	13.4	5.1
女性全体	1,425	3.5	58.9	22.5	9.7	5.3	8.1	42.7	30.5	13.3	5.4
18～29歳	124	3.2	65.3	23.4	8.1	-	9.7	50.0	29.8	10.5	-
30～39歳	164	5.5	71.3	19.5	3.0	0.6	7.9	58.5	26.8	6.1	0.6
40～49歳	210	4.3	69.0	21.9	3.3	1.4	9.5	48.6	34.8	5.2	1.9
50～59歳	267	1.9	67.4	24.3	6.0	0.4	5.6	47.9	33.7	12.0	0.7
60～69歳	211	1.9	62.1	24.2	8.1	3.8	6.6	43.6	34.1	12.3	3.3
70歳以上	442	4.3	40.7	22.2	18.6	14.3	9.5	27.8	26.5	21.9	14.3
男性全体	1,051	10.1	48.2	27.9	10.7	3.1	21.5	34.4	26.9	13.4	3.7
18～29歳	80	10.0	52.5	20.0	17.5	-	21.3	41.3	13.8	23.8	-
30～39歳	104	10.6	62.5	23.1	3.8	-	15.4	51.0	28.8	4.8	-
40～49歳	171	9.4	51.5	31.0	7.6	0.6	19.3	42.7	26.3	11.1	0.6
50～59歳	183	10.4	51.9	26.2	10.4	1.1	23.5	35.0	28.4	11.5	1.6
60～69歳	185	10.3	51.9	27.0	8.6	2.2	22.7	34.6	28.6	10.8	3.2
70歳以上	326	10.1	37.1	31.0	13.8	8.0	23.0	23.0	27.9	17.2	8.9

(4) 女性の働き方（理想）

◇理想の働き方は「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が3割半ば

問 36. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身や身近な方の状況）」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図表 10-4-1 女性の働き方（理想）



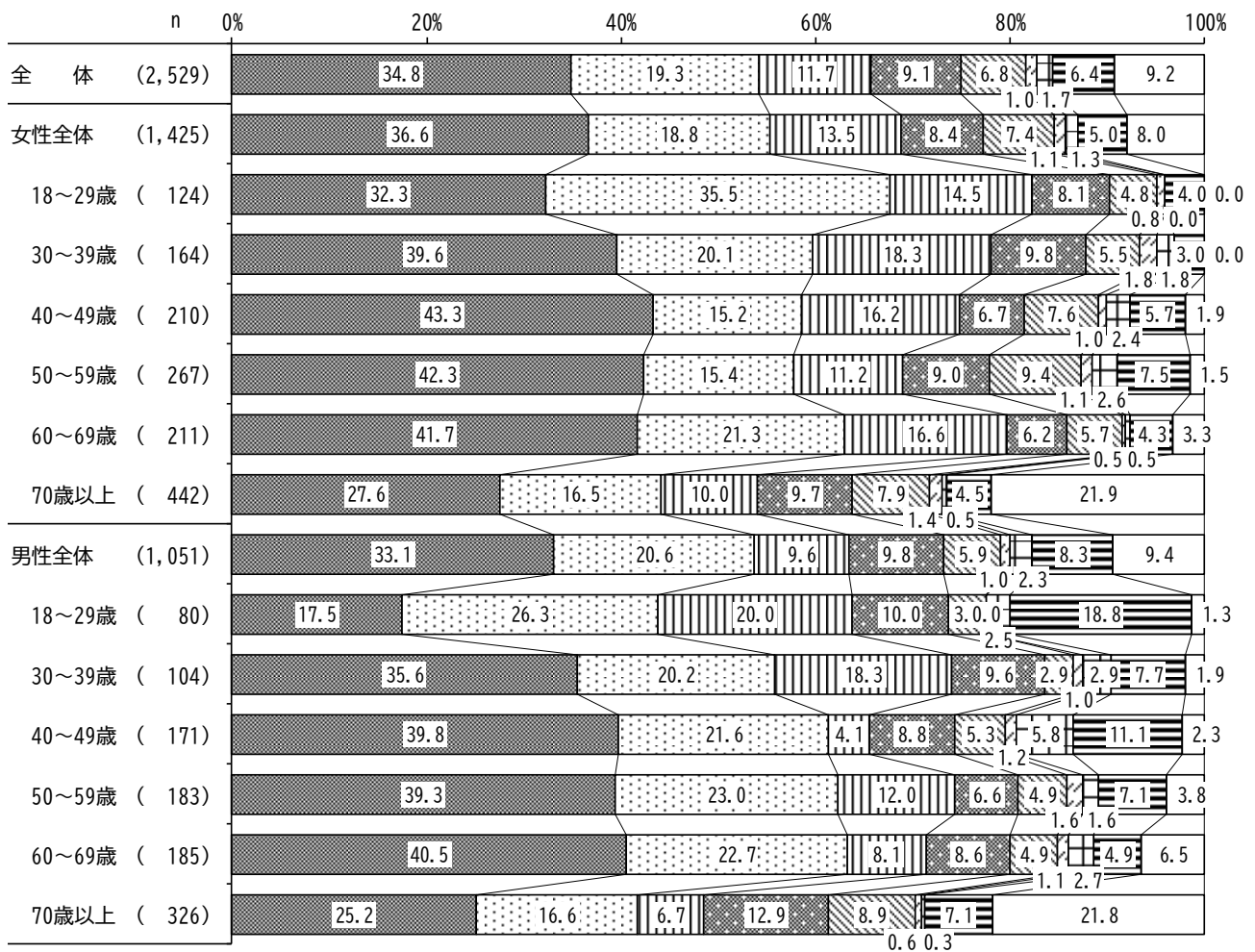
理想とする女性の働き方については、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」(34.8%)が最も多く、次いで、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(19.3%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(11.7%)、「子どもができるまで仕事もち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）」(9.1%)、「結婚するまで仕事もち、結婚後は家事に専念する（している・していた）」(6.8%)、「仕事はもたない（もっていない）」(1.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」は令和元年度(28.5%)と比べ6.3ポイント、平成28年度(22.3%)と比べ12.5ポイント、調査ごとに増加している。

性別でみると「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」は女性（13.5%）が男性（9.6%）を3.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」は女性40歳代（43.3%）が4割強で最も多く、女性50歳代（42.3%）、60歳代（41.7%）、男性60歳代（40.5%）も4割台となっている。一方、男性18～29歳（17.5%）は全体を17.3ポイント下回り、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」（26.3%）、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」（20.0%）が多くなっている。

図表10-4-2 性・年齢別 女性の働き方（理想）



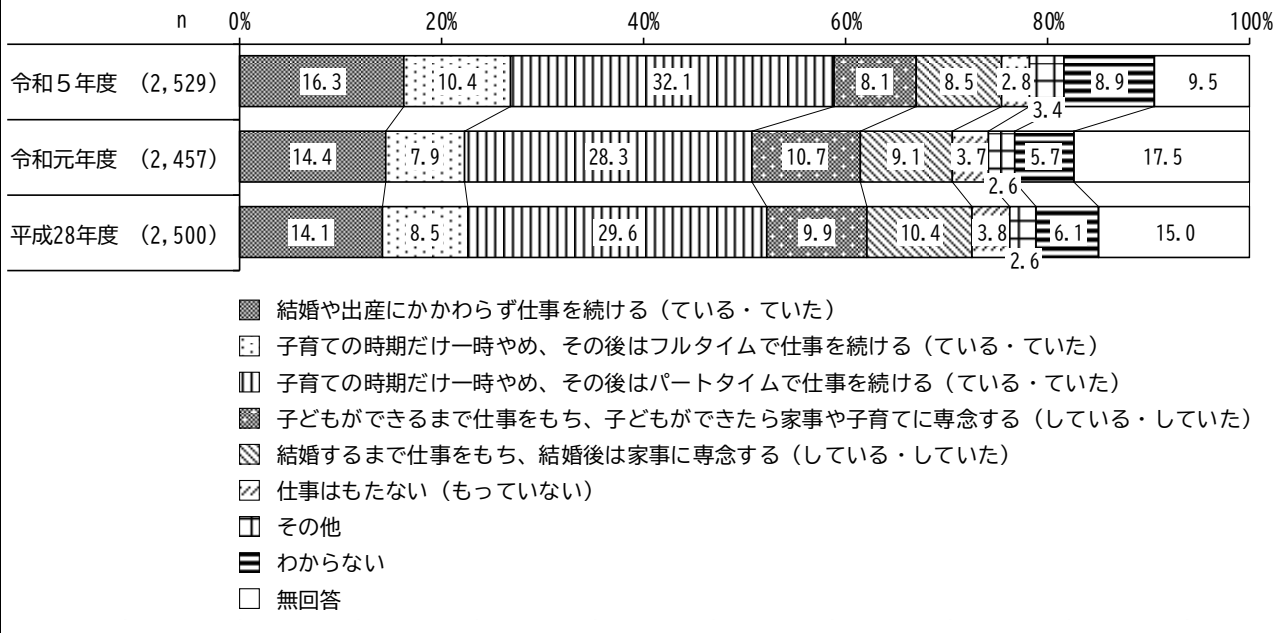
- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
- ▤ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
- ▧ 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）
- ▩ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）
- 仕事はもたない（もっていない）
- その他
- ▬ わからない
- 無回答

(5) 女性の働き方（現実）

◇現実には「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が3割強

問 36. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実（あなた自身や身近な方の状況）」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

図表 10-5-1 女性の働き方（現実）



現実の女性の働き方については、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(32.1%)が最も多く、次いで、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」(16.3%)、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」(10.4%)、「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）」(8.5%)、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）」(8.1%)、「仕事はもたない（もっていない）」(2.8%)の順となっている。

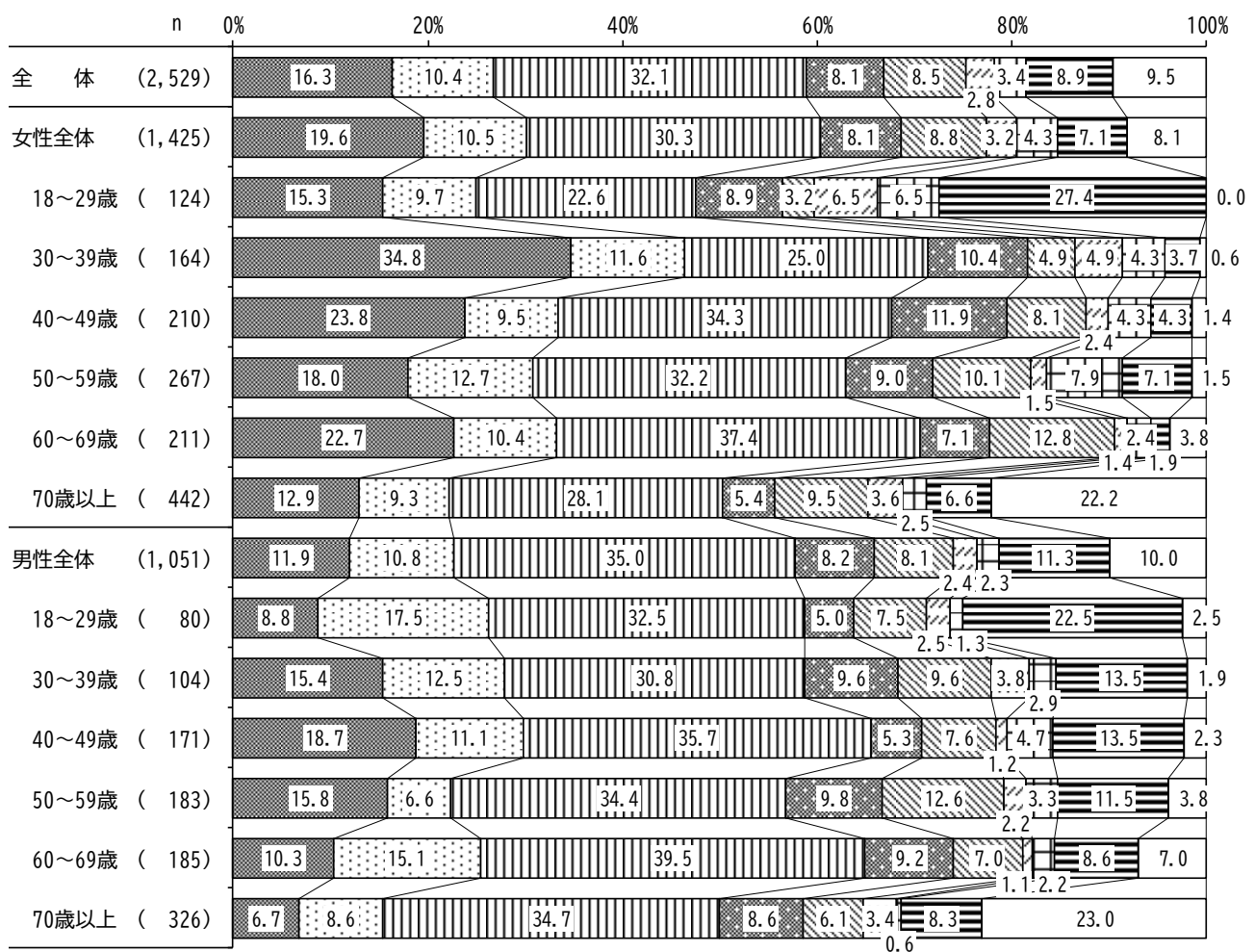
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、『仕事を続ける』（「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」）割合（58.8%）が令和元年度（50.6%）から8.2ポイント増加する一方、『仕事をやめる・もたない』（「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）」「結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）」「仕事はもたない（もっていない）」）割合（19.3%）は令和元年度（23.5%）から4.2ポイント減少している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」は女性（19.6%）が男性（11.9%）を7.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」は女性30歳代（34.8%）が3割半ばで最も多く、全体を18.5ポイント上回っている。女性30歳代以外は「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」が2割強～約4割で最も多くなっているが、女性30歳代は「結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）」が「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）」（25.0%）を9.8ポイント上回っている。

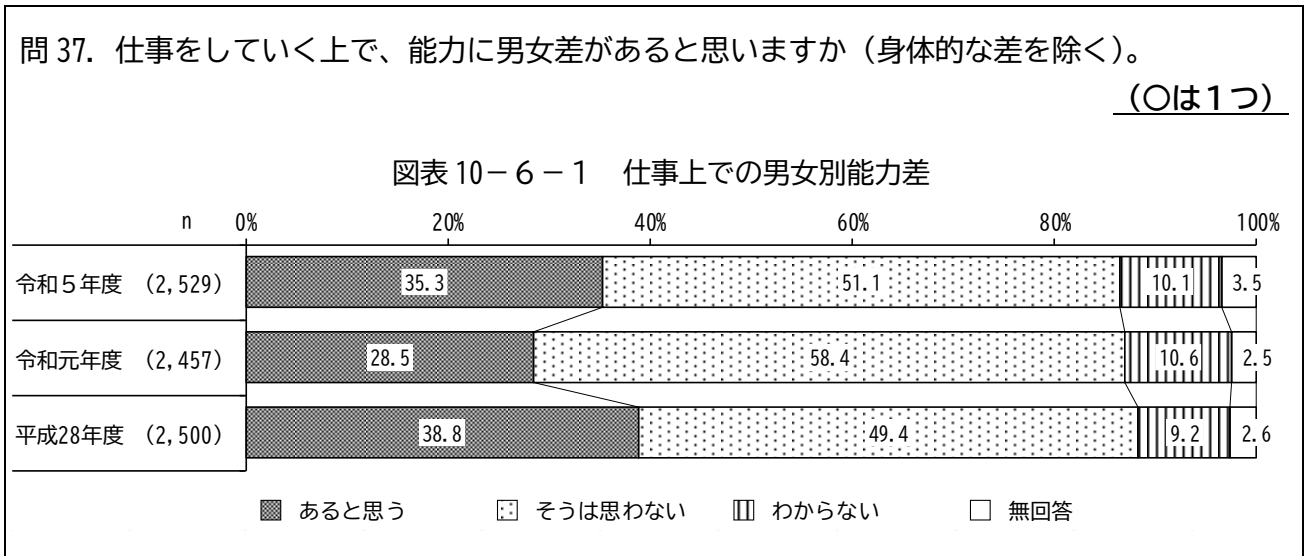
図表10-5-2 性・年齢別 女性の働き方（現実）



- 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける（ている・ていた）
- ▨ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
- ▤ 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける（ている・ていた）
- ▧ 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する（している・していた）
- ▩ 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する（している・していた）
- 仕事はもたない（もっていない）
- その他
- ▬ わからない
- 無回答

(6) 仕事上での男女別能力差

◇「そうは思わない」が約5割



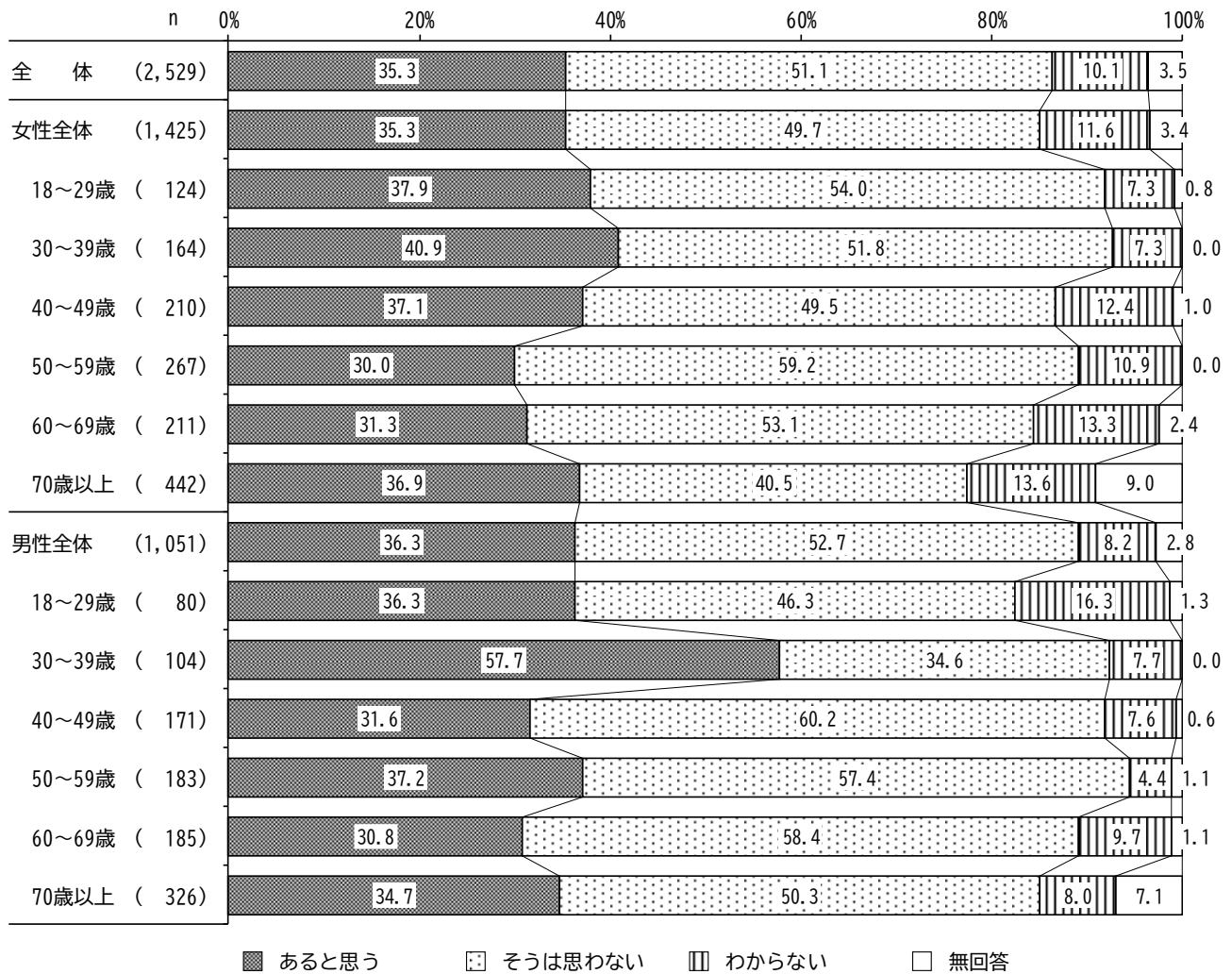
仕事をしていく上で、能力に男女差があると思うかについては、「あると思う」(35.3%)が3割半ば、「そうは思わない」(51.1%)が約5割となっている。

過去2回の調査と比較すると、「あると思う」は令和元年度(28.5%)と比べ6.8ポイント増加している。一方、「そうは思わない」は令和元年度(58.4%)と比べ7.3ポイント減少している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「あると思う」は男性30歳代(57.7%)が6割弱で最も多く、女性30歳代(40.9%)が約4割、それ以外は3割台となっている。一方、「そうは思わない」は男性40歳代(60.2%)が約6割で最も多くなっている。男性30歳代(34.6%)を除き、男女とも「そうは思わない」が「あると思う」を上回っている。

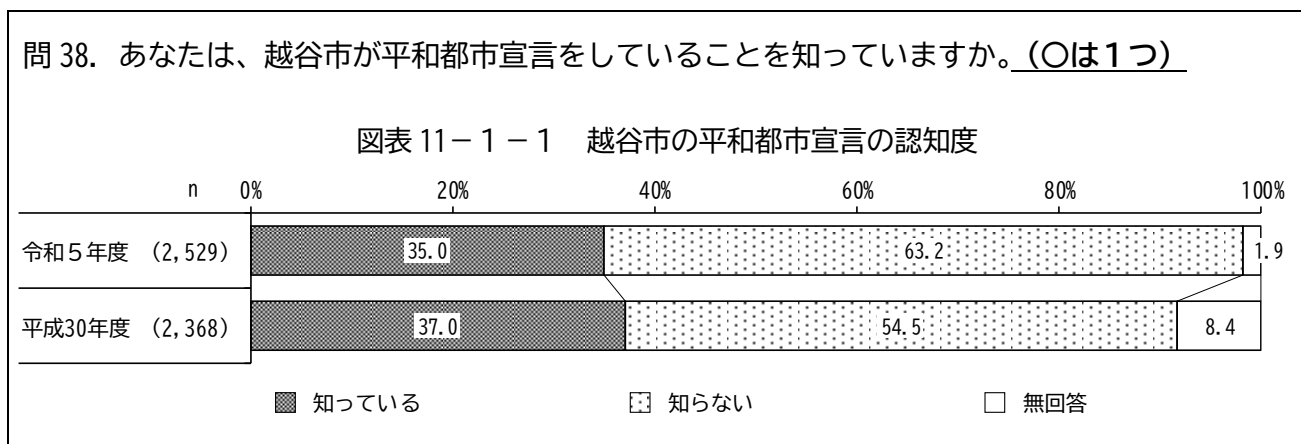
図表 10-6-2 性・年齢別 仕事上での男女別能力差



11. 平和事業について

(1) 越谷市の平和都市宣言の認知度

◇「知っている」が3割半ば



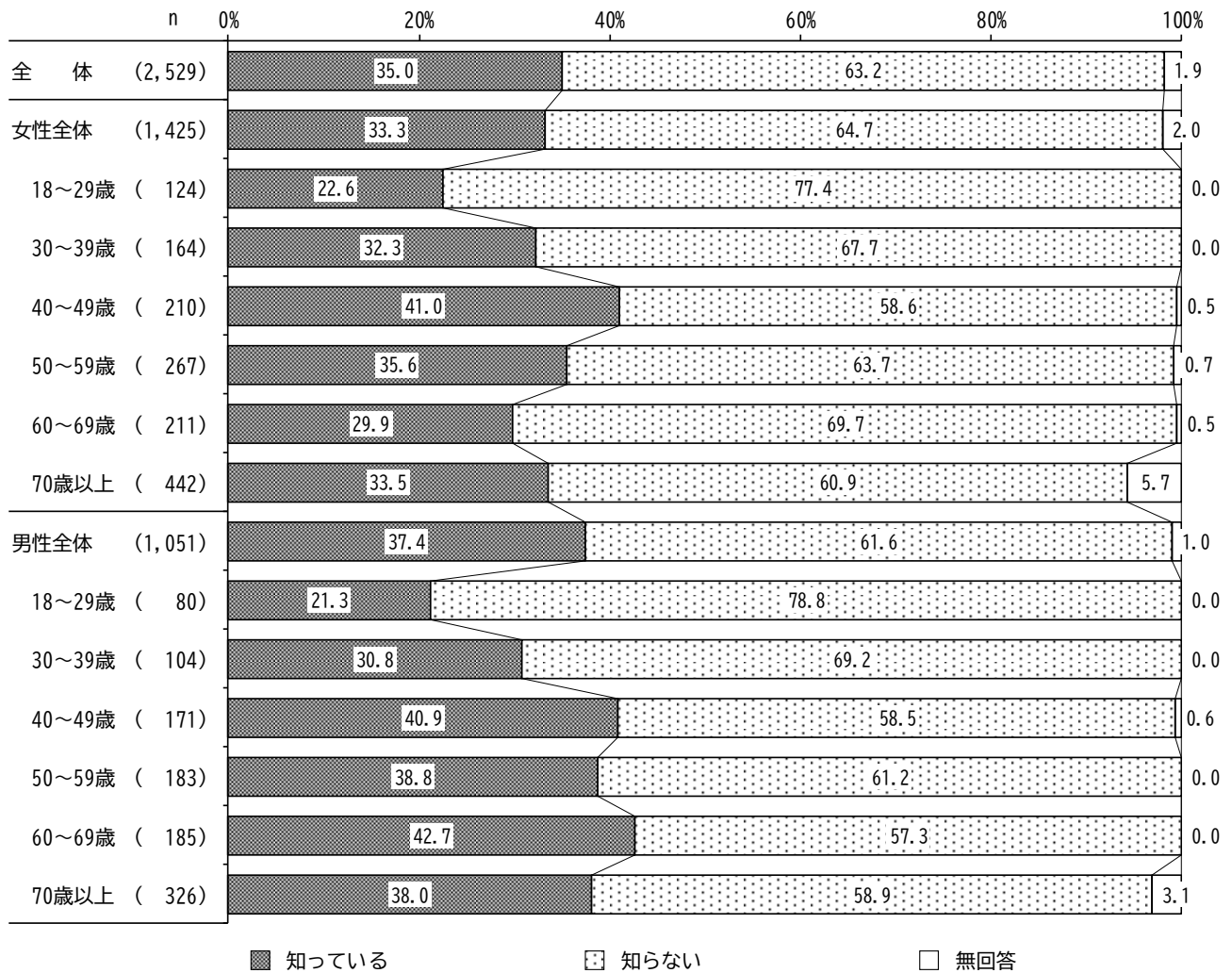
越谷市の平和都市宣言の認知度については、「知っている」(35.0%)が3割半ば、「知らない」(63.2%)が6割強となっている。

前回の調査と比較すると、「知らない」は平成30年度(54.5%)と比べ8.7ポイント増加している。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「知っている」は男性 60 歳代(42.7%)が 4 割強で最も多く、女性 40 歳代(41.0%)、男性 40 歳代 (40.9%) も約 4 割となっている。一方、18~29 歳は女性 (22.6%)、男性 (21.3%) とともに 2 割台で、全体を 10 ポイント以上下回っている。また、「知らない」は男性 18~29 歳 (78.8%) が 8 割弱で最も多く、男女ともすべての年齢で 5 割以上となっている。

図表 11-1-2 性・年齢別 越谷市の平和都市宣言の認知度

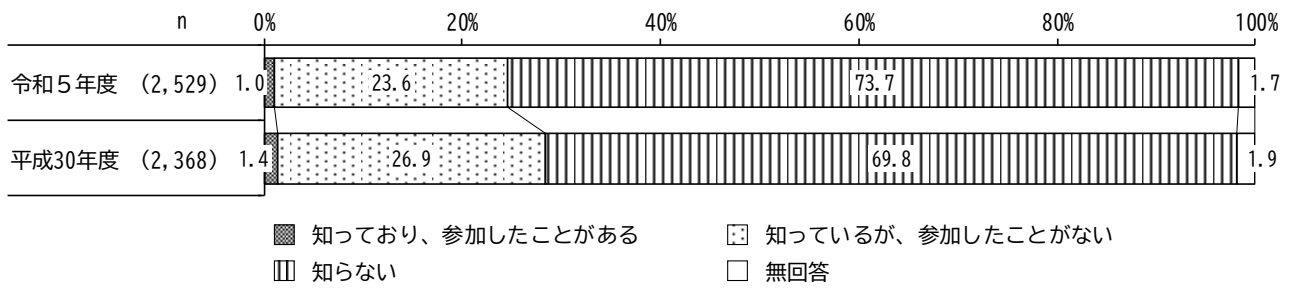


(2) 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度

◇『知っている』が2割半ば

問 39. あなたは、越谷市が主催している「平和フォーラム（平和展・平和講演会）」を知っていますか。また、参加したことがありますか。(〇は1つ)

図表 11-2-1 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度



越谷市主催「平和フォーラム」の認知度については、「知っている、参加したことがある」(1.0%)と「知っているが、参加したことがない」(23.6%)を合わせた『知っている』(24.6%)は2割半ばとなっている。一方、「知らない」(73.7%)は7割強となっている。

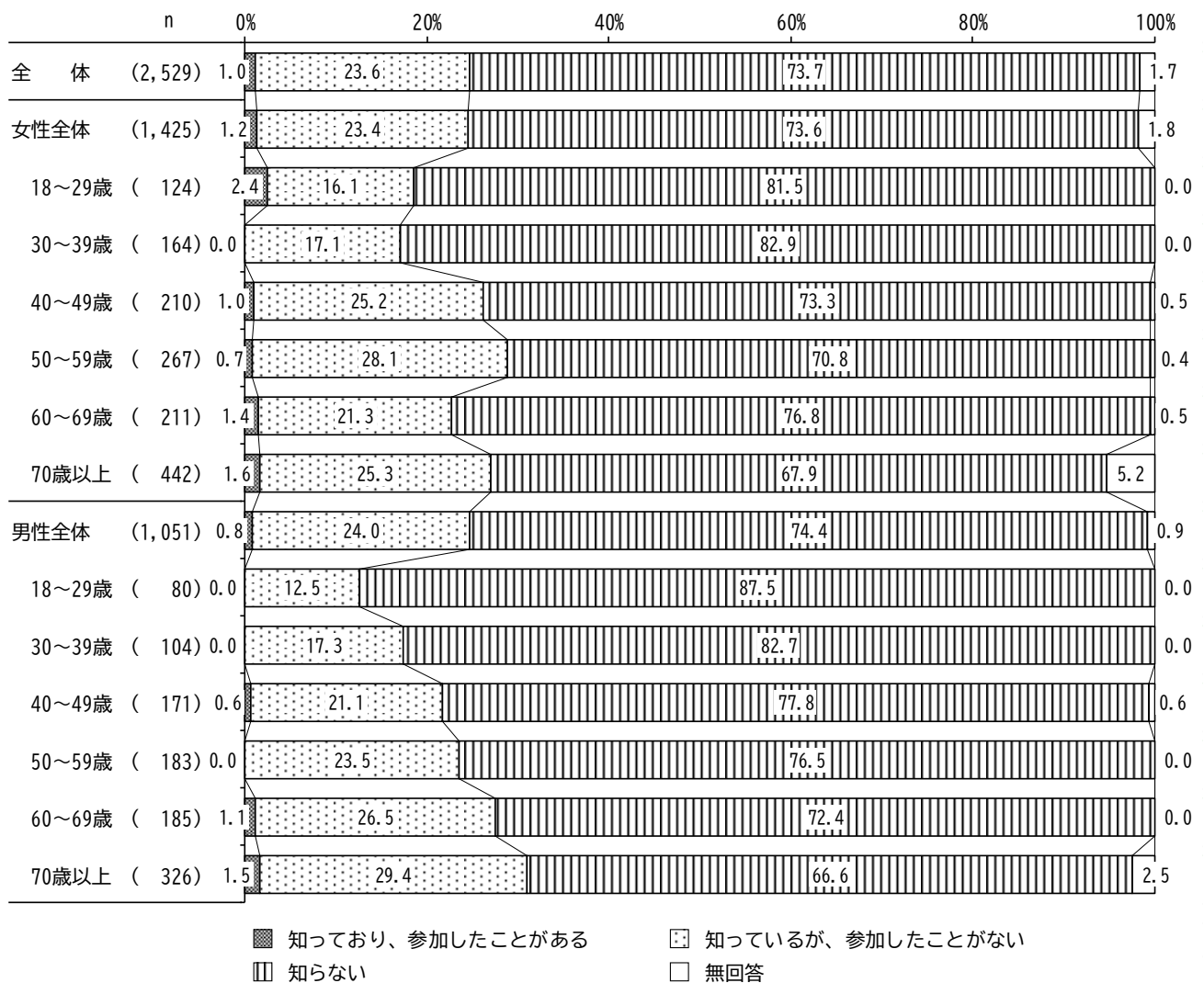
前回の調査と比較すると、大きな違いはみられない。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『知っている』は男性70歳以上(31.0%)が約3割で最も多くなっている。一方、女性30歳代以下(18.5%、17.1%)、男性30歳代以下(12.5%、17.3%)は1割台となっており、男性では年齢が上がるにつれ、『知っている』が増加する傾向にある。また、「知らない」は男性18~29歳(87.5%)が9割弱で最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上となっている。

図表 11-2-2 性・年齢別 越谷市主催「平和フォーラム」の認知度

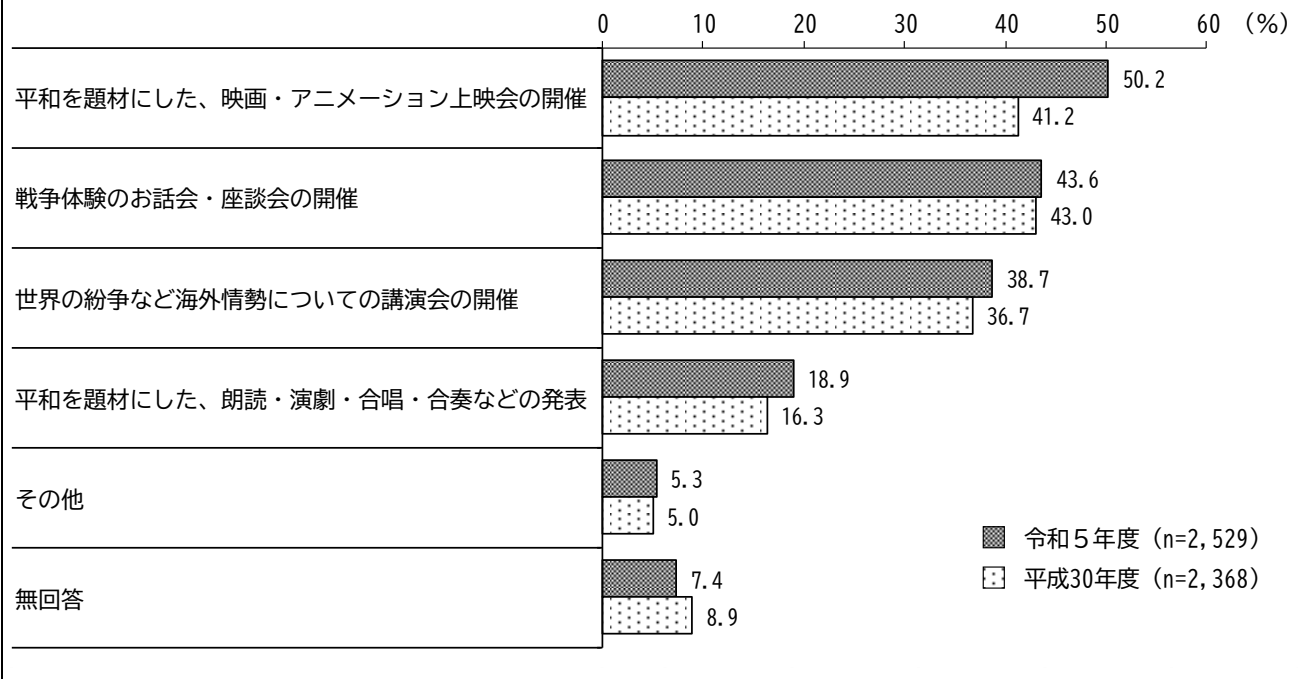


(3) 平和への意識を高めるために効果的な事業

◇「平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催」が最も多く、約5割

問 40. 越谷市では、平和について考える機会として、広島平和記念式典参加事業や平和フォーラム（平和展・平和講演会）を実施していますが、平和の意識を高めるには、どのような事業が効果的だと思いますか。（〇はいくつでも）

図表 11-3-1 平和への意識を高めるために効果的な事業



平和への意識を高めるために効果的な事業については、「平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催」(50.2%)が最も多く、次いで、「戦争体験のお話会・座談会の開催」(43.6%)、「世界の紛争など海外情勢についての講演会の開催」(38.7%)、「平和を題材にした、朗読・演劇・合唱・合奏などの発表」(18.9%)の順となっている。

前回の調査と比較すると、「平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催」は平成30年度(41.2%)と比べ、9.0ポイント増加している。

性別でみると、「戦争体験のお話会・座談会の開催」は女性（48.6%）が男性（37.6%）を11.0ポイント、「平和を題材にした、朗読・演劇・合唱・合奏などの発表」（女性21.4%、男性15.9%）は5.5ポイント上回っている。一方、「世界の紛争など海外情勢についての講演会の開催」は男性（41.9%）が女性（36.6%）を5.3ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催」は女性30歳代（59.8%）が約6割で最も多く、女性18～29歳（57.3%）、40歳代～60歳代（54.8%、53.6%、54.5%）、男性18～29歳（55.0%）、30歳代（50.0%）、50歳代（52.5%）も5割台となっている。「戦争体験のおはなし会や座談会の開催」は女性18～29歳（54.8%）、30歳代（54.9%）、50歳代（53.2%）で5割台と多くなっている。「世界の紛争など海外情勢についての講演会開催」は、特に男性で年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、60歳代（44.9%）、70歳以上（45.7%）は4割半ばとなっている。また、「平和を題材にした、朗読・演劇・合唱・合奏などの発表」は女性30歳代（29.9%）で全体を11.0ポイント上回り、女性40歳代（25.2%）、男性30歳代（26.0%）も多くなっている。

図表11-3-2 性・年齢別 平和への意識を高めるために効果的な事業

	調査数（人）	平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催	戦争体験のお話会・座談会の開催	世界の紛争など海外情勢についての講演会の開催	平和を題材にした、朗読・演劇・合唱・合奏などの発表	その他	無回答
全体	2,529	50.2	43.6	38.7	18.9	5.3	7.4
女性全体	1,425	52.4	48.6	36.6	21.4	4.5	7.5
18～29歳	124	57.3	54.8	34.7	18.5	6.5	0.8
30～39歳	164	59.8	54.9	38.4	29.9	6.1	3.7
40～49歳	210	54.8	49.0	38.1	25.2	5.7	1.9
50～59歳	267	53.6	53.2	36.3	18.0	6.4	3.4
60～69歳	211	54.5	41.7	33.6	19.4	3.3	7.6
70歳以上	442	45.5	45.2	37.3	19.9	2.3	16.1
男性全体	1,051	48.0	37.6	41.9	15.9	6.6	6.1
18～29歳	80	55.0	35.0	33.8	7.5	5.0	3.8
30～39歳	104	50.0	36.5	37.5	26.0	8.7	1.0
40～49歳	171	49.7	36.8	38.6	15.2	9.4	2.3
50～59歳	183	52.5	40.4	41.0	14.2	3.8	2.2
60～69歳	185	47.0	34.1	44.9	13.5	8.6	5.9
70歳以上	326	42.9	39.6	45.7	17.5	5.2	12.3

12. 市民相談や法律相談などの各種相談窓口について

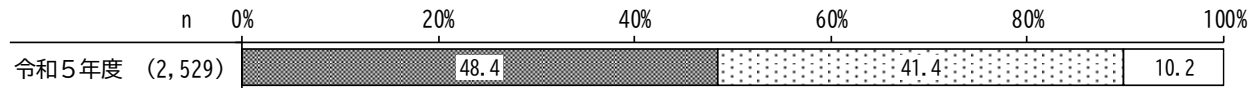
(1) 各種相談窓口の認知度

◇「市民相談 [日常生活全般における相続、離婚などの民事関係の相談]」が最も多く、5割弱

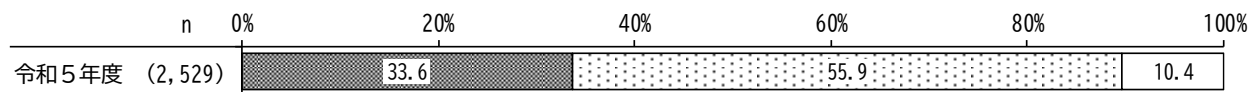
問 41. 市役所で開設している各種相談窓口について、あなたが「知っているもの」「困った時に利用したいもの」を選んでください。(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 12-1-1 各種相談窓口の認知度

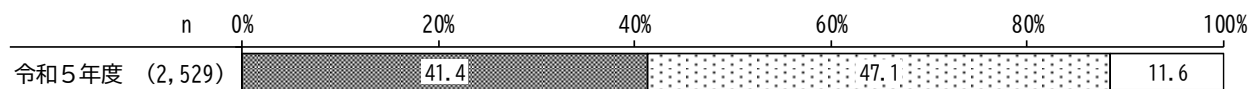
ア 市民相談 [日常生活全般における相続、離婚などの民事関係の相談]



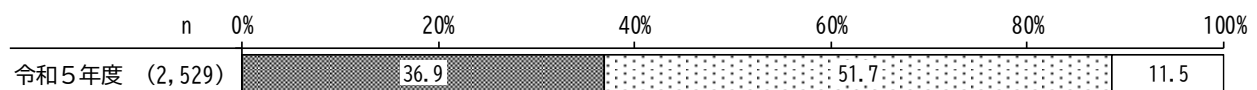
イ 交通事故相談 [交通事故による補償問題や手続きなどの相談]



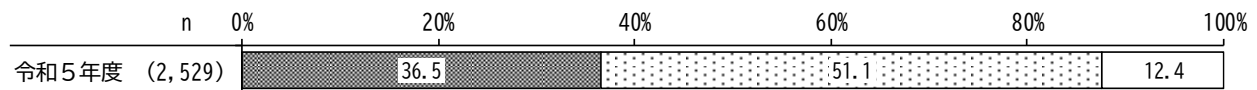
ウ 法律相談(平日) [法律上の諸問題などを弁護士が相談に応じる]



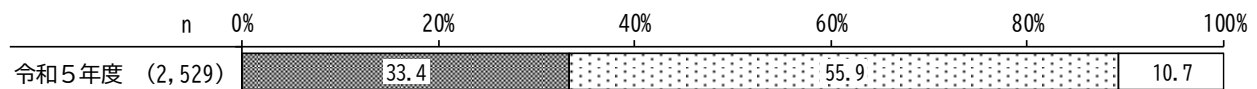
エ 法律相談(休日) [法律上の諸問題などを弁護士が相談に応じる]



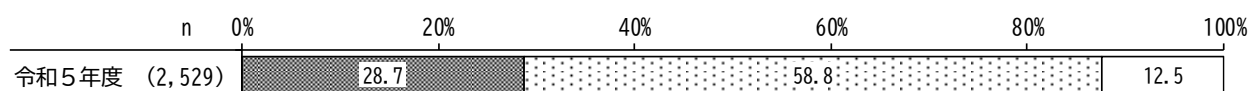
オ 税務相談 [税金関係全般について税理士が相談に応じる]



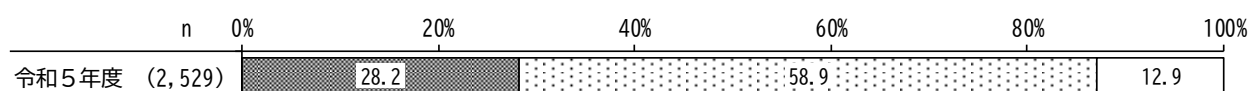
カ 登記相談 [登記等の手続きを司法書士、土地家屋調査士が相談に応じる]



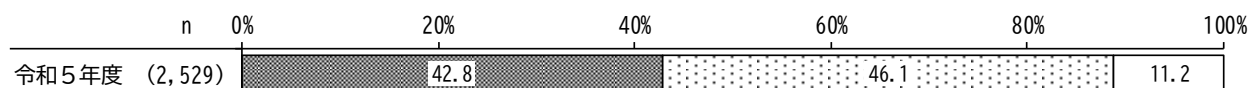
キ 行政書士相談 [営業許可などの書類作成等を行政書士が相談に応じる]



ク 行政相談 [行政上の諸問題について行政相談委員が相談に応じる]



ケ 消費生活相談 [悪徳商法、商品やサービスの契約トラブルなどの相談]



■ 知っている □ 知らない □ 無回答

各種相談窓口の認知度については、「知っている」は「ア 市民相談」(48.4%)が最も多く、次いで「ケ 消費生活相談」(42.8%)、「ウ 法律相談(平日)」(41.4%)、「エ 法律相談(休日)」(36.9%)、「オ 税務相談」(36.5%)の順となっている。一方、「知らない」は「ク 行政相談」(58.9%)が最も多い。

ア 市民相談について性別でみると、「知っている」は女性(52.6%)が男性(43.6%)を9.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性60歳代(66.8%)が最も多く、女性40歳代以上、男性70歳以上(50.3%)で5割以上となっている。

イ 交通事故相談について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性60歳代(43.6%)が最も多く、女性70歳以上(40.0%)、男性70歳以上(41.7%)も4割台となっている。

ウ 法律相談(平日)について性別でみると、「知っている」は女性(45.7%)が男性(36.5%)を9.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性60歳代(60.7%)が最も多く、女性50歳代(55.4%)も5割半ばとなっている。

エ 法律相談(休日)について性別でみると、「知っている」は女性(39.9%)が男性(33.5%)を6.4ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性60歳代(54.5%)が最も多くなっている。

オ 税務相談について性別でみると、「知っている」は女性(39.4%)が男性(33.2%)を6.2ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性60歳代(54.5%)が最も多くなっている。

カ 登記相談について性別でみると、「知っている」は女性(36.1%)が男性(30.2%)を5.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性60歳代(46.4%)が最も多く、女性50歳代(40.4%)、70歳以上(40.3%)、男性70歳以上(39.6%)も約4割となっている。

キ 行政書士相談について性別でみると、「知っている」は女性(30.9%)が男性(26.0%)を4.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性60歳代(42.7%)が最も多くなっている。

ク 行政相談について性別でみると、「知っている」は女性(30.5%)が男性(25.8%)を4.7ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、女性60歳代(40.3%)が最も多くなっている。

第4章 調査結果の詳細

ケ 消費生活相談について性別でみると、「知っている」は女性（47.4%）が男性（37.3%）を10.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「知っている」は女性60歳代（60.7%）が最も多く、女性40歳代（53.8%）、50歳代（52.4%）も5割強となっている。

図表12-1-2 性・年齢別 各種相談窓口の認知度

(%)

	調査数 (人)	ア 市民相談			イ 交通事故相談			ウ 法律相談(平日)			エ 法律相談(休日)			オ 税務相談		
		知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答
全体	2,529	48.4	41.4	10.2	33.6	55.9	10.4	41.4	47.1	11.6	36.9	51.7	11.5	36.5	51.1	12.4
女性全体	1,425	52.6	38.0	9.4	34.9	55.2	10.0	45.7	43.6	10.7	39.9	49.0	11.1	39.4	48.4	12.1
18~29歳	124	33.1	66.1	0.8	18.5	79.8	1.6	19.4	79.8	0.8	18.5	80.6	0.8	18.5	79.8	1.6
30~39歳	164	36.6	62.8	0.6	20.1	79.3	0.6	24.4	74.4	1.2	19.5	79.9	0.6	25.0	74.4	0.6
40~49歳	210	54.8	44.3	1.0	33.3	64.8	1.9	49.0	49.5	1.4	41.0	57.6	1.4	41.0	56.7	2.4
50~59歳	267	59.9	38.2	1.9	37.1	61.0	1.9	55.4	42.3	2.2	47.2	50.9	1.9	46.8	50.6	2.6
60~69歳	211	66.8	28.4	4.7	43.6	50.7	5.7	60.7	30.8	8.5	54.5	38.4	7.1	54.5	37.0	8.5
70歳以上	442	51.6	22.6	25.8	40.0	33.5	26.5	46.2	26.5	27.4	41.9	28.7	29.4	38.5	30.3	31.2
男性全体	1,051	43.6	46.6	9.8	32.4	57.8	9.7	36.5	52.5	10.9	33.5	56.3	10.2	33.2	55.9	10.9
18~29歳	80	26.3	71.3	2.5	21.3	76.3	2.5	20.0	77.5	2.5	18.8	78.8	2.5	17.5	80.0	2.5
30~39歳	104	35.6	62.5	1.9	22.1	76.0	1.9	26.0	72.1	1.9	20.2	76.9	2.9	21.2	76.9	1.9
40~49歳	171	41.5	57.3	1.2	26.3	72.5	1.2	35.1	64.3	0.6	31.0	67.8	1.2	30.4	69.0	0.6
50~59歳	183	43.2	53.0	3.8	29.5	67.2	3.3	33.3	63.9	2.7	32.8	64.5	2.7	34.4	62.3	3.3
60~69歳	185	46.5	45.9	7.6	35.7	56.2	8.1	41.1	49.7	9.2	36.2	54.6	9.2	39.5	51.4	9.2
70歳以上	326	50.3	27.0	22.7	41.7	35.9	22.4	44.2	29.4	26.4	41.4	35.0	23.6	38.0	35.6	26.4

(%)

	調査数 (人)	カ 登記相談			キ 行政書士相談			ク 行政相談			ケ 消費生活相談		
		知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答	知っている	知らない	無回答
全体	2,529	33.4	55.9	10.7	28.7	58.8	12.5	28.2	58.9	12.9	42.8	46.1	11.2
女性全体	1,425	36.1	53.5	10.4	30.9	57.1	12.0	30.5	56.8	12.8	47.4	42.5	10.0
18~29歳	124	15.3	83.9	0.8	13.7	85.5	0.8	14.5	84.7	0.8	35.5	63.7	0.8
30~39歳	164	20.7	78.0	1.2	16.5	82.3	1.2	18.9	79.3	1.8	29.9	69.5	0.6
40~49歳	210	36.2	61.4	2.4	32.4	65.2	2.4	33.8	63.3	2.9	53.8	44.8	1.4
50~59歳	267	40.4	57.7	1.9	36.0	61.8	2.2	34.5	62.5	3.0	52.4	46.1	1.5
60~69歳	211	46.4	46.0	7.6	42.7	48.3	9.0	40.3	49.8	10.0	60.7	32.2	7.1
70歳以上	442	40.3	33.3	26.5	31.9	37.3	30.8	30.5	37.6	31.9	45.0	28.5	26.5
男性全体	1,051	30.2	60.2	9.6	26.0	62.5	11.5	25.8	63.2	11.0	37.3	51.7	11.0
18~29歳	80	13.8	83.8	2.5	15.0	82.5	2.5	17.5	80.0	2.5	23.8	73.8	2.5
30~39歳	104	15.4	82.7	1.9	15.4	82.7	1.9	13.5	84.6	1.9	28.8	69.2	1.9
40~49歳	171	26.9	72.5	0.6	26.3	73.1	0.6	23.4	76.0	0.6	39.2	60.2	0.6
50~59歳	183	29.5	67.2	3.3	24.6	72.1	3.3	25.7	70.5	3.8	37.2	59.0	3.8
60~69歳	185	32.4	58.9	8.6	29.7	60.5	9.7	29.2	62.7	8.1	42.7	48.1	9.2
70歳以上	326	39.6	38.0	22.4	30.7	41.7	27.6	31.3	42.0	26.7	39.6	34.4	26.1

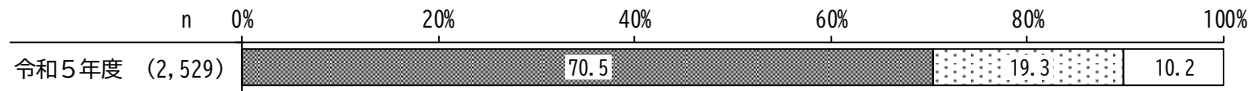
(2) 各種相談窓口の利用意向

◇「消費生活相談 [悪徳商法、商品やサービスの契約トラブルなどの相談]」が最も多く、8割弱

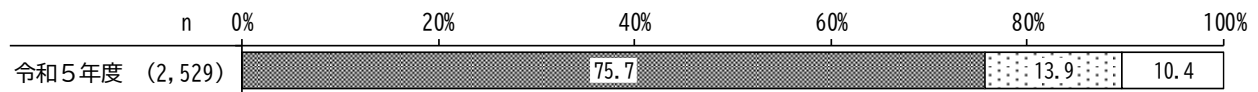
問 41. 市役所で開設している各種相談窓口について、あなたが「知っているもの」「困った時に利用したいもの」を選んでください。(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)

図表 12-2-1 各種相談窓口の利用意向

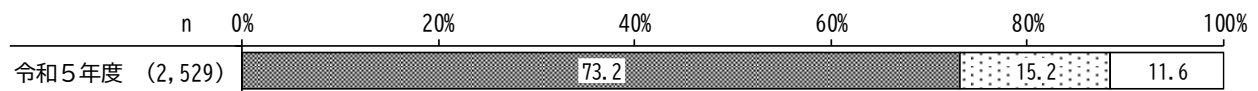
ア 市民相談 [日常生活全般における相続、離婚などの民事関係の相談]



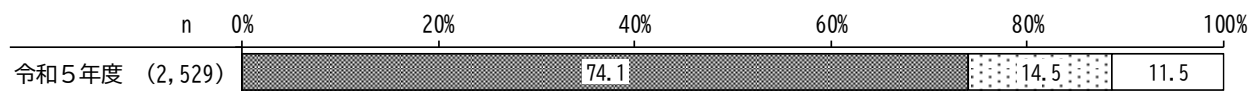
イ 交通事故相談 [交通事故による補償問題や手続きなどの相談]



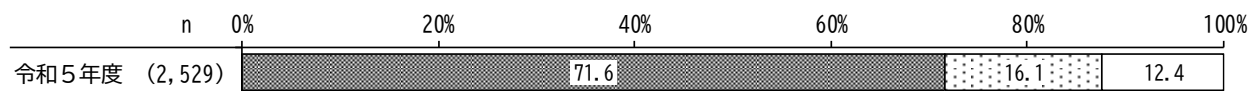
ウ 法律相談(平日) [法律上の諸問題などを弁護士が相談に応じる]



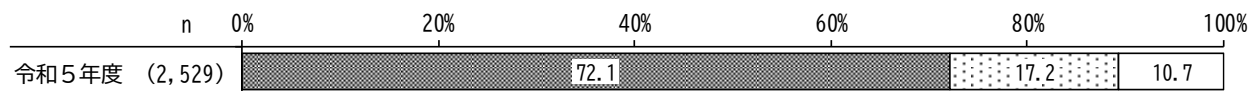
エ 法律相談(休日) [法律上の諸問題などを弁護士が相談に応じる]



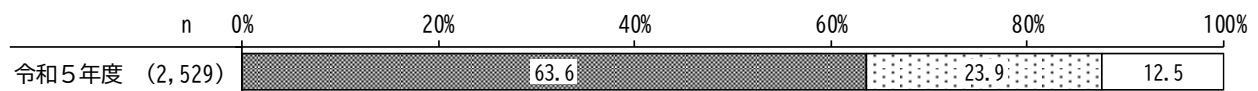
オ 税務相談 [税金関係全般について税理士が相談に応じる]



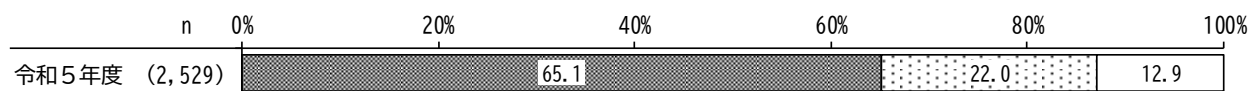
カ 登記相談 [登記等の手続きを司法書士、土地家屋調査士が相談に応じる]



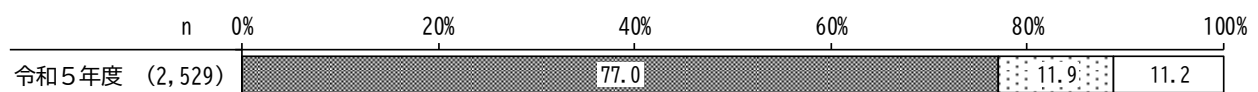
キ 行政書士相談 [営業許可などの書類作成等を行政書士が相談に応じる]



ク 行政相談 [行政上の諸問題について行政相談委員が相談に応じる]



ケ 消費生活相談 [悪徳商法、商品やサービスの契約トラブルなどの相談]



■ 利用したい □ 利用したくない □ 無回答

各種相談窓口の利用意向については、「利用したい」は「ケ 消費生活相談」(77.0%)が最も多く、次いで「イ 交通事故相談」(75.7%)、「エ 法律相談(休日)」(74.1%)、「ウ 法律相談(平日)」(73.2%)、「カ 登記相談」(72.1%)の順となり、すべての項目で6割以上となっている。

ア 市民相談について性別で見ると、「利用したい」は女性(73.7%)が男性(67.2%)を6.5ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性30歳代(87.2%)が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

イ 交通事故相談について性別で見ると、「利用したい」は女性(78.2%)が男性(73.4%)を4.8ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性30歳代(92.1%)が最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上となっている。

ウ 法律相談(平日)について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は男女とも40歳代(各87.1%)が最も多く、すべての年齢で5割以上となっている。

エ 法律相談(休日)について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性50歳代(89.1%)が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

オ 税務相談について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性30歳代(91.5%)が最も多く、女性70歳以上(47.5%)を除き5割以上となっている。

カ 登記相談について性別で見ると、「利用したい」は女性(74.7%)が男性(70.1%)を4.6ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性30歳代(87.2%)が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

キ 行政書士相談について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性30歳代(83.5%)が最も多く、男女とも60歳代以下で5割以上となっている。

ク 行政相談について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「利用したい」は女性30歳代(82.3%)が最も多く、男女とも60歳代以下で6割以上となっている。

ケ 消費生活相談について性別でみると、「利用したい」は女性（80.1%）が男性（74.1%）を6.0ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「利用したい」は女性30歳代（92.1%）が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

図表12-2-2 性・年齢別 各種相談窓口の利用意向

(%)

	調査数(人)	ア 市民相談			イ 交通事故相談			ウ 法律相談(平日)			エ 法律相談(休日)			オ 税務相談		
		利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答
全体	2,529	70.5	19.3	10.2	75.7	13.9	10.4	73.2	15.2	11.6	74.1	14.5	11.5	71.6	16.1	12.4
女性全体	1,425	73.7	16.9	9.4	78.2	11.8	10.0	75.0	14.2	10.7	75.4	13.5	11.1	73.2	14.7	12.1
18~29歳	124	85.5	13.7	0.8	90.3	8.1	1.6	82.3	16.9	0.8	87.9	11.3	0.8	87.9	10.5	1.6
30~39歳	164	87.2	12.2	0.6	92.1	7.3	0.6	83.5	15.2	1.2	87.8	11.6	0.6	91.5	7.9	0.6
40~49歳	210	84.8	14.3	1.0	86.2	11.9	1.9	87.1	11.4	1.4	88.1	10.5	1.4	86.2	11.4	2.4
50~59歳	267	83.5	14.6	1.9	88.0	10.1	1.9	86.5	11.2	2.2	89.1	9.0	1.9	85.4	12.0	2.6
60~69歳	211	77.7	17.5	4.7	78.2	16.1	5.7	78.2	13.3	8.5	78.2	14.7	7.1	77.3	14.2	8.5
70歳以上	442	52.5	21.7	25.8	60.6	12.9	26.5	56.1	16.5	27.4	52.0	18.6	29.4	47.5	21.3	31.2
男性全体	1,051	67.2	23.0	9.8	73.4	16.9	9.7	72.3	16.7	10.9	74.0	15.8	10.2	70.9	18.2	10.9
18~29歳	80	70.0	27.5	2.5	76.3	21.3	2.5	78.8	18.8	2.5	80.0	17.5	2.5	78.8	18.8	2.5
30~39歳	104	74.0	24.0	1.9	80.8	17.3	1.9	77.9	20.2	1.9	77.9	19.2	2.9	79.8	18.3	1.9
40~49歳	171	84.8	14.0	1.2	87.7	11.1	1.2	87.1	12.3	0.6	88.9	9.9	1.2	83.6	15.8	0.6
50~59歳	183	73.8	22.4	3.8	79.2	17.5	3.3	78.1	19.1	2.7	83.1	14.2	2.7	78.1	18.6	3.3
60~69歳	185	60.5	31.9	7.6	70.3	21.6	8.1	73.0	17.8	9.2	73.0	17.8	9.2	72.4	18.4	9.2
70歳以上	326	55.5	21.8	22.7	61.7	16.0	22.4	58.0	15.6	26.4	59.2	17.2	23.6	54.6	19.0	26.4

(%)

	調査数(人)	カ 登記相談			キ 行政書士相談			ク 行政相談			ケ 消費生活相談		
		利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答	利用したい	利用したくない	無回答
全体	2,529	72.1	17.2	10.7	63.6	23.9	12.5	65.1	22.0	12.9	77.0	11.9	11.2
女性全体	1,425	74.7	14.9	10.4	65.5	22.5	12.0	66.9	20.3	12.8	80.1	9.9	10.0
18~29歳	124	83.1	16.1	0.8	81.5	17.7	0.8	81.5	17.7	0.8	88.7	10.5	0.8
30~39歳	164	87.2	11.6	1.2	83.5	15.2	1.2	82.3	15.9	1.8	92.1	7.3	0.6
40~49歳	210	83.3	14.3	2.4	78.6	19.0	2.4	80.0	17.1	2.9	89.0	9.5	1.4
50~59歳	267	86.9	11.2	1.9	78.3	19.5	2.2	80.5	16.5	3.0	91.4	7.1	1.5
60~69歳	211	75.8	16.6	7.6	64.0	27.0	9.0	65.4	24.6	10.0	83.9	9.0	7.1
70歳以上	442	56.3	17.2	26.5	41.6	27.6	30.8	43.9	24.2	31.9	60.9	12.7	26.5
男性全体	1,051	70.1	20.3	9.6	62.4	26.1	11.5	64.3	24.6	11.0	74.1	14.8	11.0
18~29歳	80	76.3	21.3	2.5	75.0	22.5	2.5	73.8	23.8	2.5	81.3	16.3	2.5
30~39歳	104	76.9	21.2	1.9	74.0	24.0	1.9	74.0	24.0	1.9	75.0	23.1	1.9
40~49歳	171	84.2	15.2	0.6	78.9	20.5	0.6	80.7	18.7	0.6	87.7	11.7	0.6
50~59歳	183	73.8	23.0	3.3	68.9	27.9	3.3	69.4	26.8	3.8	82.5	13.7	3.8
60~69歳	185	70.8	20.5	8.6	59.5	30.8	9.7	66.5	25.4	8.1	75.7	15.1	9.2
70歳以上	326	56.7	20.9	22.4	45.4	27.0	27.6	46.6	26.7	26.7	59.8	14.1	26.1

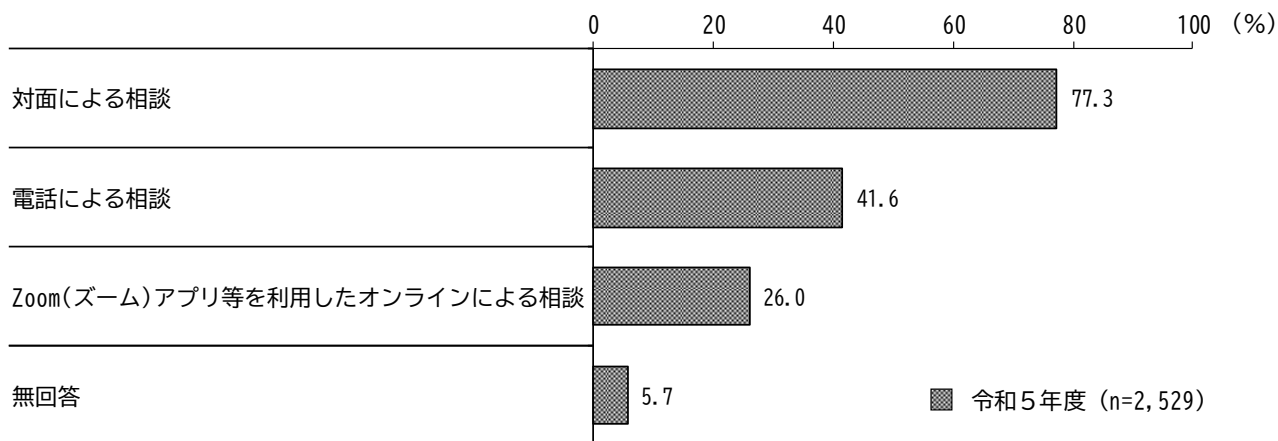
(3) 各種相談窓口での相談方法

◇「対面による相談」が最も多く、8割弱

問 42. 各種相談窓口を利用する場合、どのような相談方法がよいか選んでください。

(○はいくつでも)

図表 12-3-1 各種相談窓口での相談方法



各種相談窓口での相談方法については、「対面による相談」(77.3%)が最も多く、次いで「電話による相談」(41.6%)、「Zoom(ズーム)アプリ等を利用したオンラインによる相談」(26.0%)の順となっている。

性別で見ると、「電話による相談」は女性（44.3%）が男性（38.2%）を6.1ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「対面による相談」は女性50歳代（83.9%）が最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上となっているが、男性18～29歳（66.3%）、30歳代（69.2%）は全体を10ポイント前後下回っている。「電話による相談」は女性30歳代（55.5%）、「Zoom(ズーム)アプリ等を利用したオンラインによる相談」は女性30歳代（54.9%）、男性30歳代（50.0%）で5割台と多くなっている。「Zoom(ズーム)アプリ等を利用したオンラインによる相談」は高齢層で減少する傾向にあり、女性60歳代（15.2%）は1割半ば、70歳以上は女性（5.2%）、男性（5.8%）とも1割未満となっている。

図表 12-3-2 性・年齢別 各種相談窓口での相談方法

	調査数 (人)	対面による 相談	電話による 相談	Zoom(ズーム)アプリ等 を利用したオンラインによる 相談	無回答
全体	2,529	77.3	41.6	26.0	5.7
女性全体	1,425	78.3	44.3	26.2	5.4
18～29歳	124	75.0	38.7	46.0	1.6
30～39歳	164	76.8	55.5	54.9	1.2
40～49歳	210	79.0	40.5	40.5	2.9
50～59歳	267	83.9	49.8	31.8	1.5
60～69歳	211	82.5	44.1	15.2	3.3
70歳以上	442	74.2	40.3	5.2	12.4
男性全体	1,051	76.7	38.2	26.4	5.2
18～29歳	80	66.3	42.5	48.8	3.8
30～39歳	104	69.2	45.2	50.0	1.9
40～49歳	171	82.5	38.0	41.5	0.6
50～59歳	183	80.3	37.7	30.1	1.6
60～69歳	185	78.9	38.4	22.2	4.3
70歳以上	326	75.2	35.6	5.8	11.7

13. 地域医療体制について

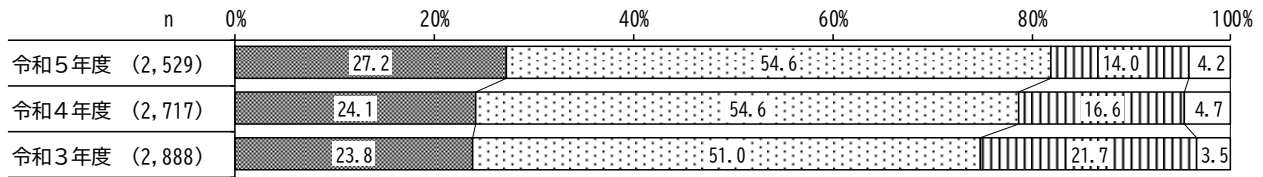
(1) 地域医療体制の認知度

◇認知度『知っている』は「越谷市夜間急患診療所」が約8割

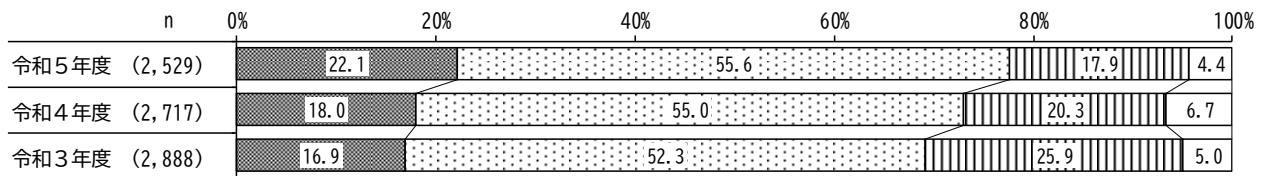
問 43. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度・埼玉県救急電話相談（#7119）・埼玉県A I 救急相談」を知っていますか。（ア～エ それぞれ横に○は1つずつ）

図表 13-1-1 地域医療体制の認知度

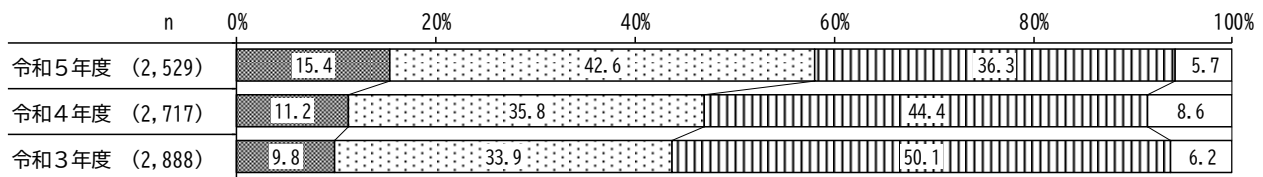
ア 越谷市夜間急患診療所



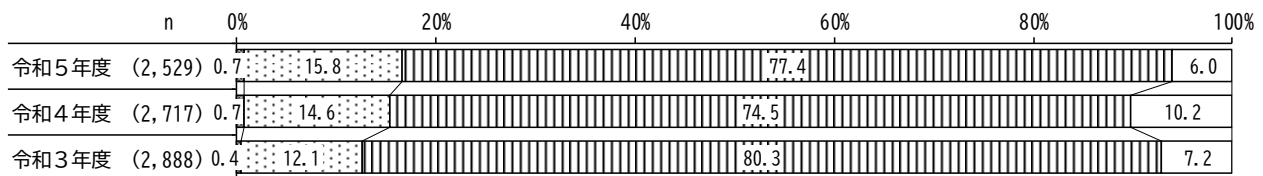
イ 休日当番医制度



ウ 埼玉県救急電話相談（#7119）



エ 埼玉県A I 救急相談



■ 利用したことがある □ 利用したことはないが知っている ▨ 知らない □ 無回答

地域医療体制の認知度については、「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」を合わせた『知っている』では、「越谷市夜間急患診療所」(81.9%)が最も多く、次いで「休日当番医制度」(77.7%)、「埼玉県救急電話相談（#7119）」(58.0%)、「埼玉県A I 救急相談」(16.5%)の順となっている。また、「利用したことがある」では、「越谷市夜間急患診療所」(27.2%)が3割弱、「休日当番医制度」(22.1%)が2割強、「埼玉県救急電話相談（#7119）」(15.4%)が1割半ば、「埼玉県A I 救急相談」(0.7%)が1割未満となっている。

過去2回の調査と比較すると、『知っている』は4項目とも増加傾向にあり、「埼玉県救急電話相談（#7119）」は令和4年度(47.0%)と比べ11.0ポイント増加している。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

「越谷市夜間急患診療所」について性別で見ると、『知っている』は女性（86.1%）が男性（77.0%）を9.1ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性40歳代、60歳代（各93.8%）が最も多く、女性50歳代（92.5%）も9割強となっている。『知っている』は男女ともすべての年齢で5割以上を占めている。また、「利用したことがある」は女性40歳代（54.3%）で5割半ばとなっている。

「休日当番医制度」について性別で見ると、『知っている』は女性（81.5%）が男性（73.1%）を8.4ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性60歳代（93.8%）が最も多く、女性50歳代（89.9%）も約9割となっている。『知っている』は男女とも30歳代以上で5割以上となっているが、18～29歳は女性（41.9%）、男性（45.0%）とも4割台で、「知らない」（女性58.1%、男性55.0%）が5割以上を占めている。また、「利用したことがある」は女性40歳代（43.8%）で4割強、女性50歳代（37.1%）で4割弱となっている。

「埼玉県救急電話相談（#7119）」について性別で見ると、『知っている』は女性（64.4%）が男性（50.1%）を14.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性30歳代（75.0%）が最も多く、女性40歳代（74.3%）も7割半ばとなっている。女性はすべての年齢で『知っている』が5割以上を占めているが、男性18～29歳（42.5%）、50歳代（44.8%）は全体を10ポイント以上下回っている。また、「利用したことがある」は女性30歳代（34.1%）、40歳代（36.2%）で3割半ばとなっている。

「埼玉県AI救急相談」について性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性30歳代（19.5%）が最も多いが、男女ともすべての年齢で1割台となっている。また、「利用したことがある」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。

図表 13-1-2 性・年齢別 地域医療体制の認知度

(%)

	調査数(人)	ア 越谷市夜間急患診療所				イ 休日当番医制度			
		利用したことがある	知利用していることは無いが	知らない	無回答	利用したことがある	知利用していることは無いが	知らない	無回答
全体	2,529	27.2	54.6	14.0	4.2	22.1	55.6	17.9	4.4
女性全体	1,425	30.2	55.9	10.1	3.8	24.9	56.6	14.2	4.3
18~29歳	124	16.9	47.6	35.5	-	6.5	35.5	58.1	-
30~39歳	164	31.1	56.1	12.8	-	22.0	52.4	25.6	-
40~49歳	210	54.3	39.5	5.7	0.5	43.8	43.3	12.4	0.5
50~59歳	267	40.4	52.1	7.1	0.4	37.1	52.8	10.1	-
60~69歳	211	23.2	70.6	4.3	1.9	28.0	65.9	3.3	2.8
70歳以上	442	19.5	60.9	8.8	10.9	13.6	67.6	6.6	12.2
男性全体	1,051	24.0	53.0	19.1	3.9	18.9	54.1	22.8	4.1
18~29歳	80	21.3	36.3	42.5	-	12.5	32.5	55.0	-
30~39歳	104	29.8	45.2	25.0	-	18.3	38.5	43.3	-
40~49歳	171	29.8	47.4	22.8	-	22.8	46.2	31.0	-
50~59歳	183	36.1	42.6	20.8	0.5	27.3	46.4	25.1	1.1
60~69歳	185	23.8	58.9	12.4	4.9	24.3	60.0	10.8	4.9
70歳以上	326	13.2	65.0	12.3	9.5	11.0	69.9	9.5	9.5

(%)

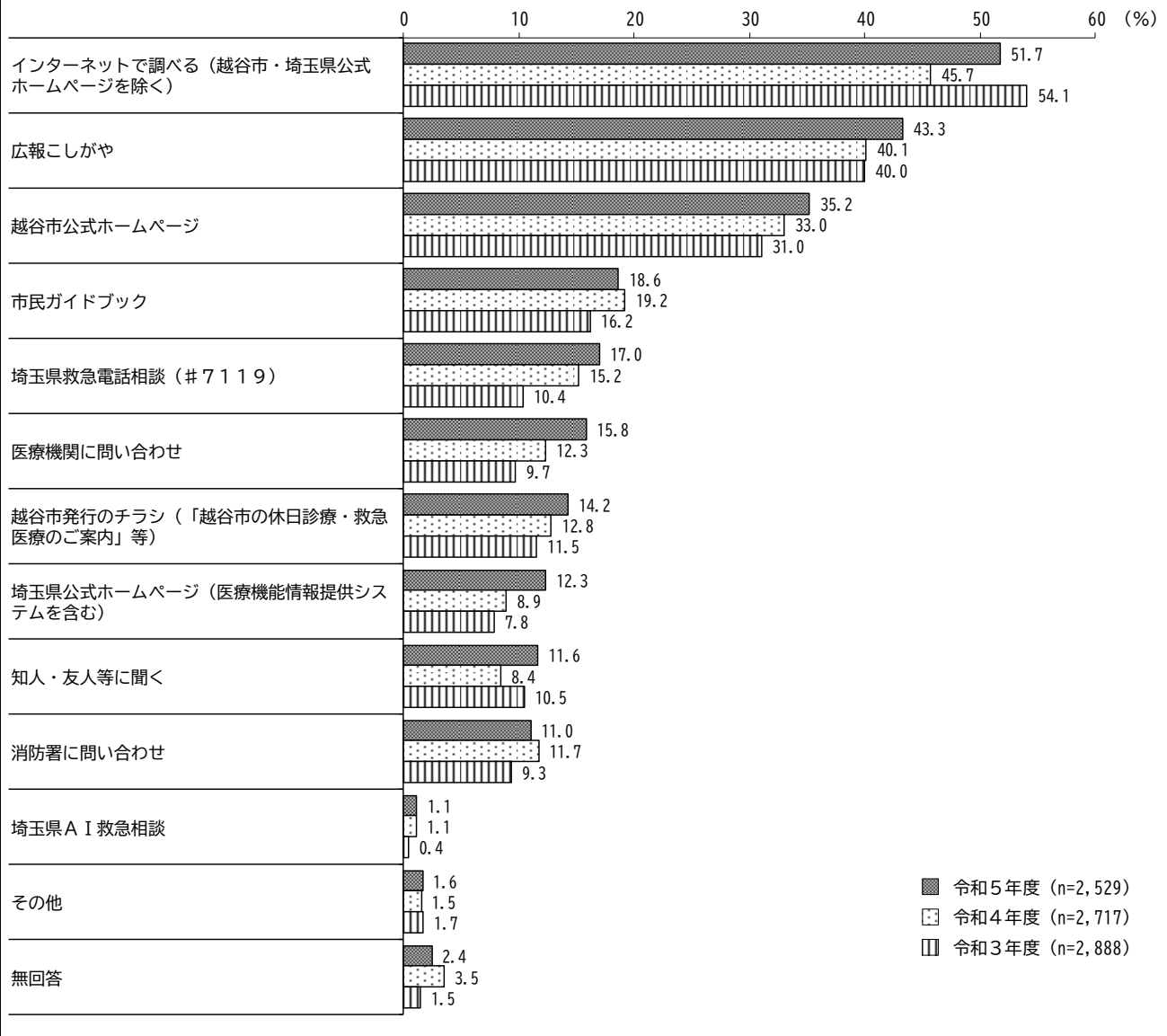
	調査数(人)	ウ 埼玉県救急電話相談(＃7119)				エ 埼玉県A I救急相談			
		利用したことがある	知利用していることは無いが	知らない	無回答	利用したことがある	知利用していることは無いが	知らない	無回答
全体	2,529	15.4	42.6	36.3	5.7	0.7	15.8	77.4	6.0
女性全体	1,425	19.1	45.3	30.4	5.2	0.8	16.4	77.4	5.5
18~29歳	124	10.5	39.5	50.0	-	0.8	14.5	84.7	-
30~39歳	164	34.1	40.9	25.0	-	2.4	17.1	80.5	-
40~49歳	210	36.2	38.1	25.2	0.5	1.9	16.7	81.0	0.5
50~59歳	267	23.6	44.2	31.5	0.7	0.4	13.5	85.4	0.7
60~69歳	211	12.8	53.1	32.2	1.9	-	16.6	80.6	2.8
70歳以上	442	8.1	49.1	27.6	15.2	0.2	18.1	66.1	15.6
男性全体	1,051	10.8	39.4	44.1	5.7	0.7	15.2	78.3	5.8
18~29歳	80	12.5	30.0	57.5	-	1.3	11.3	87.5	-
30~39歳	104	22.1	30.8	47.1	-	1.9	16.3	81.7	-
40~49歳	171	17.5	32.7	49.7	-	1.2	15.2	83.6	-
50~59歳	183	12.6	32.2	53.0	2.2	-	10.9	87.4	1.6
60~69歳	185	5.4	45.9	41.6	7.0	-	14.1	78.4	7.6
70歳以上	326	5.2	48.2	33.4	13.2	0.6	19.0	67.2	13.2

(2) 医療機関の情報の入手方法

◇「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」が約5割で最も多い

問 44. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

図表 13-2-1 医療機関の情報の入手方法



医療機関の情報の入手方法については、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」(51.7%) が最も多く、次いで「広報こしがや」(43.3%)、「越谷市公式ホームページ」(35.2%)、「市民ガイドブック」(18.6%)、「埼玉県救急電話相談（#7119）」(17.0%) の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は令和4年度（45.7%）と比べ6.0ポイント増加している。また、「埼玉県救急電話相談（#7119）」「医療機関に問い合わせ」（15.8%）は令和3年度以降、調査ごとに増加している。

性別でみると、「埼玉県救急電話相談（#7119）」は女性（20.4%）が男性（12.5%）を7.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）」は女性18～29歳（77.4%）が最も多く、男女とも50歳代以下で6割以上を占めるが、70歳以上は女性（20.4%）、男性（29.4%）とも2割台となっている。一方、「広報こしがや」「市民ガイドブック」「越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）」「消防署に問い合わせ」などは高齢層で多くなる傾向にあり、「広報こしがや」は女性60歳代（64.5%）、70歳以上（62.7%）で6割台、男性70歳以上（59.5%）で約6割となっている。また、「越谷市公式ホームページ」は女性30歳代～50歳代（47.6%、51.4%、45.3%）、男性30歳代～50歳代（45.2%、46.2%、45.9%）、「埼玉県救急電話相談（#7119）」は女性30歳代（31.7%）、「埼玉県公式ホームページ（医療機能情報提供システムを含む）」は女性30歳代（24.4%）で全体を10ポイント以上上回っている。

図表 13-2-2 性・年齢別 医療機関の情報の入手方法

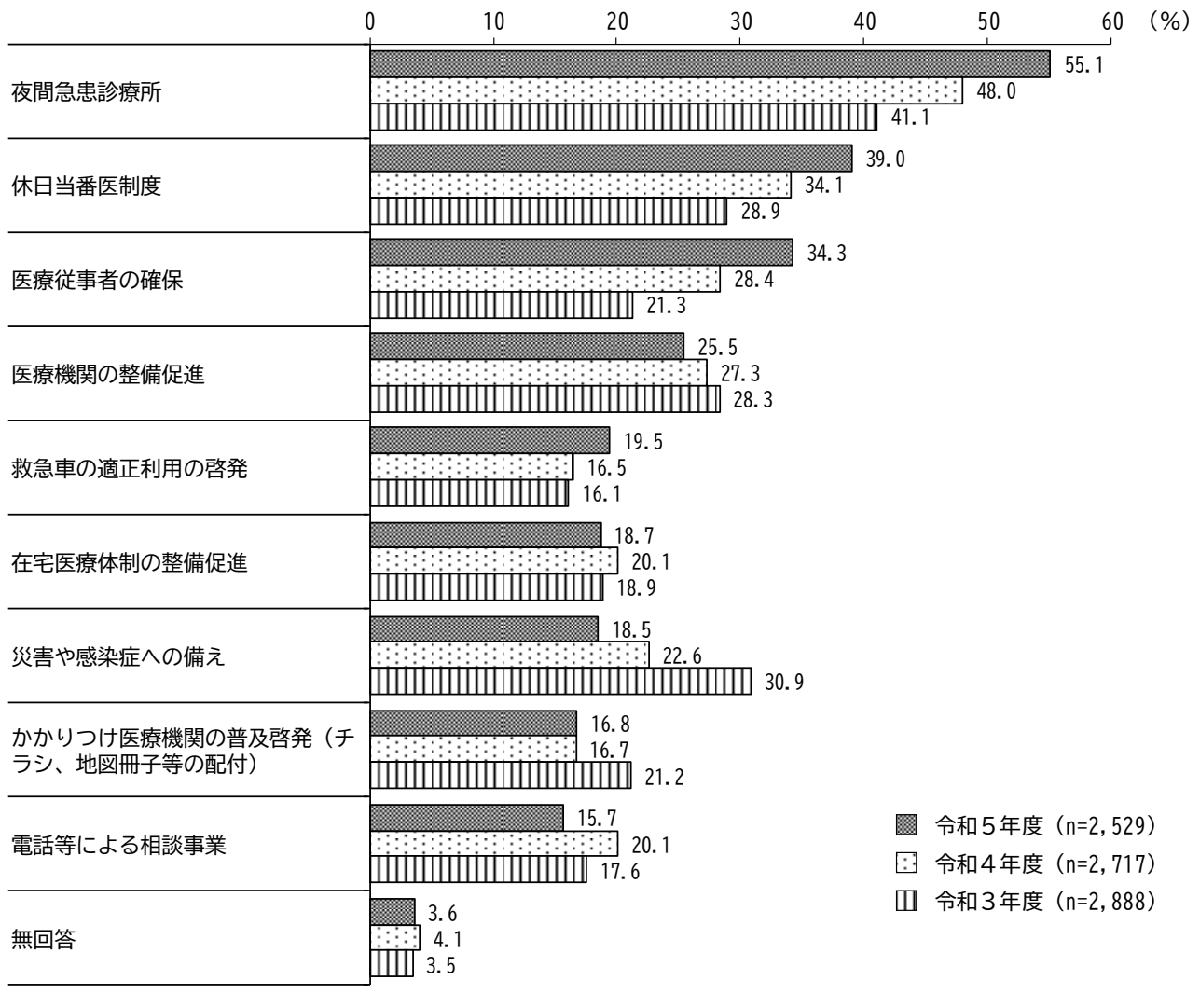
	調査数（人）	インターネットで調べる（越谷市・埼玉県公式ホームページを除く）	広報こしがや	越谷市公式ホームページ	市民ガイドブック	埼玉県救急電話相談（#7119）	医療機関に問い合わせ	越谷市発行のチラシ（「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等）	埼玉県公式ホームページ（医療機能情報提供システムを含む）	知人・友人等に聞く	消防署に問い合わせ	埼玉県A I救急相談	その他	無回答
全体	2,529	51.7	43.3	35.2	18.6	17.0	15.8	14.2	12.3	11.6	11.0	1.1	1.6	2.4
女性全体	1,425	51.5	44.8	33.8	18.5	20.4	16.4	15.3	11.9	12.8	10.7	1.1	1.7	2.0
18～29歳	124	77.4	7.3	40.3	3.2	10.5	19.4	5.6	20.2	18.5	1.6	0.8	2.4	-
30～39歳	164	70.1	20.7	47.6	7.3	31.7	14.6	8.5	24.4	10.4	2.4	2.4	1.2	-
40～49歳	210	66.2	31.0	51.4	11.0	22.4	12.9	13.8	13.8	11.9	2.9	1.4	1.0	0.5
50～59歳	267	68.9	43.4	45.3	12.4	16.5	12.0	12.4	16.5	8.2	8.6	0.7	1.9	0.4
60～69歳	211	49.8	64.5	34.1	25.6	18.5	21.3	15.6	9.5	10.4	12.3	1.4	0.9	0.5
70歳以上	442	20.4	62.7	11.8	31.2	21.5	18.3	23.1	2.3	16.1	20.6	0.7	2.3	5.7
男性全体	1,051	53.1	41.4	38.2	18.5	12.5	15.2	12.6	13.2	9.7	11.1	1.2	1.5	2.3
18～29歳	80	68.8	20.0	32.5	8.8	12.5	20.0	3.8	17.5	20.0	8.8	1.3	-	-
30～39歳	104	69.2	24.0	45.2	8.7	13.5	14.4	5.8	17.3	7.7	3.8	2.9	-	1.0
40～49歳	171	69.0	28.7	46.2	11.1	12.3	12.3	8.2	17.5	9.4	4.1	0.6	1.2	-
50～59歳	183	67.8	36.1	45.9	13.1	8.2	12.0	8.7	16.9	3.8	8.2	-	2.7	0.5
60～69歳	185	49.7	45.4	40.5	21.6	7.0	11.9	13.5	11.9	9.2	11.4	-	1.6	2.7
70歳以上	326	29.4	59.5	27.3	28.5	17.5	19.3	20.6	7.1	11.3	19.0	2.1	1.8	5.2

(3) 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

◇「夜間急患診療所」が5割半ばで最も多い

問 45. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。(〇は3つまで)

図表 13-3-1 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業



地域医療に関して、特に力を入れる必要がある事業は、「夜間急患診療所」(55.1%)が最も多く、次いで「休日当番医制度」(39.0%)、「医療従事者の確保」(34.3%)、「医療機関の整備促進」(25.5%)、「救急車の適正利用の啓発」(19.5%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、上位3項目はいずれも増加傾向にあり、令和4年度と比べ4.9~7.1ポイント、令和3年度と比べ1割以上増加している。一方、「災害や感染症への備え」(18.5%)は令和4年度(22.6%)と比べ4.1ポイント、令和3年度(30.9%)と比べ12.4ポイント、調査ごとに減少している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「夜間急患診療所」は女性30歳代(61.0%)、40歳代(61.9%)で約6割を占め、女性50歳代(48.7%)、男性18~29歳(48.8%)を除き5割以上となっている。「休日当番医制度」は女性30歳代~50歳代(45.7%、45.2%、43.1%)、男性40歳代~60歳代(43.3%、42.6%、46.5%)で4割台、「医療従事者の確保」は女性18~29歳(55.6%)、男性30歳代(51.0%)で5割台と多くなっているが、「医療従事者の確保」は年齢が上がるにつれ減少する傾向にある。また、「医療機関の整備促進」は男性30歳代(35.6%)、「かかりつけ医療機関の普及啓発(チラシ、地図冊子等の配付)」は女性70歳以上(26.0%)、男性70歳以上(25.8%)で全体を10ポイント前後上回っている。

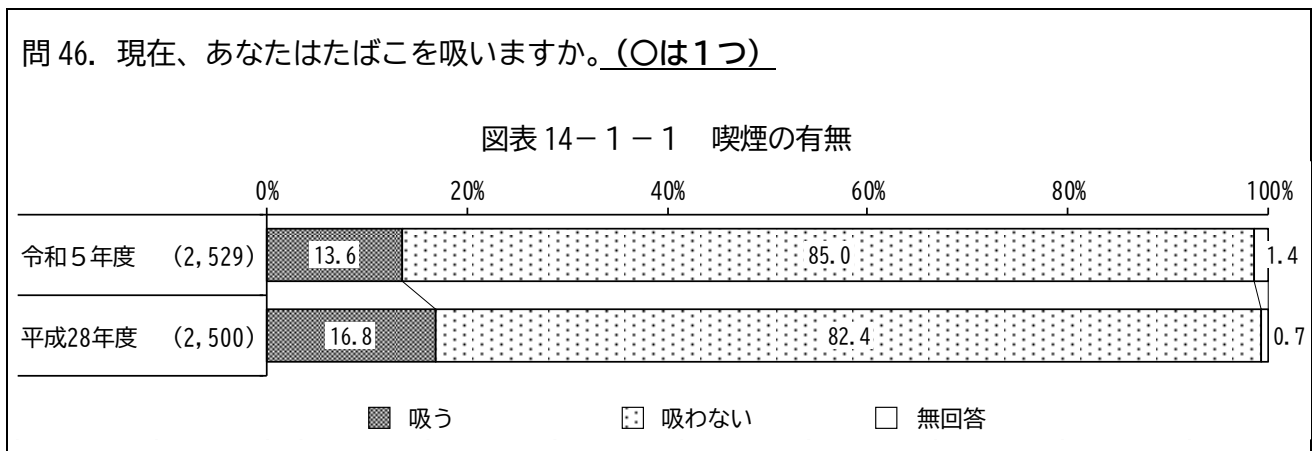
図表 13-3-2 性・年齢別 特に力を入れる必要がある地域医療関連事業

	調査数(人)	夜間急患診療所	休日当番医制度	医療従事者の確保	医療機関の整備促進	救急車の適正利用の啓発	在宅医療体制の整備促進	災害や感染症への備え	「かかりつけ医療機関の普及啓発(チラシ、地図冊子等の配付)」	電話等による相談事業	無回答
全体	2,529	55.1	39.0	34.3	25.5	19.5	18.7	18.5	16.8	15.7	3.6
女性全体	1,425	54.2	38.4	34.9	24.1	19.9	19.8	20.0	16.9	17.5	3.4
18~29歳	124	56.5	29.8	55.6	29.0	25.0	7.3	26.6	13.7	16.9	-
30~39歳	164	61.0	45.7	48.2	29.3	25.6	11.6	18.3	9.1	17.7	-
40~49歳	210	61.9	45.2	42.4	31.9	13.3	15.7	19.0	10.5	14.3	1.0
50~59歳	267	48.7	43.1	38.6	29.2	17.6	22.1	19.5	11.6	19.5	0.7
60~69歳	211	51.7	39.8	32.7	21.3	19.0	22.3	23.7	19.0	19.0	1.4
70歳以上	442	51.8	31.4	19.2	15.8	20.8	25.6	17.6	26.0	17.2	9.3
男性全体	1,051	56.5	40.5	34.3	27.5	18.7	17.4	16.3	16.7	13.8	3.1
18~29歳	80	48.8	31.3	43.8	23.8	22.5	3.8	23.8	10.0	16.3	1.3
30~39歳	104	56.7	39.4	51.0	35.6	15.4	17.3	19.2	7.7	16.3	-
40~49歳	171	59.1	43.3	43.9	27.5	19.3	9.4	21.6	8.2	14.0	0.6
50~59歳	183	57.4	42.6	37.7	31.1	18.0	13.1	17.5	14.2	14.2	0.5
60~69歳	185	58.4	46.5	33.5	30.8	17.3	18.9	13.0	18.9	13.0	2.2
70歳以上	326	55.8	37.4	20.6	22.1	19.9	26.7	12.0	25.8	12.6	7.4

14. 路上喫煙について

(1) 喫煙の有無

◇「吸う」が1割強、「吸わない」が8割半ば

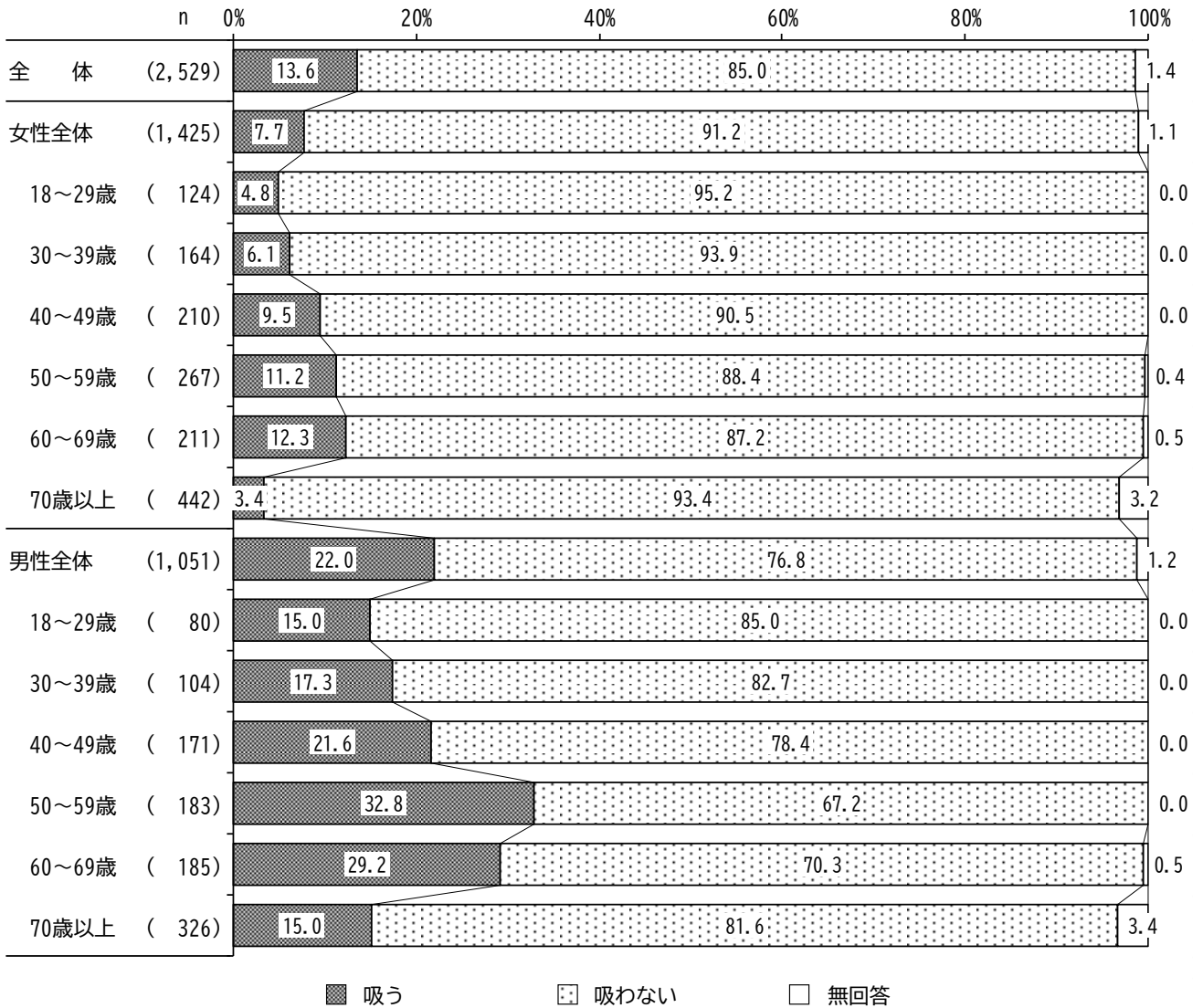


喫煙の有無については、「吸う」(13.6%)が1割強、「吸わない」(85.0%)が8割半ばとなっている。前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、「吸う」は男性（22.0%）が女性（7.7%）を14.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「吸う」は男性50歳代（32.8%）が3割強で最も多く、男性60歳代（29.2%）も約3割で、全体を10ポイント以上上回っている。一方、「吸わない」は女性18～29歳（95.2%）が最も多く、男女ともすべての年齢で6割以上となっている。

図表 14-1-2 性・年齢別 喫煙の有無

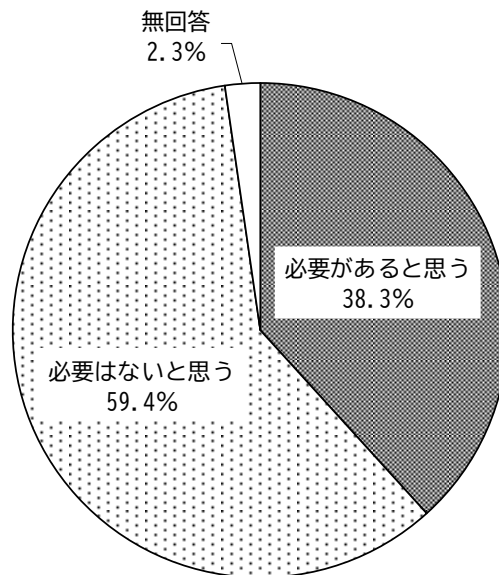


(2) 灰皿設置の必要性

◇「必要はないと思う」が約6割

問 47. たばこのポイ捨て抑制を目的として、駅前など人通りの多い場所に灰皿を設置する必要があると思いますか。(○は1つ)

図表 14-2-1 灰皿設置の必要性



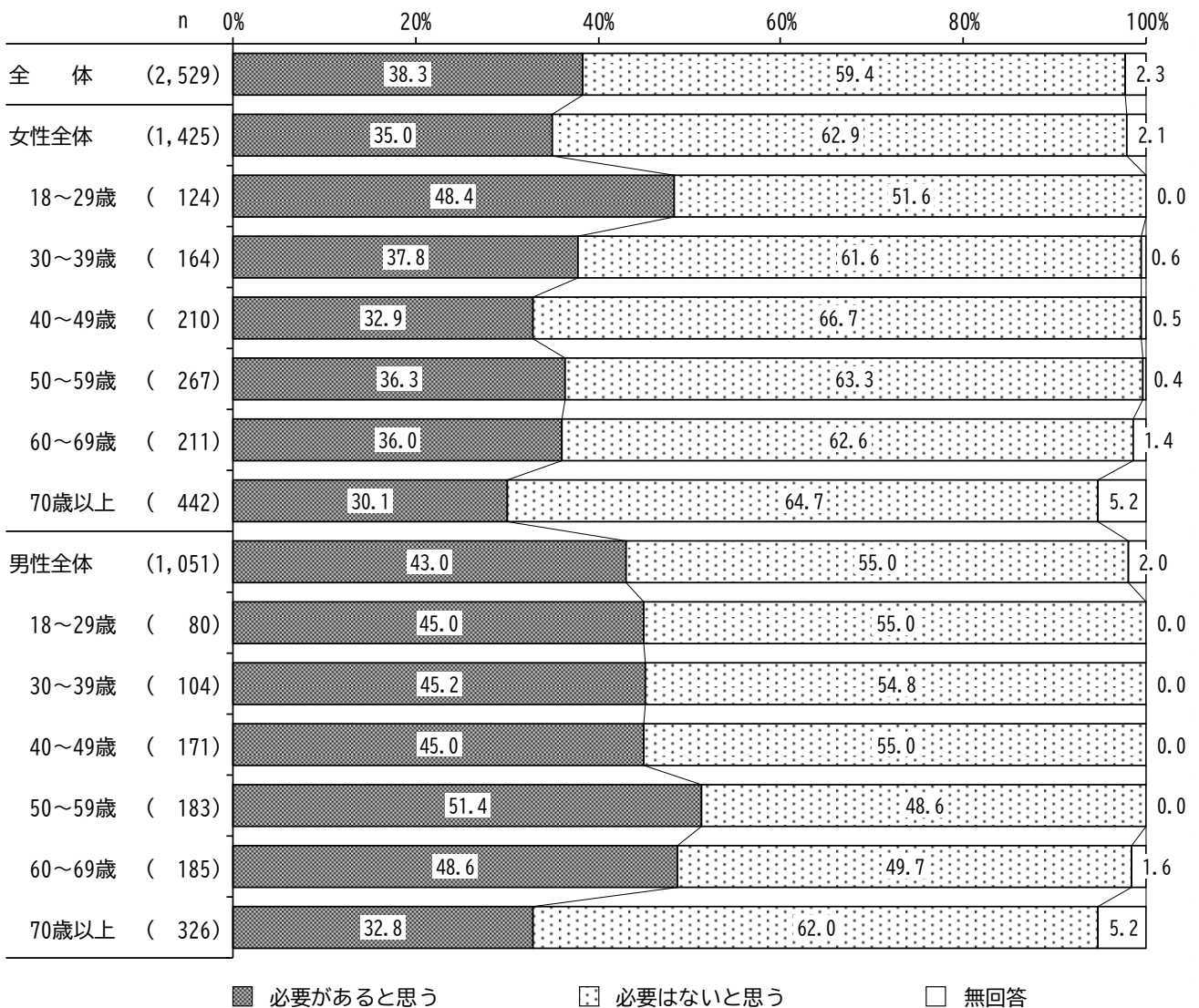
(n=2,529)

駅前など人通りの多い場所に灰皿を設置する必要性については、「必要があると思う」(38.3%)が4割弱、「必要はないと思う」(59.4%)が約6割となっている。

性別でみると、「必要があると思う」は男性（43.0%）が女性（35.0%）を8.0ポイント上回っている。一方、「必要はないと思う」は女性（62.9%）が男性（55.0%）を7.9ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「必要があると思う」は男性50歳代（51.4%）が約5割で最も多く、女性18～29歳（48.4%）、男性60歳代（48.6%）も5割弱となっている。一方、「必要はないと思う」は女性40歳代（66.7%）が最も多く、男性50歳代（48.6%）、60歳代（49.7%）を除き、5割以上を占めている。男性50歳代以外は「必要はないと思う」が「必要があると思う」を上回っている。

図表 14-2-2 性・年齢別 灰皿設置の必要性

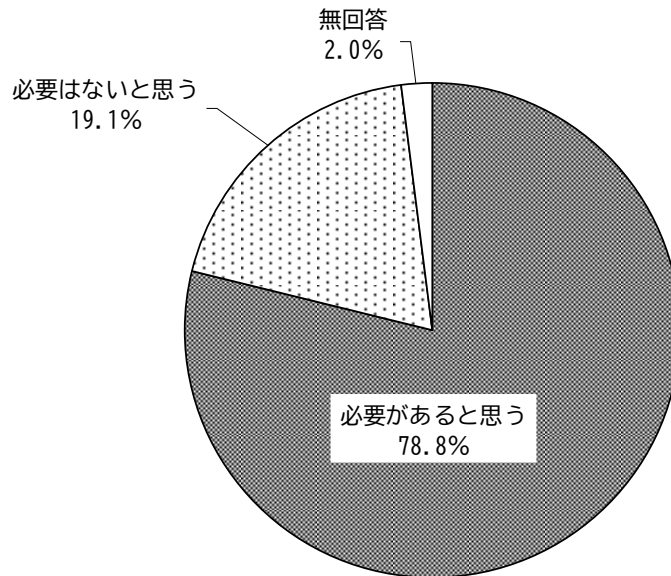


(3) 「路上喫煙禁止区域」追加の必要性

◇「必要があると思う」が8割弱

問 48. 現在、越谷市内で北越谷駅周辺、南越谷駅周辺を「路上喫煙禁止区域」に指定しています。今後、他の駅前を路上喫煙禁止区域に指定する必要があると思いますか。(○は1つ)

図表 14-3-1 「路上喫煙禁止区域」追加の必要性



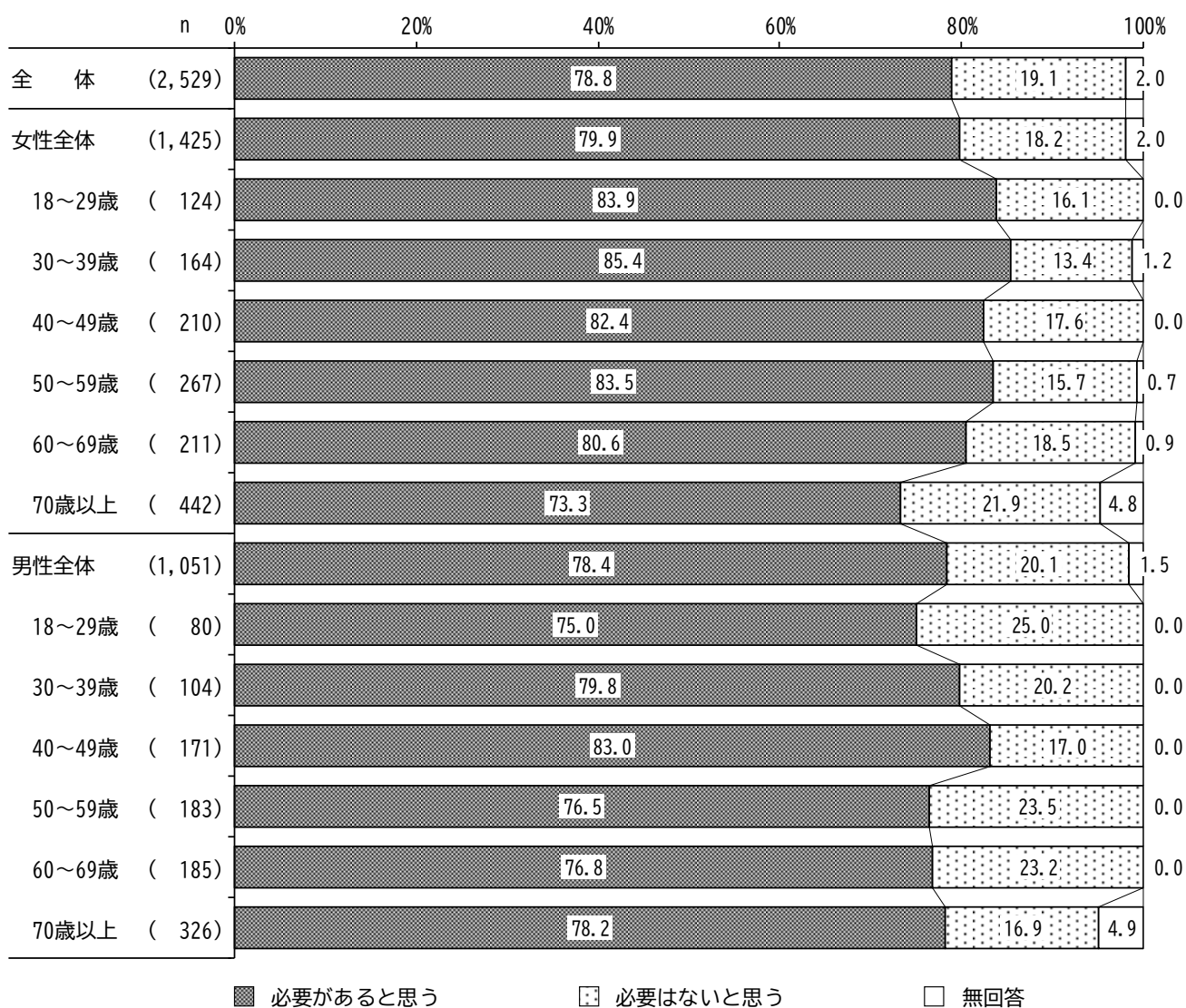
(n=2, 529)

他の駅前を路上喫煙禁止区域に指定する必要性については、「必要があると思う」(78.8%)が8割弱、「必要はないと思う」(19.1%)が約2割となっている。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、「必要があると思う」は女性30歳代（85.4%）が8割半ばで最も多く、男女ともすべての年齢で7割以上となっている。

図表 14-3-2 性・年齢別 「路上喫煙禁止区域」追加の必要性

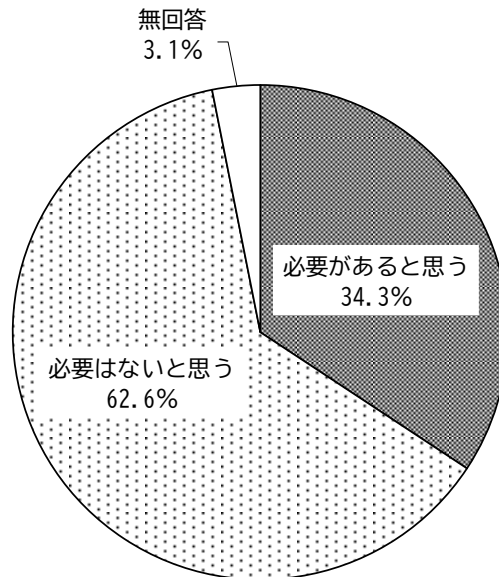


(4) 「路上喫煙禁止区域」内への灰皿等設置の必要性

◇「必要はないと思う」が6割強

問 49. 喫煙者と非喫煙者の共生を目的として、「路上喫煙禁止区域」内に灰皿等を設置する必要があると思いますか。(〇は1つ)

図表 14-4-1 「路上喫煙禁止区域」内への灰皿等設置の必要性



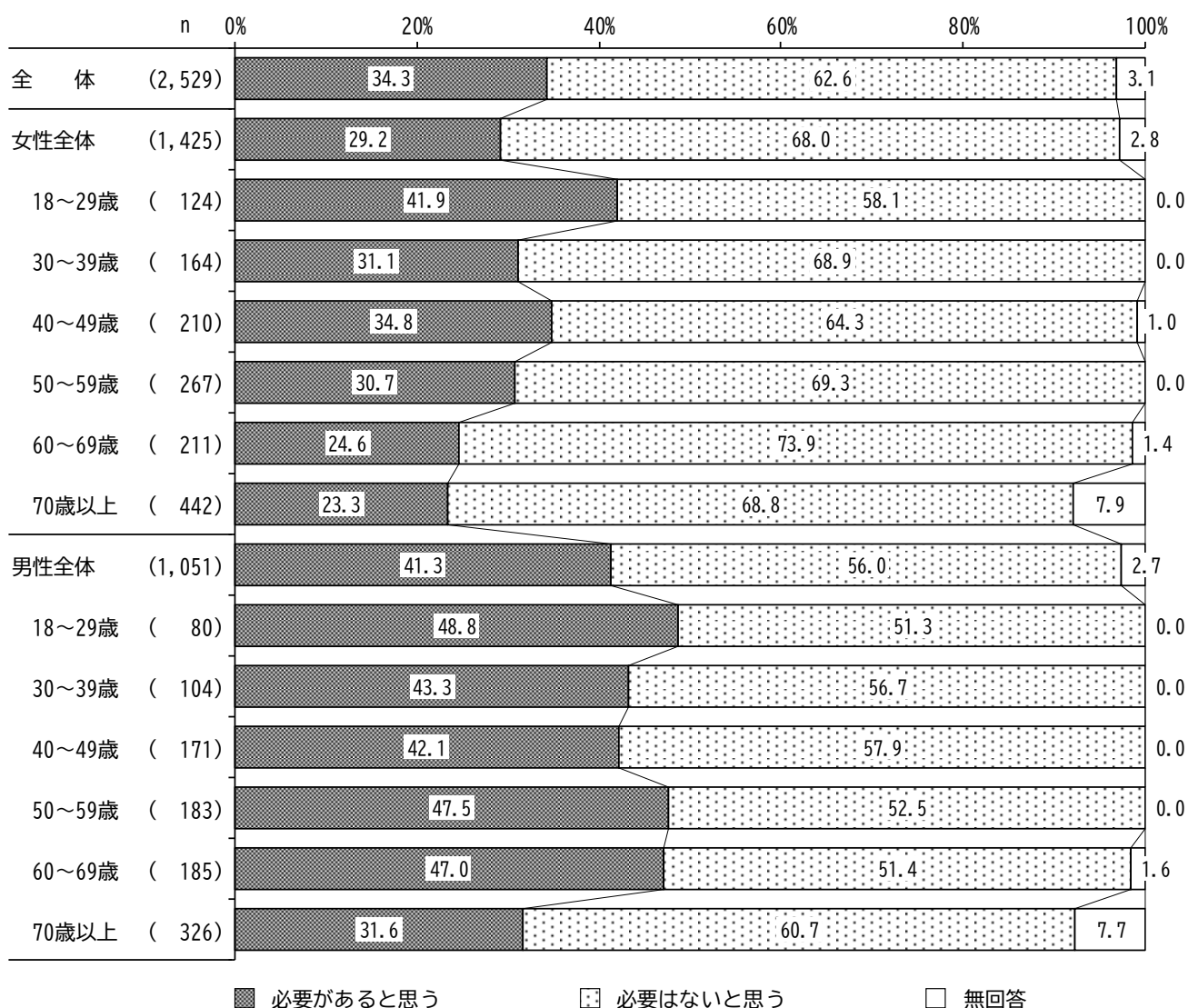
(n=2,529)

「路上喫煙禁止区域」内に灰皿等を設置する必要性については、「必要があると思う」(34.3%)が3割半ば、「必要はないと思う」(62.6%)が6割強となっている。

性別で見ると、「必要があると思う」は男性(41.3%)が女性(29.2%)を12.1ポイント上回っている。一方、「必要はないと思う」は女性(68.0%)が男性(56.0%)を12.0ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「必要があると思う」は男性18～29歳(48.8%)が最も多く、男性50歳代(47.5%)、60歳代(47.0%)も5割弱となっている。一方、女性60歳代(24.6%)、70歳以上(23.3%)は2割台となっている。また、「必要はないと思う」は女性60歳代(73.9%)が最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上となっている。

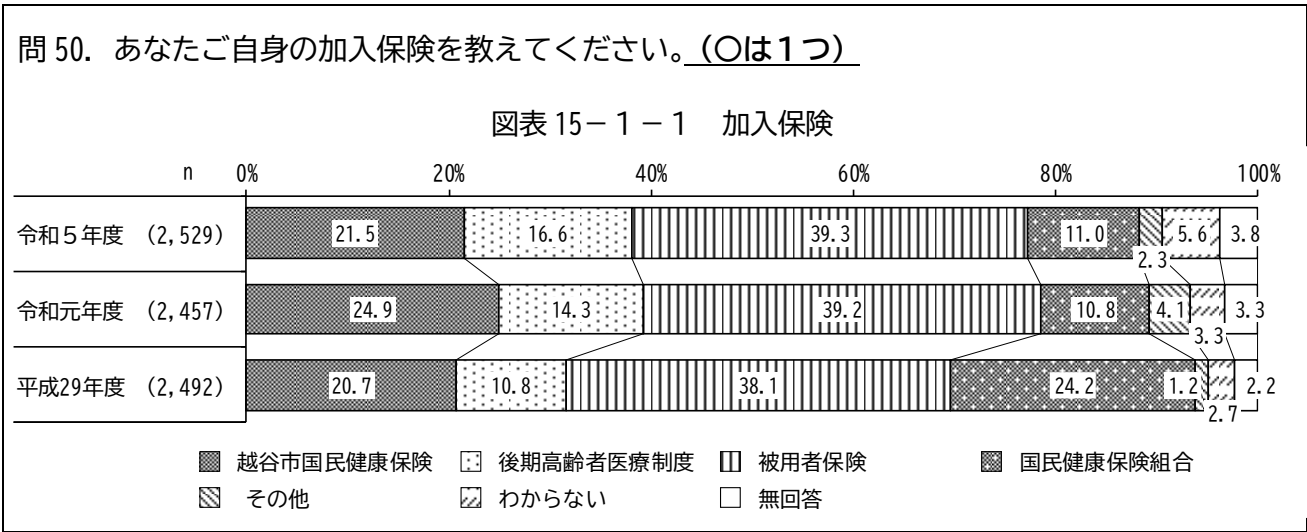
図表 14-4-2 性・年齢別 「路上喫煙禁止区域」内への灰皿等設置の必要性



15. 健康保険が行う健診について

(1) 加入保険

◇「被用者保険」が最も多く、約4割



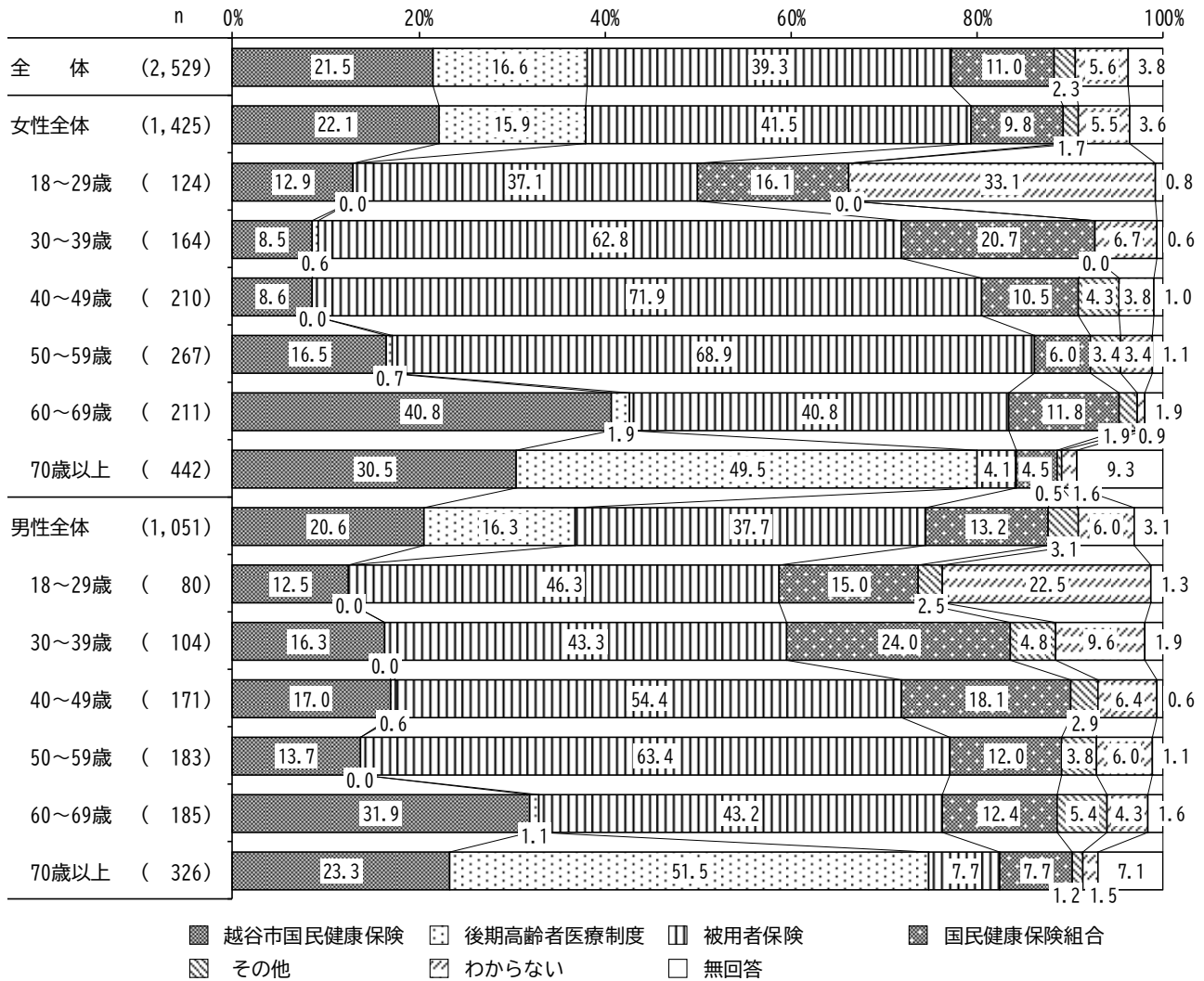
加入保険については、「被用者保険」(39.3%)が最も多く、次いで「越谷市国民健康保険」(21.5%)、「後期高齢者医療制度」(16.6%)、「国民健康保険組合」(11.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「後期高齢者医療制度」は令和元年度(14.3%)と比べ2.3ポイント、平成29年度(10.8%)と比べ5.8ポイント、調査ごとに増加している。また、「国民健康保険組合」は令和元年度(10.8%)と同程度で、平成29年度(24.2%)と比べ13.2ポイント減少している。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「被用者保険」は女性40歳代(71.9%)が約7割で最も多く、女性30歳代(62.8%)、50歳代(68.9%)、男性40歳代(54.4%)、50歳代(63.4%)も5割以上を占めている。「越谷市国民健康保険」は女性60歳代(40.8%)が最も多く、女性70歳以上(30.5%)、男性60歳代(31.9%)も約3割を占めている。女性60歳代は「越谷市国民健康保険」と「被用者保険」が同率となっている。

図表 15-1-2 性・年齢別 加入保険

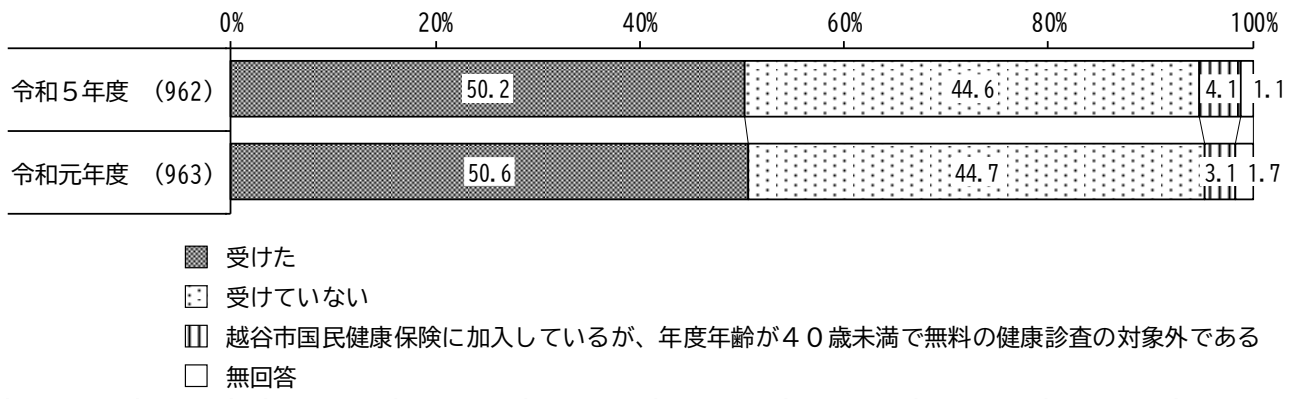


(2) 健康診査受診の有無

◇「受けた」が約5割、「受けていない」が4割半ば

問 50-2. 問 50 で「1. 越谷市国民健康保険」「2. 後期高齢者医療制度」と答えた方に伺います。越谷市では、年度年齢40歳以上の越谷市国民健康保険加入者及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、健康の保持増進を図ることを目的として、無料の健康診査を実施しています。あなたは、令和4年度の健康診査を受けましたか。(○は1つ)

図表 15-2-1 健康診査受診の有無



「越谷市国民健康保険」及び「後期高齢者医療制度」に加入していると回答した962人に、健康診査受診の有無を聞いたところ、「受けた」(50.2%)が約5割、「受けていない」(44.6%)が4割半ばとなっている。

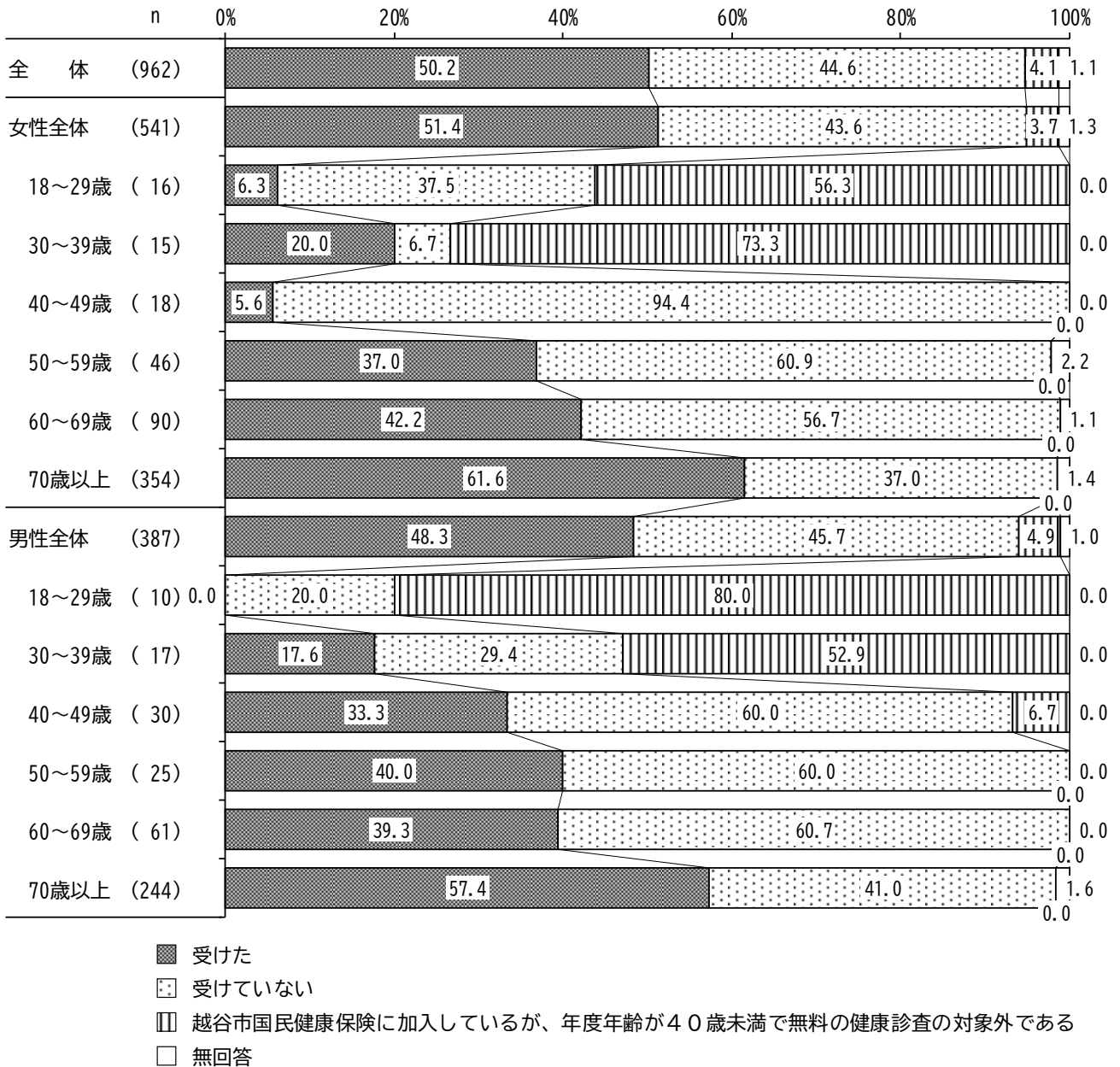
前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「受けた」は70歳以上で女性(61.6%)、男性(57.4%)とも5割以上となっている。一方、60歳代(女性42.2%、男性39.3%)は70歳以上に比べ2割程度少なくなっている。

※調査数が少ないもの(本調査では30人未満とする)については、記述の対象としない。

図表 15-2-2 性・年齢別 健康診査受診の有無

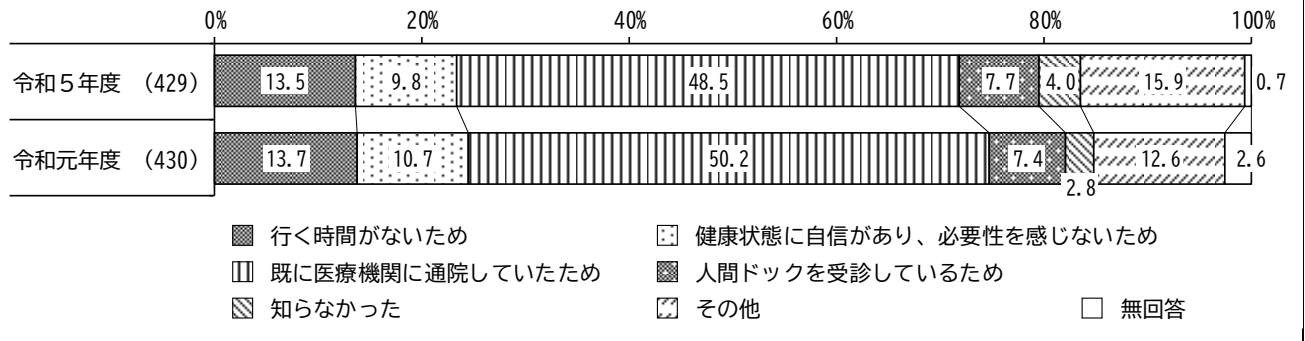


(3) 健康診査を受けない理由

◇「既に医療機関に通院していたため」が最も多く、5割弱

問 50-3. 問 50-2 で「2.受けていない」と答えた方に伺います。
 あなたが、健康診査を受けない理由は何ですか。(〇は1つ)

図表 15-3-1 健康診査を受けない理由



健康診査を受けていないと回答した429人に、健康診査を受けない理由を聞いたところ、「既に医療機関に通院していたため」(48.5%)が最も多く、次いで「行く時間がないため」(13.5%)、「健康状態に自信があり、必要性を感じないため」(9.8%)、「人間ドックを受診しているため」(7.7%)、「知らなかった」(4.0%)の順となっている。

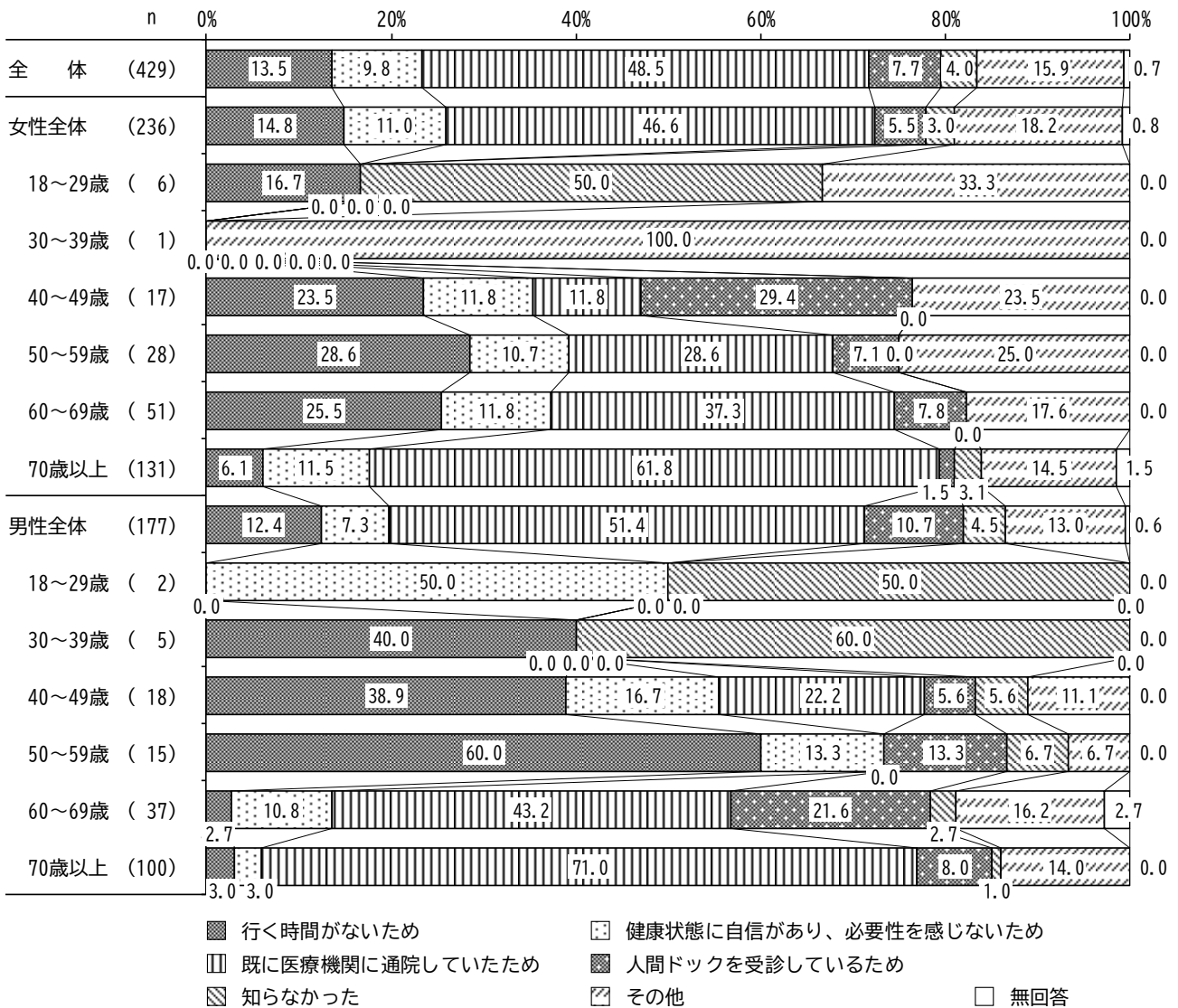
前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別でみると、「人間ドックを受診しているため」（男性 10.7%、女性 5.5%）は 5.2 ポイント、「既に医療機関に通院していたため」（男性 51.4%、女性 46.6%）は 4.8 ポイント、男性が女性を上回っている。

性・年齢別でみると、「既に医療機関に通院していたため」は 70 歳以上で男性（71.0%）、女性（61.8%）とも 6 割を超え、60 歳代（男性 43.2%、女性 37.3%）に比べ 20 ポイント以上多くなっている。また、「行く時間がないため」は女性 60 歳代（25.5%）で 2 割半ば、「人間ドックを受診しているため」は男性 60 歳代（21.6%）で約 2 割となっている。

※調査数が少ないもの（本調査では 30 人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 15-3-2 性・年齢別 健康診査を受けない理由



16. 介護サービスについて

(1) 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

◇事業の形態は「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」が4割弱で最も多い

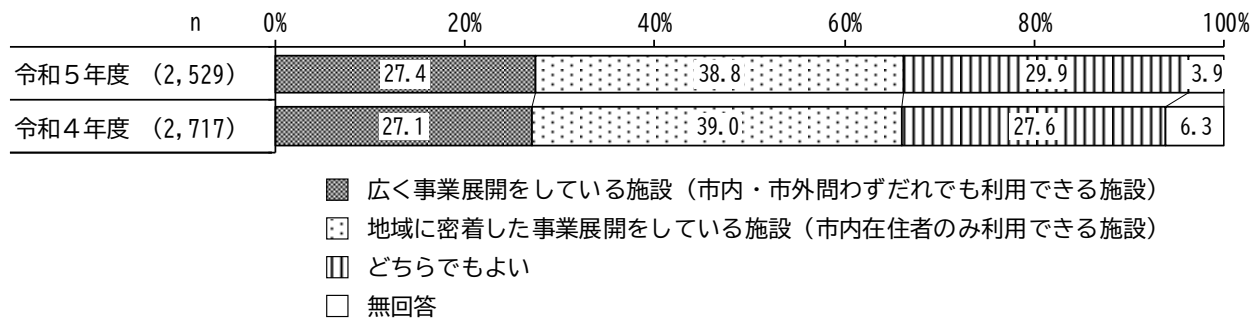
事業所の体制は「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」が6割弱で最も多い

従事者の資質は「利用者の話をしっかり聞く」が5割半ばで最も多い

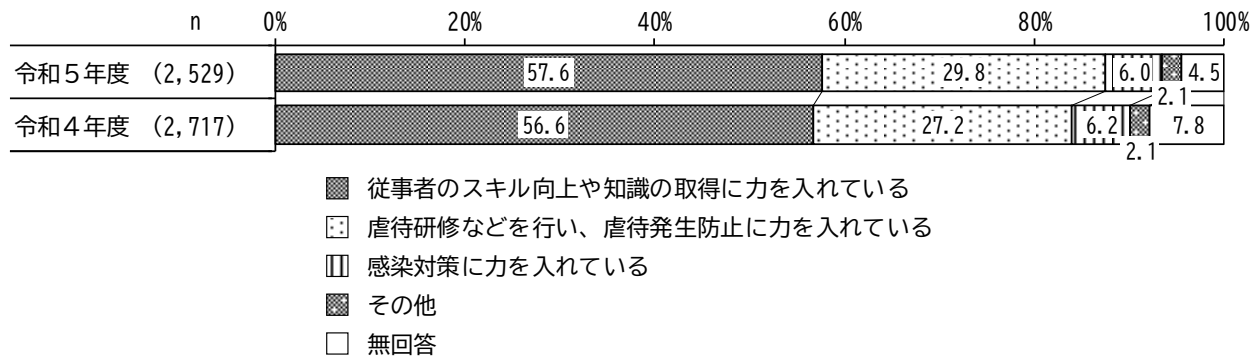
問 51. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・従事者に求めるものを次の中から選んでください。(それぞれ〇は1つずつ)

図表 16-1-1 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

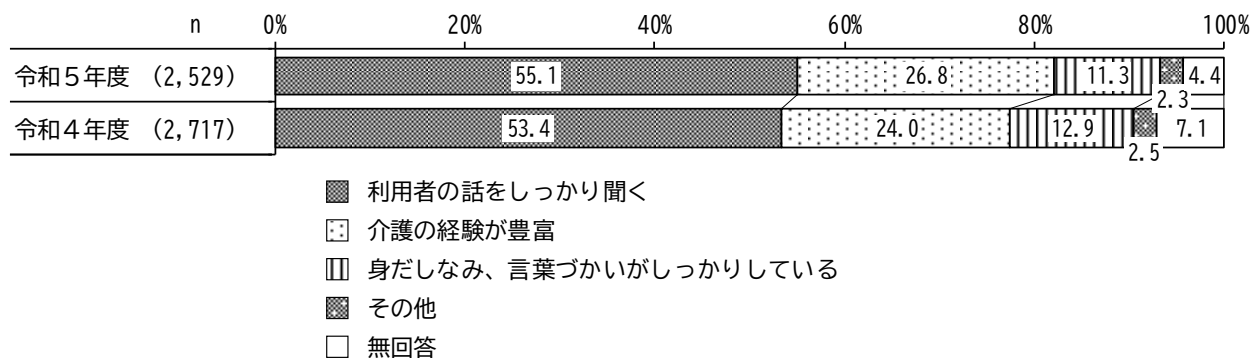
事業の形態



事業所の体制



従事者の資質



第4章 調査結果の詳細

事業の形態については、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」（38.8%）が最も多く、次いで「どちらでもよい」（29.9%）、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」（27.4%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

事業所の体制については、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」（57.6%）が最も多く、次いで「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」（29.8%）、「感染対策に力を入れている」（6.0%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

従事者の資質については、「利用者の話をしっかり聞く」（55.1%）が最も多く、次いで「介護の経験が豊富」（26.8%）、「身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている」（11.3%）の順となっている。

前回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

事業の形態について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「地域に密着した事業展開をしている施設（市内在住者のみ利用できる施設）」は男性 60 歳代（45.4%）が最も多く、女性 70 歳以上（43.0%）、男性 40 歳代（40.9%）、50 歳代（41.5%）、70 歳以上（42.9%）も 4 割台となっている。一方、「広く事業展開をしている施設（市内・市外問わずだれでも利用できる施設）」は 18～29 歳で女性（32.3%）、男性（36.3%）とも 3 割台となっている。

事業所の体制について性別でみると、「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」は女性（32.1%）が男性（26.9%）を 5.2 ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、「従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている」は男性 60 歳代（72.4%）が最も多く、男女ともすべての年齢で 5 割以上を占めている。一方、「虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている」は女性 18～29 歳（41.9%）が最も多く、女性 18～29 歳と男性 60 歳代（16.8%）を除き、2～3 割台となっている。

従事者の資質について性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「利用者の話をしっかり聞く」は女性 60 歳代（64.0%）が 6 割半ば、女性 18～29 歳（63.7%）が 6 割強、それ以外が 5 割台となっている。「介護の経験が豊富」は男性 18～29 歳（31.3%）が最も多くなっている。一方、女性 18～29 歳（18.5%）は全体を 8.3 ポイント下回っている。

図表 16-1-2 性・年齢別 介護サービスの利用時に事業・事業所・従事者に求めるもの

(%)

	調査数(人)	事業の形態				事業所の体制						従事者の資質				
		広く事業展開を している施設 (市内・市 外問わずだれでも 利用できる施設)	地域に密着した事業 展開をしている施設 (市内在住者のみ利用 できる施設)	どちらでもよい	無回答	従事者のスキル向上 や知識の取得に力を 入れている	虐待研修などを行い、 虐待発生防止に力を 入れている	感染対策に力を入れている	その他	無回答	利用者の話をしっかりと 聞く	介護の経験が豊富	身だしなみ、言葉づか いがしっかりと している	その他	無回答	
全体	2,529	27.4	38.8	29.9	3.9	57.6	29.8	6.0	2.1	4.5	55.1	26.8	11.3	2.3	4.4	
女性全体	1,425	28.6	37.8	30.2	3.5	56.7	32.1	5.1	2.0	4.1	57.0	25.8	11.1	2.2	3.9	
18～29歳	124	32.3	32.3	34.7	0.8	52.4	41.9	3.2	0.8	1.6	63.7	18.5	13.7	2.4	1.6	
30～39歳	164	28.7	33.5	37.2	0.6	64.0	31.7	3.0	0.6	0.6	56.1	25.6	15.2	2.4	0.6	
40～49歳	210	28.1	39.0	31.9	1.0	54.3	38.6	3.3	2.4	1.4	57.6	26.2	13.3	1.9	1.0	
50～59歳	267	28.1	33.0	38.6	0.4	64.0	28.5	4.9	1.9	0.7	55.8	25.8	13.9	3.7	0.7	
60～69歳	211	28.9	37.9	32.2	0.9	54.5	34.6	5.2	3.8	1.9	64.0	24.6	8.5	0.9	1.9	
70歳以上	442	27.6	43.0	19.7	9.7	52.9	27.1	7.5	2.0	10.4	52.5	28.1	7.2	2.0	10.2	
男性全体	1,051	26.0	40.9	29.4	3.7	59.8	26.9	6.7	2.2	4.5	52.8	28.5	11.7	2.6	4.4	
18～29歳	80	36.3	25.0	37.5	1.3	56.3	32.5	6.3	3.8	1.3	51.3	31.3	15.0	1.3	1.3	
30～39歳	104	26.9	38.5	33.7	1.0	52.9	37.5	6.7	1.0	1.9	54.8	29.8	11.5	1.9	1.9	
40～49歳	171	22.2	40.9	36.3	0.6	52.0	36.8	6.4	3.5	1.2	50.9	28.7	15.8	3.5	1.2	
50～59歳	183	26.8	41.5	30.1	1.6	61.7	27.9	6.0	2.7	1.6	50.3	27.9	15.8	3.8	2.2	
60～69歳	185	27.0	45.4	24.9	2.7	72.4	16.8	5.4	2.7	2.7	54.6	27.0	11.9	3.8	2.7	
70歳以上	326	24.2	42.9	24.5	8.3	58.9	22.1	8.0	0.9	10.1	54.3	28.5	6.4	1.2	9.5	

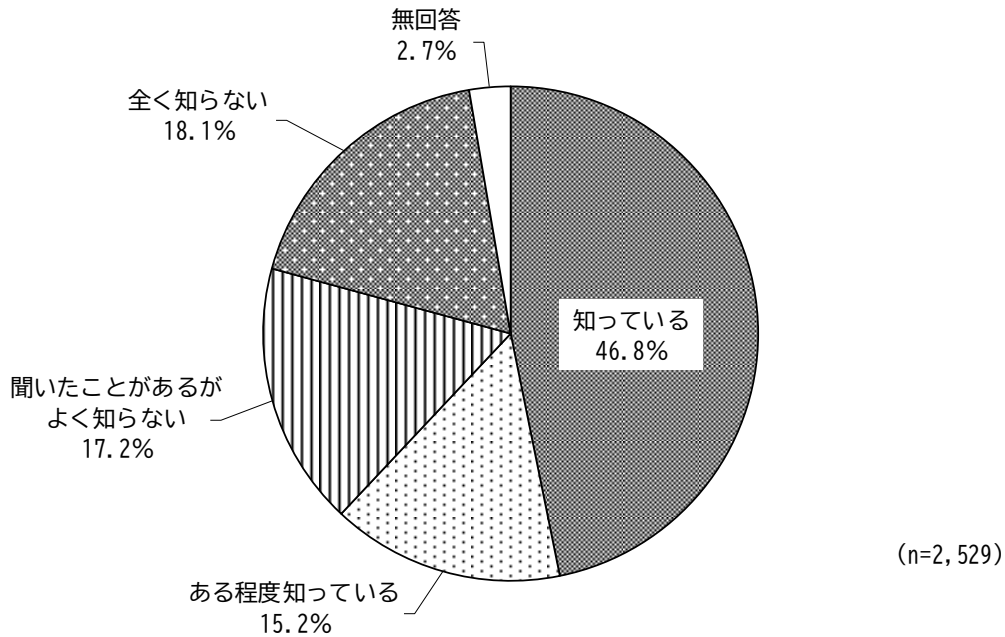
17. ケアラー・ヤングケアラーについて

(1) 「ケアラー」「ヤングケアラー」の認知度

◇『知っている』が6割強

問 52. あなたは「ケアラー」、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

図表 17-1-1 「ケアラー」「ヤングケアラー」の認知度



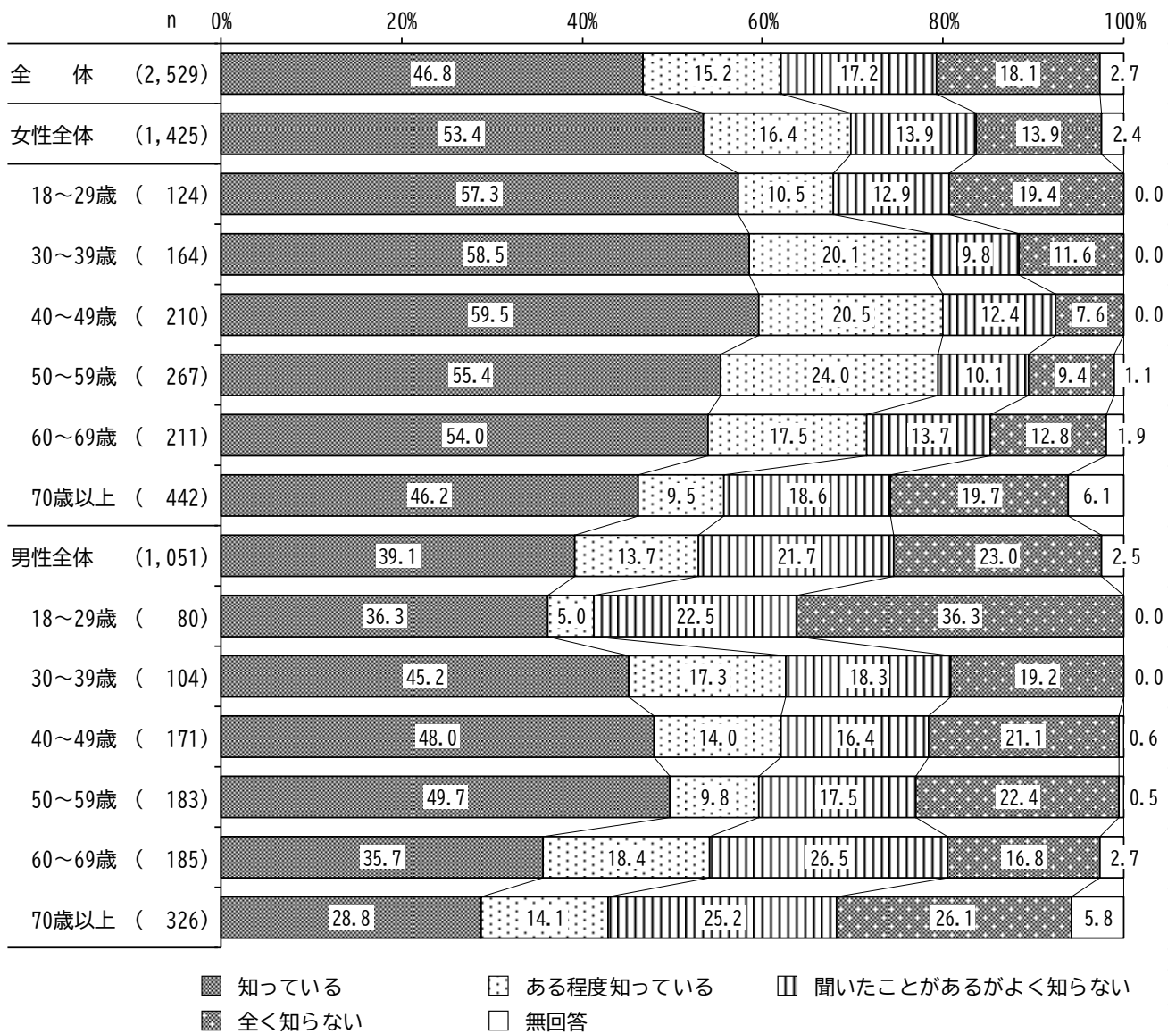
「ケアラー」「ヤングケアラー」の認知度については、「知っている」(46.8%)が最も多く、次いで「全く知らない」(18.1%)、「聞いたことがあるがよく知らない」(17.2%)、「ある程度知っている」(15.2%)の順となっている。「知っている」と「ある程度知っている」を合わせた『知っている』(62.0%)が6割強、「聞いたことがあるがよく知らない」と「全く知らない」を合わせた『知らない』(35.3%)は3割半ばとなっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『知っている』は女性(69.8%)が男性(52.8%)を17.0ポイント上回っている。一方、『知らない』は男性(44.7%)が女性(27.8%)を16.9ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『知っている』は女性40歳代(80.0%)が8割で最も多く、女性30歳代(78.7%)、50歳代(79.4%)、60歳代(71.6%)も7割台となっている。一方、男性18~29歳(41.3%)、70歳以上(42.9%)は『知っている』が全体を20ポイント前後下回り、『知らない』(18~29歳58.8%、70歳以上51.2%)が5割以上を占めている。

図表 17-1-2 性・年齢別 「ケアラー」「ヤングケアラー」の認知度



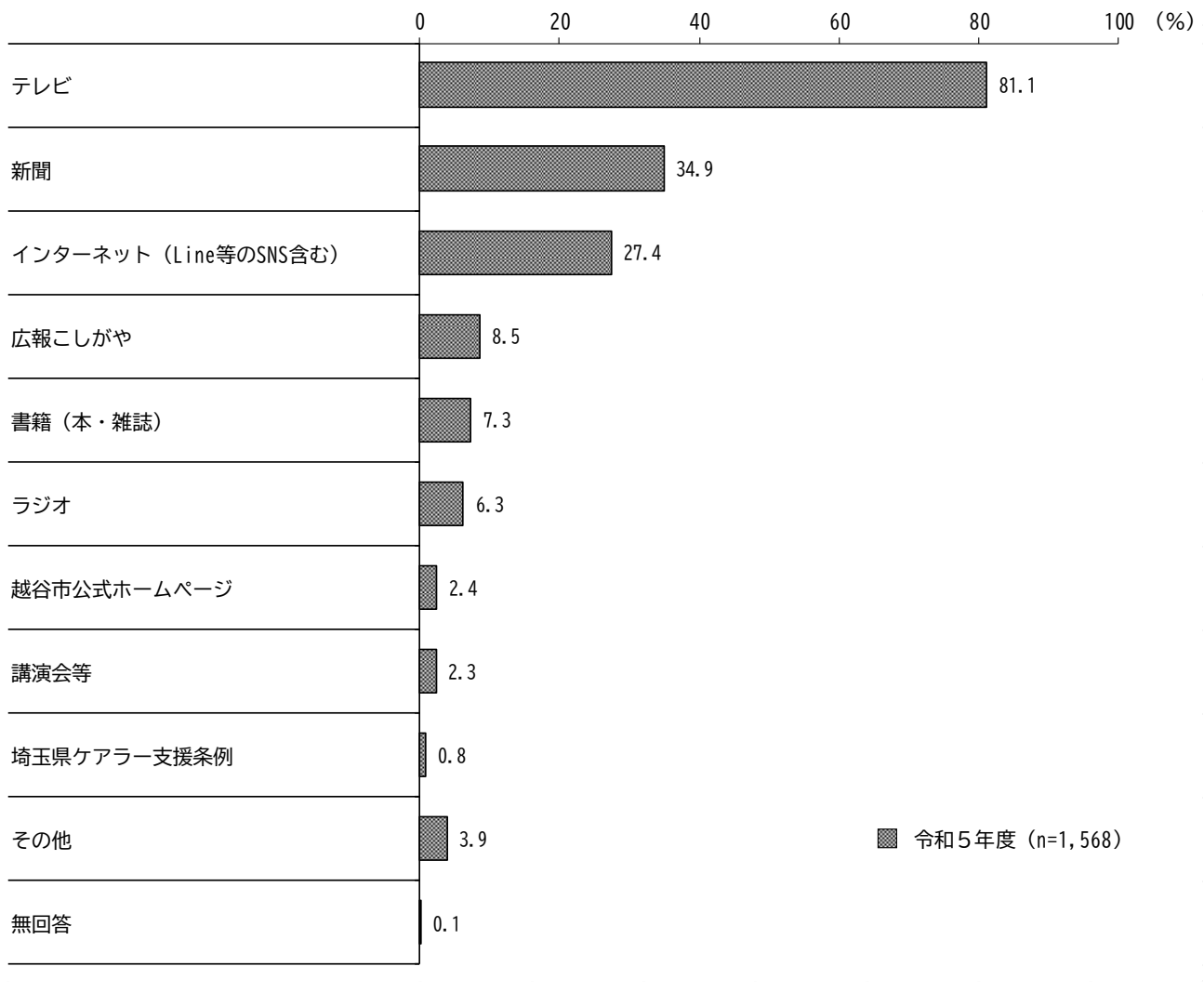
(2) 「ケアラー」「ヤングケアラー」を知ったきっかけ

◇「テレビ」が最も多く、約8割

問 52-2. 問 52 で「1」または「2」(知っている)と答えた方に伺います。

「ケアラー」、「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

図表 17-2-1 「ケアラー」「ヤングケアラー」を知ったきっかけ



「ケアラー」「ヤングケアラー」を「知っている」または「ある程度知っている」と回答した 1568 人に、知ったきっかけを聞いたところ、「テレビ」(81.1%) が最も多く、次いで「新聞」(34.9%)、「インターネット (Line 等の SNS 含む)」(27.4%)、「広報こしがや」(8.5%)、「書籍 (本・雑誌)」(7.3%) の順となっている。

性別で見ると、「テレビ」は女性（82.9%）が男性（77.8%）を5.1ポイント上回っている。一方、「新聞」（男性38.7%、女性32.6%）、「ラジオ」（男性9.7%、女性4.4%）は男性が女性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「テレビ」は女性60歳代（90.7%）が約9割で最も多く、男女ともすべての年齢で5割以上を占めている。「新聞」は30歳代以上では年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、70歳以上は女性（60.6%）、男性（61.4%）とも約6割を占めている。一方、「インターネット（Line等のSNS含む）」は男性40歳代（46.2%）が最も多く、女性18～29歳（44.0%）、30歳代（43.4%）、男性18～29歳（45.5%）など若年層で多くなる傾向にある。また、「広報こしがや」は70歳以上（女性19.5%、男性17.1%）、「書籍（本・雑誌）」は男性18～29歳（21.2%）で、他の年齢に比べ多くなっている。

図表17-2-2 性・年齢別 「ケアラー」「ヤングケアラー」を知ったきっかけ

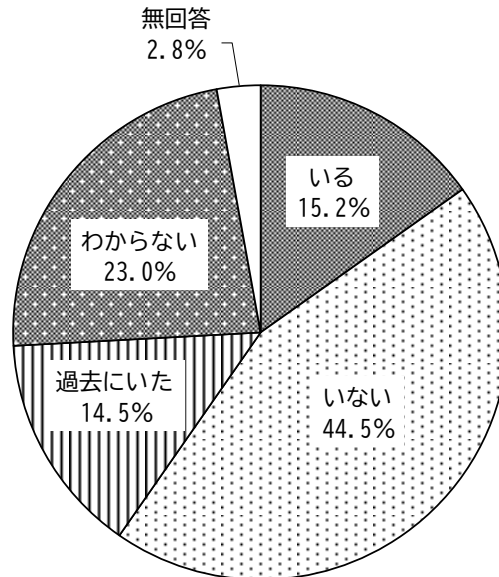
	調査数（人）	テレビ	新聞	インターネット （Line等のSNS含む）	広報こしがや	書籍（本・雑誌）	ラジオ	越谷市公式ホームページ	講演会等	埼玉県ケアラー支援条例	その他	無回答
全体	1,568	81.1	34.9	27.4	8.5	7.3	6.3	2.4	2.3	0.8	3.9	0.1
女性全体	995	82.9	32.6	26.0	8.5	6.4	4.4	1.8	1.8	0.7	4.0	0.1
18～29歳	84	53.6	11.9	44.0	2.4	6.0	2.4	-	2.4	-	26.2	-
30～39歳	129	76.7	10.9	43.4	2.3	8.5	-	1.6	-	0.8	3.1	-
40～49歳	168	83.9	19.6	35.1	7.1	7.1	1.8	2.4	3.0	-	4.2	-
50～59歳	212	87.7	25.9	25.0	3.8	6.1	2.8	1.9	1.9	-	2.4	-
60～69歳	151	90.7	40.4	22.5	7.3	5.3	6.6	3.3	0.7	-	1.3	0.7
70歳以上	246	86.6	60.6	7.3	19.5	6.1	9.3	1.2	2.4	2.4	-	-
男性全体	555	77.8	38.7	30.3	8.3	8.8	9.7	3.4	3.2	1.1	3.8	0.2
18～29歳	33	57.6	21.2	45.5	-	21.2	3.0	-	3.0	-	12.1	-
30～39歳	65	70.8	15.4	36.9	-	4.6	3.1	1.5	4.6	-	7.7	-
40～49歳	106	76.4	25.5	46.2	6.6	7.5	7.5	1.9	4.7	1.9	1.9	-
50～59歳	109	78.0	36.7	30.3	6.4	6.4	10.1	2.8	0.9	0.9	2.8	-
60～69歳	100	81.0	44.0	23.0	7.0	9.0	10.0	3.0	2.0	-	4.0	-
70歳以上	140	85.0	61.4	16.4	17.1	9.3	15.0	6.4	3.6	1.4	2.1	0.7

(3) 「家族等のケアで困っている」人の有無

◇ 「いない」が最も多く、4割半ば

問 53. あなたの周りに「家族等のケアで困っている」と思われる人がいます（いました）か。
(○は1つ)

図表 17-3-1 「家族等のケアで困っている」人の有無



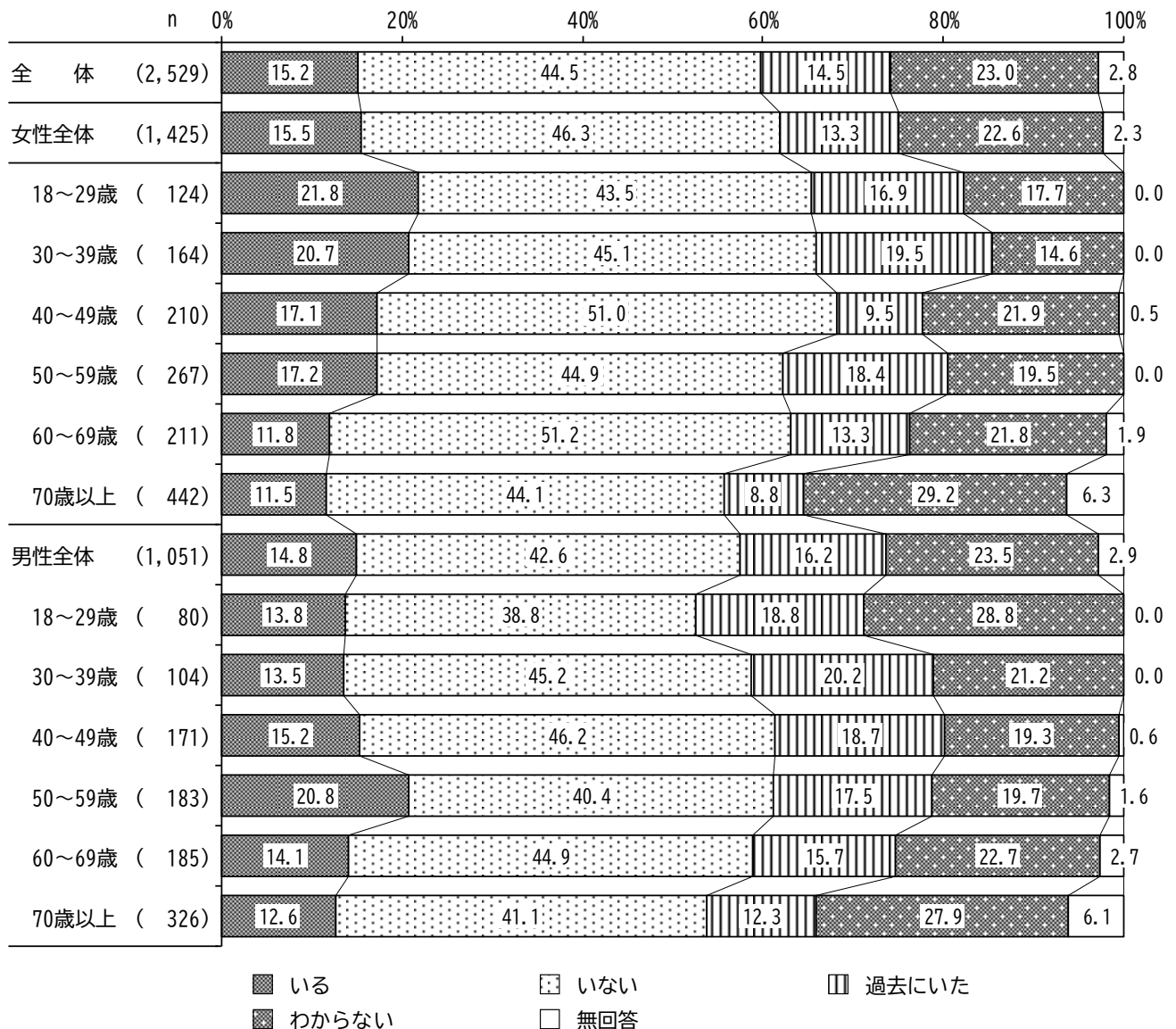
(n=2,529)

「家族等のケアで困っている」人の有無については、「いない」(44.5%)が最も多く、次いで「わからない」(23.0%)、「いる」(15.2%)、「過去にいた」(14.5%)の順となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「いる」は女性18～29歳(21.8%)が最も多く、女性30歳代(20.7%)、男性50歳代(20.8%)も約2割となっている。一方、「いない」は女性40歳代(51.0%)、60歳代(51.2%)で約5割、「過去にいた」は女性30歳代(19.5%)、男性30歳代(20.2%)で約2割、「わからない」は女性70歳以上(29.2%)で約3割を占めている。

図表 17-3-2 性・年齢別 「家族等のケアで困っている」人の有無



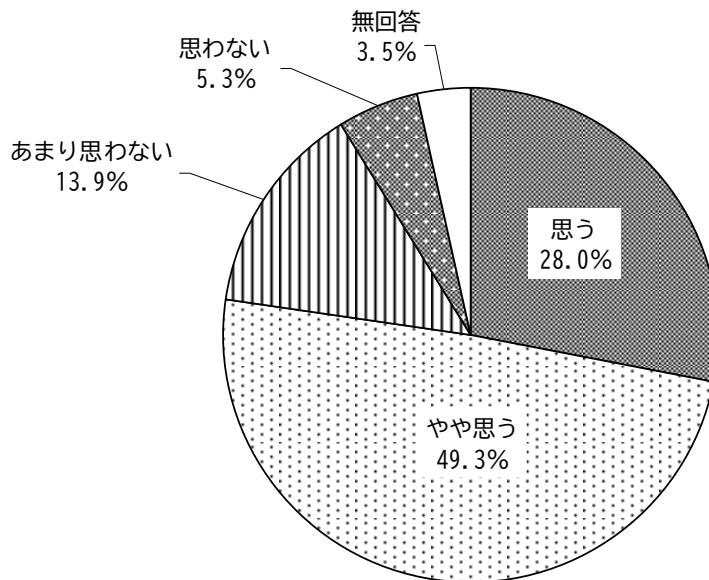
(4) 「家族等のケアで困っている」人への支援意向

◇『思う』は8割弱

問 54. あなたの周りに家族等のケアで困っている人がいたら、手助けしたいと思いますか。

(○は1つ)

図表 17-4-1 「家族等のケアで困っている」人への支援意向



(n=2,529)

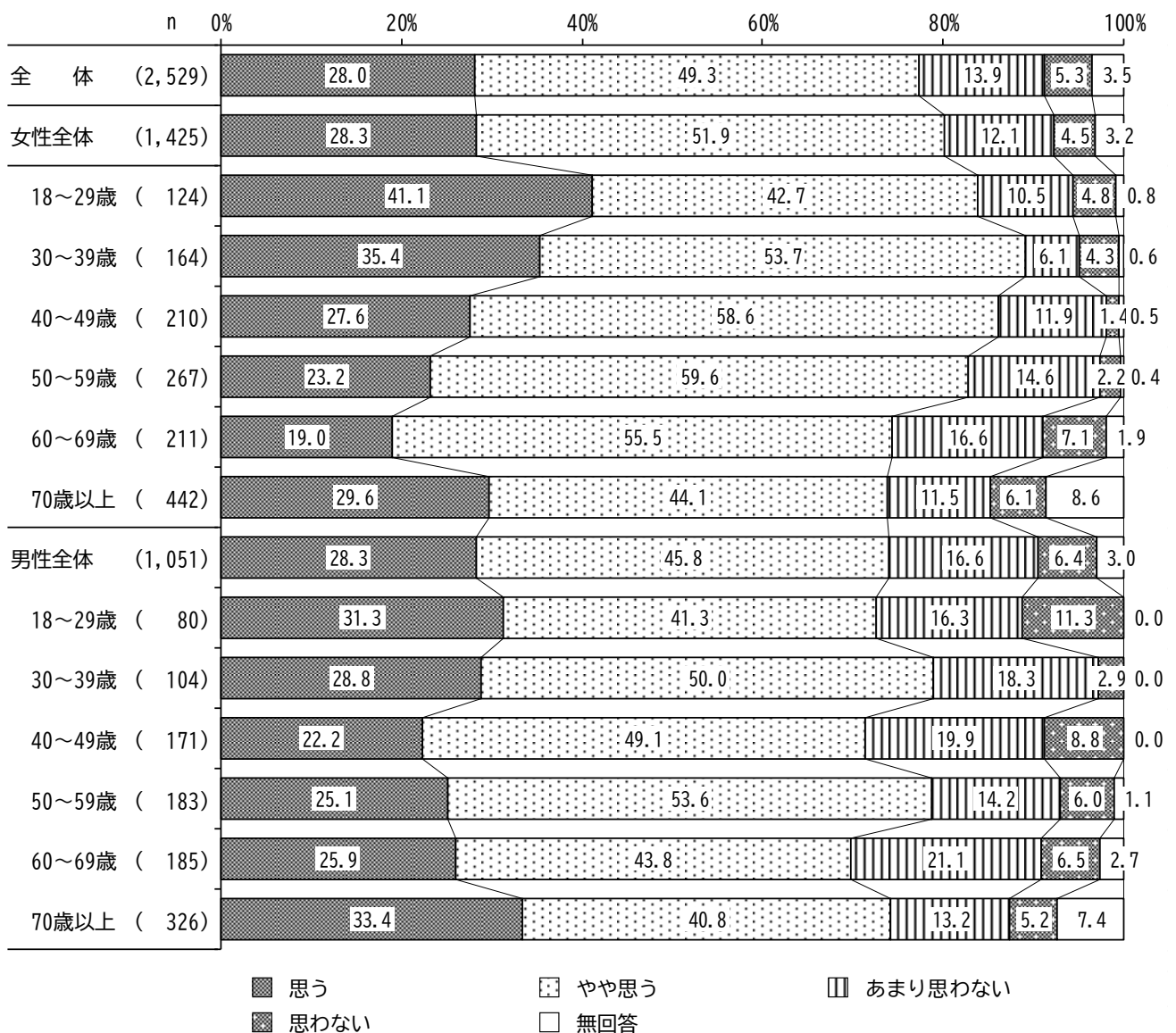
「家族等のケアで困っている」人への支援意向は、手助けしたいと「思う」(28.0%)と「やや思う」(49.3%)を合わせた『思う』(77.3%)は8割弱、「あまり思わない」(13.9%)と「思わない」(5.3%)を合わせた『思わない』(19.2%)は約2割となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、『思う』は女性（80.1%）が男性（74.0%）を6.1ポイント上回っている。一方、『思わない』は男性（22.9%）が女性（16.6%）を6.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、『思う』は女性30歳代（89.0%）が約9割で最も多く、女性18～29歳（83.9%）、40歳代（86.2%）、50歳代（82.8%）も8割台となっている。『思う』は男性60歳代（69.7%）を除き、7割以上を占めている。一方、『思わない』は男性40歳代（28.7%）が最も多く、男性18～29歳（27.5%）、60歳代（27.6%）も3割弱となっている。

図表 17-4-2 性・年齢別 「家族等のケアで困っている」人への支援意向



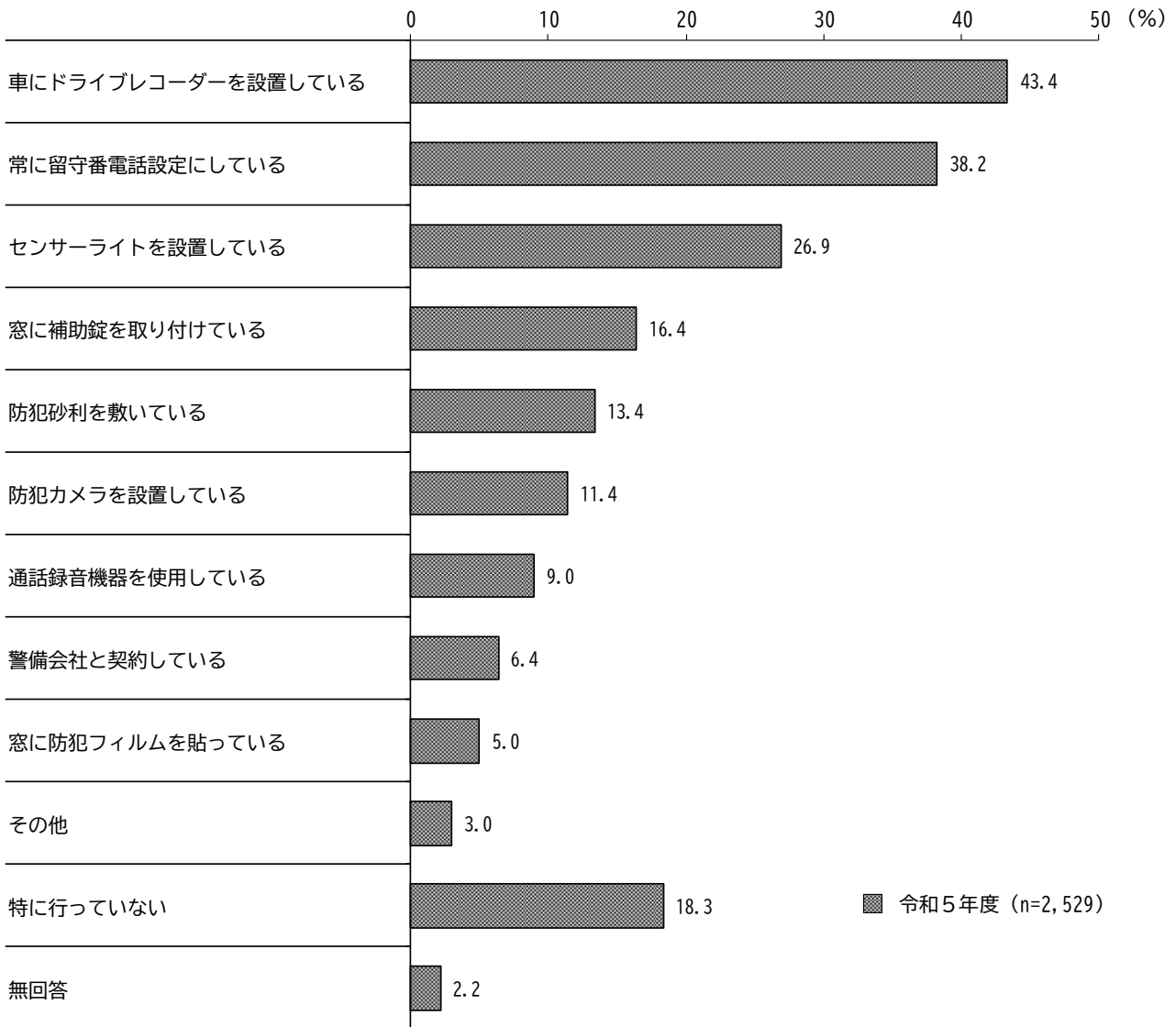
18. 防犯対策について

(1) 自宅の防犯対策

◇「車にドライブレコーダーを設置している」が最も多く、4割強

問 55. ご自宅の防犯対策で、行っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

図表 18-1-1 自宅の防犯対策



自宅の防犯対策で、行っているものは、「車にドライブレコーダーを設置している」(43.4%)が最も多く、次いで「常に留守番電話設定にしている」(38.2%)、「センサーライトを設置している」(26.9%)、「窓に補助錠を取り付けている」(16.4%)、「防犯砂利を敷いている」(13.4%)の順となっている。一方、「特に行っていない」(18.3%)は2割弱となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

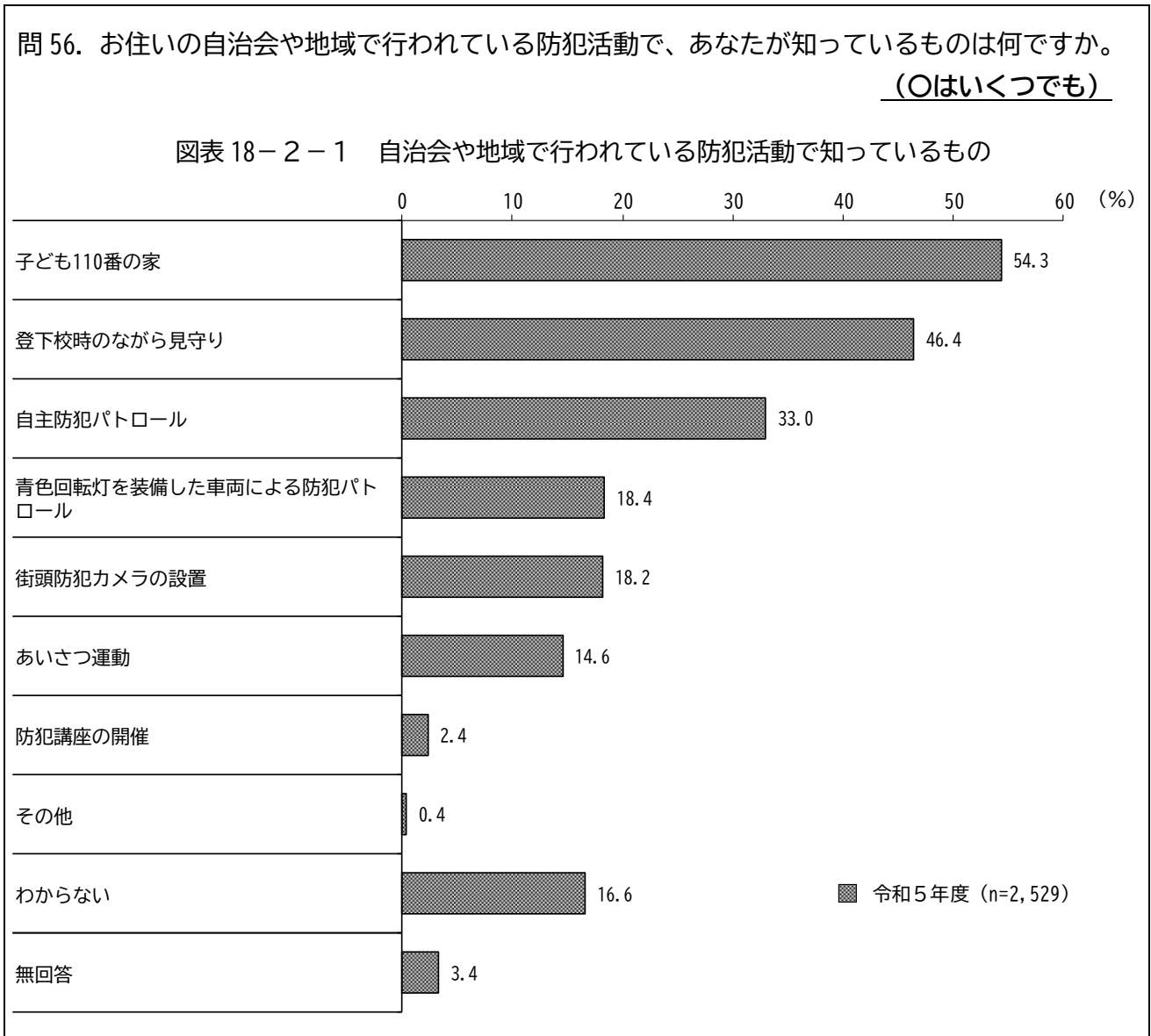
性・年齢別でみると、「車にドライブレコーダーを設置している」は女性30歳代(54.3%)が5割半ばで最も多く、女性40歳代(53.3%)、男性30歳代(51.0%)、50歳代(53.0%)、60歳代(51.9%)も5割台となっている。「常に留守番電話設定にしている」は女性60歳代(50.2%)で約5割を占め、男女とも50歳代以上で4割以上となる一方、女性18～29歳(16.1%)、30歳代(14.0%)、男性30歳代(14.4%)は1割半ばと、若年層で少なくなる傾向にある。また、「センサーライトを設置している」は女性40歳代(34.3%)、50歳代(33.7%)、男性50歳代(30.6%)で3割台となっている。一方、「特に行っていない」は男性30歳代(31.7%)が最も多く、女性18～29歳(27.4%)、30歳代(23.8%)、男性18～29歳(20.0%)も2割台となっている。

図表 18-1-2 性・年齢別 自宅の防犯対策

	調査数(人)	車にドライブレコーダーを設置している	常に留守番電話設定にしている	センサーライトを設置している	窓に補助錠を取り付けている	防犯砂利を敷いている	防犯カメラを設置している	通話録音機器を使用している	警備会社と契約している	窓に防犯フィルムを貼っている	その他	特に行っていない	無回答
全体	2,529	43.4	38.2	26.9	16.4	13.4	11.4	9.0	6.4	5.0	3.0	18.3	2.2
女性全体	1,425	43.2	39.4	27.2	16.7	14.1	11.2	7.7	7.0	4.8	3.4	17.3	1.8
18～29歳	124	38.7	16.1	18.5	9.7	6.5	11.3	3.2	10.5	5.6	6.5	27.4	-
30～39歳	164	54.3	14.0	23.2	12.8	18.9	15.2	3.0	16.5	4.3	1.8	23.8	-
40～49歳	210	53.3	35.2	34.3	20.0	18.6	14.3	4.8	9.5	7.1	2.9	14.8	0.5
50～59歳	267	49.8	49.4	33.7	20.6	18.4	12.7	8.6	4.5	4.9	2.6	10.9	0.7
60～69歳	211	48.3	50.2	25.6	16.1	11.4	10.4	12.3	6.6	3.3	4.7	14.7	2.4
70歳以上	442	29.0	45.9	24.2	16.7	11.3	7.7	9.5	2.9	4.5	3.2	18.6	4.1
男性全体	1,051	44.9	36.0	26.3	16.0	12.7	11.8	10.6	5.5	5.1	2.6	19.7	2.2
18～29歳	80	46.3	22.5	20.0	15.0	13.8	11.3	5.0	3.8	6.3	2.5	20.0	-
30～39歳	104	51.0	14.4	19.2	12.5	11.5	10.6	3.8	7.7	4.8	4.8	31.7	-
40～49歳	171	46.8	25.1	28.1	15.2	17.0	17.5	7.6	10.5	4.7	2.9	15.2	-
50～59歳	183	53.0	43.7	30.6	20.8	18.6	11.5	5.5	5.5	6.0	3.3	14.2	0.5
60～69歳	185	51.9	40.0	25.9	12.4	13.0	11.9	14.6	4.9	4.9	2.2	17.8	2.2
70歳以上	326	33.1	45.1	26.7	16.9	6.7	9.2	16.0	2.8	4.6	1.5	22.1	5.5

(2) 自治会や地域で行われている防犯活動で知っているもの

◇「子ども 110 番の家」が最も多く、5 割半ば



自治会や地域で行われている防犯活動で知っているものは、「子ども 110 番の家」(54.3%) が最も多く、次いで「登下校時のながら見守り」(46.4%)、「自主防犯パトロール」(33.0%)、「青色回転灯を装備した車両による防犯パトロール」(18.4%)、「街頭防犯カメラの設置」(18.2%) の順となっている。

性別で見ると、「自主防犯パトロール」は男性（36.3%）が女性（30.9%）を5.4ポイント上回っている。一方、「子ども110番の家」（女性61.3%、男性45.7%）、「登下校時のながら見守り」（女性51.5%、男性39.6%）は女性が男性を10ポイント以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「子ども110番の家」は女性40歳代（72.9%）が7割強で最も多くなっている。女性は70歳以上（47.1%）を除き6割以上を占めるが、男性は40歳代～60歳代（44.4%、47.5%、46.5%）で4割台、70歳以上（35.0%）は3割半ばで全体を19.3ポイント下回っている。「登下校時のながら見守り」は女性40歳代（65.7%）が最も多く、女性18～29歳（53.2%）、30歳代（57.3%）、50歳代（53.6%）、男性18～29歳（50.0%）も5割台となっている。また、「自主防犯パトロール」は男性60歳代（43.8%）、70歳以上（40.2%）で4割台、「あいさつ運動」は男性18～29歳（35.0%）、女性18～29歳（31.5%）で3割台と、他の年齢に比べ多くなっている。

図表 18-2-2 性・年齢別 自治会や地域で行われている防犯活動で知っているもの

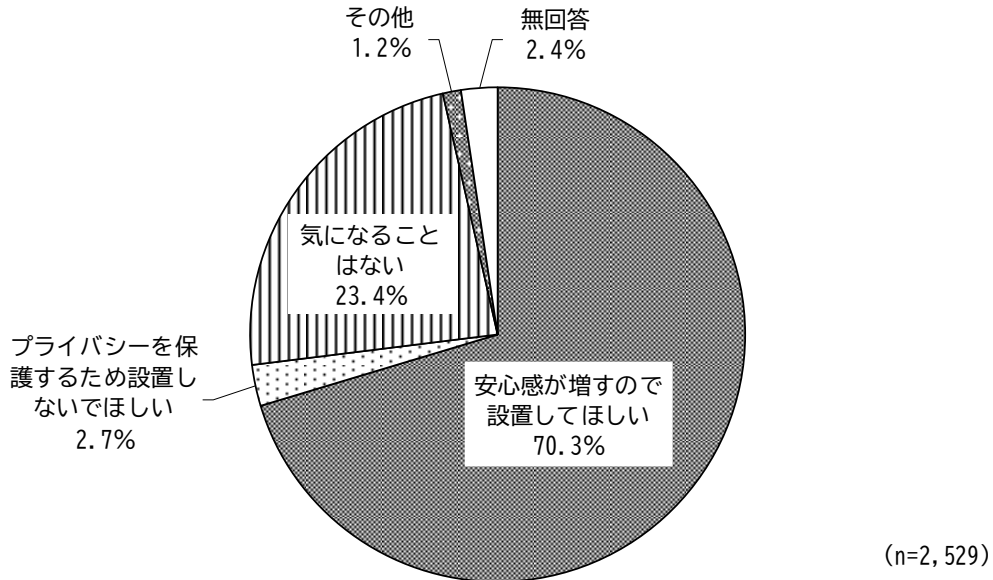
	調査数（人）	子ども110番の家	登下校時のながら見守り	自主防犯パトロール	青色回転灯を装備した車両による防犯パトロール	街頭防犯カメラの設置	あいさつ運動	防犯講座の開催	その他	わからない	無回答
全体	2,529	54.3	46.4	33.0	18.4	18.2	14.6	2.4	0.4	16.6	3.4
女性全体	1,425	61.3	51.5	30.9	17.5	18.2	16.2	2.4	0.4	14.0	2.9
18～29歳	124	68.5	53.2	16.9	19.4	13.7	31.5	5.6	-	14.5	0.8
30～39歳	164	67.7	57.3	26.2	18.9	13.4	14.6	1.2	0.6	12.8	1.2
40～49歳	210	72.9	65.7	29.0	21.4	19.0	23.8	1.0	-	13.3	0.5
50～59歳	267	65.9	53.6	35.6	22.8	22.1	19.9	3.0	0.4	13.1	0.7
60～69歳	211	64.9	47.4	34.6	14.7	23.2	10.4	2.8	0.5	14.2	1.9
70歳以上	442	47.1	42.8	33.0	12.4	16.3	9.3	2.0	0.5	15.2	6.8
男性全体	1,051	45.7	39.6	36.3	20.0	18.4	12.5	2.2	0.6	20.2	3.4
18～29歳	80	66.3	50.0	26.3	17.5	11.3	35.0	3.8	-	16.3	-
30～39歳	104	61.5	42.3	24.0	25.0	17.3	17.3	-	-	25.0	-
40～49歳	171	44.4	47.4	31.0	21.1	19.3	12.3	1.2	-	22.2	-
50～59歳	183	47.5	30.6	38.3	21.3	19.1	8.7	1.1	0.5	24.0	1.1
60～69歳	185	46.5	31.9	43.8	17.8	16.2	9.7	1.6	0.5	20.5	3.2
70歳以上	326	35.0	41.7	40.2	19.0	20.9	9.2	4.0	1.2	16.3	8.0

(3) 自宅付近への街頭防犯カメラ設置について

◇「安心感が増すので設置してほしい」が最も多く、約7割

問 57. ご自宅付近に街頭防犯カメラが設置される場合、どう思いますか。(○は1つ)

図表 18-3-1 自宅付近への街頭防犯カメラ設置について

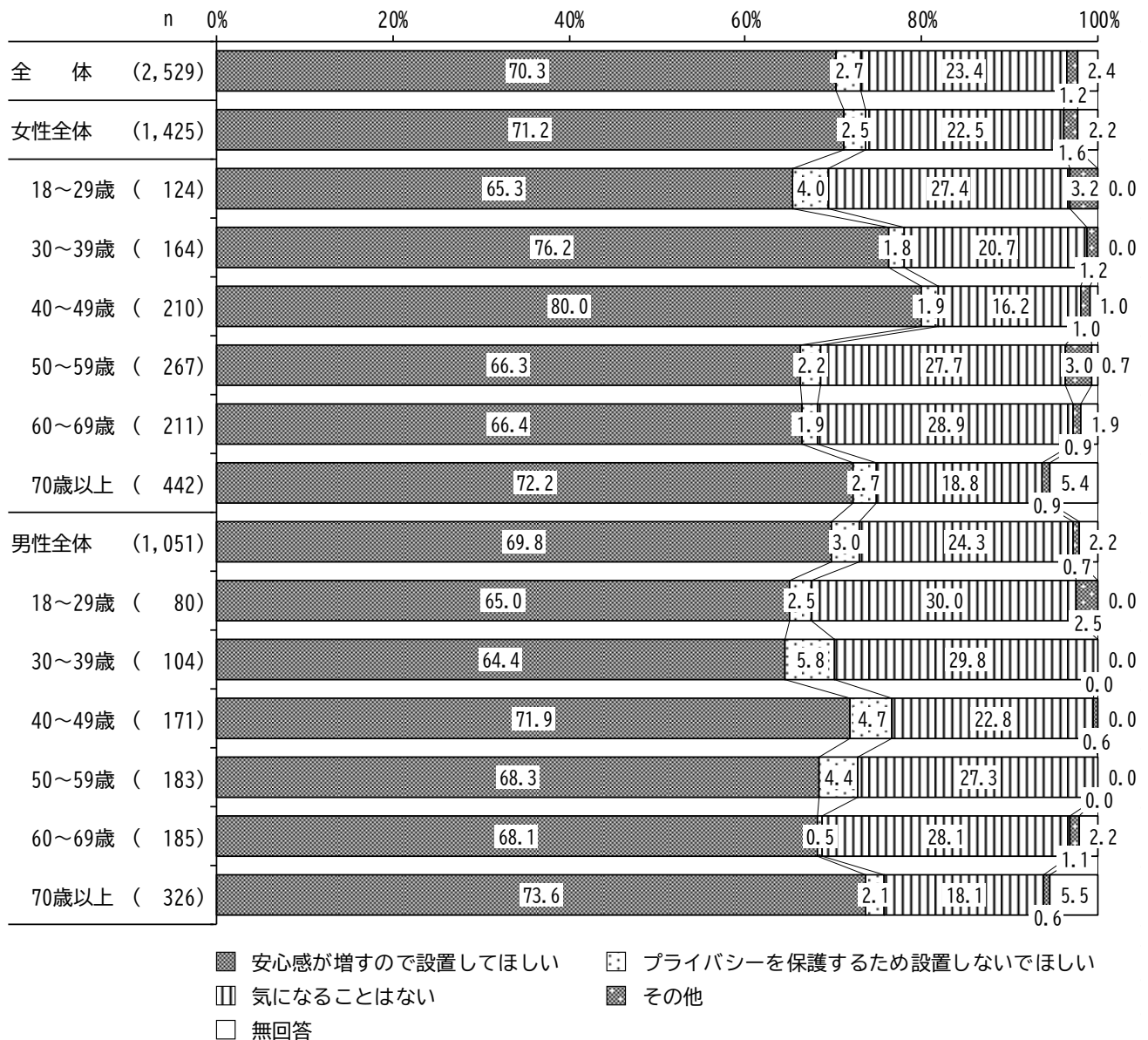


自宅付近への街頭防犯カメラ設置については、「安心感が増すので設置してほしい」(70.3%) が最も多く、次いで「気になることはない」(23.4%)、「プライバシーを保護するため設置しないでほしい」(2.7%) の順となっている。

性別でみると、大きな差はみられない。

性・年齢別でみると、「安心感が増すので設置してほしい」は男女ともすべての年齢で6割以上を占め、女性40歳代（80.0%）は8割、女性30歳代（76.2%）、70歳以上（72.2%）、男性40歳代（71.9%）、70歳以上（73.6%）は7割台と多くなっている。一方、「プライバシーを保護するため設置しないでほしい」は男女ともすべての年齢で1割未満となっている。

図表 18-3-2 性・年齢別 自宅付近への街頭防犯カメラ設置について



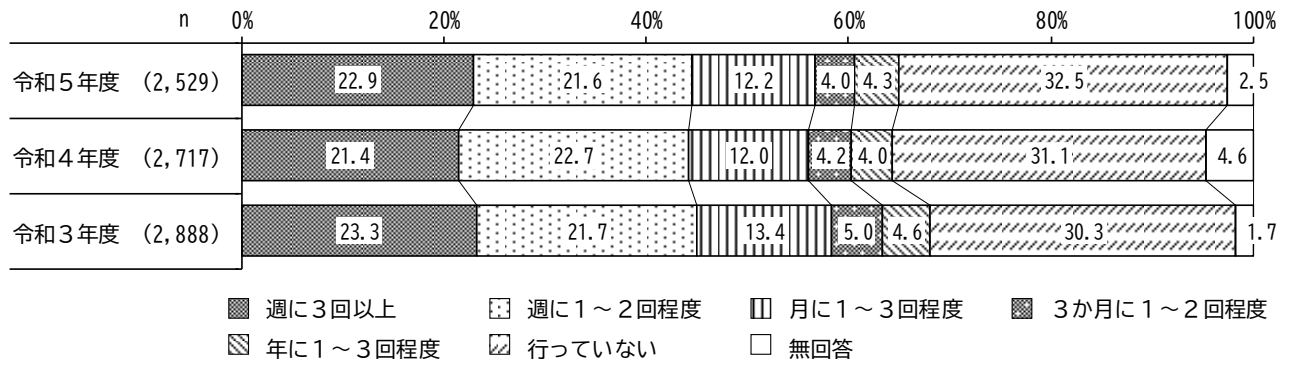
19. スポーツ・レクリエーションの実施状況について

(1) スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

◇『週に1回以上』が4割半ば、『月に1回以上』が5割半ば

問 58. この1年間でどのくらいスポーツ・レクリエーション活動を行いましたか
(ウォーキング・徒歩や軽い体操も含みます)。(〇は1つ)

図表 19-1-1 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況



この1年間のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況については、「週に3回以上」(22.9%)と「週に1～2回程度」(21.6%)を合わせた『週に1回以上』(44.4%)は4割半ば、『週に1回以上』と「月に1～3回程度」(12.2%)を合わせた『月に1回以上』(56.7%)は5割半ばとなっている。一方、「行っていない」(32.5%)は3割強となっている。

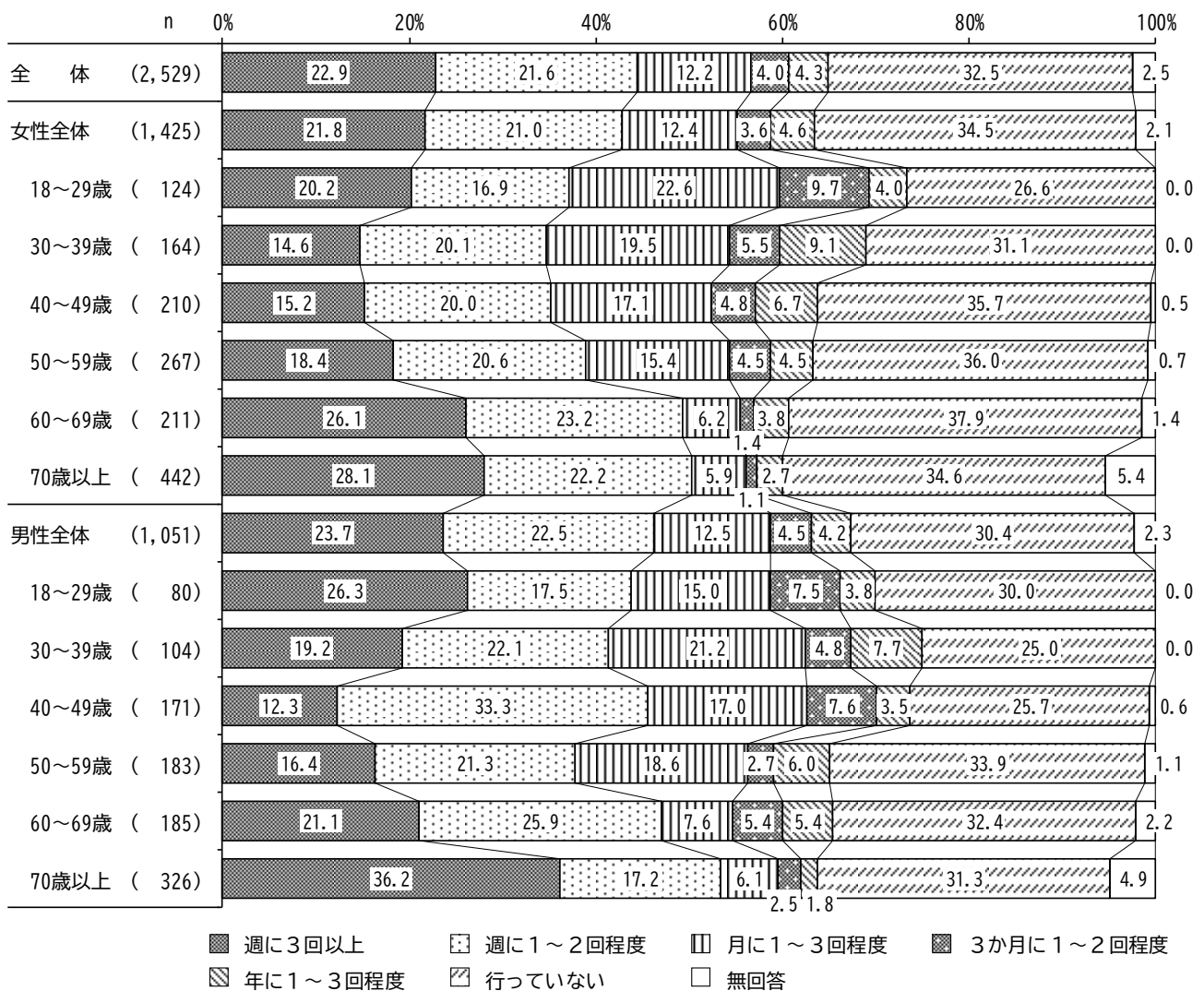
過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

※図表の数値については、小数点以下第2位で四捨五入しているため、内訳の計と合計が一致しない場合がある。

性別で見ると、大きな差はみられない。

性・年齢別で見ると、『週に1回以上』は70歳以上で男性(53.4%)、女性(50.2%)とも5割台となっている。男性70歳以上は「週に3回以上」(36.2%)が3割半ばを占め、他の年齢に比べ多くなっている。一方、女性30歳代(34.8%)、40歳代(35.2%)は3割半ばで、全体を10ポイント近く下回っている。『月1回以上』は男女ともすべての年齢で5割以上となっており、男性30歳代(62.5%)、40歳代(62.6%)は6割強を占めている。一方、「行っていない」は女性60歳代(37.9%)が最も多く、女性18~29歳(26.6%)、男性30歳代(25.0%)、40歳代(25.7%)を除き、3割台となっている。

図表 19-1-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動の実施状況

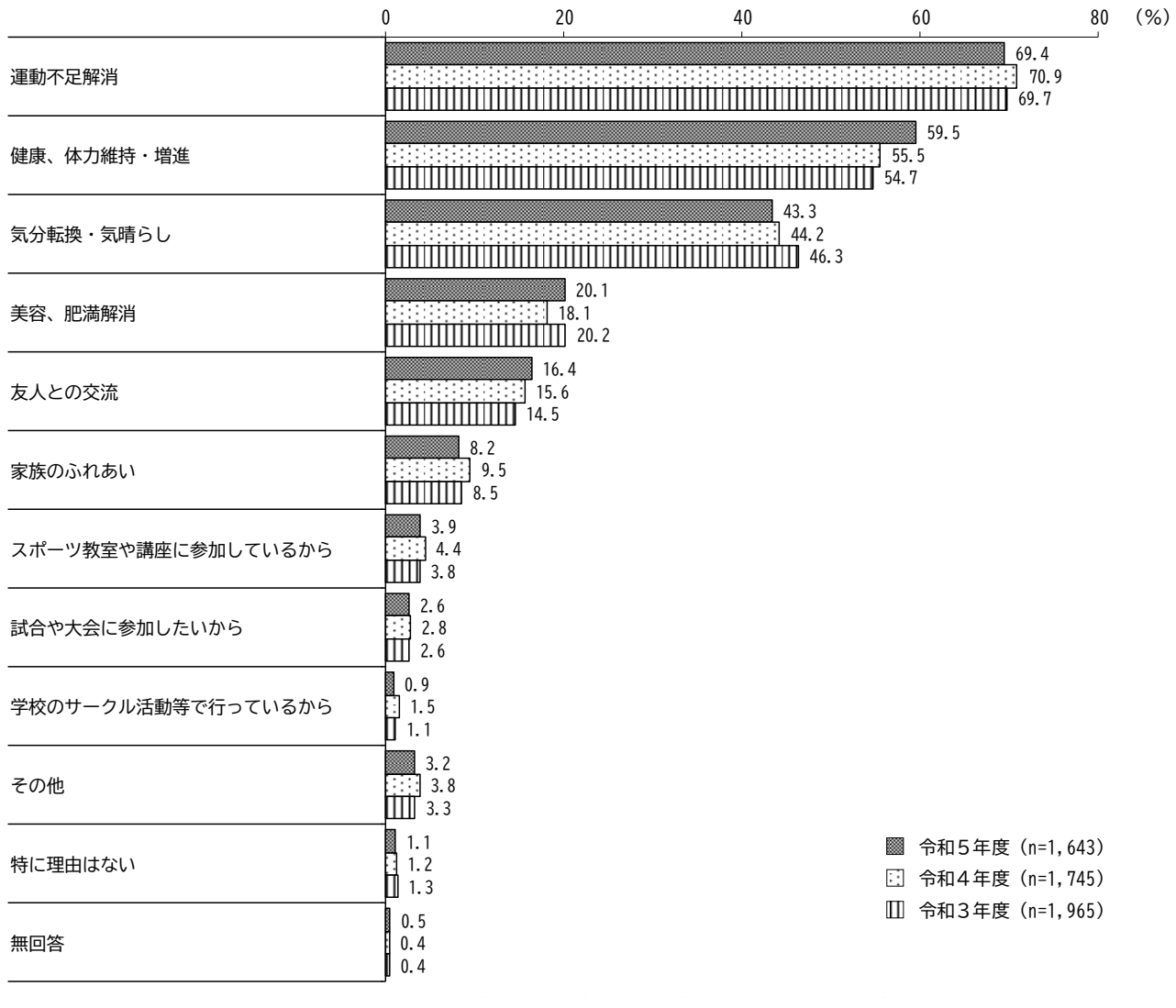


(2) スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

◇「運動不足解消」が最も多く、約7割

問 58-2. 問 58 で「1」から「5」のいずれかと答えた方に伺います。あなたがスポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 19-2-1 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由



この1年間でスポーツ・レクリエーション活動を行ったと回答した1,643人に、スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由を聞いたところ、「運動不足解消」(69.4%)が最も多く、次いで「健康、体力維持・増進」(59.5%)、「気分転換・気晴らし」(43.3%)、「美容、肥満解消」(20.1%)、「友人との交流」(16.4%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「健康、体力維持・増進」は令和4年度(55.5%)と比べ4.0ポイント、令和3年度(54.7%)と比べ4.8ポイント、調査ごとに増加している。

性別でみると、「美容、肥満解消」は女性（26.0%）が男性（12.9%）を13.1ポイント上回っている。一方、「運動不足解消」（男性73.0%、女性66.6%）、「健康、体力維持・増進」（男性62.3%、女性56.6%）は男性が女性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別でみると、「運動不足解消」は男性40歳代（81.7%）、70歳以上（79.8%）で約8割を占め、男性18～29歳（46.4%）を除き5割以上となっている。「健康、体力維持・増進」は年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性70歳以上（72.8%）、男性60歳代（75.2%）、70歳以上（75.5%）で7割台となっている。一方、「気分転換・気晴らし」は女性18～29歳（51.6%）、男性40歳代以下（51.8%、56.4%、52.4%）で5割台を占め、若年層で多くなる傾向にある。また、「美容、肥満解消」は女性30歳代（45.1%）で全体を25.0ポイント上回り、女性18～29歳（38.5%）、40歳代（33.6%）、50歳代（36.7%）も多くなっている。「家族のふれあい」は女性30歳代（25.7%）、40歳代（20.1%）、男性30歳代（20.5%）で2割台を占めている。

図表 19-2-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行った主な理由

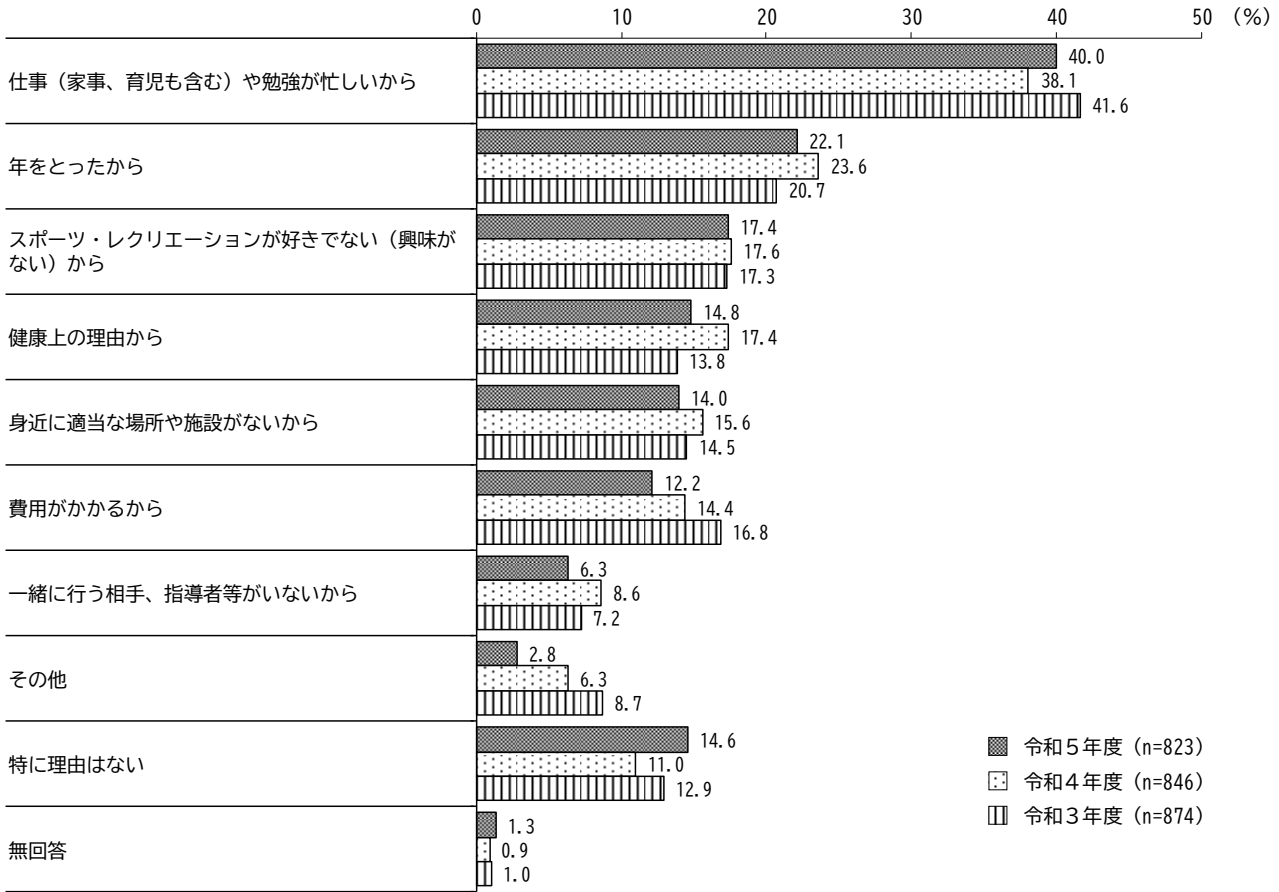
	調査数（人）	運動不足解消	健康、体力維持・増進	気分転換・気晴らし	美容、肥満解消	友人との交流	家族のふれあい	スポーツ教室や講座に参加しているから	試合や大会に参加したいから	学校のサークル活動等で行っているから	その他	特に理由はない	無回答
全体	1,643	69.4	59.5	43.3	20.1	16.4	8.2	3.9	2.6	0.9	3.2	1.1	0.5
女性全体	903	66.6	56.6	41.9	26.0	17.1	9.5	5.1	1.9	1.0	3.2	1.2	0.2
18～29歳	91	57.1	31.9	51.6	38.5	14.3	11.0	2.2	1.1	8.8	4.4	1.1	-
30～39歳	113	61.1	34.5	36.3	45.1	9.7	25.7	1.8	2.7	-	5.3	3.5	-
40～49歳	134	60.4	45.5	45.5	33.6	9.0	20.1	5.2	1.5	-	3.0	0.7	-
50～59歳	169	69.8	58.6	45.0	36.7	10.1	4.7	4.1	1.2	-	1.8	1.2	0.6
60～69歳	128	66.4	68.8	40.6	17.2	17.2	5.5	10.2	3.1	0.8	4.7	-	-
70歳以上	265	73.2	72.8	37.0	7.2	29.8	1.5	5.7	1.9	-	2.3	1.1	0.4
男性全体	708	73.0	62.3	45.8	12.9	15.8	6.8	2.5	3.7	0.7	3.4	0.8	0.6
18～29歳	56	46.4	41.1	51.8	8.9	19.6	3.6	1.8	10.7	8.9	3.6	3.6	1.8
30～39歳	78	67.9	47.4	56.4	24.4	20.5	20.5	1.3	7.7	-	6.4	-	-
40～49歳	126	81.7	53.2	52.4	18.3	9.5	13.5	2.4	4.8	-	4.0	0.8	-
50～59歳	119	68.9	55.5	46.2	16.8	12.6	2.5	3.4	3.4	-	4.2	1.7	-
60～69歳	121	71.9	75.2	40.5	12.4	16.5	3.3	0.8	0.8	-	1.7	-	-
70歳以上	208	79.8	75.5	38.9	4.3	18.3	2.9	3.8	1.4	-	2.4	0.5	1.4

(3) スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

◇「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」が最も多く、4割

問 58-3. 問 58 で「6. 行っていない」と答えた方に伺います。あなたが、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由は何ですか。(〇は3つまで)

図表 19-3-1 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由



この1年間にスポーツ・レクリエーション活動を「行っていない」と回答した823人に、スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由を聞いたところ、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」(40.0%)が最も多く、次いで「年をとったから」(22.1%)、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」(17.4%)、「健康上の理由から」(14.8%)、「身近に適切な場所や施設がないから」(14.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「費用がかかるから」(12.2%)は令和4年度(14.4%)と比べ2.2ポイント、令和3年度(16.8%)と比べ4.6ポイント、調査ごとに減少している。

性別で見ると、「年をとったから」は男性（26.0%）が女性（19.1%）を6.9ポイント上回っている。一方、「費用がかかるから」（女性15.0%、男性7.8%）、「身近に適切な場所や施設がないから」（女性16.7%、男性10.0%）、「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（女性19.9%、男性14.1%）は女性が男性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから」は女性30歳代（76.5%）が7割半ばで最も多く、女性50歳代（63.5%）が6割強、女性18～29歳（54.5%）、40歳代（56.0%）、男性40歳代（56.8%）、50歳代（51.6%）などが5割台となっている。「年をとったから」「健康上の理由から」は70歳以上が他の年齢に比べ多く、「年をとったから」は男性70歳以上（52.9%）で5割強、女性70歳以上（45.8%）で4割半ばを占めている。一方、女性30歳代は「スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から」（29.4%）、「身近に適切な場所や施設がないから」（29.4%）、「費用がかかるから」（27.5%）が全体を10ポイント以上上回っている。

※調査数が少ないもの（本調査では30人未満とする）については、記述の対象としない。

図表 19-3-2 性・年齢別 スポーツ・レクリエーション活動を行っていない理由

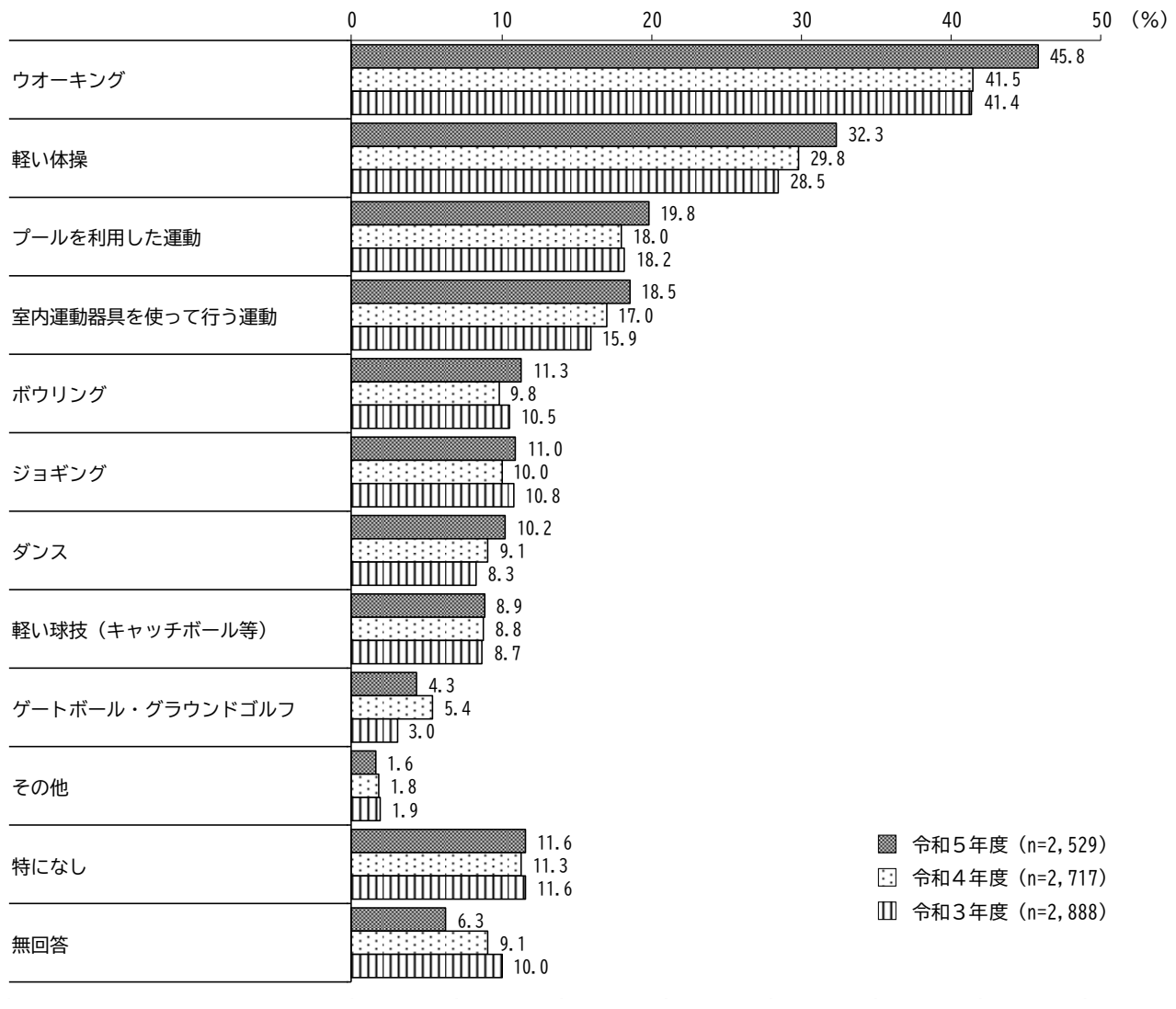
	調査数（人）	仕事（家事、育児も含む）や勉強が忙しいから	年をとったから	スポーツ・レクリエーションが好きでない（興味がない）から	健康上の理由から	身近に適切な場所や施設がないから	費用がかかるから	一緒に相手、指導者等がないから	その他	特に理由はない	無回答
全体	823	40.0	22.1	17.4	14.8	14.0	12.2	6.3	2.8	14.6	1.3
女性全体	492	42.3	19.1	19.9	14.6	16.7	15.0	5.1	3.0	12.4	1.2
18～29歳	33	54.5	3.0	18.2	6.1	21.2	15.2	9.1	3.0	15.2	-
30～39歳	51	76.5	3.9	29.4	2.0	29.4	27.5	3.9	2.0	3.9	-
40～49歳	75	56.0	2.7	21.3	5.3	16.0	18.7	9.3	2.7	17.3	-
50～59歳	96	63.5	4.2	27.1	7.3	12.5	17.7	4.2	6.3	10.4	-
60～69歳	80	38.8	18.8	16.3	12.5	15.0	17.5	3.8	1.3	18.8	2.5
70歳以上	153	11.1	45.8	13.1	30.7	15.7	6.5	3.9	2.6	9.8	2.6
男性全体	319	37.6	26.0	14.1	14.7	10.0	7.8	8.5	2.5	17.2	1.6
18～29歳	24	58.3	-	4.2	4.2	4.2	16.7	20.8	-	33.3	-
30～39歳	26	69.2	-	30.8	-	15.4	7.7	11.5	7.7	7.7	-
40～49歳	44	56.8	6.8	22.7	4.5	6.8	18.2	9.1	-	13.6	-
50～59歳	62	51.6	12.9	9.7	8.1	11.3	6.5	6.5	1.6	17.7	3.2
60～69歳	60	35.0	28.3	13.3	20.0	13.3	6.7	10.0	5.0	20.0	1.7
70歳以上	102	9.8	52.9	11.8	26.5	8.8	2.9	4.9	2.0	15.7	2.0

(4) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）

◇「ウォーキング」が最も多く、4割半ば

問 59. 皆さんに伺います。 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-4-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
- 比較的軽いスポーツ -



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（比較的軽いスポーツ）については、「ウォーキング」(45.8%)が最も多く、次いで「軽い体操」(32.3%)、「プールを利用した運動」(19.8%)、「室内運動器具を使って行う運動」(18.5%)、「ボウリング」(11.3%)の順となっている。一方、「特になし」(11.6%)は約1割となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっている。

性別で見ると、「軽い体操」(女性 39.7%、男性 22.6%)、「ダンス」(女性 15.2%、男性 3.9%)は女性が男性を10ポイント以上上回っている。一方、「軽い球技(キャッチボール等)」(男性 13.1%、女性 5.8%)、「ジョギング」(女性 8.2%、男性 15.1%)、「ボウリング」(男性 14.8%、女性 8.9%)は男性が女性を5ポイント以上上回っている。

性・年齢別で見ると、「ウォーキング」は女性60歳代(56.9%)が5割半ばで最も多く、男性60歳代(54.1%)、70歳以上(50.9%)も5割台となっている。一方、男性18～29歳(23.8%)は全体を22.0ポイント下回っている。「軽い体操」は女性70歳以上(43.7%)、40歳代(40.5%)で4割台を占め、「プールを利用した運動」は女性18～29歳(32.3%)、30歳代(37.8%)、男性30歳代(31.7%)、「室内運動器具を使って行う運動」は女性30歳代(31.1%)で3割台となっている。また、「ボウリング」は男性18～29歳(22.5%)、「ジョギング」は男性30歳代(26.0%)、40歳代(29.2%)、「ダンス」は女性50歳代以下(25.0%、21.3%、20.5%、21.3%)、「軽い球技(キャッチボール等)」は女性18～29歳(19.4%)、男性40歳代以下(21.3%、20.2%、24.6%)で、全体を10ポイント以上上回っている。一方、「特になし」は男性18～29歳(23.8%)が最も多く、男性30歳代(22.1%)も2割強を占めている。

図表 19-4-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
-比較的軽いスポーツ-

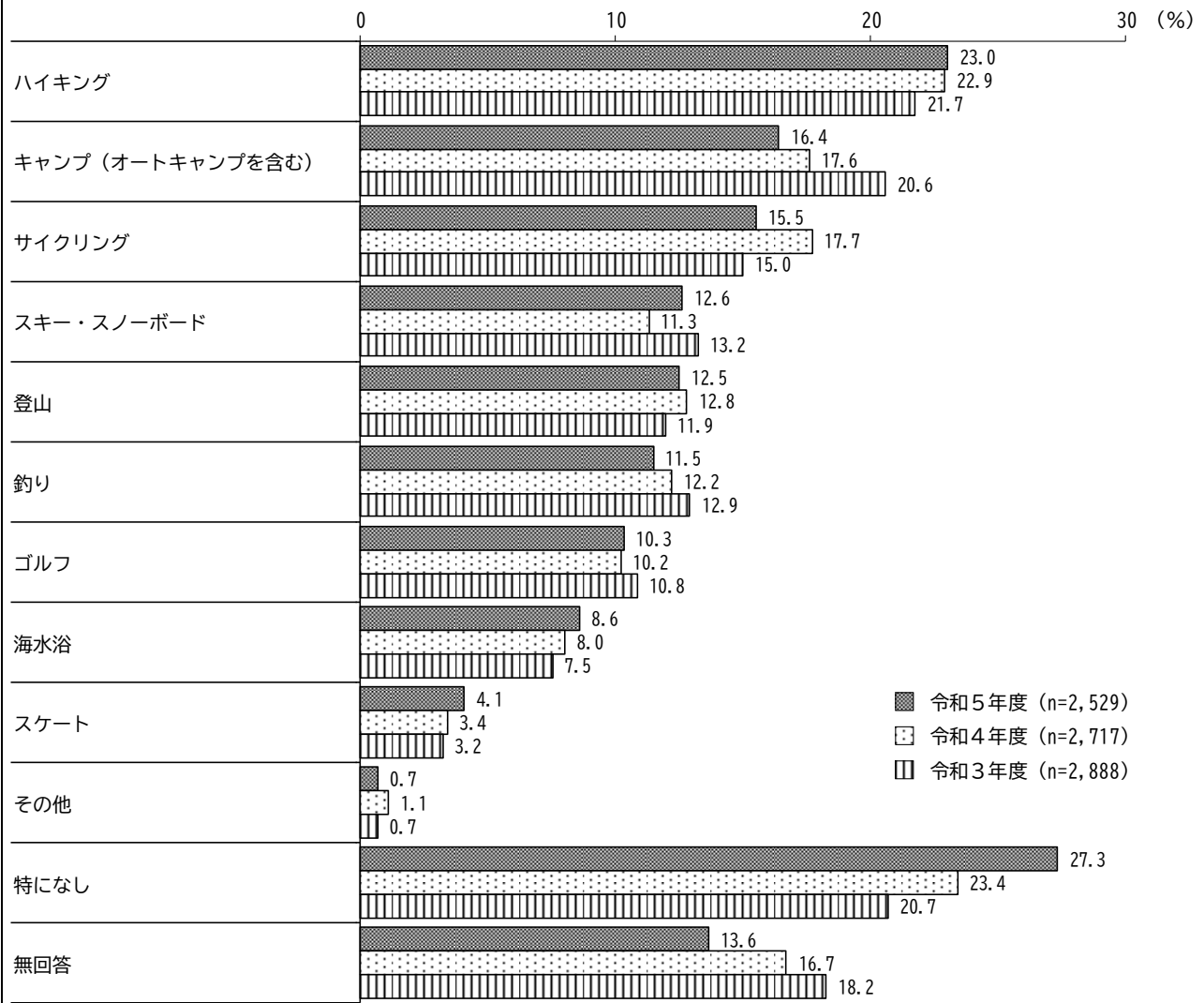
	調査数(人)	ウォーキング	軽い体操	プールを利用した運動	室内運動器具を使って行う運動	ボウリング	ジョギング	ダンス	軽い球技(キャッチボール等)	ゲートボール・グラウンドゴルフ	その他	特になし	無回答
全体	2,529	45.8	32.3	19.8	18.5	11.3	11.0	10.2	8.9	4.3	1.6	11.6	6.3
女性全体	1,425	46.1	39.7	21.1	19.4	8.9	8.2	15.2	5.8	2.9	1.9	11.0	4.4
18～29歳	124	39.5	28.2	32.3	24.2	13.7	17.7	25.0	19.4	4.0	2.4	4.0	-
30～39歳	164	46.3	36.6	37.8	31.1	13.4	18.3	21.3	14.0	1.2	2.4	6.1	1.2
40～49歳	210	42.9	40.5	29.0	19.5	9.0	12.4	20.5	6.7	1.9	3.3	9.0	2.4
50～59歳	267	47.9	39.7	20.6	18.4	9.7	7.1	21.3	6.4	2.2	3.4	9.4	3.4
60～69歳	211	56.9	39.8	17.5	20.9	12.3	3.8	10.9	1.9	1.9	0.9	10.0	4.3
70歳以上	442	43.7	43.7	10.2	13.8	3.8	2.5	6.1	0.2	4.8	0.5	17.0	8.4
男性全体	1,051	45.3	22.6	18.6	17.6	14.8	15.1	3.9	13.1	6.0	1.2	12.7	7.9
18～29歳	80	23.8	6.3	21.3	17.5	22.5	15.0	10.0	21.3	6.3	-	23.8	12.5
30～39歳	104	32.7	14.4	31.7	23.1	20.2	26.0	8.7	20.2	3.8	1.9	22.1	4.8
40～49歳	171	43.3	25.1	26.3	19.9	16.4	29.2	4.1	24.6	1.2	1.2	12.3	2.3
50～59歳	183	44.8	19.7	21.9	14.8	14.8	13.7	4.9	9.8	4.4	2.2	10.9	7.1
60～69歳	185	54.1	21.1	16.8	18.4	16.8	11.9	3.2	15.1	7.0	0.5	8.1	7.0
70歳以上	326	50.9	30.7	9.2	16.0	9.5	7.1	0.6	3.7	9.5	1.2	10.7	11.3

(5) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）

◇「ハイキング」が最も多く、2割強

問 59. 皆さんに伺います。 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-5-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
- 野外活動 -



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（野外活動）については、「ハイキング」(23.0%)が最も多く、次いで「キャンプ(オートキャンプを含む)」(16.4%)、「サイクリング」(15.5%)、「スキー・スノーボード」(12.6%)、「登山」(12.5%)の順となっている。一方、「特になし」(27.3%)は3割弱となっている。

過去2回の調査と比較すると、「キャンプ(オートキャンプを含む)」は令和4年度(17.6%)と比べ1.2ポイント、令和3年度(20.6%)と比べ4.2ポイント、調査ごとに減少している。一方、「特になし」は増加傾向にある。

性別で見ると、「釣り」（男性 17.8%、女性 6.7%）、「ゴルフ」（男性 15.9%、女性 6.3%）は男性が女性を1割前後上回っている。

性・年齢別で見ると、「ハイキング」は女性 60 歳代（38.4%）、「キャンプ（オートキャンプを含む）」は女性 30 歳代（33.5%）、40 歳代（31.9%）、男性 30 歳代（33.7%）で3割台となっている。「スキー・スノーボード」は女性 18～29 歳（44.4%）で4割半ばを占め、他の年齢に比べ特に多くなっている。また、「釣り」は男性 30 歳代（27.9%）、「海水浴」は女性 18～29 歳（24.2%）、30 歳代（22.0%）、男性 30 歳代（19.2%）、「スケート」は女性 18～29 歳（20.2%）で、全体を10ポイント以上上回っている。一方、「特になし」は女性 70 歳以上（41.0%）が最も多く、男性 70 歳以上（32.5%）も3割強となっている。

図表 19-5-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
— 野外活動 —

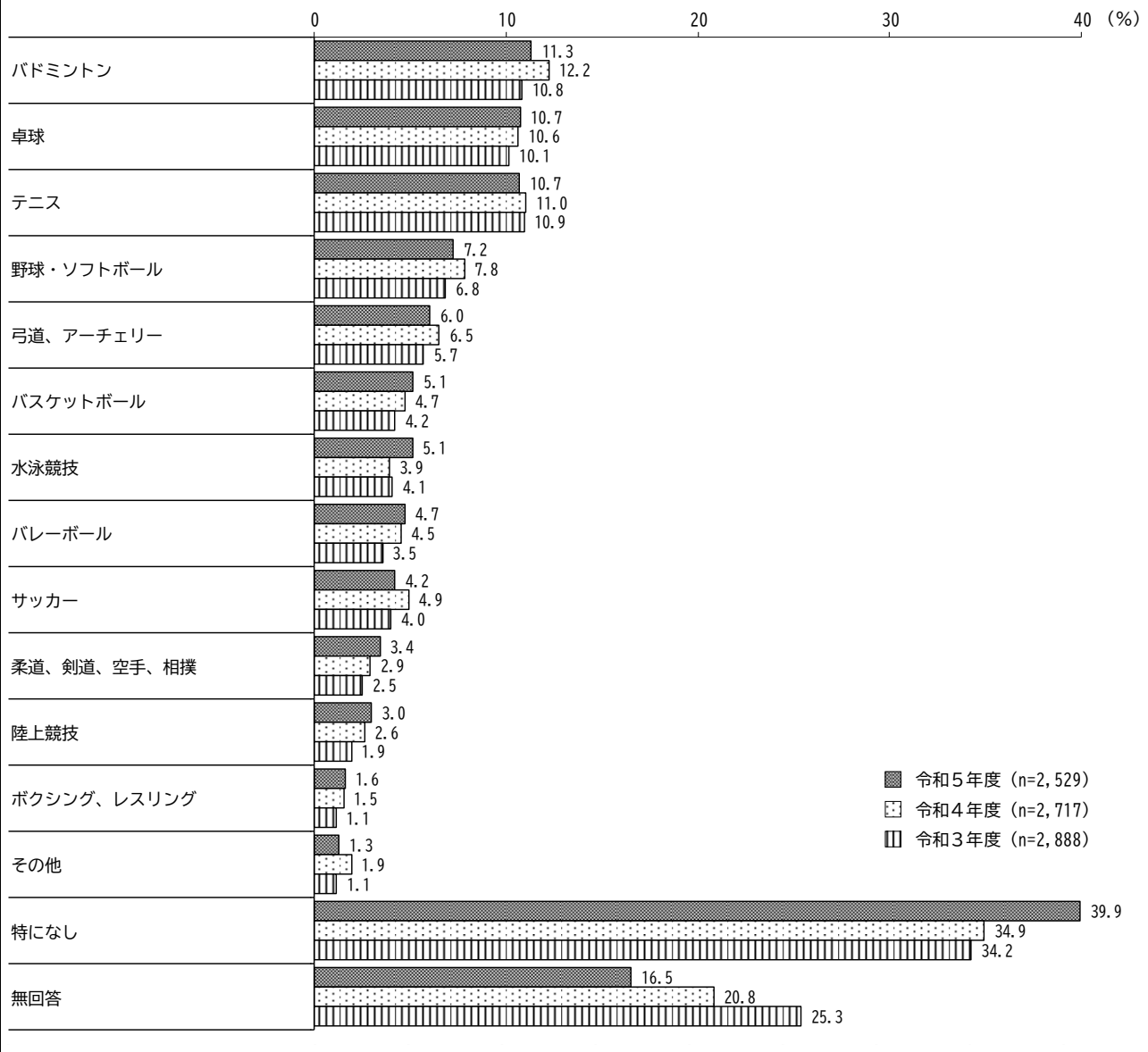
	調査数（人）	ハイキング	キャンプ（オートキャンプを含む）	サイクリング	スキー・スノーボード	登山	釣り	ゴルフ	海水浴	スケート	その他	特になし	無回答
全体	2,529	23.0	16.4	15.5	12.6	12.5	11.5	10.3	8.6	4.1	0.7	27.3	13.6
女性全体	1,425	25.3	16.5	14.1	12.3	11.3	6.7	6.3	9.0	5.2	0.4	29.2	14.4
18～29歳	124	16.9	27.4	13.7	44.4	14.5	10.5	10.5	24.2	20.2	0.8	19.4	3.2
30～39歳	164	26.2	33.5	16.5	25.0	18.3	13.4	4.9	22.0	10.4	1.2	22.0	3.7
40～49歳	210	25.7	31.9	18.6	20.0	17.1	11.9	9.5	16.2	7.1	-	20.5	6.2
50～59歳	267	24.3	16.1	19.5	10.9	14.2	5.2	10.1	7.1	3.4	-	25.8	12.0
60～69歳	211	38.4	8.5	17.1	2.8	10.0	4.3	5.2	2.4	3.3	0.5	28.4	12.8
70歳以上	442	21.3	3.8	6.1	0.5	4.1	2.9	2.5	0.9	0.2	0.5	41.0	27.8
男性全体	1,051	20.6	16.5	18.1	13.6	14.6	17.8	15.9	8.4	2.8	1.0	24.8	11.2
18～29歳	80	11.3	23.8	18.8	26.3	18.8	20.0	11.3	15.0	6.3	1.3	25.0	10.0
30～39歳	104	17.3	33.7	19.2	29.8	18.3	27.9	16.3	19.2	7.7	1.9	20.2	4.8
40～49歳	171	18.7	24.0	23.4	22.8	19.9	12.3	18.7	15.2	4.7	1.2	22.8	5.8
50～59歳	183	24.0	23.0	23.5	16.4	19.7	19.1	19.1	6.0	3.3	1.6	19.1	5.5
60～69歳	185	23.8	14.6	18.9	9.2	14.1	20.0	20.0	6.5	1.1	0.5	21.1	10.8
70歳以上	326	21.5	2.8	11.3	1.5	7.1	15.0	11.3	2.1	-	0.6	32.5	19.6

(6) 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）

◇「バドミントン」が最も多く、約1割

問 59. 皆さんに伺います。 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動について次の中から当てはまるものを選んでください。(〇はいくつでも)

図表 19-6-1 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—



今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動（競技的スポーツ）については、「バドミントン」（11.3%）が最も多く、次いで「卓球」（10.7%）、「テニス」（10.7%）、「野球・ソフトボール」（7.2%）、「弓道、アーチェリー」（6.0%）の順となっている。一方、「特になし」（39.9%）は約4割となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっているが、「特になし」は令和4年度（34.9%）と比べ5.0ポイント、令和3年度（34.2%）と比べ5.7ポイント、調査ごとに増加している。

性別で見ると、「バドミントン」は女性（14.5%）が男性（7.6%）を6.9ポイント上回っている。一方、「野球・ソフトボール」は男性（13.8%）が女性（2.5%）を11.3ポイント上回っている。

性・年齢別で見ると、「バドミントン」は女性18～29歳（30.6%）、30歳代（29.9%）で約3割、女性40歳代（26.7%）で2割半ばを占めている。また、「卓球」は男性18～29歳（20.0%）、「テニス」は女性18～29歳（21.0%）、「野球・ソフトボール」は男性30歳代（25.0%）、「サッカー」は男性18～29歳（25.0%）で2割台となっており、他の年齢に比べ多くなっている。一方、「特になし」は男女とも年齢が上がるにつれ増加する傾向にあり、女性70歳以上（54.3%）で5割半ば、女性50歳代（41.2%）、60歳代（47.9%）、男性60歳代（42.2%）、70歳以上（47.2%）で4割台となっている。

図表 19-6-2 性・年齢別 今後、行ってみたいと思うスポーツ・レクリエーション活動
—競技的スポーツ—

	調査数（人）	バドミントン	卓球	テニス	野球・ソフトボール	弓道、アーチェリー	バスケットボール	水泳競技	バレーボール	サッカー	柔道、剣道、空手、相撲	陸上競技	ボクシング、レスリング	その他	特になし	無回答
全体	2,529	11.3	10.7	10.7	7.2	6.0	5.1	5.1	4.7	4.2	3.4	3.0	1.6	1.3	39.9	16.5
女性全体	1,425	14.5	10.9	11.4	2.5	7.0	4.8	6.2	6.2	2.2	2.2	2.6	1.2	1.1	41.1	16.3
18～29歳	124	30.6	12.9	21.0	6.5	8.9	12.9	16.1	17.7	10.5	4.8	7.3	2.4	1.6	21.0	4.8
30～39歳	164	29.9	12.2	13.4	3.7	12.8	18.9	11.0	10.4	4.3	4.9	5.5	3.0	-	25.6	6.1
40～49歳	210	26.7	11.0	18.1	5.2	12.9	5.7	10.0	8.6	3.8	5.2	4.8	1.0	2.4	30.5	5.7
50～59歳	267	13.9	12.0	17.2	1.9	8.2	1.5	5.6	4.9	0.7	1.5	1.5	1.5	1.5	41.2	12.7
60～69歳	211	5.7	10.9	10.4	0.9	6.2	2.4	2.4	5.2	0.5	1.4	1.9	0.9	0.5	47.9	17.5
70歳以上	442	2.9	9.3	2.0	0.9	1.1	-	2.3	1.8	-	-	0.2	-	0.7	54.3	29.9
男性全体	1,051	7.6	10.3	10.2	13.8	4.9	5.8	3.7	2.7	7.0	5.1	3.6	2.2	1.6	38.3	15.4
18～29歳	80	16.3	20.0	11.3	15.0	7.5	16.3	7.5	12.5	25.0	5.0	7.5	1.3	-	18.8	8.8
30～39歳	104	12.5	12.5	14.4	25.0	8.7	14.4	6.7	4.8	16.3	11.5	10.6	5.8	1.0	29.8	1.9
40～49歳	171	9.9	11.1	15.2	17.0	7.6	11.1	7.0	2.3	11.1	6.4	4.7	1.8	2.3	31.6	7.6
50～59歳	183	7.7	9.3	13.7	15.8	3.8	4.4	3.3	2.7	6.6	4.9	3.8	3.8	1.6	38.3	9.3
60～69歳	185	4.9	7.0	8.6	11.4	5.9	2.7	2.7	2.2	3.2	5.4	2.2	2.2	2.2	42.2	16.2
70歳以上	326	4.3	9.2	4.9	8.6	1.8	0.3	0.9	-	-	2.5	0.6	0.6	1.5	47.2	28.2

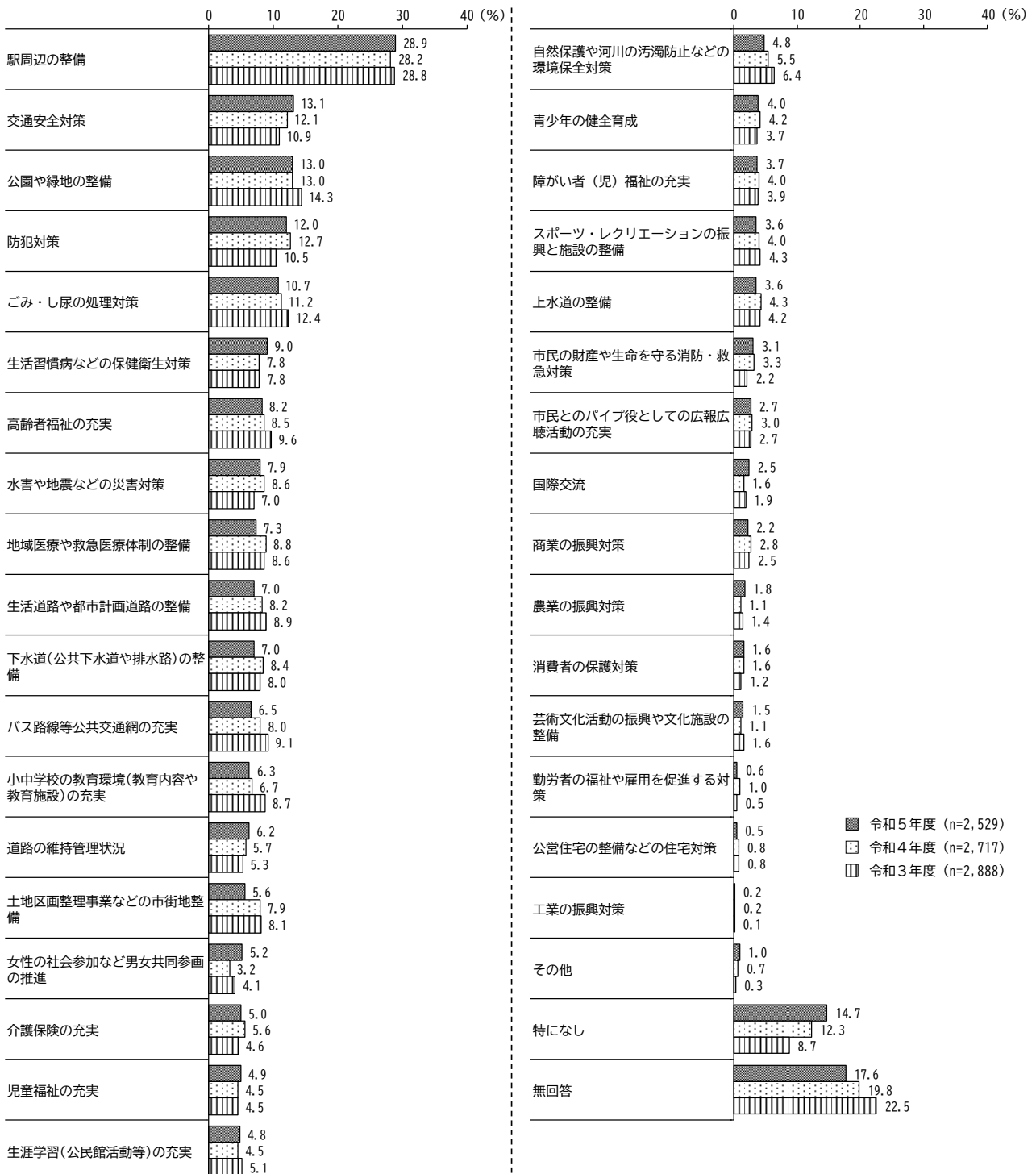
20. 越谷市の施策について

(1) よくなってきたと感じるもの

◇「駅周辺の整備」が最も多く、3割弱

問 60. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 20-1-1 よくなってきたと感じるもの



市の施策に対して、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」は、1位「駅周辺の整備」(28.9%)、2位「交通安全対策」(13.1%)、3位「公園や緑地の整備」(13.0%)、4位「防犯対策」(12.0%)、5位「ごみ・し尿の処理対策」(10.7%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、概ね同様の傾向となっており、依然「駅周辺の整備」が「公園や緑地の整備」以下の倍以上多くなっている。

性別で見ると、1位は男女とも「駅周辺の整備」(女性27.6%、男性31.0%)となっている。2位以下は女性が「公園や緑地の整備」(12.8%)、「交通安全対策」(11.5%)、男性が「交通安全対策」(15.4%)、「防犯対策」(14.7%)となっており、他の項目についても男女差は5ポイント未満となっている。

性・年齢別で見ると、1位は女性70歳以上が「ごみ・し尿の処理対策」(20.1%)、それ以外は「駅周辺の整備」となっている。「駅周辺の整備」は男性40歳代(39.2%)が全体を10.3ポイント上回り最も多く、女性70歳以上(19.7%)含むすべての年齢で2位以内となっている。他の2位は男性50歳代以下が「防犯対策」、女性30歳代、男性18～29歳(「防犯対策」と同率)、60歳代、70歳以上が「交通安全対策」、女性18～29歳、30歳代(「交通安全対策」と同率)、50歳代が「公園や緑地の整備」、女性60歳代が「生活習慣病などの保健衛生対策」、女性40歳代が「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」となっており、いずれも1割台を占める。このうち、「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」は女性40歳代(16.2%)で全体を9.9ポイント上回っている。

図表20-1-2 性・年齢別 よくなってきたと感じるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,529)	駅周辺の整備 28.9	交通安全対策 13.1	公園や緑地の整備 13.0	防犯対策 12.0	ごみ・し尿の処理対策 10.7
女性全体 (1,425)	駅周辺の整備 27.6	公園や緑地の整備 12.8	交通安全対策 11.5	ごみ・し尿の処理対策 11.2	防犯対策 9.8
18～29歳 (124)	駅周辺の整備 27.4	公園や緑地の整備 15.3	交通安全対策 12.9	防犯対策 道路の維持管理状況	10.5
30～39歳 (164)	駅周辺の整備 28.7	交通安全対策 公園や緑地の整備	15.2	水害や地震などの災害対策 11.0	道路の維持管理状況 9.8
40～49歳 (210)	駅周辺の整備 28.6	小中学校の教育環境(教育内容や 教育施設)の充実 16.2	公園や緑地の整備 15.2	交通安全対策 13.8	防犯対策 10.0
50～59歳 (267)	駅周辺の整備 36.7	公園や緑地の整備 12.7	水害や地震などの災害対策 12.0	地域医療や救急医療体制の整備 7.9	防犯対策 高齢者福祉の充実 7.5
60～69歳 (211)	駅周辺の整備 32.2	生活習慣病などの保健衛生対策 14.2	防犯対策 13.7	公園や緑地の整備 10.9	ごみ・し尿の処理対策 10.4
70歳以上 (442)	ごみ・し尿の処理対策 20.1	駅周辺の整備 19.7	生活習慣病などの保健衛生対策 14.9	高齢者福祉の充実 13.1	交通安全対策 12.7
男性全体 (1,051)	駅周辺の整備 31.0	交通安全対策 15.4	防犯対策 14.7	公園や緑地の整備 12.8	ごみ・し尿の処理対策 9.6
18～29歳 (80)	駅周辺の整備 27.5	防犯対策 交通安全対策	15.0	公園や緑地の整備 11.3	生活道路や都市計画道路の整備 10.0
30～39歳 (104)	駅周辺の整備 35.6	防犯対策 14.4	交通安全対策 13.5	土地区画整理事業などの市街地整備 11.5	生活道路や都市計画道路の整備 10.6
40～49歳 (171)	駅周辺の整備 39.2	防犯対策 18.1	交通安全対策 16.4	公園や緑地の整備 13.5	小中学校の教育環境(教育内容や 教育施設)の充実 10.5
50～59歳 (183)	駅周辺の整備 36.1	防犯対策 15.3	交通安全対策 14.2	水害や地震などの災害対策 13.7	公園や緑地の整備 13.1
60～69歳 (185)	駅周辺の整備 27.6	交通安全対策 16.8	防犯対策 13.0	公園や緑地の整備 12.4	下水道(公共下水道や排水路)の整備 9.2
70歳以上 (326)	駅周辺の整備 25.5	交通安全対策 15.6	ごみ・し尿の処理対策 14.7	公園や緑地の整備 14.1	防犯対策 生活習慣病などの保健衛生対策 13.5

第4章 調査結果の詳細

居住地区別でみると、1位はすべての地区で「駅周辺の整備」となっている。「駅周辺の整備」は北越谷地区（43.5%）が4割強で最も多く、全体を14.6ポイント上回っている。また、新方地区（23.4%）は「防犯対策」も同率となっている。2位は増林地区（17.7%）以下6地区が「公園や緑地の整備」、蒲生地区（14.5%）以下5地区が「交通安全対策」、出羽地区（15.1%：「公園や緑地の整備」と同率）、荻島地区（11.0%：「交通安全対策」と同率）が「ごみ・し尿の処理対策」、川柳地区（15.6%）が「防犯対策」、荻島地区（11.0%：「交通安全対策」「ごみ・し尿の処理対策」と同率）が「生涯学習（公民館活動等）の充実」となっている。「交通安全対策」は12地区、「防犯対策」は10地区、「ごみ・し尿の処理対策」は10地区で5位以内となっている。

図表 20-1-3 居住地区別 よくなってきたと感じるもの

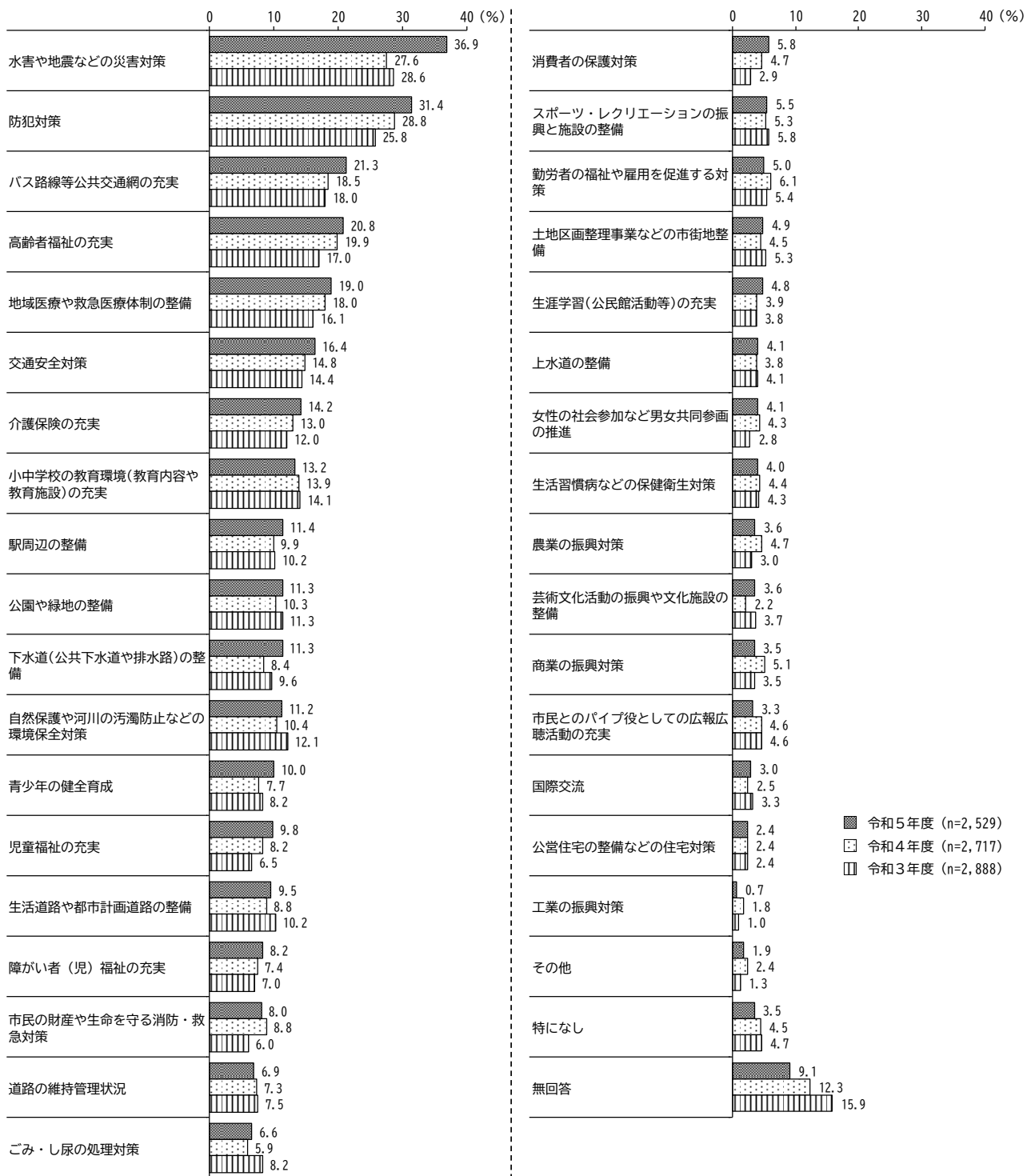
調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,529)	駅周辺の整備 28.9	交通安全対策 13.1	公園や緑地の整備 13.0	防犯対策 12.0	ごみ・し尿の処理対策 10.7
桜井地区 (277)	駅周辺の整備 22.0	公園や緑地の整備 14.1	ごみ・し尿の処理対策 11.6	高齢者福祉の充実 10.1	防犯対策 9.4
新方地区 (124)	防犯対策 23.4	駅周辺の整備 23.4	交通安全対策 16.1	ごみ・し尿の処理対策 14.5	生活習慣病などの保健衛生対策 13.7
増林地区 (215)	駅周辺の整備 33.0	公園や緑地の整備 17.7	防犯対策 15.8	交通安全対策 15.3	生活習慣病などの保健衛生対策 バス路線等公共交通網の充実 ごみ・し尿の処理対策 水害や地震などの災害対策 9.8
大袋地区 (351)	駅周辺の整備 31.6	公園や緑地の整備 14.0	防犯対策 13.4	交通安全対策 13.1	ごみ・し尿の処理対策 12.0
荻島地区 (73)	駅周辺の整備 28.8	交通安全対策 11.0	ごみ・し尿の処理対策 11.0	生涯学習(公民館活動等)の充実 11.0	女性の社会参加など男女共同参画の推進 生活習慣病などの保健衛生対策 生活道路や都市計画道路の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 9.6
出羽地区 (186)	駅周辺の整備 29.0	公園や緑地の整備 15.1	ごみ・し尿の処理対策 14.0	防犯対策 13.4	交通安全対策 13.4
蒲生地区 (317)	駅周辺の整備 25.2	交通安全対策 14.5	ごみ・し尿の処理対策 11.4	公園や緑地の整備 9.8	防犯対策 下水道(公共下水道や排水路)の整備 9.5
川柳地区 (64)	駅周辺の整備 23.4	防犯対策 15.6	交通安全対策 14.1	生活習慣病などの保健衛生対策 高齢者福祉の充実 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 12.5	12.5
大相模地区 (216)	駅周辺の整備 30.6	公園や緑地の整備 16.2	交通安全対策 13.9	生活道路や都市計画道路の整備 10.6	防犯対策 10.2
大沢地区 (168)	駅周辺の整備 27.4	交通安全対策 13.7	防犯対策 13.1	公園や緑地の整備 13.1	ごみ・し尿の処理対策 12.5
北越谷地区 (92)	駅周辺の整備 43.5	交通安全対策 10.9	ごみ・し尿の処理対策 9.8	地域医療や救急医療体制の整備 公園や緑地の整備 8.7	8.7
越ヶ谷地区 (229)	駅周辺の整備 27.9	交通安全対策 14.0	公園や緑地の整備 10.5	ごみ・し尿の処理対策 8.7	道路の維持管理状況 8.3
南越谷地区 (205)	駅周辺の整備 34.6	公園や緑地の整備 15.6	防犯対策 14.1	生活習慣病などの保健衛生対策 13.2	交通安全対策 12.7

(2) 特に力を入れるべきだと思われるもの

◇「水害や地震などの災害対策」が最も多く、3割半ば

問 60. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

図表 20-2-1 特に力を入れるべきだと思われるもの



第4章 調査結果の詳細

今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」は、1位「水害や地震などの災害対策」(36.9%)、2位「防犯対策」(31.4%)、3位「バス路線等公共交通網の充実」(21.3%)、4位「高齢者福祉の充実」(20.8%)、5位「地域医療や救急医療体制の整備」(19.0%)の順となっている。

過去2回の調査と比較すると、「水害や地震などの災害対策」は令和4年度(27.6%)と比べ9.3ポイント増加し、「防犯対策」も増加傾向にある。

性別でみると、男女とも1位は「水害や地震などの災害対策」(女性38.1%、男性35.5%)、2位は「防犯対策」(女性30.9%、男性32.4%)となっている。3位以下は女性が「バス路線等公共交通網の充実」(23.6%)、「高齢者福祉の充実」(22.2%)、男性が「高齢者福祉の充実」(18.6%)、「バス路線等公共交通網の充実」(17.9%)で、「バス路線等公共交通網の充実」を除き男女差は5ポイント未満となっている。

性・年齢別でみると、1位は女性18～29歳、50歳代以上、男性18～29歳、50歳代、70歳以上が「水害や地震などの災害対策」、女性30歳代、40歳代、男性30歳代、40歳代、60歳代が「防犯対策」で、前者は女性50歳代(47.9%)、男性50歳代(43.7%)、後者は女性40歳代(42.4%)で4割台となっている。2位は女性18～29歳、50歳代、60歳代、男性18～29歳、50歳代が「防犯対策」、女性30歳代、40歳代、男性30歳代、40歳代、60歳代が「水害や地震などの災害対策」、女性60歳代(「防犯対策」と同率)、70歳以上、男性70歳以上が「高齢者福祉の充実」となっている。また、「小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実」は女性40歳代以下、男性40歳代で3位となり、特に女性40歳代(35.7%)は全体を22.5ポイント上回っている。

図表 20-2-2 性・年齢別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,529)	水害や地震などの災害対策 36.9	防犯対策 31.4	バス路線等公共交通網の充実 21.3	高齢者福祉の充実 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 19.0
女性全体 (1,425)	水害や地震などの災害対策 38.1	防犯対策 30.9	バス路線等公共交通網の充実 23.6	高齢者福祉の充実 22.2	地域医療や救急医療体制の整備 20.9
18～29歳 (124)	水害や地震などの災害対策 36.3	防犯対策 25.8	交通安全対策 駅周辺の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 17.7		
30～39歳 (164)	防犯対策 38.4	水害や地震などの災害対策 32.9	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 28.7	交通安全対策 25.6	児童福祉の充実 24.4
40～49歳 (210)	防犯対策 42.4	水害や地震などの災害対策 36.7	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 35.7	地域医療や救急医療体制の整備 27.1	バス路線等公共交通網の充実 24.3
50～59歳 (267)	水害や地震などの災害対策 47.9	防犯対策 36.0	バス路線等公共交通網の充実 26.6	高齢者福祉の充実 24.0	地域医療や救急医療体制の整備 21.7
60～69歳 (211)	水害や地震などの災害対策 35.1	防犯対策 高齢者福祉の充実 35.1	介護保険の充実 バス路線等公共交通網の充実 29.9		20.4
70歳以上 (442)	水害や地震などの災害対策 36.2	高齢者福祉の充実 29.0	バス路線等公共交通網の充実 27.6	防犯対策 21.7	介護保険の充実 20.1
男性全体 (1,051)	水害や地震などの災害対策 35.5	防犯対策 32.4	高齢者福祉の充実 18.6	バス路線等公共交通網の充実 17.9	交通安全対策 17.5
18～29歳 (80)	水害や地震などの災害対策 26.3	防犯対策 23.8	バス路線等公共交通網の充実 17.5	駅周辺の整備 16.3	公園や緑地の整備 小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 13.8
30～39歳 (104)	防犯対策 34.6	水害や地震などの災害対策 31.7	公園や緑地の整備 22.1	児童福祉の充実 20.2	交通安全対策 18.3
40～49歳 (171)	防犯対策 38.6	水害や地震などの災害対策 36.3	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 21.1	駅周辺の整備 20.5	交通安全対策 19.9
50～59歳 (183)	水害や地震などの災害対策 43.7	防犯対策 38.3	地域医療や救急医療体制の整備 19.7	交通安全対策 高齢者福祉の充実 20.5	19.1
60～69歳 (185)	防犯対策 39.5	水害や地震などの災害対策 32.4	高齢者福祉の充実 24.3	交通安全対策 バス路線等公共交通網の充実 21.5	18.9
70歳以上 (326)	水害や地震などの災害対策 35.9	高齢者福祉の充実 25.2	防犯対策 23.3	バス路線等公共交通網の充実 21.5	地域医療や救急医療体制の整備 19.9

居住地区別でみると、1位は増林地区（52.1%）以下9地区が「水害や地震などの災害対策」、越ヶ谷地区（40.2%）以下4地区が「防犯対策」となっている。2位は大相模地区（35.2%）以下8地区が「防犯対策」、新方地区（37.1%）、桜井地区（29.6%：「防犯対策」と同率）が「バス路線等公共交通網の充実」となっている。「水害や地震などの災害対策」はすべての地区、「防犯対策」は新方地区以外で2位以内となっている。

図表 20-2-3 居住地区別 特に力を入れるべきだと思われるもの

調査数 (人)	1位	2位	3位	4位	5位
全 体 (2,529)	水害や地震などの災害対策 36.9	防犯対策 31.4	バス路線等公共交通網の充実 21.3	高齢者福祉の充実 20.8	地域医療や救急医療体制の整備 19.0
桜井地区 (277)	水害や地震などの災害対策 40.8	防犯対策 バス路線等公共交通網の充実	29.6	高齢者福祉の充実 25.3	地域医療や救急医療体制の整備 20.9
新方地区 (124)	水害や地震などの災害対策 46.8	バス路線等公共交通網の充実 37.1	防犯対策 28.2	下水道(公共下水道や排水路)の整備 17.7	交通安全対策 14.5
増林地区 (215)	水害や地震などの災害対策 52.1	防犯対策 27.4	バス路線等公共交通網の充実 23.7	高齢者福祉の充実 22.8	地域医療や救急医療体制の整備 18.1
大袋地区 (351)	水害や地震などの災害対策 39.0	防犯対策 27.4	高齢者福祉の充実 22.8	バス路線等公共交通網の充実 20.2	地域医療や救急医療体制の整備 19.4
狹島地区 (73)	水害や地震などの災害対策 39.7	防犯対策 28.8	児童福祉の充実 バス路線等公共交通網の充実	20.5	地域医療や救急医療体制の整備 下水道(公共下水道や排水路)の整備 19.2
出羽地区 (186)	水害や地震などの災害対策 38.7	防犯対策 31.7	バス路線等公共交通網の充実 23.1	地域医療や救急医療体制の整備 21.0	交通安全対策 20.4
蒲生地区 (317)	防犯対策 32.2	水害や地震などの災害対策 29.3	高齢者福祉の充実 22.7	地域医療や救急医療体制の整備 バス路線等公共交通網の充実	19.9
川柳地区 (64)	水害や地震などの災害対策 29.7	防犯対策 28.1	バス路線等公共交通網の充実 25.0	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 20.3	交通安全対策 地域医療や救急医療体制の整備 18.8
大相模地区 (216)	水害や地震などの災害対策 36.1	防犯対策 35.2	交通安全対策 24.1	バス路線等公共交通網の充実 23.1	小中学校の教育環境(教育内容や教育施設)の充実 22.7
大沢地区 (168)	水害や地震などの災害対策 35.7	防犯対策 30.4	地域医療や救急医療体制の整備 26.2	交通安全対策 高齢者福祉の充実 バス路線等公共交通網の充実	18.5
北越谷地区 (92)	防犯対策 30.4	水害や地震などの災害対策 27.2	交通安全対策 高齢者福祉の充実	19.6	地域医療や救急医療体制の整備 15.2
越ヶ谷地区 (229)	防犯対策 40.2	水害や地震などの災害対策 29.7	高齢者福祉の充実 21.8	交通安全対策 19.7	駅周辺の整備 18.3
南越谷地区 (205)	防犯対策 36.1	水害や地震などの災害対策 31.2	高齢者福祉の充実 24.4	地域医療や救急医療体制の整備 20.0	交通安全対策 19.5

(3) 自由回答

問 61. 問 60 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応（対策）を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

市政に関する意見や要望の回答件数は 1,049 件（意見等合計 1,616 件）であった。
これを下記のとおり「第5次越谷市総合振興計画前期基本計画」の項目ごとに整理した。

		件数
大綱1. 多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり	市民参加と協働による市政を推進する	44
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	16
	健全でスマートな都市経営を推進する	78
大綱2. みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	6
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	78
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	84
	障がい者（児）が安心して暮らせる環境をつくる	30
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	78
	市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	15
大綱3. 都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	51
	地域を支える道路・公共交通をつくる	234
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	77
	安全で良好な水環境をつくる	204
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	17
大綱4. 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	65
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	247
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	5
大綱5. 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり	地域社会を支える産業の活性化を図る	23
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	15
	持続的に農業が行われる環境をつくる	18
	だれもがいきいきと働ける地域社会をつくる	13
大綱6. みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり	生きる力を育む学校教育を推進する	69
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	26
	生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	23
その他		100

総計 1,616

大綱	区分	内 容	件数
1	市民参加と協働による市政を推進する	市政への市民参加を進める	0
		市民との協働のまちづくりを進める	17
		情報を提供し、市民との共有を図る	27
		計	44
	互いに認め合い人権を尊重する社会づくりを推進する	相手を思いやる人権意識を高める	8
		人権教育を進める	1
		男女共同参画社会を進める	4
		多文化共生社会の形成と国際交流を進める	3
		平和を愛する心を継承する	0
	計	16	
	健全でスマートな都市経営を推進する	効率的かつ効果的な行政運営を進める	46
		行財政運営の健全化を進める	32
		計	78

大綱	区分	内 容	件数
2	ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる	地域福祉体制の充実を図る	6
		計	6
	予防と助け合いのもとで、充実した地域医療・保健衛生体制をつくる	市民の健康づくりを進める	10
		地域医療体制の充実を図る	63
		保健衛生体制の充実を図る	5
	計	78	
	子どもたちが夢と希望を持って育ち、安心して子育てできるまちをつくる	地域のなかで子育てを支える	10
		地域のなかで子どもが自ら育つ環境をつくる	6
		次世代を担う子どもたちを健やかに育てられる子育てしやすい環境を整える	64
		貧困の状況にある子どもと家庭を支える	4
	計	84	
	障がい者(児)が安心して暮らせる環境をつくる	障がいの早期発見と療育環境を整える	3
		生活の質の向上を支援し、社会的自立を促進する	12
		地域での生活を支え、日常生活の充実を図る	12
		安心して外出するための円滑な移動を支援し、社会参加を促進する	3
	計	30	
	高齢者が安心していきいきと暮らせるまちをつくる	生きがいづくりを支援する	7
		住民主体の介護予防を進める	1
		認知症の人にやさしい地域をつくる	2
		高齢者を支える環境をつくる	43
介護保険制度の充実を図る		25	
計	78		
市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る	生活に困窮している方々へのサポート体制の充実に努める	10	
	医療保険制度の維持・充実を図る	3	
	安定した生活を送るため年金制度を支援する	2	
計	15		

第4章 調査結果の詳細

大綱	区分	内 容	件数
3	生活の質が高く選ばれ続ける都市をつくる	メリハリのある土地利用を進める	2
		活気ある市街地を整備する	48
		身近で親しみのある景観をつくる	1
		計	51
	地域を支える道路・公共交通をつくる	道路の整備を図る	58
		道路・水路の管理を図る	43
		公共交通網の維持・充実を図る	133
		計	234
	水と緑でつながるやすらぎのある空間をつくる	身近な緑を守り育てる	21
		だれもが利用しやすく安全な公園をつくる	50
		水辺を活かした快適な空間をつくる	6
		計	77
	安全で良好な水環境をつくる	水害に強いまちづくりを進める	166
		水質の保全と安全な水の確保により快適な生活環境を整える	38
		計	204
	安心して住むことができる住宅環境をつくる	安心して暮らせる住まいづくりを支援する	11
		住宅ストックの有効活用と快適な住宅環境の実現を図る	6
計		17	

大綱	区分	内 容	件数
4	環境にやさしい持続可能な地域・社会をつくる	脱炭素社会をつくる	5
		地域の効率的な資源循環を進める	30
		生き物・人が共生する社会をつくる	10
		安全・安心な環境づくりを進める	20
		計	65
	安全・安心に暮らせるまちをつくる	危機管理対策の充実を図る	41
		災害対策を進める	65
		地域の防犯力を高める	94
		交通安全の充実を図る	45
		消費者の自立を支援し、消費者意識の高揚を図る	2
		計	247
	生命・身体・財産を守る消防体制を整える	火災を予防する活動の充実を図る	0
		消防力の充実・強化を図る	2
		消防署所の充実・強化を図る	1
		救急体制の充実・強化を図る	1
		消防団の充実・強化を図る	1
	計	5	

大綱	区分	内 容	件数
5	地域社会を支える産業の活性化を図る	地域産業の持続的発展を支援する	6
		新たな産業を育成する	1
		魅力ある商業の振興を図る	15
		魅力ある工業の振興を図る	1
		計	23
	魅力と活力でライフスタイルを豊かにする	地域の魅力の発信と都市のブランドの構築でまちの総合力を高める	5
		にぎわいを創出し地域経済の循環を促進する	10
		計	15
	持続的に農業が行われる環境をつくる	越谷農業の強みを活かした農業経営を追求する	5
		立地特性に応じて農地を保全・活用する	7
		持続的に農業経営を担う人材を育成する	6
		消費者が農業を支える仕組みをつくる	0
		計	18
	だれもがいいきと働ける地域社会をつくる	就業支援の充実と労働環境の向上を図る	13
	計	13	

大綱	区分	内 容	件数
6	生きる力を育む学校教育を推進する	9年間を見通した越谷教育を推進する	0
		確かな学力を育む	5
		豊かな心を育む	2
		健やかな体を育む	5
		自立する力を育む	4
		質の高い教育環境を整備する	53
		計	69
	生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する	生涯にわたる学びを進める	13
		文化活動を充実し、郷土の歴史を継承する	13
		計	26
	生涯にわたるスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる	健康ライフスタイルづくりを支援する	0
		スポーツ・レクリエーション活動を支援する環境の充実を図る	23
		計	23

大綱	区分	内 容	件数
その他		市政への感謝・激励など	11
		アンケートについての意見・要望	18
		その他市政への意見・要望	48
		越谷市への感想など	13
		都市ガスの整備	1
		その他	9
		計	100

第5章 調査票

インターネット回答用ユーザーID・パスワード

ユーザーID

パスワード

r5shisei

令和5年度市政世論調査 調査票

【ご記入にあたってのお願い】

郵送とインターネットのいずれかを選択してご回答ください。

●郵送の場合

1. あて名のご本人がお答えください。(住所、氏名を記入する必要はありません。) ご本人によるご記入が困難な場合には、身近な方による代筆をお願いします。
2. ご記入は鉛筆、ボールペン、万年筆などで、黒または青色でお書きください。
3. 最初から1問ずつ、該当する全ての質問にお答えください。
4. お答えは、あなたのお考えに最も近いと思われる回答を設問文中に示された数の範囲で選び、その番号に○をつけるか番号を□の中にご記入ください。
5. 「その他 []」に○をつけたときは、[]内に具体的な内容をご記入ください。

ご記入いただいた調査票用紙を、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずにご投函ください。

調査票用紙、返信用封筒に住所・氏名などを記入する必要はございません。

令和5年8月1日(火)までに郵便ポストにご投函いただきますよう、
お願いいたします。

●インターネットの場合

調査票フォームに回答を入力し、送信してください。

詳細につきましては、別紙「令和5年度市政世論調査ご協力のおお願い」
裏面をご覧ください。

令和5年8月1日(火)までに、送信を完了していただき
ますよう、お願いいたします。

調査票フォームへのアクセスは、右のQRコードを読み取っていただくか、
下記のURLを入力してください。

<調査票フォームURL> <https://wss3.5star.jp/survey/login/229n4yoc>

<QRコード>



※お送りいただいたご回答は、個人を特定できないよう、取り扱っております。

※この調査に関してのお問い合わせは、下記までお願いします。

越谷市 市民協働部 暮らし安心課(広聴担当)
電話 048-963-9336 (直通)
FAX 048-965-7809

<居住地区区分>



◆ 居住地区該当町表

地区区分	該当町名
桜井	大字大里、大字下間久里、大字上間久里、大字大泊、大字平方、平方南町、千間台東1～4丁目
新方	大字弥十郎、大字大吉、大字向畑、大字北川崎、大字大杉、大字大松、大字船渡、弥栄町1～4丁目
増林	大字花田、大字増林、大字増森、大字中島、東越谷1～10丁目、中島1～3丁目、増林1～3丁目、増森1～2丁目、花田1～7丁目
大袋	大字恩間、大字大竹、大字大道、大字三野宮、大字恩間新田、大字袋山、大字大林、大字大房、千間台西1～6丁目
荻島	大字野島、大字小曾川、大字砂原、大字南荻島、大字西新井、大字北後谷、大字長島
出羽	宮本町1～5丁目、神明町1～3丁目、谷中町1～4丁目、七左町1・4～8丁目、大間野町1～5丁目、新川町1～2丁目、新越谷2丁目
蒲生	大字蒲生、瓦曾根1～2丁目、南越谷1丁目、登戸町、蒲生東町、蒲生寿町、蒲生旭町、蒲生本町、蒲生西町1～2丁目、蒲生1～4丁目、蒲生愛宕町、蒲生南町、南町1～3丁目
川柳	伊原1～2丁目、川柳町1～5丁目、レイクタウン7丁目
大相模	大字西方、相模町1～5丁目、大成町1～2・6～8丁目、東町1～3・5丁目、相模町6～7丁目、流通団地1～4丁目、西方1～2丁目、レイクタウン1～6・8～9丁目
大沢	大沢、大沢1～4丁目、東大沢1～5丁目
北越谷	北越谷1～5丁目
越ヶ谷	越ヶ谷、越ヶ谷1～5丁目、御殿町、柳町、越ヶ谷本町、中町、弥生町、赤山町1～2丁目、宮前1丁目、赤山本町
南越谷	瓦曾根3丁目、南越谷2～5丁目、蒲生茜町、東柳田町、元柳田町、赤山町3～5丁目、新越谷1丁目

あなたご自身のことがらについておたずねします。

問1. あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

- | | | |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

問2. あなたの年齢はどの区分にあてはまりますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 1. 18～19歳 | 6. 40～44歳 | 11. 65～69歳 |
| 2. 20～24歳 | 7. 45～49歳 | 12. 70～74歳 |
| 3. 25～29歳 | 8. 50～54歳 | 13. 75歳以上 |
| 4. 30～34歳 | 9. 55～59歳 | |
| 5. 35～39歳 | 10. 60～64歳 | |

問3. あなたのご職業は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | | |
|------------|--------------|----------------------|
| 1. 農業 | 6. 製造関係自営業 | 11. 学生 |
| 2. 市内会社員 | 7. サービス関係自営業 | 12. 家事従業 |
| 3. 市外会社員 | 8. 自由業 | 13. パートタイマー（アルバイト含む） |
| 4. 小売店自営業 | 9. 公務員 | 14. その他〔 〕 |
| 5. 建築関係自営業 | 10. 団体職員 | 15. 無職（年金生活を含む） |

問4. あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 単身世帯（ひとり暮らし） | 4. 三世帯世帯（親と子と孫など） |
| 2. 一世帯世帯（夫婦のみ、兄弟姉妹のみ） | 5. その他〔 〕 |
| 3. 二世帯世帯（親子など） | |

問5. あなたは、越谷市に住んでどれくらいになりますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|-------------|-------------|
| 1. 1年未満 | 4. 5～10年未満 | 7. 20～30年未満 |
| 2. 1～3年未満 | 5. 10～15年未満 | 8. 30～40年未満 |
| 3. 3～5年未満 | 6. 15～20年未満 | 9. 40年以上 |

問6. あなたのお住まいは次のどれにあたりますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 持ち家一戸建て | 6. 公団公社等賃貸マンション |
| 2. 民間借家一戸建て | 7. 社宅・官舎 |
| 3. 民間分譲マンション | 8. 間借り・下宿・寮・寄宿舍 |
| 4. 民間賃貸マンション・アパート | 9. 店舗・事務所併用住宅 |
| 5. 公団公社等分譲マンション | 10. その他〔 〕 |

問7. あなたは、どの地区に住んでいますか。(〇は1つ)

※前ページの「居住地区該当町表」をご参照ください

- | | | |
|---------|----------|-----------|
| 1. 桜井地区 | 6. 出羽地区 | 11. 北越谷地区 |
| 2. 新方地区 | 7. 蒲生地区 | 12. 越ヶ谷地区 |
| 3. 増林地区 | 8. 川柳地区 | 13. 南越谷地区 |
| 4. 大袋地区 | 9. 大相模地区 | |
| 5. 荻島地区 | 10. 大沢地区 | |

広報についておたずねします。

問 12. あなたは、市政情報を主に何から得ていますか。(○は1つ)

1. 広報こしがや (自治体広報紙アプリマチイロを含む)	8. 越谷市公式ツイッター
2. テレビ広報番組 Koshigaya Collection	9. 越谷市公式LINE (ライン)
3. ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	10. 越谷市公式インスタグラム
4. ラジオ広報番組「ようこそ! 住みよいまち 越谷へ! ~福田市長のラジオ談話室~」	11. 公共施設にあるポスターやチラシ
5. 越谷市公式ホームページ	12. 直接、市役所に電話をする
6. 越谷 city メール配信サービス	13. 友人・知人
7. 地区センターだより	14. 新聞
	15. その他 []
	16. 特に情報は得ていない

問 13. 市政情報を得る手段として「知っているもの」また、「活用したことがあるもの」を、次の中から選び、下の口内に番号をご記入ください。

知っているもの												
活用したことがあるもの												



(それぞれ1から11までの番号を記入)

1. 広報こしがや (紙媒体)	7. 越谷ネット市役所
2. 広報こしがや (電子媒体)	8. 越谷 city メール配信サービス
3. テレビ広報番組 Koshigaya Collection	9. 越谷市公式ツイッター
4. ラジオ広報番組 越谷のダイジなお知らせ	10. 越谷市公式LINE (ライン)
5. ラジオ広報番組「ようこそ! 住みよいまち 越谷へ! ~福田市長のラジオ談話室~」	11. 越谷市公式インスタグラム
6. 越谷市公式ホームページ	

問 14. 広報こしがやについて伺います。「広報こしがや」の感想を選んでください。(○は1つ)

1. わかりやすい	4. わかりにくいところがある
2. おおむねわかりやすい	5. わかりにくい
3. どちらともいえない	

問 14-2. 問 14で「4」または「5」と答えた方に伺います。どのような点についてそう感じましたか。
(○はいくつでも)

1. 記事の配置	5. 情報が多すぎる
2. 文字の大きさ	6. 情報が不足している
3. 文字が多すぎる、図が少ない	7. 情報が古い
4. 言葉遣いが難解、主旨が伝わらない	8. その他 []

問 15. 皆さんに伺います。あなたは、「広報こしがや」など紙媒体の広報の必要性及び配布方法についてどう考えますか。(〇は1つ)

- | | |
|---|---|
| 1. インターネットから情報を入手できれば、紙による広報は必要ない
2. 公共施設や駅などに置いて、欲しい人が入手できればよい
3. インターネットが利用できない家庭にだけ配布すればよい
4. 今までどおり、自治会を通して配布すればよい
5. 自治会の加入・未加入に関わらず、すべての世帯に配布すればよい
6. その他〔 | 〕 |
|---|---|

市内の公共交通についておたずねします。

問 16. あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)を利用していますか。(それぞれ〇は1つずつ)

鉄道	バス	タクシー
1. 常に利用している	1. 常に利用している	1. 常に利用している
2. よく利用している	2. よく利用している	2. よく利用している
3. ときどき利用している	3. ときどき利用している	3. ときどき利用している
4. たまに利用している	4. たまに利用している	4. たまに利用している
5. 全く利用しない	5. 全く利用しない	5. 全く利用しない

問 17. あなたは、公共交通(鉄道・バス・タクシー)にどの程度満足していますか。(それぞれ〇は1つずつ)

鉄道	バス	タクシー
1. とても満足している	1. とても満足している	1. とても満足している
2. やや満足している	2. やや満足している	2. やや満足している
3. やや不満である	3. やや不満である	3. やや不満である
4. とても不満である	4. とても不満である	4. とても不満である

景観(風景)についておたずねします。

問 18. あなたは、お住まいの地区の景観(風景)に満足していますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------|--------------|
| 1. 満足している | 4. とても不満である |
| 2. 十分とはいえないが、おおむね満足している | 5. どちらともいえない |
| 3. やや不満である | |

問 19. あなたは、良い景観(風景)のまちをつくるために行政に何を望みますか。(〇は3つまで)

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. 目標や基本方針を住民に示す | 5. 景観づくりに協力する際の助成金等 |
| 2. 良好な景観づくりに役立つ公共事業 | 6. 景観整備のための住民の合意づくり支援 |
| 3. 規制を含めた強いリーダーシップの発揮 | 7. その他〔 |
| 4. 景観に関する情報提供・普及啓発 | 〕 |

公共施設の今後のあり方についておたずねします。

問 24. あなたは、公共施設等の今後の基本的な方向性を示した「越谷市公共施設等総合管理計画」を知っていますか。(〇は1つ)

1. よく知っている	3. 聞いたことがある
2. まあまあ知っている	4. 知らない

問 25. 令和4年7月に改訂した越谷市公共施設等総合管理計画基本方針(改訂版)では、今後の人口減少や市の財政状況を踏まえ、今後40年間で公共施設の面積を39%減らし、安全性に問題がないと判断された建物については80年を目標として既存の施設を有効活用することとしています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1. そうすべきと思う	4. そうすべきとは思わない
2. どちらかといえばそうすべきとは思う	5. わからない
3. どちらかといえばそうすべきとは思わない	

問 26. 市は公共施設の建設、維持管理、運営等を、民間の資金や経営・技術的能力を活用して行う手法(PPP/PFI手法)での実施を検討し、コストを削減し財源確保に努めています。このことについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つ)

1. そうすべきと思う	4. そうすべきとは思わない
2. どちらかといえばそうすべきとは思う	5. わからない
3. どちらかといえばそうすべきとは思わない	

地場農産物や地産地消についておたずねします。

問 27. 越谷を代表する農産物について、あなたが知っているものを選んでください。(〇はいくつでも)

1. 太郎兵衛もち	3. ねぎ	5. いちご	7. 小松菜
2. くわい	4. 山東菜	6. チューリップ	8. その他 []

問 28. あなたは、越谷を代表する農産物を購入したことがありますか。ある場合は、どこで購入しましたか。

(ア～ク それぞれ横に〇はいくつでも)	購入したことがある				購入したことがない
	市民まつりなどイベント	農産物直売所	市内スーパーマーケット	その他	
ア 太郎兵衛もち	1	2	3	4	5
イ くわい	1	2	3	4	5
ウ ねぎ	1	2	3	4	5
エ 山東菜	1	2	3	4	5
オ いちご	1	2	3	4	5
カ チューリップ	1	2	3	4	5
キ 小松菜	1	2	3	4	5
ク その他[]	1	2	3	4	5

人権全般に関する意識についておたずねします。

問 29. あなたは、今の日本社会において、どのくらい基本的人権が尊重されていると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. 十分尊重されている | 3. あまり尊重されていない |
| 2. やや尊重されている | 4. 尊重されていない |

問 30. 一人ひとりの人権意識は、10年前に比べて高くなっていると思いますか。(○は1つ)

- | | | |
|---------------|--------------|------------|
| 1. 非常に高くなっている | 3. 変わっていない | 5. 低くなっている |
| 2. やや高くなっている | 4. やや低くなっている | |

問 31. 今の日本の社会に様々な人権問題がありますが、あなたが関心のあるものはどれですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--|---------------------------|
| 1. 女性の人権問題 | 9. 刑を終えて出所した人々の人権問題 |
| 2. 子どもの人権問題 | 10. 犯罪被害者やその家族の人権問題 |
| 3. 高齢者の人権問題 | 11. インターネット上における人権問題 |
| 4. 障がい者の人権問題 | 12. 北朝鮮当局による拉致問題 |
| 5. 同和問題（部落差別） | 13. ホームレスの人々の人権問題 |
| 6. アイヌ民族の人権問題 | 14. L G B Tなど性的少数者の人権問題 |
| 7. 外国人の人権問題 | 15. 大規模災害時の避難生活などにおける人権問題 |
| 8. エイズやハンセン病、新型コロナウイルス等
感染症患者やその家族の人権問題 | 16. その他〔 〕 |

問 32. あなたは、日常生活の中であなた自身またはあなたの周りの人々の人権が侵害されたと感じたことはありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------|-------|----------|
| 1. ある | 2. ない | 3. わからない |
|-------|-------|----------|

→ 問 32-2. 問 32 で「1. ある」と答えた方に伺います。人権が侵害されたと感じたことは、どのような内容ですか。(○はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. あらぬ噂を立てられたり、他人から悪口や陰口を言われた |
| 2. 人種・信条・性別などにより、不平等または不利益な取扱いをされた |
| 3. 職場において、不当な待遇や上司の言動を受けた |
| 4. プライバシーを侵害された |
| 5. 性的嫌がらせ（セクシュアル・ハラスメント）を受けた |
| 6. 特定の人に執拗につきまとわれた（ストーカー行為） |
| 7. 配偶者やパートナーなどから、家庭内暴力（ドメスティック・バイオレンス）を受けた |
| 8. その他〔 〕 |

男女共同参画についておたずねします。

問 33. 次に掲げる「ことば」や「ことがら」を知っていますか。

(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)	内容を知っている	聞いたことはあるが、内容は知らない	知らない
ア 越谷市男女共同参画推進条例	1	2	3
イ 第4次越谷市男女共同参画計画	1	2	3
ウ 越谷市男女共同参画支援センター「ほっと越谷」	1	2	3
エ 越谷市男女共同参画苦情処理委員	1	2	3
オ 男女共同参画社会	1	2	3
カ ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)	1	2	3
キ DV(ドメスティック・バイオレンス)	1	2	3
ク デートDV	1	2	3
ケ LGBT(性的指向や性同一性障害による性的少数者) L:レズビアン G:ゲイ B:バイセクシャル T:トランスジェンダー	1	2	3

問 34. 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

1. 賛成	3. どちらかといえば反対	5. わからない
2. どちらかといえば賛成	4. 反対	

問 35. 次の分野で、男女は平等になっていると思いますか。

(ア～オ それぞれ横に○は1つずつ)	平等になっている	平等になっていない	どちらともいえない	わからない
ア 家庭の中で	1	2	3	4
イ 教育の中で	1	2	3	4
ウ 職場の中で	1	2	3	4
エ 社会通念や風潮において	1	2	3	4
オ 法律や制度上で	1	2	3	4

問 36. 女性の働き方について、あなたはどのように思いますか。「理想」と「現実(あなた自身や身近な方の状況)」について、次の中からそれぞれ1つずつ選んでください。

理想		現実	
----	--	----	--

1. 結婚や出産にかかわらず仕事を続ける (ている・ていた) 2. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける (ている・ていた) 3. 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける (ている・ていた) 4. 子どもができるまで仕事をもち、子どもができたら家事や子育てに専念する (している・していた) 5. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する (している・していた) 6. 仕事はもたない (もっていない) 7. その他 8. わからない

問 37. 仕事をしていく上で、能力に男女差があると思いますか(身体的な差を除く)。(○は1つ)

1. あると思う 2. そうは思わない 3. わからない

平和事業についておたずねします。

問 38. あなたは、越谷市が平和都市宣言をしていることを知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている 2. 知らない

問 39. あなたは、越谷市が主催している「平和フォーラム(平和展・平和講演会)」を知っていますか。また、参加したことがありますか。(○は1つ)

1. 知っており、参加したことがある 3. 知らない
2. 知っているが、参加したことがない

問 40. 越谷市では、平和について考える機会として、広島平和記念式典参加事業や平和フォーラム(平和展・平和講演会)を実施していますが、平和の意識を高めるには、どのような事業が効果的だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 戦争体験のお話会・座談会の開催
2. 世界の紛争など海外情勢についての講演会の開催
3. 平和を題材にした、映画・アニメーション上映会の開催
4. 平和を題材にした、朗読・演劇・合唱・合奏などの発表
5. その他 []

市民相談や法律相談などの各種相談窓口についておたずねします。

問 41. 市役所で開設している各種相談窓口について、あなたが「知っているもの」「困った時に利用したいもの」を選んでください。(ア～ケ それぞれ横に○は1つずつ)

	知っている		知らない	
	利用 したい	利用 したく ない	利用 したい	利用 したく ない
ア 市民相談 [日常生活全般における相続、離婚などの民事関係の相談]	1	2	3	4
イ 交通事故相談 [交通事故による補償問題や手続きなどの相談]	1	2	3	4
ウ 法律相談(平日) [法律上の諸問題などを弁護士が相談に応じる]	1	2	3	4
エ 法律相談(休日) [法律上の諸問題などを弁護士が相談に応じる]	1	2	3	4
オ 税務相談 [税金関係全般について税理士が相談に応じる]	1	2	3	4
カ 登記相談 [登記等の手続きを司法書士、土地家屋調査士が相談に応じる]	1	2	3	4
キ 行政書士相談 [営業許可などの書類作成等を行政書士が相談に応じる]	1	2	3	4
ク 行政相談 [行政上の諸問題について行政相談委員が相談に応じる]	1	2	3	4
ケ 消費生活相談 [悪徳商法、商品やサービスの契約トラブルなどの相談]	1	2	3	4

問 42. 各種相談窓口を利用する場合、どのような相談方法がよいかを選んでください。(○はいくつでも)

1. 対面による相談 3. Zoom(ズーム)アプリ等を利用したオンラインによる相談
2. 電話による相談

地域医療体制についておたずねします。

問 43. あなたは、「越谷市夜間急患診療所・休日当番医制度^{※1}・埼玉県救急電話相談^{※2}(#7119)・埼玉県AI救急相談^{※3}」を知っていますか。

(ア～エ それぞれ横に○は1つずつ)	利用した ことがある	利用した ことはないが 知っている	知らない
ア 越谷市夜間急患診療所	1	2	3
イ 休日当番医制度	1	2	3
ウ 埼玉県救急電話相談(#7119)	1	2	3
エ 埼玉県AI救急相談	1	2	3

※1 休日当番医制度：祝日や年末年始に、病院・診療所・歯科診療所が交代で診療を行っている制度

※2 埼玉県救急電話相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性についての電話相談ができる制度

※3 埼玉県AI救急相談：埼玉県が行っている、急病時の家庭での対処方法や受診の必要性について、チャット形式で相談した内容をもとに、AI（人工知能）がアドバイスする制度

問 44. あなたは、夜間や休日に利用できる医療機関の情報が必要な場合、どこから情報を入手しますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

1. 広報こしがや	6. インターネットで調べる
2. 市民ガイドブック	(越谷市・埼玉県公式ホームページを除く)
3. 越谷市公式ホームページ	7. 埼玉県救急電話相談(#7119)
4. 越谷市発行のチラシ	8. 埼玉県AI救急相談
(「越谷市の休日診療・救急医療のご案内」等)	9. 消防署に問い合わせ
5. 埼玉県公式ホームページ	10. 医療機関に問い合わせ
(医療機能情報提供システムを含む)	11. 知人・友人等に聞く
	12. その他〔 〕

問 45. 地域医療に関する事業のうち、あなたが特に力を入れる必要があると思うことは何ですか。

(○は3つまで)

1. 夜間急患診療所	6. かかりつけ医療機関の普及啓発
2. 休日当番医制度	(チラシ、地図冊子等の配付)
3. 電話等による相談事業	7. 救急車の適正利用の啓発
4. 医療機関の整備促進	8. 在宅医療体制の整備促進
5. 医療従事者の確保	9. 災害や感染症への備え

路上喫煙についておたずねします。

問 46. 現在、あなたはたばこを吸いますか。(○は1つ)

1. 吸う	2. 吸わない
-------	---------

問 47. たばこのポイ捨て抑制を目的として、駅前など人通りの多い場所に灰皿を設置する必要があると思いますか。(○は1つ)

1. 必要があると思う	2. 必要はないと思う
-------------	-------------

問 48. 現在、越谷市内で北越谷駅周辺、南越谷駅周辺を「路上喫煙禁止区域」に指定しています。今後、他の駅前を路上喫煙禁止区域に指定する必要があると思いますか。(○は1つ)

1. 必要があると思う	2. 必要はないと思う
-------------	-------------

問 49. 喫煙者と非喫煙者の共生を目的として、「路上喫煙禁止区域」内に灰皿等を設置する必要があると思いますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. 必要があると思う | 2. 必要はないと思う |
|-------------|-------------|

健康保険が行う健診についておたずねします。

問 50. あなたご自身の加入保険を教えてください。(○は1つ)

- | | | |
|----------------------------|---------------------------|------------|
| 1. 越谷市国民健康保険 | 3. 被用者保険 ^{※2} | 5. その他 [] |
| 2. 後期高齢者医療制度 ^{※1} | 4. 国民健康保険組合 ^{※3} | 6. わからない |

※1 後期高齢者医療制度：75歳以上の方もしくは、65～74歳で一定の障がいの状態にある方（本人の申請により、広域連合の認定を受けた方）

※2 被用者保険：全国健康保険協会・組保管掌健康保険・共済組合等

※3 国民健康保険組合：医師国民健康保険組合・税理士国民健康保険組合・土建国民健康保険組合等

→ 問 50-2. 問 50 で「1. 越谷市国民健康保険」「2. 後期高齢者医療制度」と答えた方に伺います。越谷市では、年度年齢40歳以上の越谷市国民健康保険加入者及び後期高齢者医療制度加入者を対象に、健康の保持増進を図ることを目的として、無料の健康診査を実施しています。あなたは、令和4年度の健康診査を受けましたか。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1. 受けた |
| 2. 受けていない |
| 3. 越谷市国民健康保険に加入しているが、年度年齢が40歳未満で無料の健康診査の対象外である |

→ 問 50-3. 問 50-2 で「2. 受けていない」と答えた方に伺います。

あなたが、健康診査を受けない理由は何ですか。(○は1つ)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 行く時間がないため | 4. 人間ドックを受診しているため |
| 2. 健康状態に自信があり、必要性を感じないため | 5. 知らなかった |
| 3. 既に医療機関に通院していたため | 6. その他 [] |

介護サービスについておたずねします。

問 51. あなた又はあなたの家族が介護サービスを利用する際、事業・事業所・従事者に求めるものを次の中から選んでください。(それぞれ○は1つずつ)

※現在、介護サービスの利用予定がない、利用対象者がいない場合もお答えください。

事業の形態	事業所の体制	従事者の資質
1. 広く事業展開をしている施設 (市内・市外問わずだれでも利用できる施設)	1. 従事者のスキル向上や知識の取得に力を入れている 2. 虐待研修などを行い、虐待発生防止に力を入れている	1. 利用者の話をしっかり聞く 2. 介護の経験が豊富 3. 身だしなみ、言葉づかいがしっかりしている
2. 地域に密着した事業展開をしている施設 (市内在住者のみ利用できる施設)	3. 感染対策に力を入れている 4. その他	4. その他 []
3. どちらでもよい	[]	[]

ケアラー・ヤングケアラーについておたずねします。

問 52. あなたは「ケアラー」、「ヤングケアラー」という言葉を知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 知っている | 3. 聞いたことがあるがよく知らない |
| 2. ある程度知っている | 4. 全く知らない |

→ 問 52-2. 問 52 で「1」または「2」(知っている) と答えた方に伺います。

「ケアラー」、「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------|----------------|
| 1. 広報こしがや | 6. ラジオ |
| 2. 越谷市公式ホームページ | 7. 講演会等 |
| 3. インターネット (Line 等の SNS 含む) | 8. 書籍 (本・雑誌) |
| 4. 新聞 | 9. 埼玉県ケアラー支援条例 |
| 5. テレビ | 10. その他 [] |

問 53. あなたの周りに「家族等のケアで困っている」と思われる人がいます(いました)か。(〇は1つ)

- | | |
|--------|----------|
| 1. いる | 3. 過去にいた |
| 2. いない | 4. わからない |

問 54. あなたの周りに家族等のケアで困っている人がいたら、手助けしたいと思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|------------|
| 1. 思う | 3. あまり思わない |
| 2. やや思う | 4. 思わない |

防犯対策についておたずねします。

問 55. ご自宅の防犯対策で、行っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|-----------------------|
| 1. 防犯カメラを設置している | 7. 車にドライブレコーダーを設置している |
| 2. センサーライトを設置している | 8. 常に留守番電話設定にしている |
| 3. 警備会社と契約している | 9. 通話録音機器を使用している |
| 4. 窓に補助錠を取り付けている | 10. その他 [] |
| 5. 窓に防犯フィルムを貼っている | 11. 特に行っていない |
| 6. 防犯砂利を敷いている | |

問 56. お住いの自治会や地域で行われている防犯活動で、あなたが知っているものは何ですか。

(〇はいくつでも)

- | | |
|------------------|---------------------------------|
| 1. 自主防犯パトロール | 6. 子ども 110 番の家 |
| 2. 街頭防犯カメラの設置 | 7. 青色回転灯を装備した車両による
防犯パトロール※2 |
| 3. 防犯講座の開催 | 8. その他 [] |
| 4. あいさつ運動 | 9. わからない |
| 5. 登下校時のながら見守り※1 | |

※1 日常生活を送る中で防犯の視点をもって子どもたちを見守る活動

※2 自動車に青色回転灯等を装着して行う地域防犯パトロール

問 57. ご自宅付近に街頭防犯カメラが設置される場合、どう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|-------------------------------|--------------|
| 1. 安心感が増すので設置してほしい | 3. 気になることはない |
| 2. プライバシーを保護するため
設置しないでほしい | 4. その他 [] |

越谷市の施策についておたずねします。

問 60. 市では様々な施策を進めていますが、ここ数年のうちで「よくなってきたと感じるもの」また、今後の市政の中で「特に力を入れるべきだと思われるもの」を、次の中からそれぞれ5つまで選び、下の口内に番号をご記入ください。

よくなってきたと感じるもの					
特に力を入れるべきだと思われるもの					



(それぞれ5つまで番号を記入)

1. 青少年の健全育成	21. ごみ・し尿の処理対策
2. 防犯対策	22. 公営住宅の整備などの住宅対策
3. 交通安全対策	23. 水害や地震などの災害対策
4. 消費者の保護対策	24. 市民の財産や生命を守る消防・救急対策
5. 女性の社会参加など男女共同参画の推進	25. 工業の振興対策
6. 国際交流	26. 商業の振興対策
7. 生活習慣病などの保健衛生対策	27. 農業の振興対策
8. 地域医療や救急医療体制の整備	28. 勤労者の福祉や雇用を促進する対策
9. 児童福祉の充実	29. 小中学校の教育環境 (教育内容や教育施設)の充実
10. 障がい者(児)福祉の充実	30. 生涯学習(公民館活動等)の充実
11. 高齢者福祉の充実	31. 芸術文化活動の振興や文化施設の整備
12. 介護保険の充実	32. スポーツ・レクリエーションの振興と 施設の整備
13. 駅周辺の整備	33. 市民とのパイプ役としての広報広聴活動 の充実
14. 土地区画整理事業などの市街地整備	34. 上水道の整備
15. 生活道路や都市計画道路の整備	35. その他〔
16. 道路の維持管理状況	36. 特になし
17. バス路線等公共交通網の充実	
18. 公園や緑地の整備	
19. 下水道(公共下水道や排水路)の整備	
20. 自然保護や河川の汚濁防止などの環境保全対策	

問 61. 問 60 で選ばれた「特に力を入れるべきだと思われるもの」について、どのような対応(対策)を望まれますか。また、市政に関するご意見やご要望など、自由にご記入ください。

<p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p> <p>.....</p>

ご協力ありがとうございました。

同封の返信用封筒に入れて **8月1日(火)** までにご投函ください。

令和5年度 市政世論調査結果報告書

発行年月： 令和5年11月

発行： 越谷市 市民協働部 暮らし安心課
〒343-8501 埼玉県越谷市越ヶ谷四丁目2番1号
電話 048(963)9336 (直通)

調査実施： 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36
SUNCREST 302
電話 048(887)3790

